



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	連携5大学「一年生・上級生調査2011年」の北海道大学を中心とした比較分析（報告）： 教学評価IRネットワーク推進のために
Author(s)	安藤, 厚; 細川, 敏幸; 大沼, 明 他
Citation	高等教育ジャーナル： 高等教育と生涯学習, 20(1), 1-102
Issue Date	2013-06
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.20S.1
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/56826
Type	departmental bulletin paper
File Information	No2010.pdf



Comparative Analysis of the 2011 Freshman and Senior Survey at Five Universities with Focus on Hokkaido University —For the Advancement of Institutional Assessment Network—

Atsushi Ando,¹⁾ Toshiyuki Hosokawa,²⁾ Akira Ohnuma,²⁾ Tomoyuki Yamahata,²⁾
Atsushi Miyamoto,²⁾ Michiyo Tokui,²⁾ Kunimasa Yamada²⁾ and Kosaku Takeyama²⁾

¹⁾ Professor Emeritus, Hokkaido University,

²⁾ Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University *

Abstract — Five Japanese universities (Doshisha University, Hokkaido University, Osaka Prefecture University, Konan University and Kwansei Gakuin University) worked together in the 2009-2011 Freshman and Senior Survey for quality assurance and enhancement of college teaching and learning. This activity was supported by a Grant-in-Aid from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT).

Comparative analysis of the 2011 Freshman and Senior Survey focusing on Hokkaido University showed:

1) that general education was good with rich first-year experiences, 2) the credit cap system and encouragement of self-study were working well, 3) the impact of the comprehensive admissions and new general education program, 4) the benefits of general education at a multidisciplinary university, and 5) that the satisfaction, sense of fulfillment and adaptation to university learning were higher among women.

In addition, improvement of the career education program is necessary.

The Freshman and Senior Survey will be continued for five more years by eight universities with the support of a new MEXT Grant-in-Aid. Through this activity plan advancement of the Institutional Assessment Network is expected.

(Revised on 31 May, 2013)

連携 5 大学「一年生・上級生調査 2011 年」の 北海道大学を中心とした比較分析（報告） ——教学評価 IR ネットワーク推進のために——

安藤 厚¹⁾, 細川 敏幸²⁾, 大沼 明²⁾, 山畑 倫志²⁾,
宮本 淳²⁾, 徳井 美智代²⁾, 山田 邦雅²⁾, 竹山 幸作²⁾

¹⁾ 北海道大学 名誉教授,

²⁾ 北海道大学 高等教育推進機構 **

*) Correspondence : Institute for the Advancement of Higher Education, Hokkaido University, Sapporo 060-0817, Japan

**) 連絡先 : 060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学高等教育推進機構

はじめに

3つのポリシーとPDCAサイクル

平成20年12月の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」では、各大学が自らの教育理念と目標に基づき、学生の成長を実現する学習の場として学士課程を充実させるためには、学士課程における3つの方針（ポリシー）の明確化が最重要課題とされ、その課題の解決方策として、大学間の連携、開かれた協同のネットワークの構築を視野に入れた、公的及び自主的な質保証の仕組みを強化する必要性が力説されていた（参考リンク26）。

これを受けて大学評価基準（機関別認証評価）に入学受入方針（アドミッション・ポリシー AP）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー CP）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー DP）という3つのポリシーに関わる項目が加えられた（参考リンク27）。

さらに、平成24年8月の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」では、大学の学位授与方針（育成する能力の明示）の下、学長・副学長・学部長・専門スタッフ等がチームとなって体系的な教育課程をつくり（P）⇒教員同士の役割分担と連携により組織的な教育をおこない（D）⇒アセスメント・テストや学修行動調査（学修時間等）等を活用して、学生の学修成果、教員の教育活動、教育課程にわたる評価をおこない（C）⇒教育課程や教育方法等の更なる改善をすすめる（A）という改革サイクルの確立が求められている（参考リンク28）。

そのために重要なのが、3つのポリシーが達成されているかを評価できる、教学評価体制（IRシステム）である。IR（Institutional Research: 大学調査）とは、米国ではじまった、大学運営や教育改革の効果を検証するために個別大学内のさまざまな情報を収集して数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営などに活用する活動である。これには大

学内の諸データを集積することだけでなく、NSSE（National Survey of Student Engagement）、CIRP（Cooperative Institutional Research Program）など、共通の学修行動調査を利用して他大学のデータと比較・分析し、自大学の国内における位置を確認しながら教育改革をすすめることも含まれる（参考文献・リンク29～31）。米国の多くの大学では専門部署としてIR組織が置かれ、大学評価・教育改善活動を支援している。近年この動きが日本へも波及しはじめている。

学修行動調査とIRネットワーク

平成21～23年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立4大学IRネットワーク」事業では、国公立4大学（北海道大学、大阪府立大学、同志社大学（代表）、甲南大学）が連携して、教育の質保証を促進するために、学生調査を軸とした客観的なデータに基づいて教育の現状を評価するIR機能の充実、IRを活用した連携大学間での相互評価、その評価結果を学生の学習時間の確保、単位制度の実質化に結びつける教育環境の整備をめざして活動し、大きな成果を上げた（参考文献32）。

本稿では、同事業で実施した、2011年および2010年、2009年の一年生・上級生調査の結果（参考文献1～5）をもとに、北海道大学と全参加大学（当初は連携4大学、2011年は関西学院大学が加わって5大学）の学生の回答を比較・分析することにより、本学における教育の質保証・教育改善に役立てたい。

今回の調査結果から浮かび上がる北海道大学の教育の特徴は前回とほぼ同じで、1）全学教育・初年次教育の充実、2）単位の実質化と自習促進の成果、3）総合入試・総合教育導入の影響、4）総合大学の共通教育のメリット、5）女性の適応感・充実感・

満足感が高いことなどがあげられる。また、キャリア関連のプログラムをさらに充実する余地があることがわかる。

「国公立4大学IRネットワーク」事業については、中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」の資料編（参考リンク 28, 75 ページ）でも紹介されている。

この事業を継承し、持続的、発展的な運営をおこない、会員校の教育の質保証に寄与することを目的として、2012年9月に大学IRコンソーシアムが設立され、2013年3月までに全国の国公立13大学が加盟している（参考リンク 33）。

また、新たに平成24年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制（IRネットワーク）による学士課程教育の質保証」が採択され、今後5年間にわたり国公立8大学（北海道大学（代表）、お茶の水女子大学、琉球大学、大阪府立大学、

玉川大学、同志社大学、関西学院大学、甲南大学）が連携し、全国規模の学生調査分析を基盤として、IRネットワークを通じて連携大学間で相互評価をおこない、その結果を学士課程教育の質的向上に結びつける、質保証システムを創出し教学支援組織を育成することをめざしている（参考リンク 34）。

予算や人員の限られたなかでPDCAサイクルをいかに実行していくかは、どの大学にとっても悩みの種である。教育改革の検証をもとに実効性のある新たな改革を持続的に実施することは、さらに困難である。しかし、複数大学の連携によれば、効率的・効果的な教育評価が可能になると期待できる。

本稿に含まれる先進的なIR活動の試みが、本学の、ひいては日本の大学の教育改善、高等教育の質保証のさらなる発展に役立つことを願っている。

（細川 敏幸）

1. 調査内容と対象

「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出一国公立4大学IRネットワーク」事業(平成21～23年度)では、連携4大学の一年生(2009年より毎年)および上級生(2011年)に学習経験・活動・成果、教育内容・環境や大学生活に対する意識などに関するアンケート調査をおこない、その結果をもとにIR機能を活用して連携大学間の相互評価をおこない各大学の教育改善に役立ててきた。

本稿では「一年生調査2011年」調査報告書(参考文献1)と「上級生調査2011年」のデータをもとに、北海道大学と全参加大学の学生の回答の傾向を比較し、相互評価の観点から分析する。

2011年調査の特徴点としては、(1)北海道大学で総合入試が導入されたこと、(2)新たに関西学院大学が調査に加わり参加校が5大学に増えたこと、(3)上級生調査をはじめたことなどがあげられる。

以下では、北海道大学を「北大」、全参加大学を「全体」と記すことがある。

IRの活用には継続的な調査と分析が重要で、2010年、2009年の調査結果も参照する。

専門分野(系)別、男女別で回答傾向が大きく異なる場合は、大学別の集計のほかに、系別、男女別の集計にも注目する。

経年変化や北大と全体の比較では、大量のデータを効率的に、かつ遺漏なく分析し、大まかな傾向をわかりやすく示すため、回答選択肢の(合計)比率(%)の比較のほかに、便宜的に一定の基準を設けて各項目の回答を数値に換算し平均値を算出して比較する(本稿95ページ参照)。

そのほか必要に応じて、北大における教育改善の取組のこれまでの経緯や今後の課題にも触れるが、本調査の分析と区別するため、枠で囲んで記載する。

1.1. 調査の概要

本調査は2011年10～11月(2010年11～12月、2009年12月)に実施された。

質問内容は毎回ほぼ同じで、大きく以下の5区分から成る(付録1参照)。2010年から、英語運用能力の背景をなす、英語圏への渡航経験などについて新たに4問を加え、全体で25問に増えている。

なお、上級生調査の内容は一年生調査と同じだが、[問11]①入学時の英語運用能力と[問21～25]は割愛されている。

- 1) 回答者の属性: 専門分野 [問2], 性別 [問3], 年齢 [問4], 通学時間 [問5], 居住形態 [問6]
- 2) 大学入学前の状況: 浪人経験 [問21], 入試形態 [問22], 第1志望校への入学 [問23], 高校時代の成績・学習経験 [問24, 25] (上級生調査では2)に関する質問は割愛されている)
- 3) 大学での学習状況: 授業をつうじた学習経験 [問7], 授業内外における学習行動 [問8], 正課内外の活動に費やす時間 [問9], 入学後の知識・能力の変化 [問10]
- 4) 英語の学習状況: 聞く力, 読む力, 会話力, 表現力, 書く力の変化 [問11], 英語の好き・嫌い [問12], 得意・苦手意識 [問13], 英語圏への渡航経験 [問14], 英語の標準テストの受験経験 [問15]
- 5) 学習内容・環境や大学生活に対する意識: 大学生活への適応感 [問16], 学生生活の充実感 [問17], 教育内容・環境に対する満足感 [問18, 19], 学部卒業後の予定進路 [問20]

アンケートには5大学の一年生6,109人、上級生4,737人(2010年は4大学の一年生4,690人、2009年は同4,723人)が回答した。

北大以外では調査紙あるいはマークシートを使用し、回収率は一年生では80%前後だった。

北大ではWeb上で調査をおこない、回答者数は一年生475人(学年総数約2,600人の19.8%), 三年生564人(21.7%) (2010年403人(16.7%), 2009年454人(19.7%))で、全参加大学の一年生の有効回答総数の7.8%(8.6%, 9.6%)だった。

Web 調査は人的・金銭的成本を低く抑えられるが、回答率も低くなる。より多くの回答を得るため、一年生のほぼ全員が履修する英語の授業で本調査への協力依頼文書を配布するなど、周知をはかった。回答者数 400 人超、回答率 20% 程度というデータ量は北大生の学修意識の傾向を知るには十分だが、これをさらに細分すると北大・文系は 100 人弱の小集団で、データのバラツキの可能性も大きくなり、分析結果は慎重に取り扱う必要がある。

1. 2. 回答者の属性

^{注)} 本節ではおもに一年生について記す。

(1) 専門分野 [問 2] (図 1.1) ([] は問番号)

一年生の専門分野 (学部・学科) でもっとも多いのは、北大では⑬理系総合 48% (2010 年, 2009 年とも 0%), 全体では③経済学・経営学 38% (32%, 34%) である。

北大では 2011 年度から総合入試制度が導入され、一年生は総合入試による入学者約 1,100 人 (うち文系約 100 人, 理系約 1,000 人。新入生の約 4 割) も、学部別入試による入学者約 1,500 人も、特定の学部・学科には所属せず、全員が高等教育推進機構 (総合教育部) において、文系・理系 2 種類の総合教育カリキュラムに従って教養科目と基礎科目を学んでいる (参考リンク 18)。

学生の所属学部・学科は 2 年次進級時に決定される。総合入試入学者の移行先は、本人の志望と 1 年次の成績 (移行点) に基づいて決定される。ここでは、学部別入試入学者は 2 年次以降に所属予定の学部、総合入試入学者は⑬文系総合/理系総合に分類する。

専門分野 (系) 別の構成比は、北大では人文・社会系 (人文科学, 法学・政治学, 経済学・経営学, 教育学, 文系総合など。「文系」と略す) 21% (2010 年 28%, 2009 年 26%), 理工農・医療系 (理学, 工学, 農学, 水産学, 保健, 理系総合など。「理系」と略す) 80% (72%, 74%) で、理系の割合が増えた。

全体の系別構成比は文系 70% (2010 年 64%,

2009 年 65%), 理系 28% (ともに 34%), その他 (家政学, 文理融合, その他) 2% (2%, 1%) で、今回は関西学院大学 (神学部, 法学部, 経済学部, 商学部) の約 1,500 人 (全体の約 25%) が加わり、文系の割合が増えた。

文系と理系の構成比が、北大ではおよそ 1 : 4, 全体ではほぼ 2.5 : 1 と正反対であることは留意する必要がある。問 7 ④実験, 実習, フィールドワーク等で学生が体験的に学ぶの例のように、文系と理系の回答傾向の大きな差が、大学間の差の原因となることがあるからである。

(2) 性別 [問 3]

男女構成比は、北大では①男性 66% (2010 年 70%, 2009 年 67%), ②女性 34% (30%, 33%), 全体では①男性 61% (62%, 63%), ②女性 39% (38%, 37%) と、大きな変化はない。

(3) 年齢 [問 4] (図 1.2)

入学時の年齢構成比は、北大では 18 歳 73% (2010 年 68%, 2009 年 66%), 19 歳 25% (28%, 29%), 全体では 18 歳以下 71% (70%, 72%), 19 歳 24% (25%, 23%) と、大きな変化はない。

(4) 通学時間 [問 5] (図 1.3)

片道の通学時間もほとんど変化はない。北大では 66% (2010 年 65%, 2009 年 64%) が① 30 分未満であるのに対し、全体では約半数 (3 年とも 47%) が③~⑤ 1 時間以上かけている。

ここで、回答の① 30 分未満を 15 分, ② 30 分~1 時間を 45 分, ③ 1 時間~1 時間 30 分を 75 分, ④ 1 時間 30 分~2 時間を 105 分, ⑤ 2 時間以上を 120 分と換算して通学時間の平均を算出すると、全体では 3 年とも 56 分で、日本学生支援機構の平成 22 年度学生生活調査における東京・京阪神圏の平均約 55 分とほぼ同じである。北大では平均 29 分で、同調査の「その他」の地域の約 35 分よりさらに短い (参考文献 1, 13 ページ)。通学時間の大きな差は 1 週間あたりの活動時間 (2. 3) に影響するとみられる。

(5) 居住形態 [問 6] (図 1.4)

北大では 50% (2010 年 48%, 2009 年 47%) が
②ひとり暮らし、全体では 69% (ともに 71%) が
①家族や親戚と同居しており、大きな変化はない。

1.3. 大学入学前・高校時代の状況

(1) 現役・浪人経験 [問 21] (図 1.5)

北大では①現役 73% (2010 年 70%, 2009 年 68%), ②浪人 25% (28%, 31%), 全体では①現役 80% (77%, 76%), ②浪人 18% (21%, 22%) と、北大の浪人の比率がやや高いが、ともに現役が徐々に増えている。

(2) 入試形態 [問 22] (図 1.6)

①一般入試による入学者がもっとも多く、北大では 53% (2010 年, 2009 年とも 95%), 全体では 52% (ともに 62%) を占める。北大でつぎに多いのは②その他の試験 (総合入試・帰国子女入試など) 44% (ともに 1% 未満) で、総合入試の導入で大幅に増えた。同時に AO 入試を実施する学部が減少し、⑧AO 選考による入学者は 4%⇒3% に減った。

北大の最近の入試動向は、①志願者数の増加 (2011 年度～), ②入学者の道外比率の上昇 (2009 年度～), ③総合入試および後期試験の好調などの特徴があげられる (付録 3 図 1)。これらは本章の各項目にも影響しているとみられる。

(3) 第 1 志望校への入学 [問 23] (図 1.7)

①第 1 志望で入学した者の割合は男女差が大き

く、北大では①男性 71% (2010 年 69%, 2009 年 66%), ②女性 79% (81%, 80%), 全体では①男性 44% (38%, 40%), ②女性 54% (49%, 52%) である。第 1 志望かどうかは、入学時の大学生活への期待感や、学習意欲などに関連するとみられる。

(4) 高校時代の成績 [問 24] (図 1.8)

高校時代の成績の自己評価にも男女差がある。もっとも多い回答は、北大では①上位の方：①男性 46% (2010 年 50%, 2009 年 40%), ②女性 42% (ともに 43%), 全体では②中の上くらい：①男性 3 年とも 31%, ②女性 38% (40%, 38%) である。

高校時代の成績は①上位の方／②中の上くらいとする者は、北大①男性 74% (73%, 69%), ②女性 78% (78%, 82%), 全体①男性 3 年とも 59%, ②女性 67% (67%, 63%) と、大きな変化はない。

(5) 高校時代の学習経験 [問 25] (図 1.9)

高校三年生のころの学習経験でもっとも多い項目は、北大でも、全体でも、③ときどき／④ひんぱんに①自分の失敗から学んだで、8 割前後にのぼる。

表 1 で、回答の④ひんぱんにしたを「3」、③ときどきしたを「2」、②あまりしなかったを「1」、①まったくしなかったを「0」と換算して経験頻度の平均値を算出すると、系別で北大が全体を大きく上回る項目は⑤インターネット上の情報が事実かどうか確認した (北大-全体：文系 0.24), ⑥問題に対処するために新しい解決策を求めた (文系 0.19), 北大が大きく下回る項目は④授業中、質問した (文系 ▲ 0.22, 理系 ▲ 0.19), ⑩自発的に作文の練習をした (理系 ▲ 0.19) などである。

表 1. 高校時代の学習経験の平均値 (0～3) [問 25]

		北大			全体			北大-全体		
学習経験	系	2011	2010	2009	2011	2010	2009	2011	2010	2009
①自分の失敗から学んだ	文	2.11	2.11	2.17	1.98	1.99	2.08	0.13	0.12	0.09
	理	2.06	2.10	2.13	1.98	1.91	2.03	0.08	0.19	0.10
⑤インターネット情報の確認	文	1.47	1.21	1.31	1.23	1.18	1.19	0.24	0.03	0.12
⑥問題に対処する新解決策	文	1.72	1.62	1.68	1.53	1.51	1.55	0.19	0.11	0.13
⑩自発的に作文の練習	理	0.83	0.83	0.85	1.02	0.95	0.99	▲ 0.19	▲ 0.12	▲ 0.15
④授業中、質問した	文	1.15	1.04	1.16	1.38	1.36	1.37	▲ 0.22	▲ 0.32	▲ 0.21
	理	1.10	1.16	1.10	1.29	1.28	1.29	▲ 0.19	▲ 0.11	▲ 0.19

注) 文理融合などその他 (全体の 2%) のデータは省略。

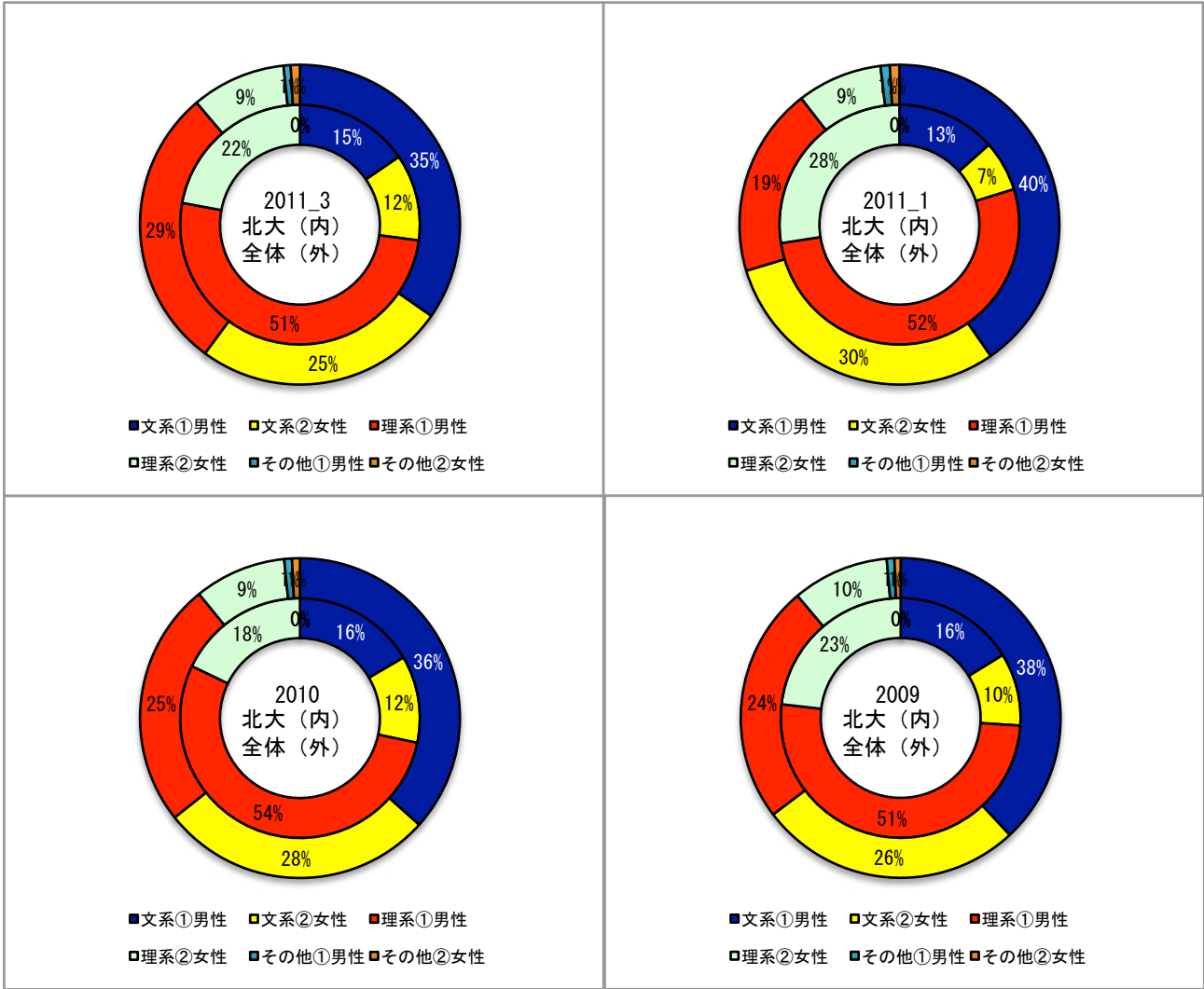


図 1.1. 専門分野 (系) 別の構成比 [問 2]

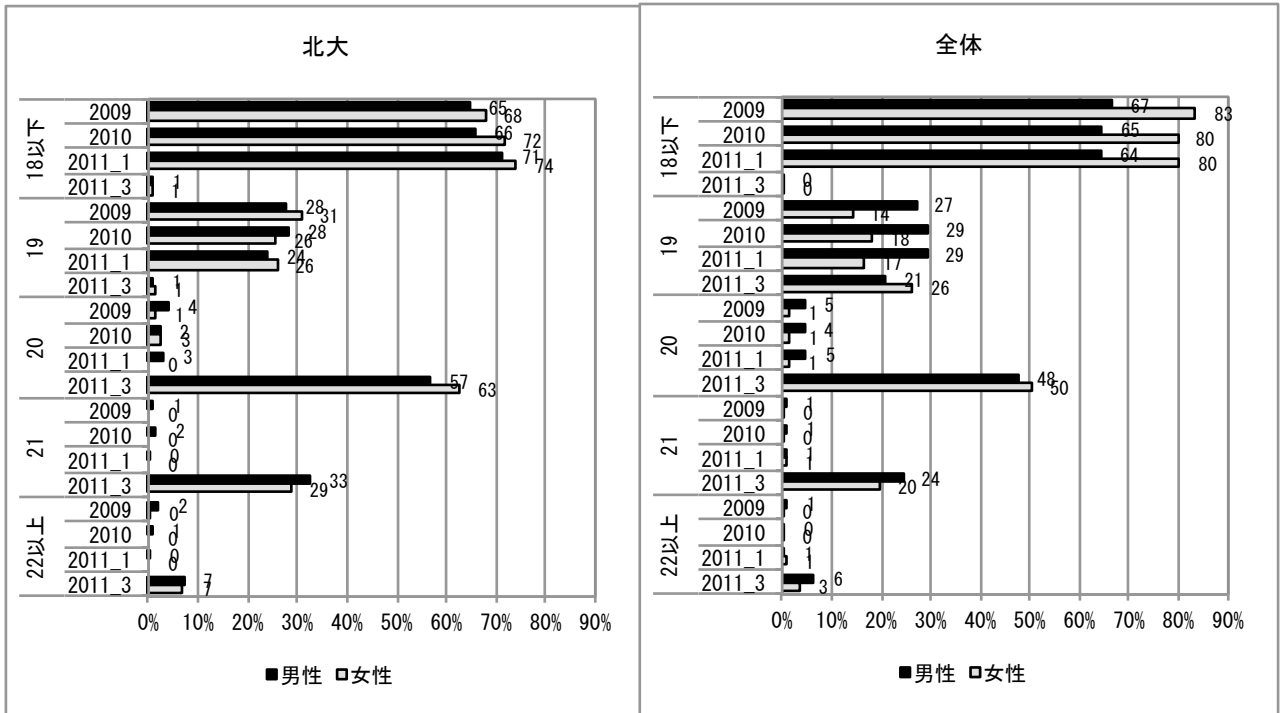


図 1.2. 4 月時点の年齢 [問 4]

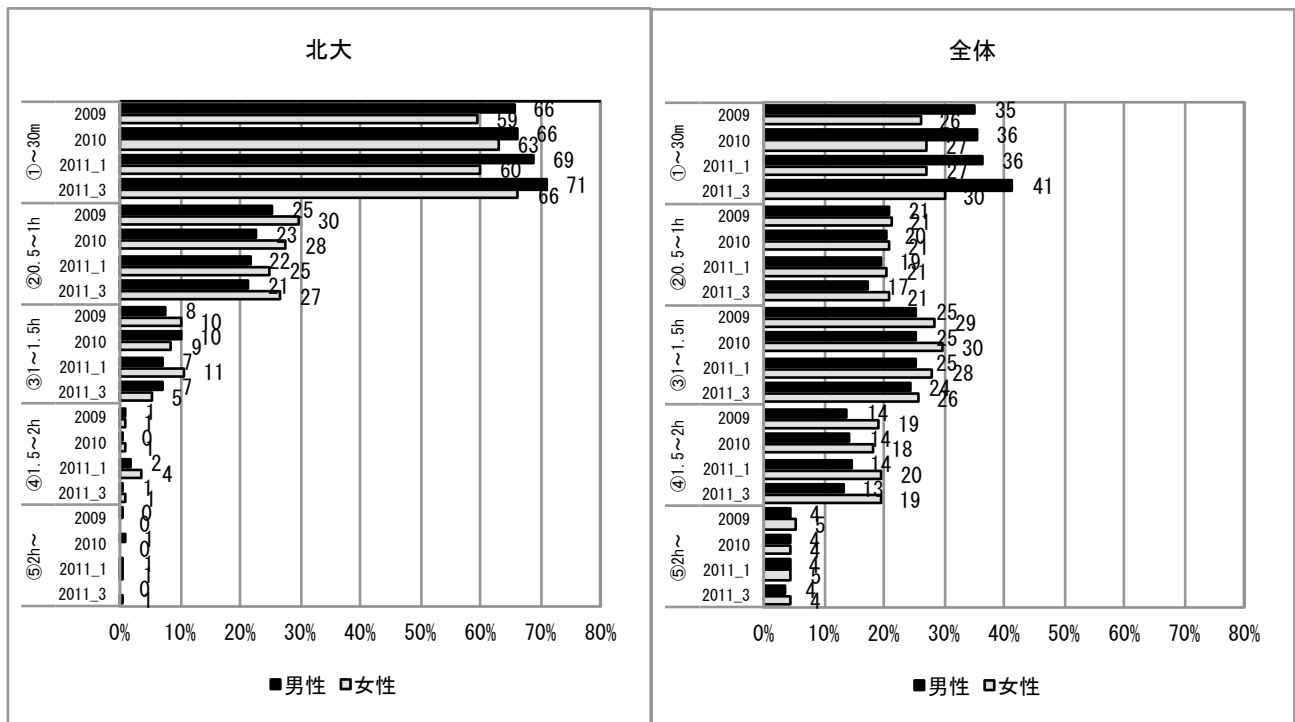


図 1.3. 片道の通学時間 [問 5]

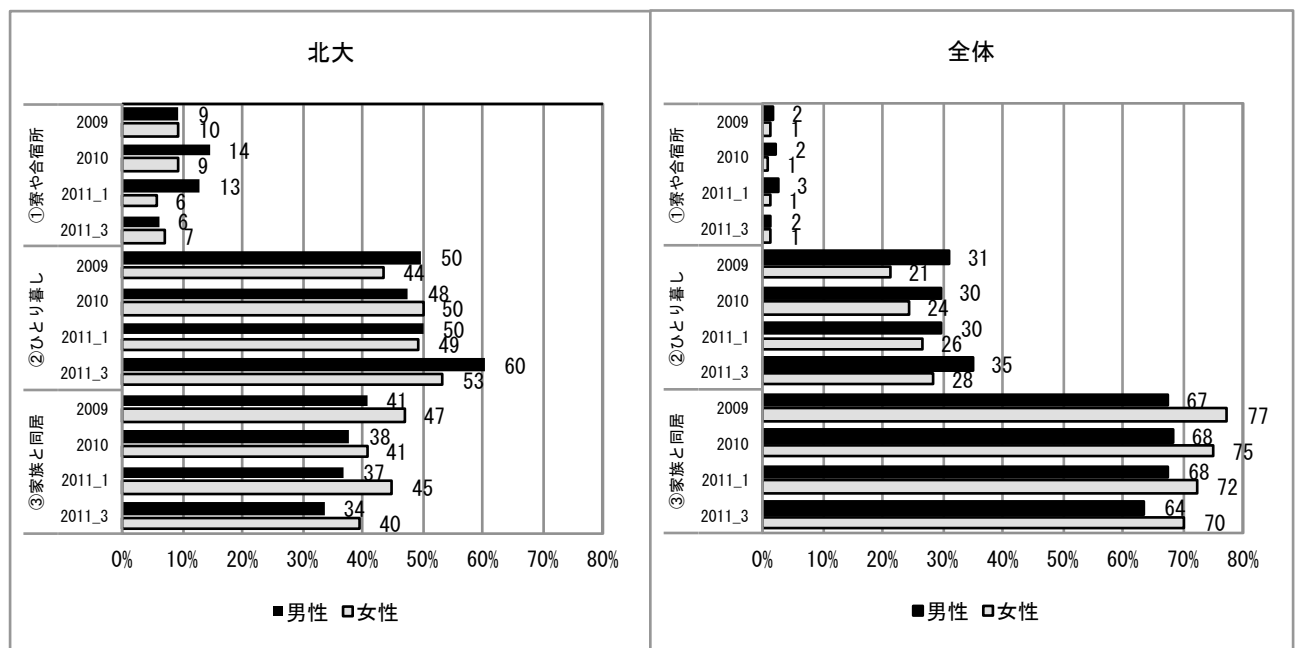


図 1.4. 居住形態 [問 6]

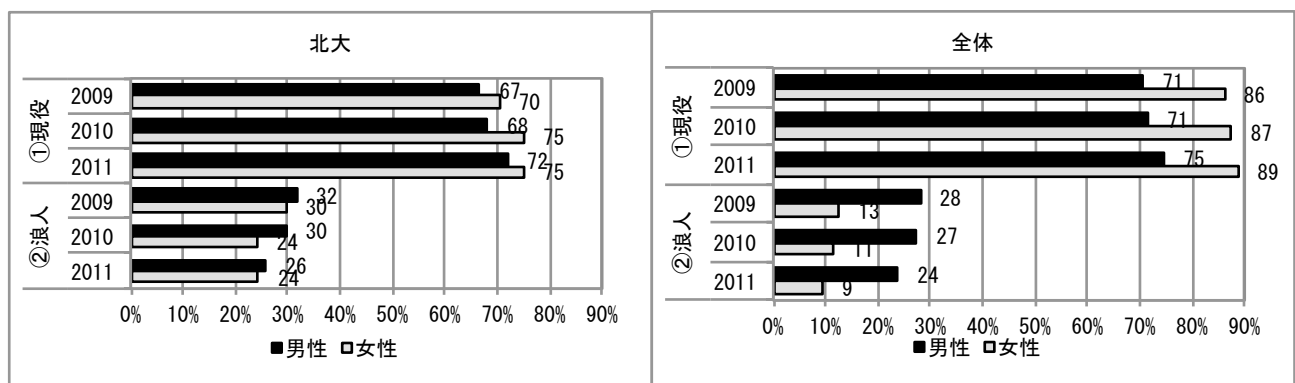


図 1.5. 現役・浪人経験 [問 21]

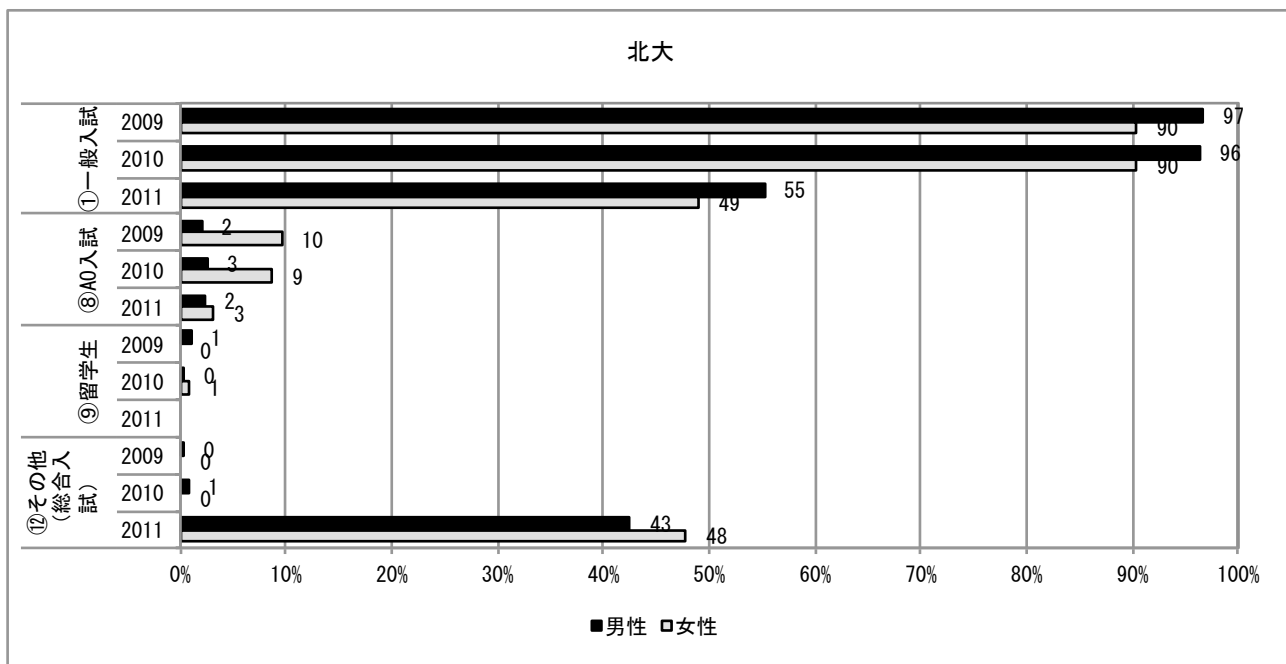


図 1.6.1. 入試形態 (北大) [問 22]

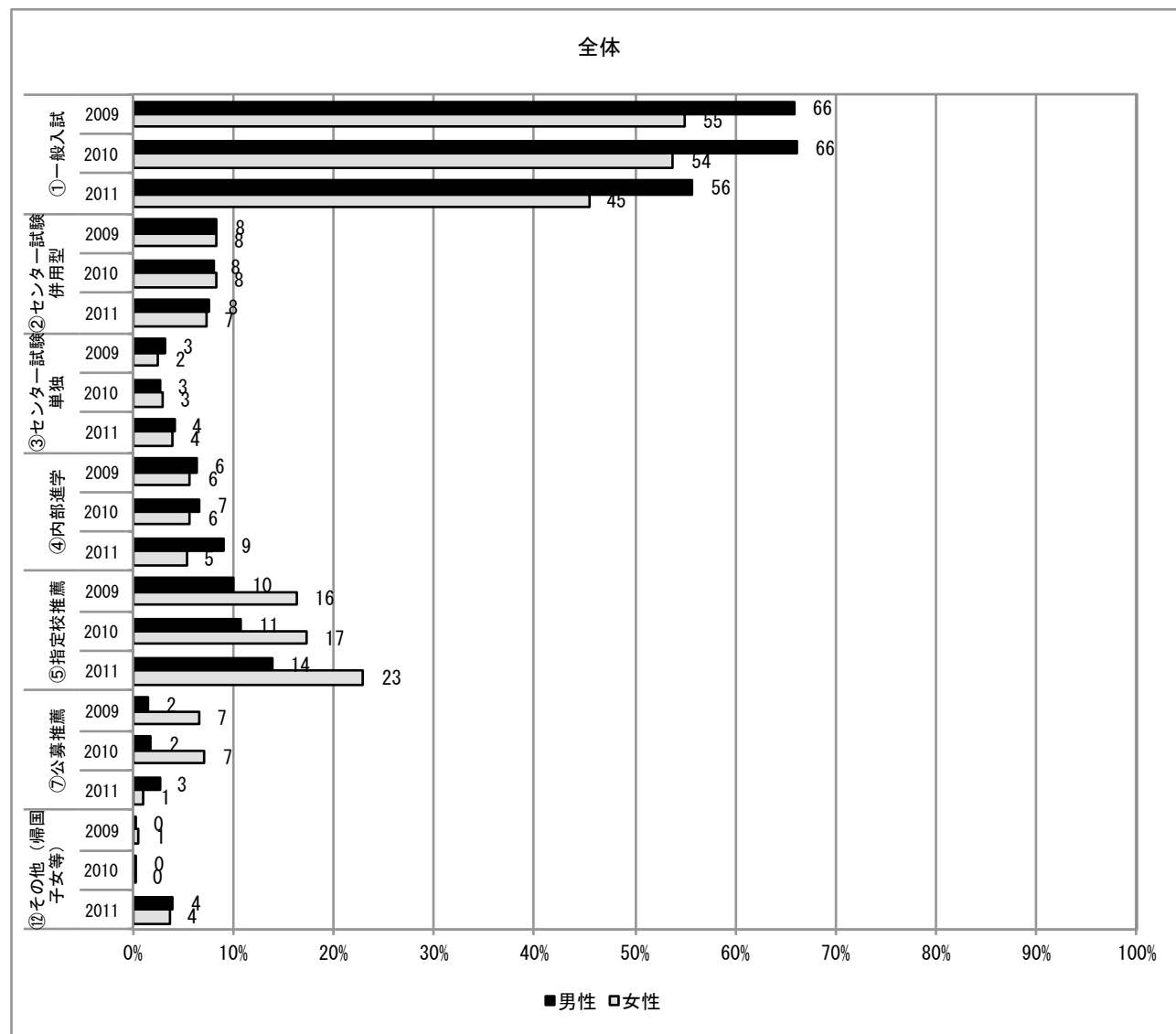


図 1.6.2. 入試形態 (全体) [問 22]

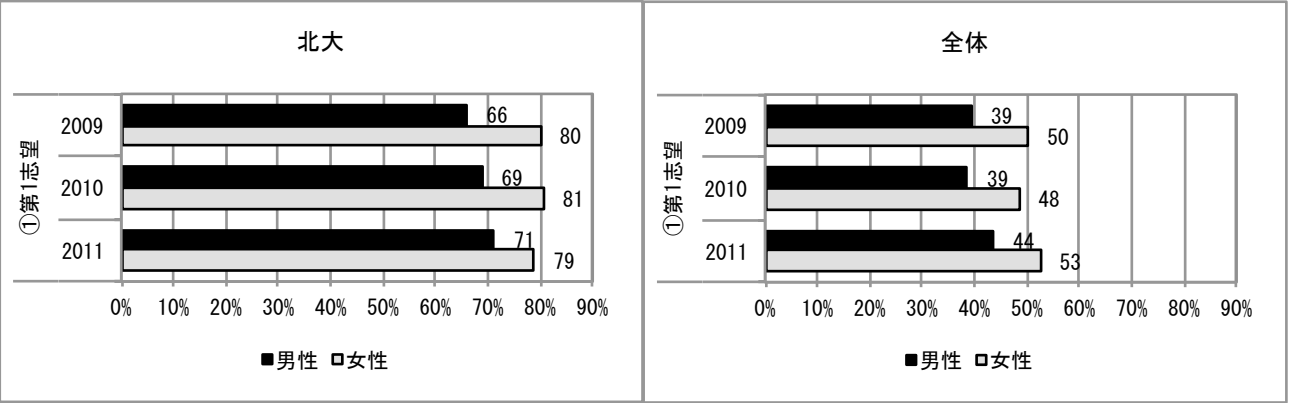


図 1.7. 第 1 志望校への入学 [問 23]

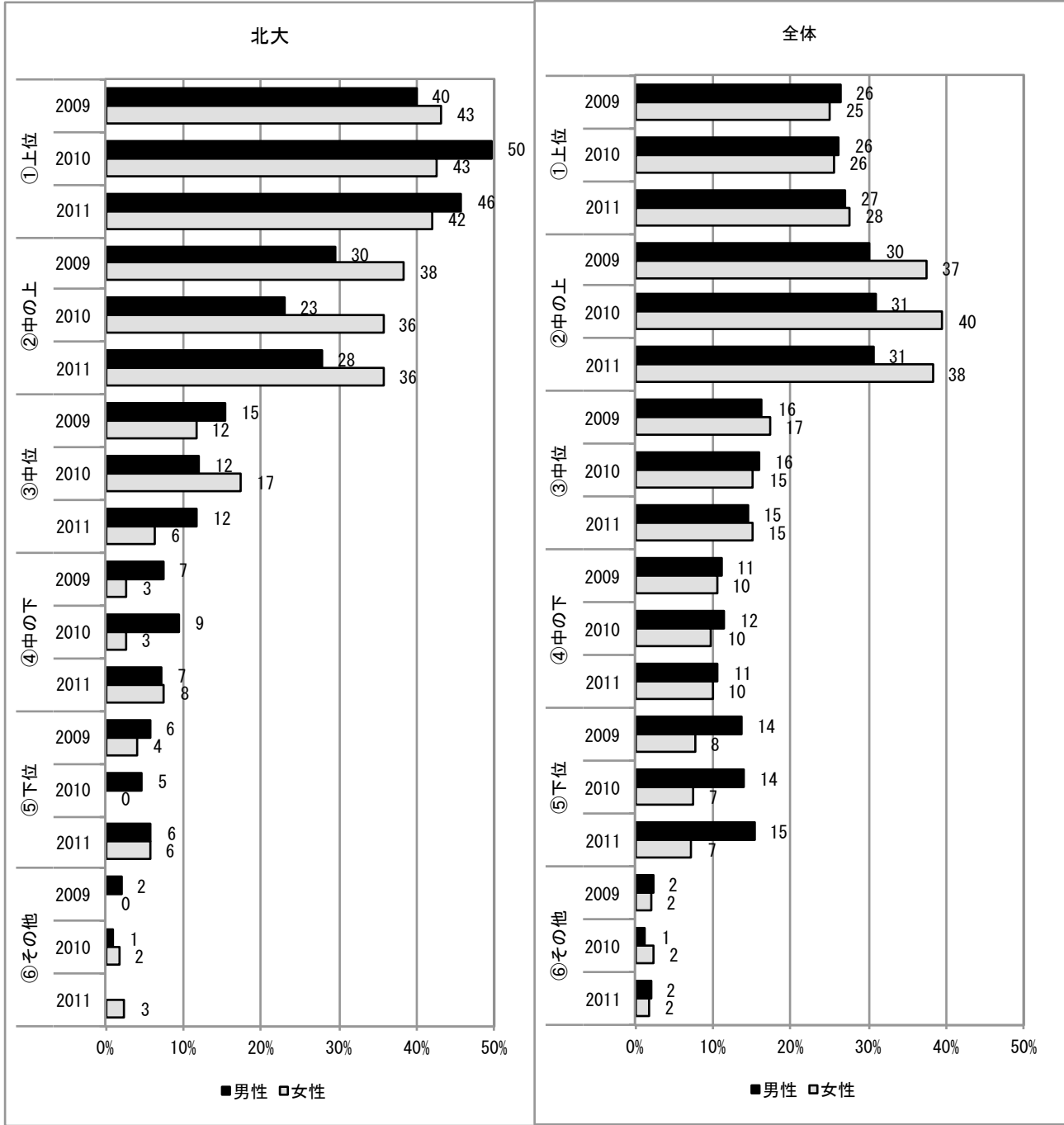


図 1.8. 自己評価による高校時代の成績 [問 24]

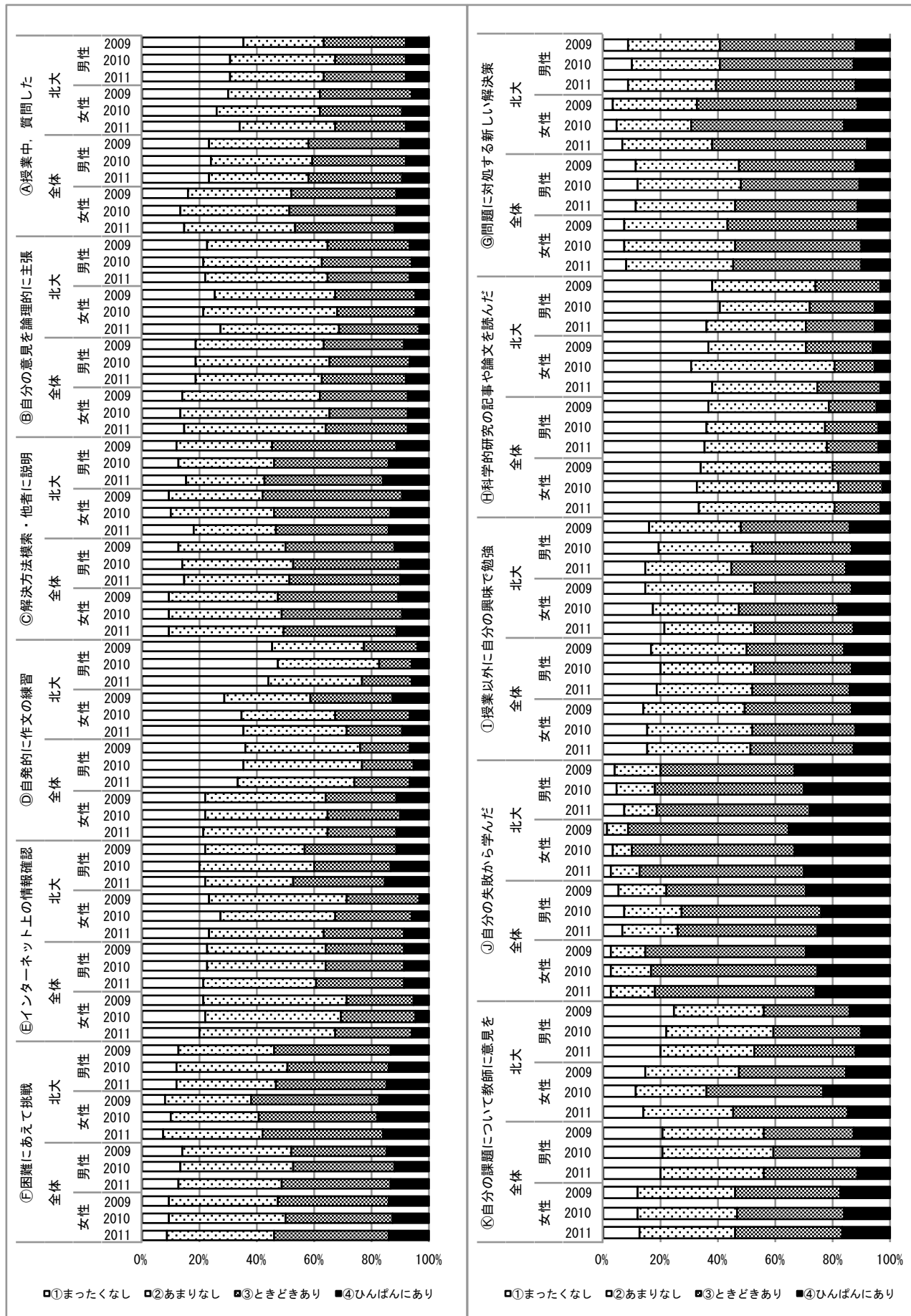


図 1.9.1. 高校 3 年生のころの学習経験 (男女別) [問 25]

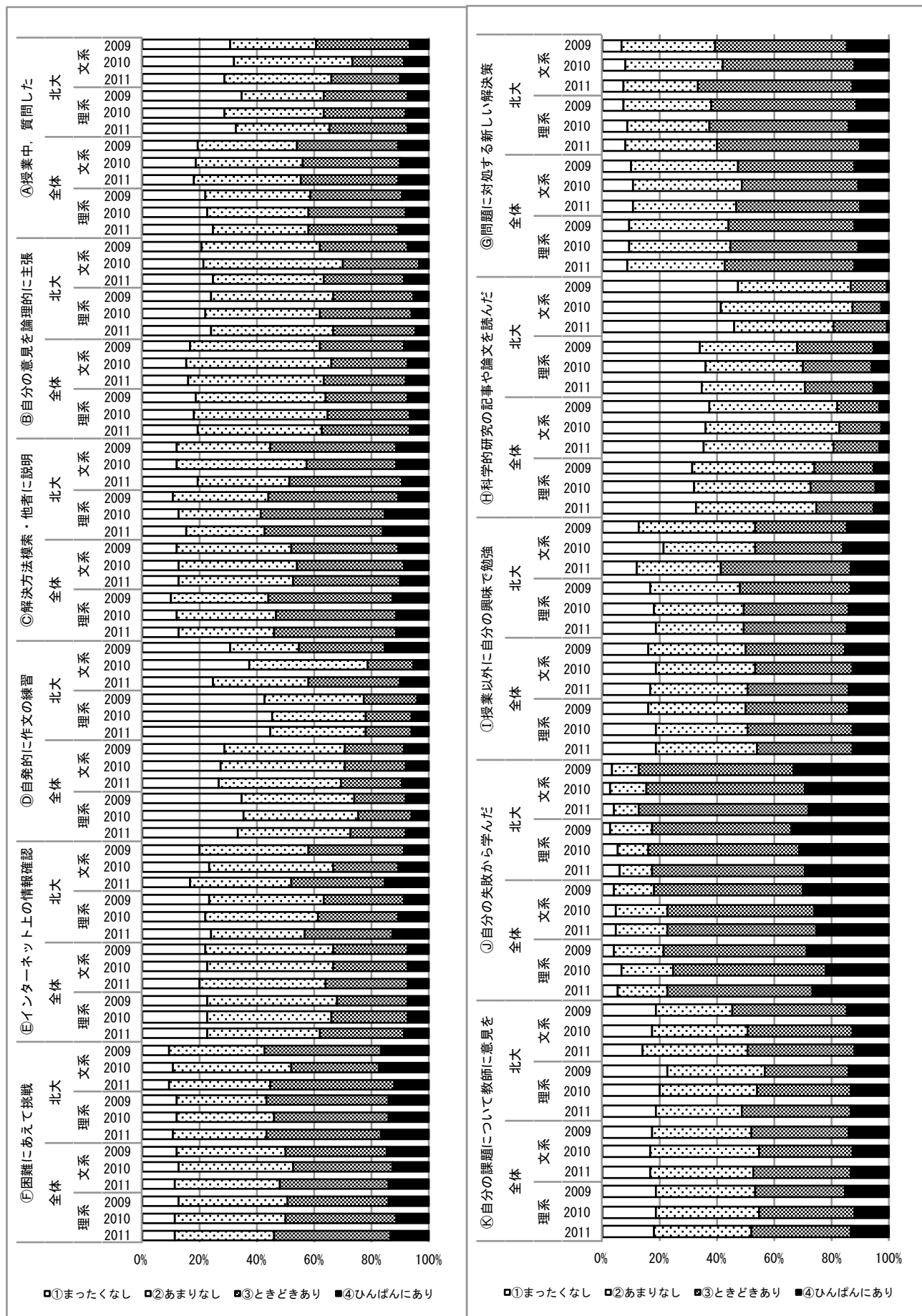


図 1.9.2. 高校 3 年生のころの学習経験 (系列) [問 25]

2. 大学における学びの状況

本章では、大学生がどのような学習経験や行動をして、知識・能力がどのように変化したかをみる。

2.1. 授業をつうじた学習経験 [問 7] (図 2.1, 図 5.1)

授業中の学習経験について 14 の質問をしている。

一年生で、北大が全体を大きく上回る項目は、③ときどき／④ひんぱんに①* 取りたい授業を履修登録できなかった、④実験、実習、フィールドワーク等で学生が体験的に学ぶ、⑤ TA・SA (上級生や大学院生の授業補助者) から補助を受けた、⑥ 学生自身が文献や資料を調べたなどである。

このうち①* は数値が低いほどよい否定的項目である。以下、否定的項目には* をつける。

④ の比率は、北大では 57% (2010 年 59%, 2009 年 62%), 全体では 33% (ともに 37%) に減少した。北大と全体の大きな差は、おもに文系と理系の構成比の差による。系別にみると、理系では北大 64% (71%, 74%) が全体 66% (65%, 67%) と同程度まで減り、文系では北大 26% (26%, 28%) が全体 20% (23%, 22%) をやや上回る。

練習船、牧場、研究林などを活用したフィールド体験型一般教育演習や、2006 年度から 3 年間で約 1 億 5000 万円をかけて設備・内容を一新した自然科学実験などの体験学習は、学生の評価が高く、全国的にも注目され、北大のコアカリキュラムを代表する科目となった (参考文献・リンク 6～9)。

⑤ は、北大では 64% (2010 年 69%, 2009 年 78%) に減少し、全体では 41% (45%, 44%) で大きな変化はない。北大と全体の大きな差はおもに系別構成比の差による。北大では TA の認知度が年々下がり、理系では北大 64% (71%, 78%) と全体 64% (65%, 66%) の差はなくなった。ところが、文系では今回も北大 65% (65%, 78%) が全体

31% (34%, 31%) を圧倒的に上回り、理系と同程度に⑤ の機会があることが北大の特徴といえる。

平成 24 年の中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」資料編 (参考リンク 28, 73 ページ) には、北大の全学教育 TA の事例が紹介されている。

北大では全学教育 TA の拡充をすすめ、のべ採用人数は 2007 年度 672 人⇒2011 年度 1,021 人に増え、新任 TA 研修会には毎年 200 人以上が参加する (付録 3 図 2)。自然科学実験、情報学、外国語 CALL 授業など実習中心の授業では、指導の中心的役割を TA が担っている (参考文献 10)。

⑥ は、北大では 88% (2010 年 85%, 2009 年 84%), 全体では 76% (75%, 72%) にのぼる。

①* は、北大では総合入試導入の影響で 70% (2010 年 52%, 2009 年 44%) に急増した。全体では 42% (38%, 36%) と、やや増加した。

北大の全学教育では、学生が履修クラスを選択できる多彩な科目が提供されている。一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)、総合科目、主題別科目、体育学などのほか、履修クラス指定が多かった外国語の授業でも英語 III・IV、外国語演習などにクラス選択制を導入した (付録 3 表 1)。

これらの科目については、10 年以上前に履修者 1,000 人の大型講義や、同 200 人の一般教育演習、論文指導講義などが問題となり、特定のクラスに履修者が過度に集中するのを防ぎ、学習環境を改善するため、2000 年度ころから科目ごとに開講時間帯を設け、同一時間帯ごとの開講科目数の片寄りをなくし、クラスごとの履修者数に定員を設け、大型講義や少人数授業で希望者が定員を超える場合は抽選・先着順・教員による選考などによる履修調整を導入してきた。

2006 年度には単位の実質化の観点から履修登録単位数の上限設定 (CAP 制) (参考文献 11) を導

入し、学生には「少ない科目に集中して取り組む」よう指導した結果、履修者数が大きく減り、2007年度より一般教育演習では履修希望者が3人以下の科目は開講取り消しとしている。

これらの取組により全学教育科目の学習環境は飛躍的に改善された。①履修者総数②開講科目数③1クラスの平均履修者数④非常勤講師担当コマ数が大きく減り、着実に⑤学生の自習時間が増え、⑥GPAが上昇し、⑦授業アンケートにおける学生の満足度（総合評価）が向上した（付録3図3～5、参考文献6）。

これらの制度の趣旨について学生の理解はやや不十分で、各種のアンケートや投書に不満が表れることもある。それでも、2006～2008年度各学期末に実施した、全学教育改革（新教育課程と「単位の実質化」）に関する学生・教員アンケート調査では、2008年度2学期までに、履修登録上限設定単位数は「適当」という学生が80%超、授業で与えられる課題の量は「適当」という者も60%超になった。

「少ない科目に集中して取り組む」ほうがGPAは上昇するCAP制の仕組みへの理解が次第に浸透してきたといえる（付録3図6、参考文献12）。

2011年度に総合教育がはじまると、学生はできるだけ多く単位をとろうとして、外国語演習や一般教育演習の履修希望者が増え、抽選落選者が前年度952人⇒3,099人に急増し、全学教育科目の履修者総数が1学期は約7%（3,016人）、2学期は約10%（3,303人）増加した（付録3表1）。

この状況については、詳細なデータをもとに全学

教育専門委員会で検討し、2012年度開講計画や上限設定制度に改善策が盛り込まれ、履修状況はやや落ち着いたので、次の調査結果に注目したい。

表2.1では、回答の④ひんぱんにあったを「3」、③ときどきあったを「2」、②あまりなかったを「1」、①まったくなかったを「0」と換算して平均値を算出する。

一年生で系別にみると、北大が全体を大きく上回る項目は①*、⑨（文系）、⑤（理系）、⑥教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する（文系）、北大が大きく下回る項目は⑧仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ（理系）、⑩授業の一環でボランティア活動をする（理系）などである。

北大の三年生では①*は半減し、理系では⑨⑧が大きく増え、文系では⑥が全体と同程度に減っている。

2.2. 授業内外における学習行動 [問8] (図2.2, 図5.2)

授業内外での学生の学習行動や態度について14の質問をしている。

一年生で、北大が全体を大きく上回る項目は、授業課題のために③ときどき／④ひんぱんに①図書館の資料や②Web上の情報を利用した、③インターネット(LMS)を使って授業課題を受けたり提出したりした、および授業に④*欠席や⑤*遅刻を①まっ

表2.1. 学習経験の頻度の平均値 (0～3) [問7]

学習経験	系	北大				全体				北大-全体			
		2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
①*取りたい授業を履修登録できなかった	文	0.81	1.99	1.54	1.36	1.05	1.21	1.09	1.06	▲ 0.24	0.78	0.45	0.30
	理	0.38	1.77	1.31	1.23	0.58	1.15	1.12	1.04	▲ 0.20	0.62	0.19	0.19
⑨TA・SAから補助を受ける	文	1.05	1.73	1.65	1.97	0.83	0.97	1.05	0.99	0.23	0.77	0.60	0.99
	理	2.24	1.69	1.79	1.90	1.88	1.68	1.68	1.68	0.36	0.00	0.10	0.22
⑤学生自身が文献や資料を調べる	文	2.33	2.12	2.26	2.22	2.05	1.96	1.94	1.85	0.28	0.16	0.33	0.37
	理	2.43	2.22	2.25	2.19	2.25	1.98	1.97	1.92	0.18	0.24	0.28	0.27
①実験、実習などで体験的に学ぶ	文	0.78	0.89	0.84	0.91	0.97	0.76	0.84	0.82	▲ 0.19	0.13	0.01	0.09
	理	2.50	1.71	1.76	1.80	2.31	1.75	1.74	1.79	0.19	▲ 0.04	0.02	0.01
⑥教員が提出物に添削やコメント	文	1.15	1.48	1.51	1.55	1.13	1.24	1.35	1.36	0.03	0.23	0.15	0.18
⑧仕事に役立つ知識やスキル	理	1.69	1.16	1.21	1.26	1.64	1.48	1.43	1.47	0.05	▲ 0.32	▲ 0.22	▲ 0.20
⑩授業の一環でボランティア活動	理	0.12	0.08	0.09	0.10	0.22	0.27	0.24	0.25	▲ 0.10	▲ 0.19	▲ 0.16	▲ 0.15

注) * は数値が小さいほどよい否定的項目である。

たく／②あまりしなかったなどである。

①を③ときどき／④ひんぱんにした者は北大 80%(2010年 75%, 2009年 79%), 全体 67%(68%, 65%) で, 変化はない。系別では, (1) 北大・文系 80% (79%, 81%) と理系 80% (73%, 79%) が同率で, 全体の (2) 理系 72% (68%, 71%), (3) 文系 66% (68%, 62%) がこれにつづく。

北大の北図書館では, 入館者数, 貸出冊数とも最近 10 年間でほぼ 3 倍に増加し, 初年次生向け学習図書館としてたいへんよく利用されている (付録 3 図 7, 参考文献 13)。

北図書館は ICT の活用にも熱心で, 2001 年度より一般教育演習の授業一回 90 分を使って図書館職員と TA が図書館資料の紹介や文献検索の初歩を指導する「図書館情報入門」を実施している。

最近北大 ELMS (Education and Learning Management System) 端末の利用度が全学でもっとも高いため, 2011 年度に端末が一挙に 36 台 ⇒ 78 台に増設され, ますますよく利用されている。

⑧は北大, 全体ともに約 9 割で, ①を上回る。④ひんぱんにした者に限ると, 北大 51% (2010 年 60%, 2009 年 63%) が全体 41% (42%, 47%) を上回る。系別では, 理系 (北大 53%, 63%, 64%, 全体 49%, 50%, 53%) が文系 (北大 46%, 55%, 60%, 全体 38%, 39%, 43%) を上回る。

③を④ひんぱんにした者は, 北大 56% (2010 年 65%, 2009 年 58%) が全体 29% (30%, 32%) を

大きく上回る。系別にみると, 北大では文系 68% (76%, 67%) が理系 53% (61%, 55%) をやや上回り, 全体では文系 25% (26%, 29%) は理系 36% (35%, 37%) を下回る。経年変化では, ⑧⑨を④ひんぱんにした者は, 北大でも, 全体でも漸減あるいは頭打ちの傾向にある。

授業の⑥*欠席⑦*遅刻が少ない (①まったく／②あまりしなかった) 者は, 北大では⑥*77% (2010 年 73%, 2009 年 72%), ⑦*81% (73%, 74%), 全体では⑥*57% (51%, 54%), ⑦*62% (58%, 59%) に増えた。北大と全体の大きな差は, おもに系別構成比の差による。系別でみると, ⑥*の少ない者は, 北大では文系 75% (70%, 64%) が理系 78% (ともに 74%) とほぼ同程度になったのに対して, 全体では理系 66% (62%, 66%) に比べて文系 53% (45%, 47%) は欠席がかなり多い。

北大の全学教育では 2011 年度から IC カード学生証の導入に合わせて, 各教室に設置したカードリーダーで授業ごとの出席記録を集めはじめた。

全学教育科目全体の出席データがまとめれば, 教学評価にも役立つだろう。

一方, ⑩教員の研究プロジェクトに参加, ⑪単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加, ⑫大学の教職員に将来のキャリアの相談などを①まったく／②あまりしなかった者は北大でも, 全体でも約 9 割にのぼり, 学生と教職員の関係は非常に希薄である。

表 2.2. 学習行動の頻度の平均値 (0～3) [問 8]

学習行動	系	北大				全体				北大-全体			
		2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
③インターネットで授業課題をやりとりした	文	1.24	2.65	2.74	2.66	1.72	1.91	1.89	1.91	▲ 0.48	0.74	0.85	0.75
	理	1.20	2.48	2.56	2.49	1.59	2.13	2.06	2.13	▲ 0.39	0.35	0.49	0.36
④授業課題に図書館資料を利用	文	2.29	2.05	1.99	2.04	1.77	1.74	1.75	1.65	0.52	0.31	0.24	0.39
	理	2.26	2.06	1.95	2.08	2.05	1.88	1.81	1.87	0.21	0.18	0.15	0.21
⑦*授業に遅刻	文	1.41	0.72	1.02	1.12	1.54	1.23	1.34	1.33	▲ 0.14	▲ 0.51	▲ 0.32	▲ 0.21
	理	1.16	0.78	0.97	0.98	1.28	1.14	1.20	1.15	▲ 0.12	▲ 0.36	▲ 0.23	▲ 0.17
⑥*授業を欠席	文	1.46	1.04	1.11	1.16	1.63	1.43	1.56	1.54	▲ 0.16	▲ 0.39	▲ 0.45	▲ 0.39
	理	1.00	0.91	1.05	1.05	1.18	1.13	1.22	1.18	▲ 0.17	▲ 0.22	▲ 0.16	▲ 0.12
⑨授業時間外に他の学生と勉強	文	1.69	1.58	1.81	1.89	1.66	1.83	1.94	1.91	0.03	▲ 0.25	▲ 0.13	▲ 0.02
①*授業をつまらなく感じた	文	2.07	1.89	2.05	2.00	2.07	2.13	2.19	2.15	▲ 0.00	▲ 0.23	▲ 0.13	▲ 0.15

北大ではこれまで①保健センター、学生相談室などの専門家（医師、カウンセラー）による支援、②クラス担任や、アカデミック・サポートセンター（ASC）、学務部などの教職員による支援、③ピア・サポート室、上級生が新入生向けにおこなうピアサポート履修相談会 MANAVI など学生同士による支援を組み合わせ重層的支援体制を充実させてきた。

総合教育の2年目となる2012年度にはASCの学習サポートや進路相談の利用者数は大きく増えている。今後の成果に期待したい（付録3図8、参考文献・リンク14, 15, 19）。

表2.2では、問25と同じ基準（6ページ）で換算して平均値を算出する。

系別にみて、一年生で北大が全体を大きく上回る項目は③、④（文系）、北大が大きく下回る項目は⑨*⑩*、⑪授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり授業内容について話したりした（文系）、①*授業をつまらなく感じた（文系）などである。

北大の三年生では、③は半減して全体よりも低くなり、④（文系）はさらに上昇し全体との差も拡大している。⑨*⑩*①*は平均値がやや上昇し、全体との差は縮小している。

2.3. 正課内外の活動に費やす時間[問9](図2.3)

正課内外の7つの活動に費やす1週間あたりの時間を質問している。

表2.3では、回答の①全然ないを0時間、②1時間未満を0.5時間、③1～2時間を1.5時間、④3～5時間を4時間、⑤6～10時間を8時間、⑥11～15時間を13時間、⑦16～20時間を18時間、⑧20時間以上を20時間と換算して平均時間を算出し、北大で活動時間の長い順に記す。

一年生がもっとも長い時間を割く活動は(1)④授業や実験で、北大18.1時間、全体16.2時間である。

(2)⑪授業時間以外の勉強や宿題は、北大7.8時間が全体4.0時間を大きく上回る。

北大では、単位の実質化の取組の結果、90分の授業1回あたりの学生の自習時間は、全学教育科目では2006年度1学期1.01時間⇒2011年度1学期1.20時間へ（約20%増）、専門科目では0.87時間⇒1.30時間へ（約50%増）、全科目平均では約35%伸びた（付録3図3）。

しかし、大学設置基準（1単位あたり自習時間を含めて45時間(週3時間)の学修を標準とする）や、

表2.3. 正課内外の活動の1週間あたりの平均時間 [問9]

活動	系	北大				全体				北大-全体			
		2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
④授業や実験	文	13.2	16.7	17.4	17.4	12.7	15.6	15.2	15.1	0.5	1.1	2.3	2.3
	理	17.4	18.4	18.2	18.2	16.2	17.5	17.6	17.6	1.2	0.9	0.6	0.6
	計	16.2	18.1	18.0	18.0	14.1	16.2	16.0	16.0	2.2	1.9	2.0	2.0
⑪授業時間以外の勉強や宿題	文	8.0	6.8	7.2	7.3	3.9	3.4	3.5	3.2	4.1	3.4	3.7	4.0
	理	8.5	8.0	7.0	7.4	6.5	5.5	5.0	5.0	2.1	2.5	2.0	2.5
	計	8.4	7.8	7.1	7.4	4.9	4.0	4.0	3.8	3.5	3.8	3.1	3.5
③個人的な趣味活動	文	8.2	7.3	8.1	8.4	7.4	7.3	7.2	8.0	0.8	▲0.0	0.8	0.4
	理	7.4	7.6	7.8	7.6	8.5	7.9	7.8	8.4	▲1.1	▲0.3	0.1	▲0.8
	計	7.6	7.5	7.9	7.8	7.8	7.5	7.4	8.1	▲0.2	0.0	0.5	▲0.3
⑤部活動や同好会	文	6.3	7.4	6.2	6.9	5.9	6.0	5.9	6.2	0.4	1.4	0.4	0.7
	理	6.3	6.7	7.4	6.7	5.3	6.2	6.4	6.0	1.0	0.5	1.0	0.7
	計	6.3	6.8	7.1	6.7	5.7	6.0	6.0	6.1	0.6	0.8	1.1	0.6
⑥大学外でのアルバイトや仕事	文	7.2	4.1	5.6	4.6	10.5	8.5	8.9	8.8	▲3.3	▲4.4	▲3.2	▲4.3
	理	5.6	2.8	3.1	4.1	8.5	6.1	6.3	6.8	▲2.9	▲3.3	▲3.2	▲2.7
	計	6.1	3.0	3.8	4.2	9.7	7.8	8.0	8.1	▲3.7	▲4.8	▲4.2	▲3.9
⑦読書	文	4.4	3.4	3.3	3.8	2.7	2.2	2.3	2.3	1.7	1.2	1.0	1.6
	理	2.4	2.2	2.3	2.2	2.5	2.4	2.3	2.3	▲0.1	▲0.3	▲0.1	▲0.1
	計	2.9	2.4	2.5	2.7	2.6	2.3	2.3	2.3	0.3	0.1	0.3	0.4
⑧オフィスアワーなど授業時間外に教員と面談	文	0.4	0.3	0.1	0.2	0.5	0.3	0.3	0.2	▲0.2	0.0	▲0.2	▲0.1
	理	0.4	0.2	0.2	0.2	0.5	0.4	0.4	0.4	▲0.1	▲0.2	▲0.1	▲0.1
	計	0.6	0.2	0.2	0.2	0.5	0.3	0.3	0.3	0.0	▲0.1	▲0.1	▲0.1

国際比較 (1 週あたり一年生・文系・米国 13.3 時間 (授業関連学修), 日本 8.9 時間 (授業関連学修 + 自主的学修), 理系・米国 15.7 時間, 日本 9.6 時間。参考リンク 28, 59 ページ) に照らせば, きわめて少ないといわざるを得ない。

中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(平成 24 年。参考リンク 28) は, 大学における学修の本質をなす, 学生の主体的な学びを確立する始点として, 学士課程教育における質を伴った学修時間の増加・確保を強く求めている。そのためのさまざまな取組を持続させるためにも, 学生の学修時間の変動を継続的に調査し, よいデータを共有することはきわめて重要である。

(3) ⑥個人的な趣味活動 (テレビやゲーム, 映画鑑賞など) は, 北大, 全体ともに 7.5 時間である。

(4) ⑩部活動や同好会は, 北大 6.8 時間, 全体 6.0 時間で, 大きな差はない。

(5) ⑪大学外でのアルバイトや仕事は, 北大 3.0 時間が全体 7.8 時間を大きく下回る。北大では, 総合入試・総合教育導入の影響か, ⑪が①全然ない者が 64% (2010 年 54%, 2009 年 47%) に増え, 全体 30% (28%, 27%) を圧倒的に上回る。

(6) ⑫読書は, 北大 2.4 時間, 全体 2.3 時間で, 北大・文系 3.4 時間が特に長い。

(7) ⑬オフィスアワーなど授業時間外に教員と面談する時間は, 北大 0.2 時間, 全体 0.3 時間で, ともに①全然ない者が約 8 割にのぼり, 学生と教職員との関係は希薄である。

経年変化は, 北大で⑫が増え, ⑪が減ったほかは, ほとんど変化はない。

北大の三年生では, 一年生に比べて⑭授業や実験が減り, ⑮授業時間以外の学習が増えている。特に文系でこの傾向が強い。⑮アルバイトや仕事は, 北大でも平均 6 時間に増え, 全体との差は縮小している。⑫読書は, 北大・文系では平均 4 時間超に増えている。

2.4. 入学後の知識・能力の変化 [問 10] (図 2.4, 図 5.3)

入学後の知識・能力の変化について 20 の質問をしている。

表 2.4 では, 回答の⑤大きく増えたを「2」, ④増えたを「1」, ③変化なしを「0」, ②減ったを「▲

表 2.4. 入学後の能力変化の平均値 (▲ 2 ~ 2) [問 10]

能力	系	北大				全体				北大-全体			
		2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
⑩コンピュータの操作能力	文	0.80	0.83	0.84	0.90	0.77	0.72	0.76	0.71	0.04	0.11	0.08	0.18
	理	1.11	0.94	0.97	0.96	1.08	0.90	0.93	0.95	0.03	0.03	0.04	0.01
⑪異文化の人々に関する知識	文	0.83	0.61	0.80	0.71	0.69	0.52	0.53	0.53	0.15	0.09	0.27	0.18
	理	0.54	0.65	0.69	0.64	0.45	0.42	0.42	0.41	0.09	0.23	0.27	0.23
⑫専門分野や学科の知識	文	1.26	0.66	0.64	0.55	1.10	0.93	0.93	0.95	0.15	▲ 0.27	▲ 0.29	▲ 0.40
	理	1.51	0.57	0.84	0.86	1.38	0.92	1.00	0.99	0.12	▲ 0.35	▲ 0.16	▲ 0.13
⑬一般的な教養	文	0.81	0.52	0.72	0.69	0.93	0.69	0.71	0.71	▲ 0.12	▲ 0.17	0.01	▲ 0.02
	理	0.76	0.56	0.51	0.53	0.84	0.64	0.60	0.66	▲ 0.08	▲ 0.08	▲ 0.09	▲ 0.13
⑭批判的に考える能力	文	0.95	0.54	0.58	0.54	0.75	0.52	0.52	0.50	0.19	0.02	0.05	0.04
	理	0.73	0.46	0.50	0.48	0.70	0.46	0.45	0.47	0.03	▲ 0.01	0.04	0.00
⑮人間関係を構築する能力	文	0.75	0.29	0.57	0.60	0.86	0.66	0.65	0.64	▲ 0.11	▲ 0.36	▲ 0.08	▲ 0.05
	理	0.60	0.51	0.47	0.48	0.70	0.54	0.54	0.58	▲ 0.09	▲ 0.04	▲ 0.07	▲ 0.10
⑯他人と協力する能力	文	0.75	0.28	0.48	0.49	0.86	0.62	0.60	0.58	▲ 0.11	▲ 0.33	▲ 0.12	▲ 0.10
	理	0.64	0.45	0.45	0.43	0.80	0.51	0.54	0.56	▲ 0.17	▲ 0.07	▲ 0.10	▲ 0.13
⑰時間の効果的利用能力	文	0.24	0.03	0.17	0.03	0.58	0.39	0.42	0.38	▲ 0.33	▲ 0.36	▲ 0.26	▲ 0.36
	理	0.34	0.11	0.18	0.25	0.51	0.31	0.32	0.36	▲ 0.17	▲ 0.20	▲ 0.14	▲ 0.11
⑱リーダーシップの能力	文	0.51	0.04	0.02	0.17	0.53	0.19	0.19	0.19	▲ 0.02	▲ 0.15	▲ 0.17	▲ 0.02
	理	0.31	0.03	0.05	0.06	0.38	0.13	0.13	0.16	▲ 0.07	▲ 0.10	▲ 0.09	▲ 0.10
⑲数理的な能力	文	▲ 0.26	▲ 0.60	▲ 0.55	▲ 0.43	▲ 0.11	▲ 0.18	▲ 0.22	▲ 0.21	▲ 0.15	▲ 0.42	▲ 0.33	▲ 0.22
	理	0.47	0.13	0.16	0.25	0.57	0.29	0.32	0.31	▲ 0.10	▲ 0.16	▲ 0.16	▲ 0.06

1」, ①大きく減ったを「▲ 2」と換算して平均値を算出する。

北大の一年生で、平均値が高い項目は④コンピュータの操作能力, ⑤異文化の人々に関する知識, ⑥専門分野や学科の知識, ⑦一般的な教養, ⑧批判的に考える能力 (文系), ⑨人間関係を構築する能力 (理系), 平均値が低い項目は⑩数理的な能力 (文系), ⑪リーダーシップの能力, ⑫時間を効果的に利用する能力 (文系) などである。

また、北大が全体を大きく上回る項目は⑬ (理系), 北大が大きく下回る項目は⑭⑮⑯ (いずれも文系), ⑰他の人と協力して物事を遂行する能力 (文系), ⑱などである。

北大の三年生では、⑬が大きく伸びて全体を上回り, ⑭⑮⑯⑰⑱も大きく伸びている。⑰ (文系) は減少傾向が小さくなり, 全体との差も縮小している。

一年生で⑬が増加した (⑭増えた／⑮大きく増えた) 者は, 理系では北大 80% (2010 年 80%, 2009 年 77%) と全体 76% (76%, 77%) の差は小さく, 文系では北大 72% (71%, 77%) と全体 64% (67%, 65%) の差がやや大きい。北大・文系での⑬の増加は初年次情報教育の成果といえる。

北大では、2006 年度新教育課程において、理系・文系・情報系などの区別によらず、どの分野にすすんでも身につけておくべき情報学のコアの習得を目標として、全学教育における情報教育の内容と実施体制を一新し、情報倫理教育や単位の実質化に関しても大きな成果を上げている (参考文献 16)。

⑬が増加した者は、北大・文系 65% (2010 年 70%, 2009 年 63%), 理系 59% (62%, 57%) が全体・文系 3 年とも 49%, 理系 40% (41%, 40%) をやや大きく上回る。

⑭が増加した者は、北大・文系 65% (2010 年 60%, 2009 年 53%), 理系 59% (74%, 75%) が全体・文系 82% (80%, 81%), 理系 80% (2 年とも 83%) をやや大きく下回る。北大・理系での急減は総合教育では初年次に学部専門科目が開講されなくなったため、文系での増加は新しい文系基礎科目の成果とみられる。

北大では 1995 年に学部一貫教育と全学共通教育に移行したが、初年次は教養科目・基礎科目が中心で、学部専門科目は各学期 2 科目程度だった。

2011 年からの総合教育では、理系の初年次には専門科目は開講されなくなり、文系では文系基礎科目 (人文・社会科学の基礎) の内容を一新し、法学入門、政治学入門、経済・経営学入門などが開講されるようになった (参考文献 17)。

⑬が増加した者は、北大の文系 67% (2010 年 75%, 2009 年 73%), 理系 65% (ともに 62%), 全体の文系 69% (69%, 70%), 理系 66% (63%, 68%) の間にはほとんど差がない。

⑭が増加した者は、文系では北大 14% (2010 年 9%, 2009 年 15%) と全体 14% (13%, 14%) の差がなく, 理系では北大 35% (41%, 43%) が全体 42% (43%, 45%) をやや下回る。⑭が減少した (⑮減った／⑯大きく減った) 者は北大・文系 57% (2010 年 45%, 2009 年 47%) が特に多く, 北大・理系は 22% (22%, 20%), 全体は文系 27% (ともに 28%), 理系 15% (14%, 17%) である。

2.5. 小括

2011 年調査報告書の小括は北大でもほぼ共通するので、以下《 》のなかに引用する (参考文献 1)。

〔2.1. 学習経験〕

《学生たちは授業をつうじて、小テストやレポートに取り組んでおり、自ら文献や資料を調べる機会も多い。その際、図書館の資料を利用する学生も多いが、大多数はインターネットを積極的に活用している。授業のなかでは、教員が一方的に講義をおこなうだけでなく、学生が自分の考えや研究を発表する機会や、学生同士が議論する機会が設けられている〈…〉このように、学生が主体的・能動的に学習し、知識やスキルを獲得するために、アクティブ・ラーニングという学習形態も積極的に導入されている〈…〉その背景には、近年の初年次教育プログラムの広まりがあるのだろう。》(36 ページ)

一年生では、①実験、実習、フィールドワーク

等で体験的に学ぶ、①* 取りたい授業を履修できなかった、⑨ TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受けた、⑤ 学生自身が文献や資料を調べたなどの項目で、北大が全体を大きく上回る。

④ 体験学習や⑨ TA の補助は、理系では北大と全体の差がなくなった。北大ではこれらが文系でも広く普及していることが特徴である。④ の認知度にはややかげりがみえる。TA の採用人数は着実に増えているが、⑨ TA の認知度は下がっている。④⑨ とともに取組開始から 5 ～ 10 年以上たち、新鮮みが薄れてきた可能性もあり、改めて TA の実状調査が必要かもしれない。

北大で①* 取りたい授業を履修できなかった者が多いことは、単位の実質化と裏腹の関係にある。今回は総合入試導入の影響で急増したが、2012 年度には必要な対策がとられたので、今回の調査結果に注目したい。

そのほか、⑥ 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する（文系）でも北大が全体を大きく上回り、⑧ 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ（理系）、⑩ 授業の一環でボランティア活動をする（理系）などの項目では北大が大きく下回る。授業方法の工夫のほかに、今後はキャリア教育やサービ斯拉ーニングなどの視点も必要といえる。

北大の三年生では、①* 取りたい授業を履修できなかったが半減し、理系で⑨ TA の補助、⑧ 仕事に役立つ知識やスキルの学習が大きく増え、文系では⑥ 提出物に添削やコメントが全体と同程度に減っている。初年次と高年次では履修システム、教育内容・方法が大きく違うことがわかる。

〔2.2. 学習行動〕

《大学 1 年生向けの授業は出席が重視されることが多いせいか〈…〉欠席や遅刻をする学生は相対的に少なかった。与えられた課題を期限内に提出している学生のほうが多く、授業時間外にも、他の学生と一緒に勉強したり授業内容について話したりするなど、「真面目」な態度で学習に取り組んでいる〈…〉とはいえ、約 80% の学生が授業中に居眠りをしたり授業を退屈に感じたりしており、時折、怠惰な態度をとることもあるようだ。》（36 ページ）

一年生では、授業課題のために④ 図書館の資料

や⑧ Web 上の情報を利用した、③ インターネット (LMS) を使って授業課題をやりとりした、授業を⑥* 欠席⑨* 遅刻したなどの項目では、北大が全体を大きく上回る（⑥* 欠席⑨* 遅刻は少ない）。

④ 図書館の利用は北大では文系と理系が同率になった。⑧ Web ③ LMS の利用は北大が全体を上回るが、経年変化はいずれも漸減あるいは頭打ちの傾向で、Web 利用の拡大は一服の感がある。③ LMS の利用は、北大では文系のほうが多い。⑥* 欠席は、北大では文系が理系と同程度まで減った。

一方、⑩ 教員の研究プロジェクトに参加したり、① 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加したり、⑪ 大学の教職員に将来のキャリアを相談したりした者は北大、全体ともに約 1 割で、学生と教職員の関係は非常に希薄である。

そのほか、⑤ 授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり授業内容について話したりした（文系）、①* 授業をつまらなく感じた（文系）などでは北大が全体を大きく下回る。

北大の三年生では、③ LMS の利用は半減し、④ 図書館の利用（文系）はますます上昇し、⑥* 欠席⑨* 遅刻①* 授業をつまらなく感じたは一年生よりもやや多い。初年次と高年次では学習行動も大きく違うことがわかる。

〔2.3. 活動時間〕

《多くの大学 1 年生は、授業や実験に出席することに大きな時間的比重を置いていた。これに対して、授業時間外の学習時間は概して短かった。授業外の活動として、過半数の学生が大きな比重を置いていたのは、部活動や同好会、アルバイト、個人的な趣味活動である。読書時間やオフィスアワーなどをつうじて教員と面談する時間は相対的に短い傾向にあった。》（36 ～ 37 ページ）

一年生の 1 週間の活動時間は、北大と全体で、長い順に (1) ④ 授業や実験、(3) ⑥ 個人的な趣味活動、(4) ⑩ 部活動や同好会、(6) ⑧ 読書、(7) ③ オフィスアワーなど授業時間外に教員と面談は共通だが、⑤ 授業時間以外の学習は北大では 2 位、全体では 5 位、⑧ アルバイトや仕事は北大では 5 位、全体では 2 位と正反対である。これには系別（北大は理系、全体は文系が多い）や男女別の構成比、通学時間（北

大は平均 29 分、全体は 56 分) や地域の経済・文化の差などが関係するとみられる。

経年変化では、北大で㉔授業時間以外の学習が増え、㉕アルバイトや仕事が減った。㉔授業時間以外の学習の増減(2009 年⇒2010 年微減⇒2011 年増加、三年生は一年生より 1 割弱多い)は、授業アンケートで調査した授業 1 回 90 分あたりの自習時間の増減(付録 3 図 3)ときれいに符号している。

CAP 制導入から 5 年たって、自習時間の伸びに頭打ちの傾向がみえたが、総合入試制度の導入により再び上昇に転じたとみられる。

北大の三年生では、㉒授業や実験が減り、㉔授業時間以外の学習が増えている。㉕アルバイトや仕事が増え、全体との差は縮小している。文系では、㉖読書が増えている。

学生が自由な時間を有意義に使い、自習時間も増えるよう支援するためには、学習ポートフォリオなど、学生の日々の活動について、より詳細な情報を得て改善を指導する取組が有効だろう。

〔2.4. 知識・能力の変化〕

《正課内外の学びや活動をつうじて〈…〉学生たちはさまざまな能力や知識を獲得している。『知識・理解』の領域については専門分野や学科の知識、一般的な教養を獲得した学生が多く、学士課程教育における 1 年生の教育プログラムは、専門分野だけにとどまらず、ほかの学問領域の基本的な知識や考え方を幅広く学び、体系的な理解を促すような位置づけにあることがうかがえた。『汎用的技能』の領域についてはコンピュータの操作能力、分析力や問題解決能力、批判的に考える能力、コミュニケーション力を増やした学生が多く、全般的にいつて思考力を伸ばしている〈…〉これに比べると、応用力や外国語の運用能力の伸びは小さかった。〈これら〉を活用して実際の行動につなげていく『態度・志向性』については、協調性や社会性を高めた学生が多い一方で、他者に対して方向性を示したり目標を実現す

るために他者を統率したりする能力を伸ばした学生は少なかった。》(37 ページ)

北大の一年生では、㉑コンピュータの操作能力、㉒異文化の人々に関する知識、㉓専門分野の知識、㉔一般的な教養、㉕批判的に考える能力(文系)、㉖人間関係を構築する能力(理系)などが大きく増加し、㉗数理的な能力(文系)、㉘リーダーシップの能力、㉙時間を効果的に利用する能力(文系)などは減少した。

北大が全体を大きく上回る項目は㉒異文化に関する知識(理系)、北大が大きく下回る項目は㉗数理的な能力(文系)、㉖人間関係を構築する能力(同)、㉙時間を効果的に利用する能力(同)、㉚他の人と協力して物事を遂行する能力(同)、㉓専門分野の知識などである。

㉗数理的な能力が増加した者の比率は、文系では北大と全体は同じ、理系では北大が全体を下回り、差が拡大した。

北大の数学基礎科目の履修者数は、2011 年 1 学期には微分積分学 I がもっとも多く約 1900 人(一年生の約 73%)だった。北大で㉗が減少した者は 29% で、数学基礎科目を履修しなかった者の比率とほぼ同じである。

㉗が減少した者は北大・文系で特に多い。これには、文系のなかでは比較的数学を必要とする経済学・経営学の学生の構成比が小さい(北大 3%、全体 38%)ことも関係しているとみられる。

北大の三年生では、㉓専門分野の知識が大きく伸びて全体を上回り、㉕批判的に考える能力、㉖人間関係を構築する能力、㉚他人と協力する能力、㉙時間を効果的に利用する能力、㉘リーダーシップの能力も大きく伸びている。㉗数理的な能力(文系)は減少傾向が小さくなり、全体との差も縮小している。

今回はじめて上級生調査の結果が加わり、一年生とは違ったよい傾向が多くみられた。今後は経年変化もみながら、学士課程全体の学びの状況をより詳細に検証することが期待される。

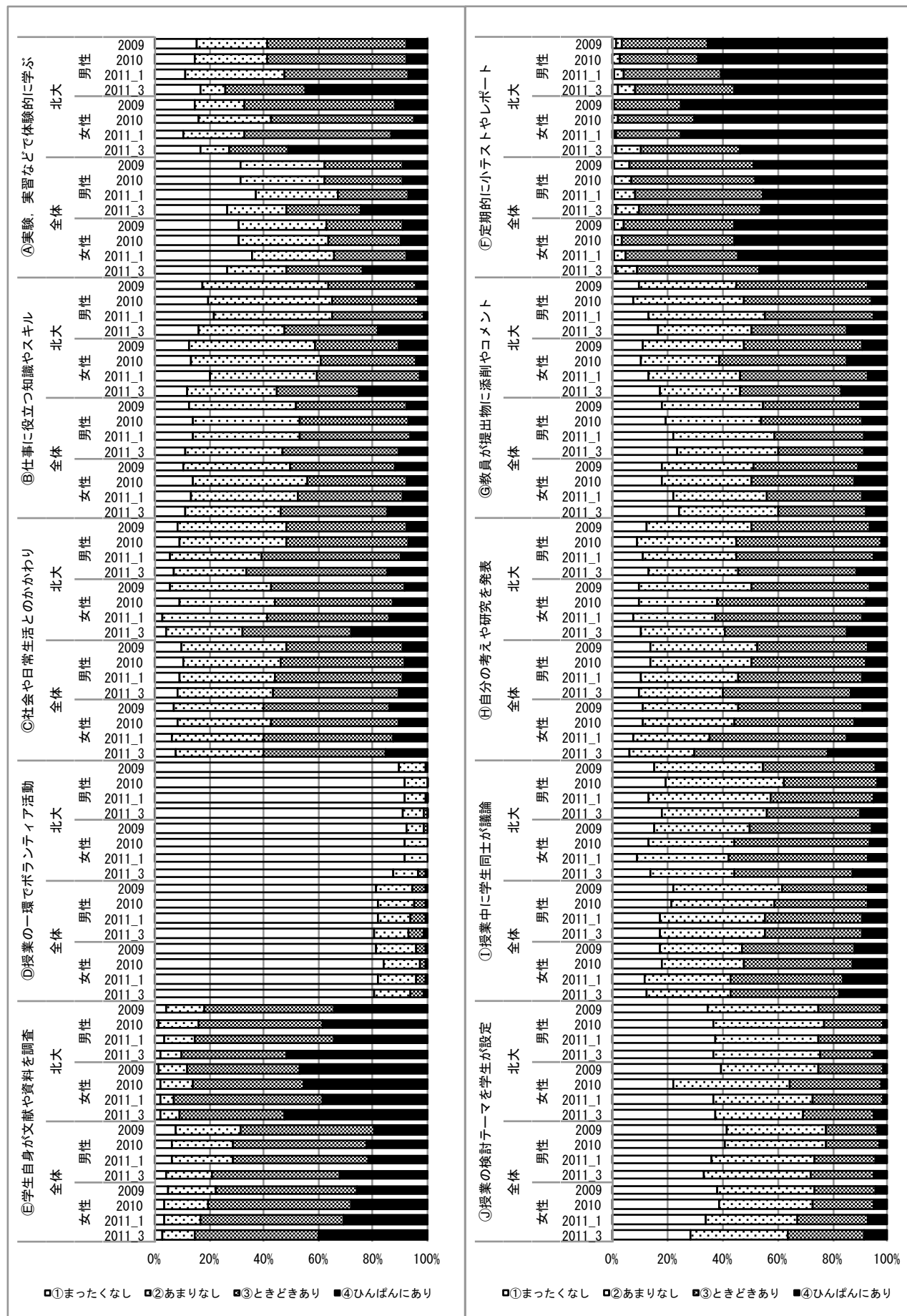


図 2.1.1. 授業をつうじた学習経験 (男女別) [問 7]

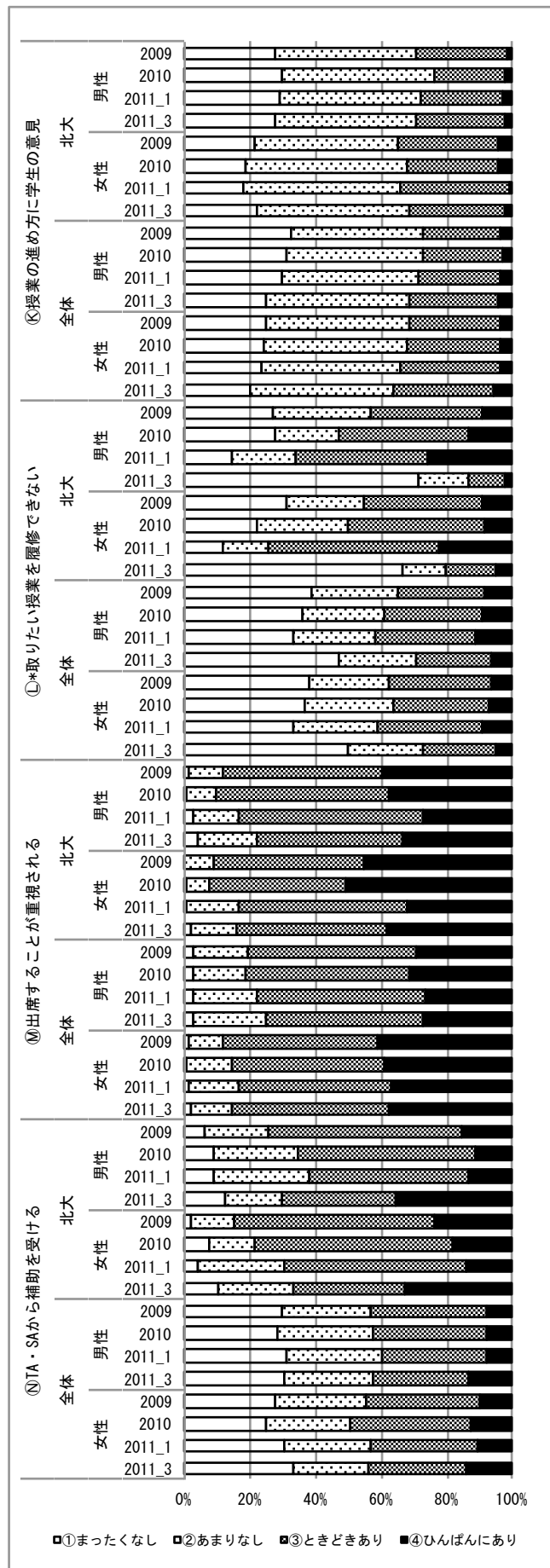


図 2.1.1. 授業をつうじた学習経験（男女別）[問 7]

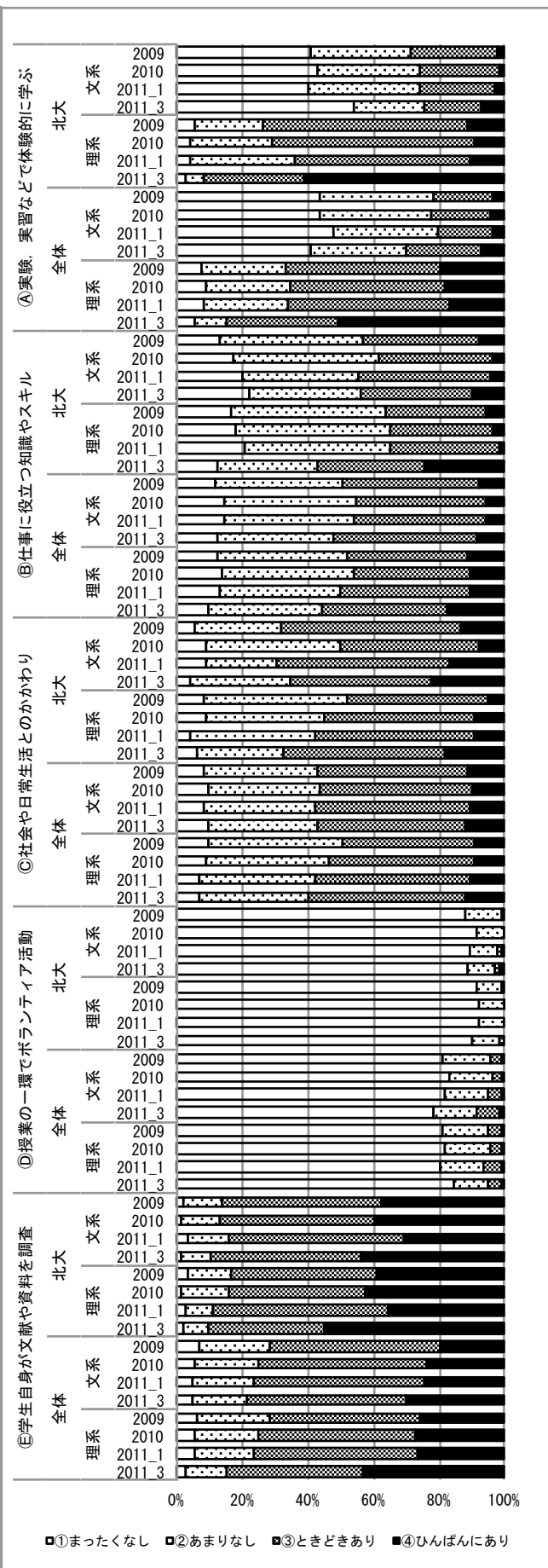


図 2.1.2. 授業をつうじた学習経験（系別）[問 7]

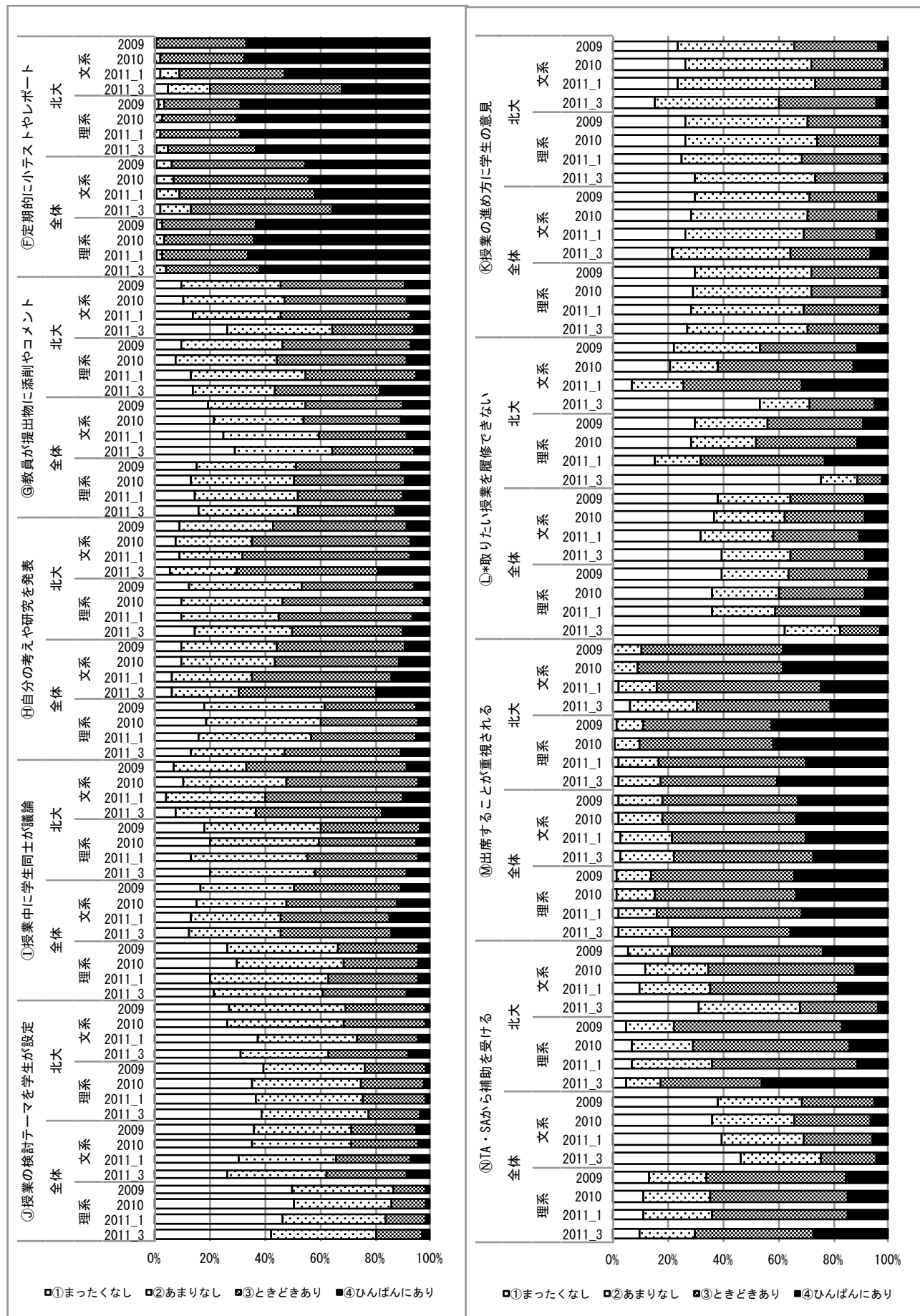


図 2.1.2. 授業をつうじた学習経験 (系別) [問 7]

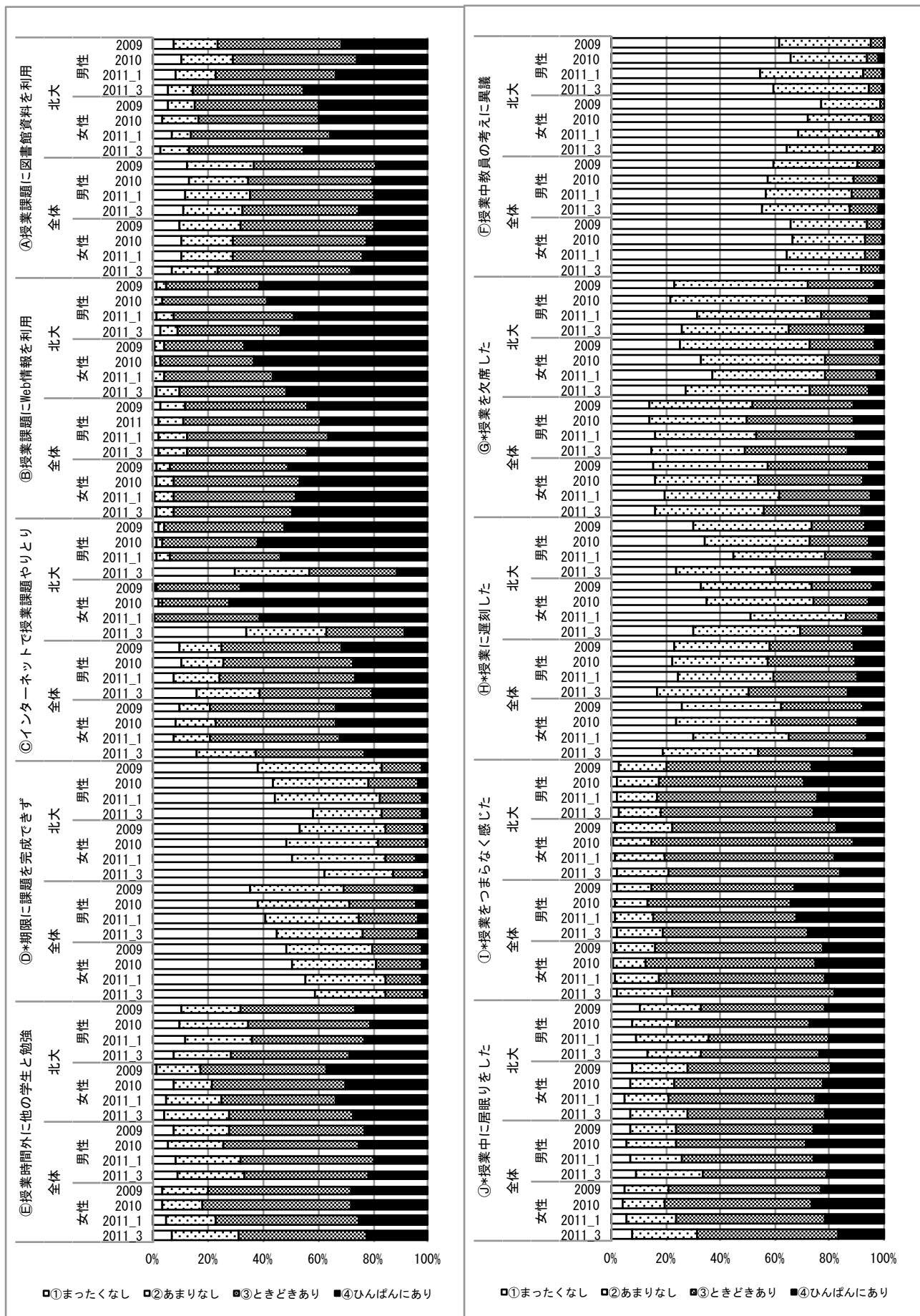


図 2.2.1. 授業内外における学習行動（男女別）[問 8]

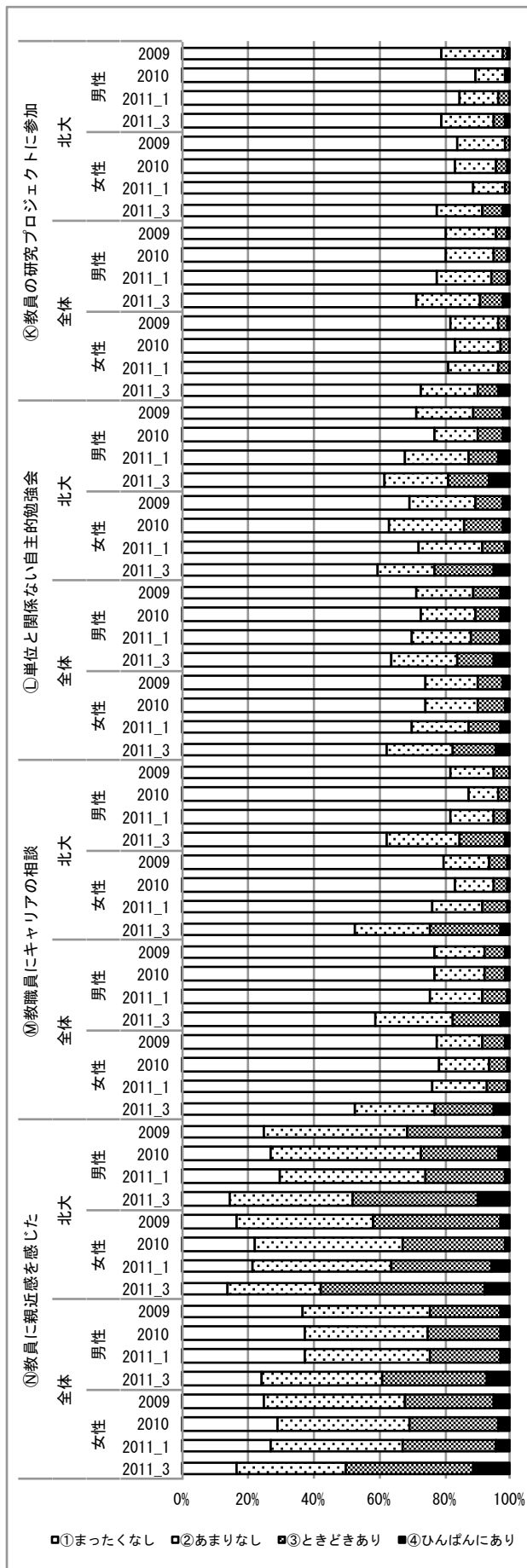


図 2.2.1. 授業内外における学習行動 (男女別) [問 8]

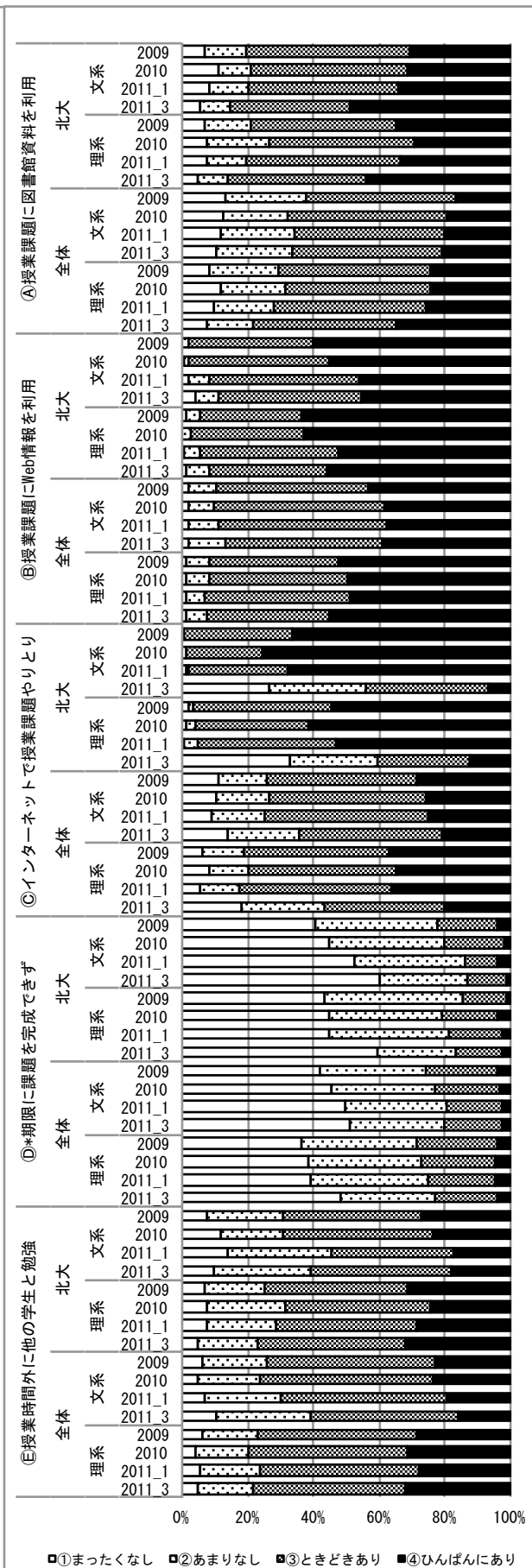


図 2.2.2. 授業内外における学習行動 (系別) [問 8]

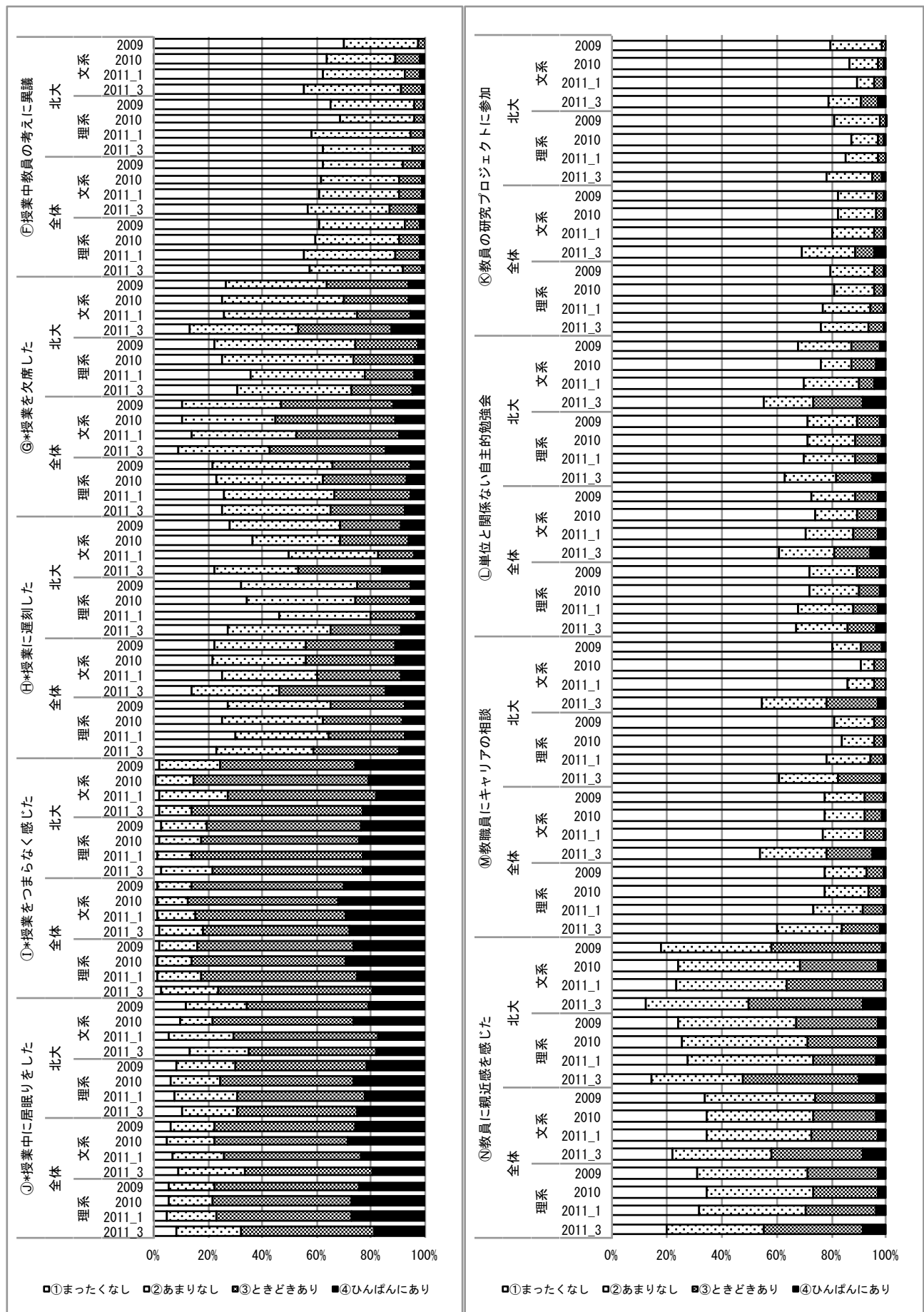


図 2.2.2. 授業内外における学習行動 (系列) [問 8]

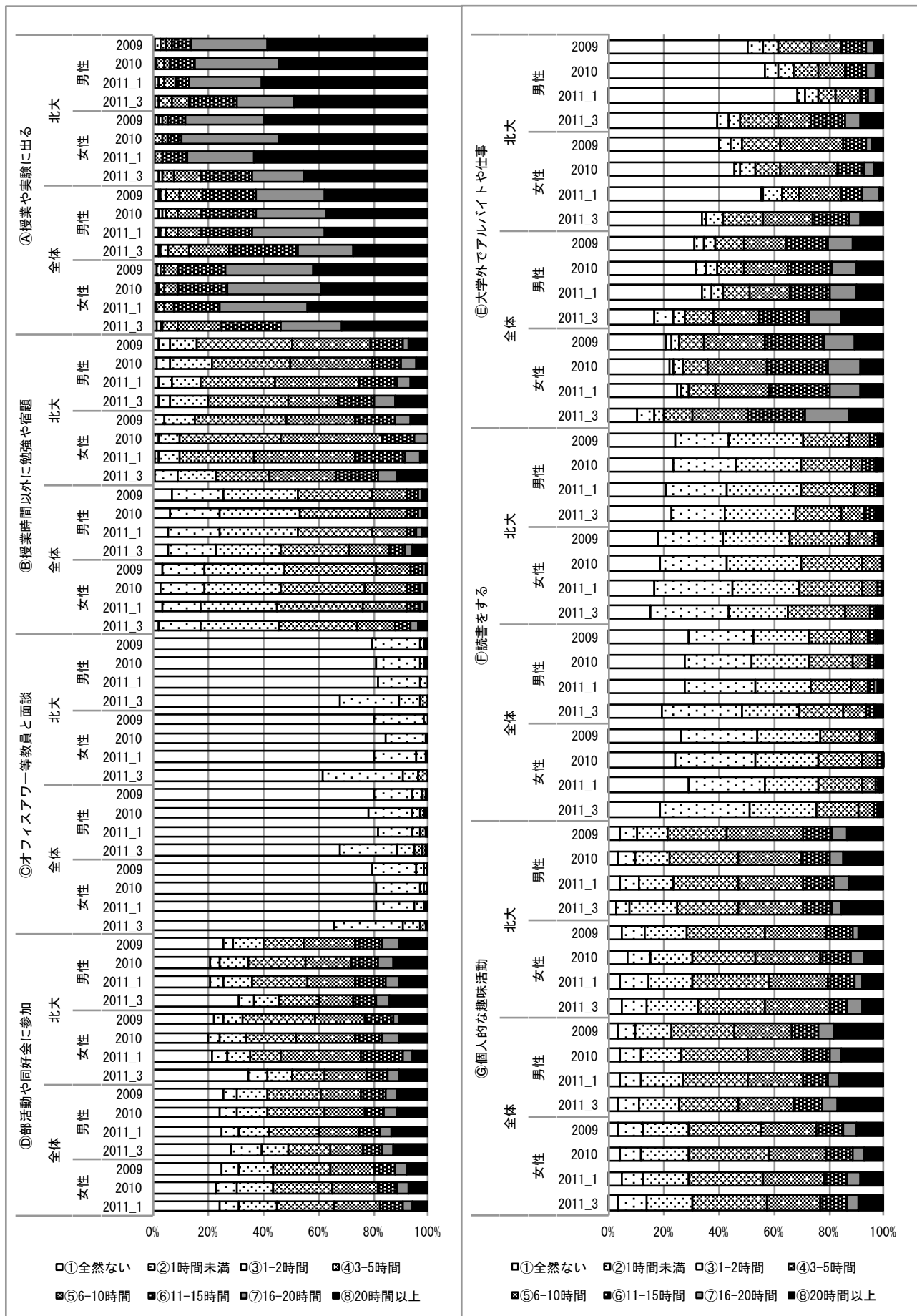


図 2.3.1. 正課内外の活動時間（1 週間あたり）（男女別）〔問 9〕

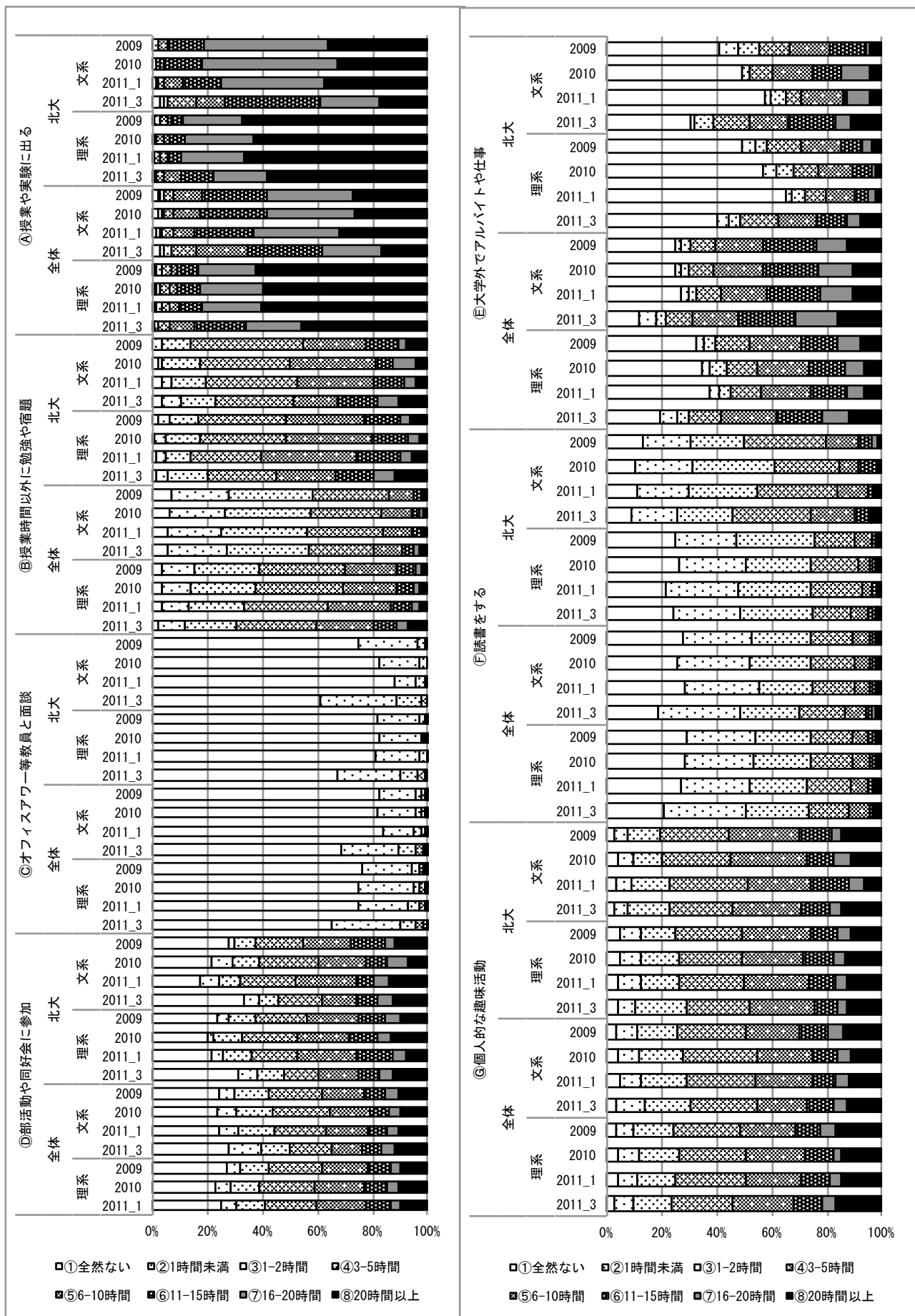


図 2.3.2. 正課内外の活動時間（1週間あたり）（系別）〔問9〕

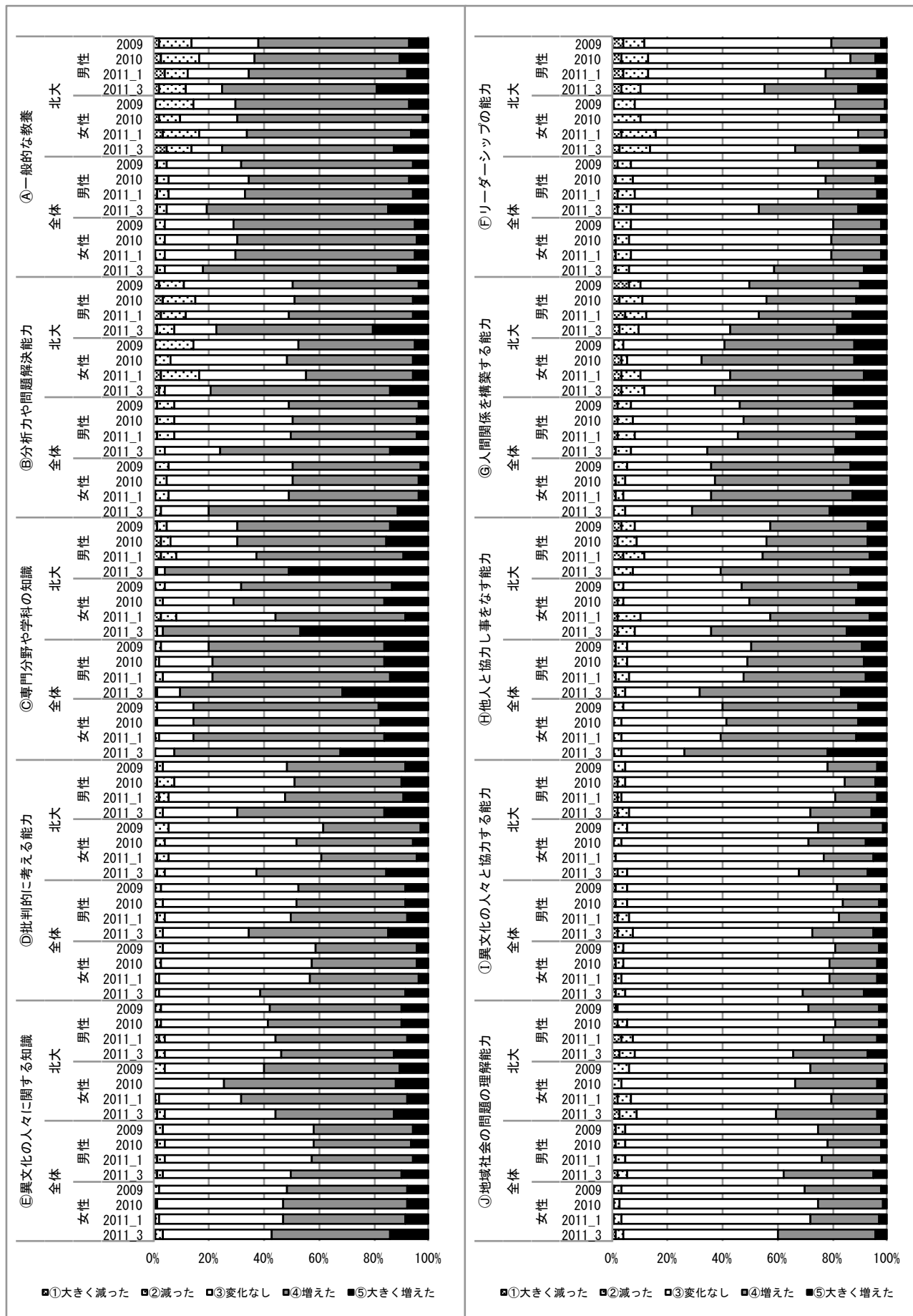


図 2.4.1. 入学後の知識・能力の変化（男女別）[問 10]

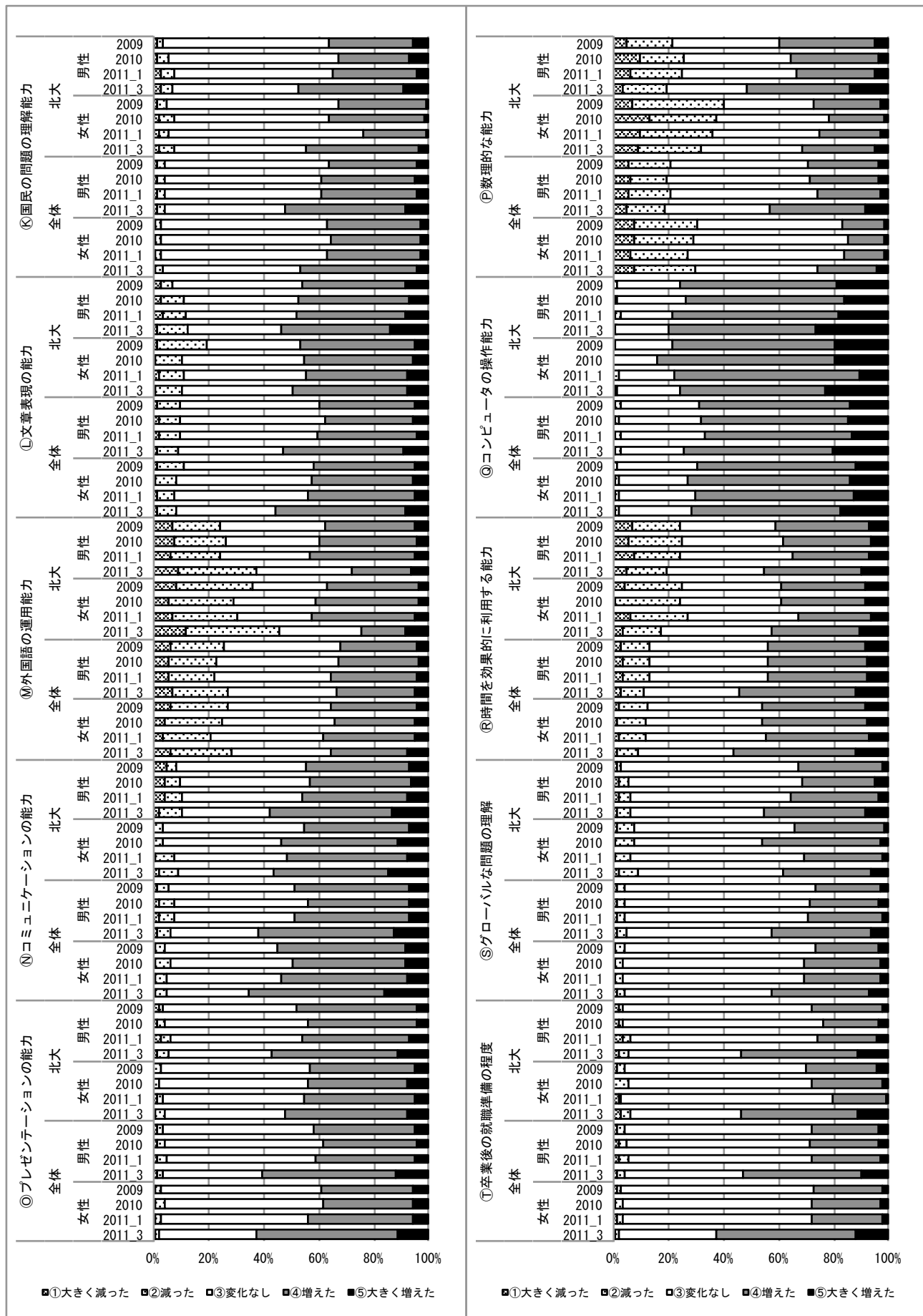


図 2.4.1. 入学後の知識・能力の変化（男女別）[問 10]

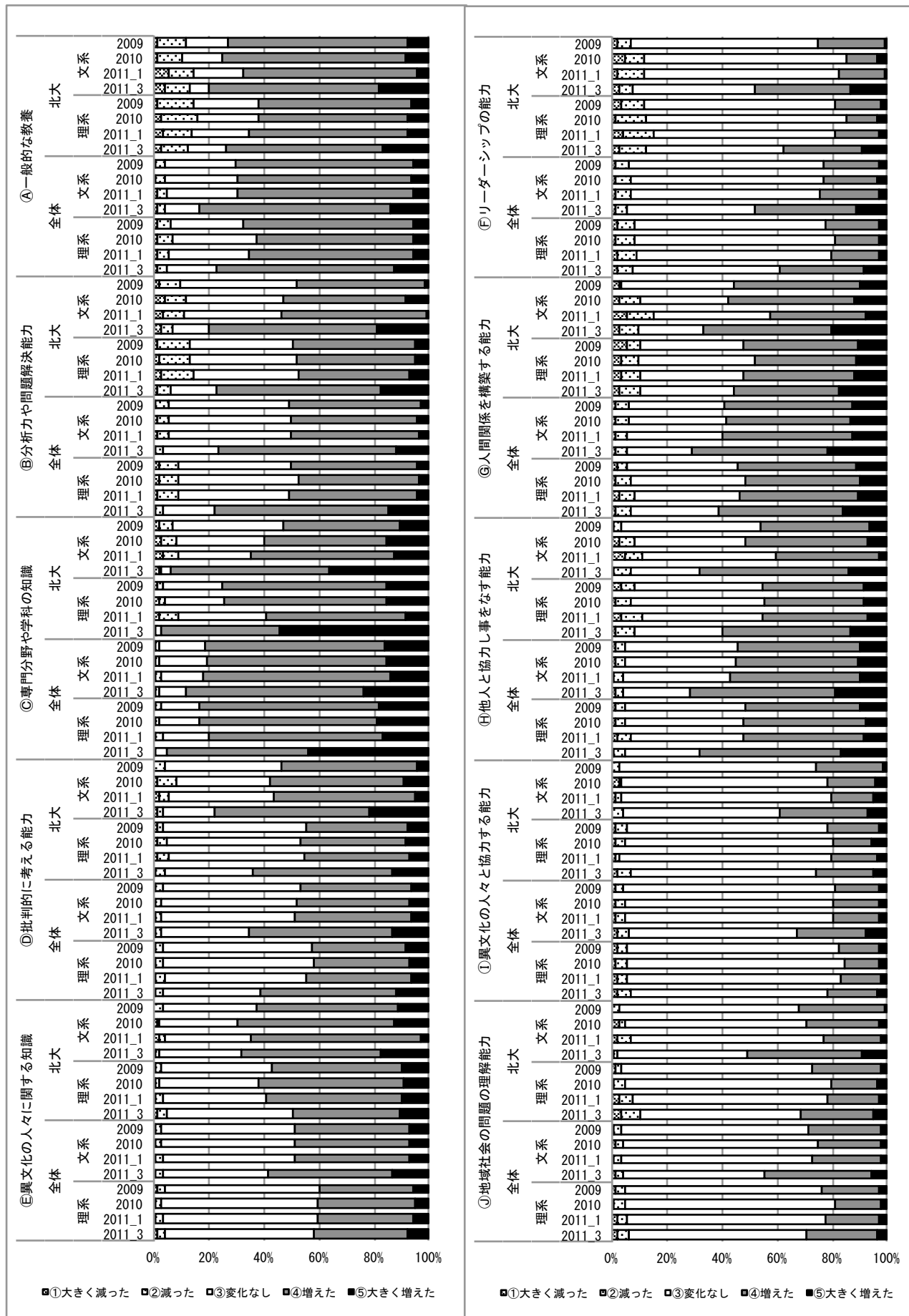


図 2.4.2. 入学後の知識・能力の変化 (系別) [問 10]

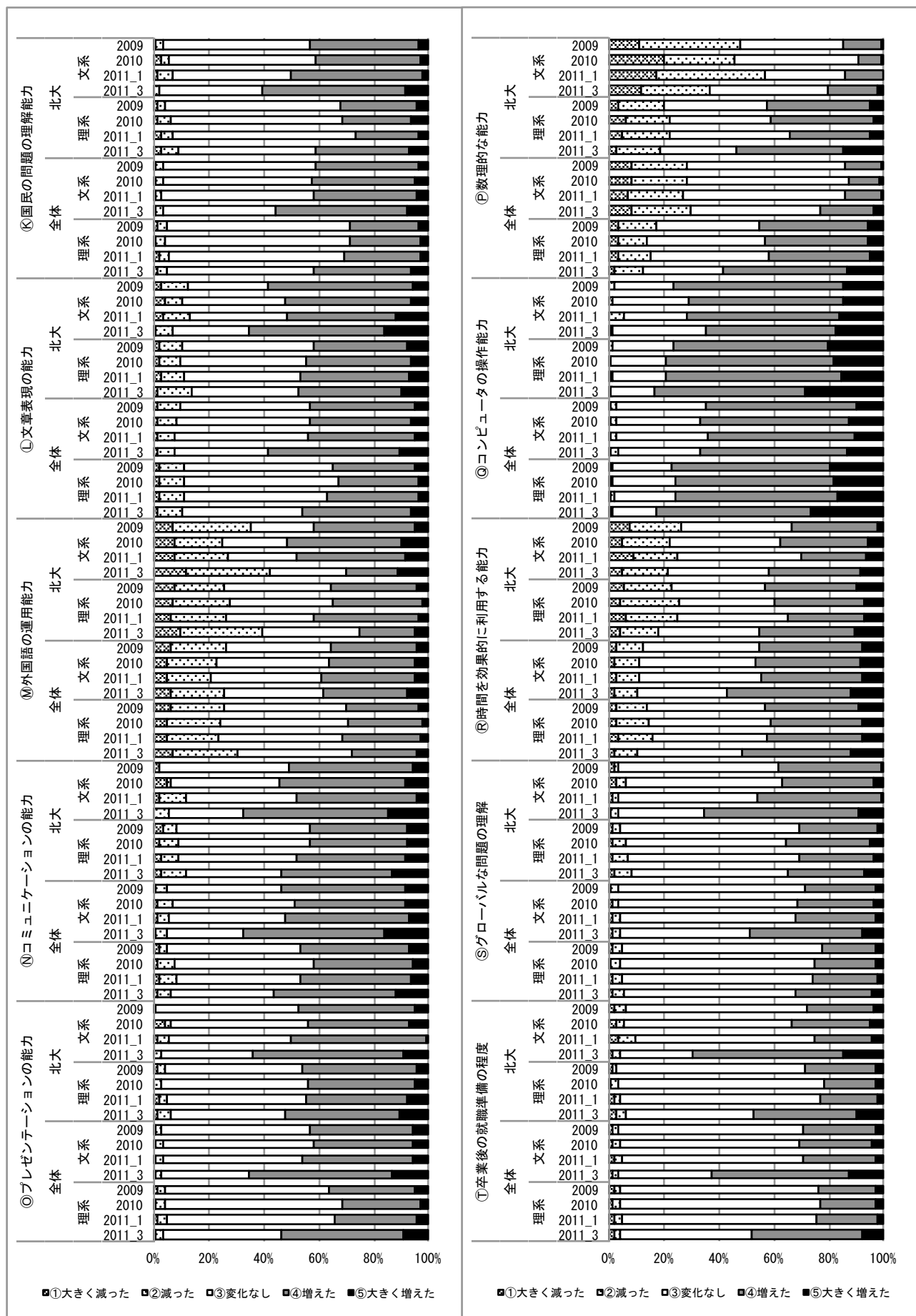


図 2.4.2. 入学後の知識・能力の変化 (系別) [問 10]

3. 英語の学習状況

本章では、どの参加大学、どの専門分野でも一年生の必修科目であり、教育効果を測る指標として共通性の高い、英語の学習状況をみる。

3.1. CEFR を尺度とした英語運用能力の熟達度レベル [問 11] (図 3.1)

英語運用能力の熟達度を測定する尺度としては、学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通言語参照枠組み CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching,

assessment) を用いる。CEFR 尺度は、言語運用能力を 3 領域 5 技能「理解すること」(A 聞く力, B 読む力), 「話すこと」(C 会話力, D 表現力), 「書くこと」(E 書く力) に分け、各技能について「～ができる (can do)」形式の能力記述文によって熟達度レベルを測定するように構成されている (表 3.1)。

本調査では、C 会話力以外の 4 技能は初級 (A), 中級 (B), 上級 (C) の 3 段階を低 (1), 高 (2) に細分した 6 段階で、C 会話力は初級をさらに A1.1, A1.2, A2.1, A2.2 に分けた 8 段階で評価する (付録 1)。

表 3.1. CEFR の共通参照レベルと全体的な尺度 (参考文献 1, 45 ページ)

基礎段階の言語使用者	
A1	・ 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 ・ 自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 ・ もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。
A2	・ ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ・ 簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 ・ 自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
自立した言語使用者	
B1	・ 仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 ・ その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。 ・ 身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。 ・ 経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
B2	・ 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。 ・ お互いに緊張しないで母語話者とやり取りできるくらい流暢かつ自然である。 ・ かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
熟達した言語使用者	
C1	・ いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができ、含意を把握できる。 ・ 言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会的、学問的、職業上の目的に応じた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。 ・ 複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細なテキストを作ることができる。その際テキストを構成する字句や接続表現、結束表現の用法をマスターしていることがうかがえる。
C2	・ 聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解することができる。 ・ いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構成できる。 ・ 自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、区別を表現できる。

表 3.2 では、回答の① A1 および A1.1 を「1」、② A1.2 を「1.5」、③ A2 および A2.1 を「2」、④ A2.2 を「2.5」、⑤ B1 を「3」、⑥ B2 を「4」、⑦ C1 を「5」、⑧ C2 を「6」と換算して平均値を算出する。

なお、上級生調査の〔問 11〕では、①入学時についての質問は割愛されている。

一年生で、熟達度の平均値の高い技能は、北大でも、全体でも、①入学時②調査時とも、(1) ⑧読む力、(2) ⑤書く力、(3) ⑩表現力、(4) ④聞く力、(5) ③会話力の順である。

①入学時⇒②調査時の変化では、すべての年、すべての技能で熟達度が上昇している。北大では④聞く力⑩表現力③会話力の伸びが比較的大きく、⑧読む力⑤書く力の伸びは小さい。全体では、そのほか⑤書く力も比較的伸びが大きい。

経年変化は、北大で⑧読む力が①入学時②調査時ともかなり上昇しているほかは、低下傾向にあるのに対して、全体ではおおむね上昇傾向にある。

北大と全体を比べると、⑧読む力は北大、③会話力は全体のほうが3年とも平均値が安定して高いのに対して、⑤書く力⑩表現力④聞く力などは、北大のほうが高い傾向から、全体のほうが高い傾向に移行している。

北大三年生の 2011 年②調査時には、全体と比べ

ると⑧読む力のみ、2009 年①入学時と比べると③会話力のみで、自己評価が高くなっている。

男女別にみると、北大では⑩表現力（①男性 2.32, ②女性 2.16）、⑧読む力（3.04, 2.92）、④聞く力（2.13, 2.07）で①男性のほうがやや高く、全体では⑧読む力（2.87, 2.82）以外では男女差は小さい。

系別では、③会話力（文系 1.79, 理系 1.56）、⑤書く力（2.54, 2.32）、⑩表現力（2.44, 2.23）、⑧読む力（3.11, 2.96）、④聞く力（2.19, 2.07）、すべての技能で文系が理系を上回っている。

一方、「中の上」以上 (B2+C1+C2) の評価の多い技能は、(1) ⑧読む力：北大①入学時 31%, ②調査時 39%, 全体 24%, 27%, (2) ⑤書く力：北大 14%, 20%, 全体 16%, 21%, (3) ⑩表現力：北大 7%, 13%, 全体 12%, 17%, (4) ④聞く力：北大 3%, 6%, 全体 8%, 11%, (5) ③会話力：北大 1%, 3%, 全体 5%, 7% の順で、平均値による順序と同じである。

自分の英語能力は上級 (C) と評価する者はごく少数で、北大でその割合が 10% を超える技能は、2009 年には文系の⑧読む力①入学時 10% と⑤書く力②調査時 10% だった。2010 年には 10% を超える技能はなく、2011 年には⑧読む力②調査時の文系 11% と②女性 10% である。

表 3.2. ①入学時と②調査時の英語運用能力（技能別）の平均値（1～6）〔問 11〕

技能	時期/年度	北大				全体				北大一全体			
		2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
⑧読む力	①入学時		3.13	3.10	3.03		2.89	2.91	2.79		0.23	0.18	0.24
	②調査時	3.00	3.31	3.24	3.10	2.85	3.06	3.06	2.84	0.15	0.25	0.18	0.26
	②-①	▲ 0.04	0.18	0.14	0.07	0.06	0.17	0.14	0.05	▲ 0.09	0.01	▲ 0.00	0.02
⑤書く力	①入学時		2.63	2.67	2.65		2.53	2.54	2.43		0.09	0.13	0.22
	②調査時	2.38	2.77	2.85	2.81	2.42	2.77	2.76	2.57	▲ 0.04	0.00	0.09	0.24
	②-①	▲ 0.27	0.15	0.18	0.16	▲ 0.01	0.24	0.22	0.14	▲ 0.26	▲ 0.09	▲ 0.04	0.02
⑩表現力	①入学時		2.44	2.47	2.51		2.46	2.48	2.36		▲ 0.03	▲ 0.00	0.15
	②調査時	2.27	2.68	2.70	2.69	2.37	2.71	2.73	2.54	▲ 0.10	▲ 0.04	▲ 0.03	0.15
	②-①	▲ 0.24	0.24	0.23	0.18	0.02	0.25	0.25	0.19	▲ 0.26	▲ 0.01	▲ 0.02	▲ 0.01
④聞く力	①入学時		2.10	2.13	2.15		2.21	2.23	2.20		▲ 0.10	▲ 0.10	▲ 0.04
	②調査時	2.10	2.39	2.42	2.41	2.19	2.49	2.51	2.37	▲ 0.09	▲ 0.10	▲ 0.09	0.04
	②-①	▲ 0.05	0.29	0.29	0.26	▲ 0.01	0.28	0.28	0.17	▲ 0.05	0.00	0.01	0.08
③会話力	①入学時		1.79	1.76	1.72		1.89	1.88	1.87		▲ 0.11	▲ 0.12	▲ 0.14
	②調査時	1.82	1.98	1.96	1.92	1.93	2.11	2.08	2.04	▲ 0.12	▲ 0.13	▲ 0.12	▲ 0.13
	②-①	0.09	0.20	0.20	0.19	0.07	0.22	0.21	0.18	0.03	▲ 0.02	▲ 0.01	0.02

注) 2011_3 の②-①は、2011_3 ②-2009 ①

北大では、英語単位優秀認定制度により、1年1学期までに英語の標準テストで優秀な成績 (TOEFL (PBT, ITP) 530 点以上など) をおさめた者には2学期以降に英語単位を最大4単位まで認定している。2011年度1学期に優秀認定を受けた者は218人(一年生の約8%)で、本調査で自分の英語能力は上級(C)と評価する者の割合とほぼ同じである。

カレッジ」が創設され、全学12学部の新入生約2,600人から200人を選抜して「国際社会の中で日本人としての自覚を持って生き抜くリーダー」として育成する新教育プログラムがはじまる。新渡戸カレッジに参加する学生には1学期～1年の海外留学を義務づけ、語学能力 (TOEFL-iBT 等) の要件を定めるので、一年生の英語に対する意識や能力は多少向上することが期待される (参考リンク 20)。

3.2. 入学後の英語運用能力の変化 (図 3.2)

一年生で、①入学時⇒②調査時の英語運用能力の伸び (表 3.2 の②-①欄) の大きい技能は、北大では (1) ④聞く力, (2) ⑤表現力, (3) ③会話力, (4) ⑥読む力, (5) ⑦書く力の順である。全体では (1) ④聞く力, (2) ⑤表現力, (3) ⑦書く力, (4) ③会話力, (5) ⑥読む力の順で、年によっても順序の変動が多い。この順序と、各技能の熟達度の順序とを比べると、④聞く力⑤表現力など熟達度の低い技能ほど伸びが大きい傾向がある。北大と全体の間で伸びの平均値の差 (北大-全体) は、今回は⑦書く力でやや大きいほかは、どの技能でもごくわずかである。

どの技能でも①入学時⇒②調査時で英語運用能力が向上したと感じる者は少なく、5～7割超が「変化なし」と答えている。運用能力が1段階上昇した者が多いのは (1) ④聞く力: 北大 29% (2010 年 28%, 2009 年 29%), 全体 26% (29%, 24%), (2) ③会話力: 北大 26% (26%, 22%), 全体 25% (24%, 21%) (8段階評価で他の技能と基準が異なる), (3) ⑥読む力: 北大 24% (23%, 22%), 全体 21% (22%, 21%), 1段階低下した者がもっとも多いのは⑥読む力: 北大 9% (9%, 12%), 全体 10% (12%, 14%) である。

大まかにいって、北大では①入学時⇒②調査時に、自分の③会話力は A1.1, A1.2 とする者が減り、その分 A2.1, A2.2 が増えている。初級 (A) の枠内で熟達度がやや上昇しているが、自分の③会話力は初級 (A) とする者は約9割にのぼり、入学後の半年では大きな上昇はみられない。

北大では、平成 24 年度採択文部科学省グローバル人材育成推進事業により、2013 年度に「新渡戸

3.3. 英語に対する意識 (図 3.3)

2010 年から英語に対する意識、英語と接する機会について4つの質問を新設した。

(1) 好き・嫌い [問 12]

英語が①好き／②どちらかといえば好きな者の合計はおよそ半数で、②女性 (北大 2011 年 58%, 2010 年 57%, 全体 56%, 55%) が①男性 (北大 44%, 49%, 全体 46%, 47%) を上回る。

系別にみると、北大では文系と理系の間にほとんど差はないが、全体では文系が理系をやや上回る。

上級生と一年生を比べると、英語が①好きな者は、北大・文系の三年生 30% が一年生 13% (2010 年 20%) を大きく上回るほかは、大きな差はみられない。

(2) 得意・苦手 [問 13]

英語が①とても得意な者はごく少数だが、②どちらかといえば得意な者を含めれば、北大と全体、文系と理系、男女の別なく2割超になる。そのなかでは、北大の一年生②女性 34% と三年生・文系 32% が特に多い。

3.4. 英語と接する機会

(1) 英語圏への渡航経験 [問 14] (図 3.4.1 ～ 3.4.3)

アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなど英語圏への渡航経験について質問している。

英語圏への①渡航経験のない者は、北大一年生

76%, 三年生 70%, 全体一年生 64%, 上級生 55% (2010 年 60%), ②旅行経験のある者は, 北大一年生 34%, 三年生 40%, 全体一年生 29%, 上級生 34% (33%) である。③1 ヶ月未満のホームステイ・留学経験者は北大一年生 11%, 三年生 18%, 全体一年生 10%, 上級生 12% (11%), ④～⑥1 ヶ月以上のホームステイ・留学経験者の合計は, 一年生では北大, 全体とも 2～3%, 上級生では 5～8%, ⑦居住経験者は一年生では北大も, 全体も 2% 程度, 上級生では北大 5%, 全体 2% である。留学・居住経験者の合計は, 北大でも, 全体でも一年生では 2 割以下, 上級生では 2 割超にとどまる。

(この項は複数回答で, 回答人数(ケース)合計を分母として比率を記す。北大の 2010 年のデータは誤りが大きいとみられるので, ここでは割愛する。2011 年のデータにも若干の混乱がみられ, 「渡航経験はない」とその他の選択肢の重複回答がないよう設問の工夫が必要である。また, ホームステイ・留学および居住の期間について, 選択肢はもっと大まかな区分のほうがよいだろう。)

渡航経験と英語運用能力との関係を見ると, 北大では②調査時の 5 技能すべてにおいて, わずかながら渡航経験者のほうが自己評価が高い (B2+C1+C2 が多い)。

また, 渡航経験と得意・苦手意識との関係では, 英語が①とても得意な者は渡航経験者の 3%, ①渡航経験のない者の 1%, ④どちらかといえば苦手な者は渡航経験者の 25%, ①渡航経験のない者の 27% と, 英語に対する意識は, わずかながら渡航経験者のほうがより肯定的といえる。

(2) 英語の標準テスト [問 15] (図 3.5)

英語の標準テストの受験経験, 取得スコア・級について質問している。

①標準テストの受験経験がない者は, 北大 2011 年一年生 23%, 三年生 24% (2010 年 16%), 全体一年生 27%, 上級生 24% (32%) である。

②実用英語技能検定(英検)の受験経験者は, 北大一年生 75%, 三年生 75% (2010 年 80%), 全体一年生 58%, 上級生 55% (61%) で, 取得級は 3 級がもっとも多く(北大一年生 33%, 三年生 34%(37%), 全体一年生 32%, 上級生

32%(35%)), 高校時代に取得したとみられる。

英検以外の③～⑤ TOEIC, ⑥⑦ TOEFL などの受験経験者は, 全体一年生では 15% 程度 (2010 年も同様) だが, 北大では一年生 81%, 三年生 64% が⑥ TOEFL-ITP を団体受験している。北大の⑥ TOEFL-ITP の受験者平均点は一年生 481.6 点 (483.5 点) で, 下記の北大一年生全員の平均点よりわずかに高い。

英語標準テストの受験経験は, 北大でも, 全体でも, 一年生と上級生の間に大きな差はみられない。

北大では, TOEFL-ITP は 1 年 1 学期の英語 CALL 授業に組み込まれている。受験料は大学負担で一年生のほぼ全員が受験する。

受験者平均点は, 2005 年 460.8 点⇒2011 年 477.4 点へ上昇した (付録 3 図 9)。

3.5. 小括

〔3.1. 英語運用能力の熟達度レベル〕

《おもに学習対象として英語に接するなかで, 学生たちはどの程度まで英語の運用能力を修得したのかを調べるために, CEFR 尺度を用いて聞く力, 読む力, 会話力, 表現力, 書く力の 5 技能の熟達度レベルを確認した。いずれの技能も, 入学時から上級レベルに到達していた者は少ないが, 初中級レベルの構成比は技能によって異なっていた。入学時に中級レベル以上に到達していた学生の割合は, 読む力は 60% 以上, 表現力, 書く力の場合も半数を占めていた。それに対して, 聞く力は入学時に初級レベルだった者が 60% を上回り, 会話力では 90% をこえていた。》(参考文献 1, 56 ページ)

熟達度の高い技能は今回も, 北大でも, 全体でも, (1) ⑧読む力, (2) ⑧書く力, (3) ⑩表現力, (4) ④聞く力, (5) ③会話力の順である。

①入学時⇒②調査時の変化では, すべての年, すべての技能で熟達度が上昇している。④聞く力⑩表現力の伸びが比較的大きく, ③会話力⑧読む力⑧書く力の伸びは小さい。経年変化は, 北大では⑧読む力が①入学時②調査時ともかなり上昇したほかは, 低下傾向にある。北大と全体を比べると, 3 年とも

⑧読む力は北大、⑨会話力は全体のほうが高いほか、北大のほうが高い技能は減り、全体のほうが高い技能が増えている。

北大の2011年三年生の②調査時には、全体と比べても、2009年①入学時と比べても、大部分の技能の自己評価が低くなっている。男女別にみると、北大では①男性のほうがやや高く、全体では男女差は小さい。系別では、すべての技能で文系が理系を大きく上回っている。

北大では英語運用能力が⑧読む力⑨書く力など入学向けの技能に片寄る傾向が強まっているようにもみえる。自分の英語能力は上級(C)と評価する者が10%を超える技能は、北大では文系と②女性の⑧読む力②調査時である。

〔3.2. 入学後の英語運用能力の変化〕

《入学から半年が経過した調査時の熟達度レベルは、いずれの技能においても、全体的にレベルが高まっていることが確認できた。なかでも、会話力や聞く力を伸ばした学生が多い。表現力や書く力に関しては、入学時のレベルを維持している学生が多かった。それに対して、読む力ではレベルアップした学生が相対的に少なく、ほかの技能に比べて入学後にレベルを下げた学生が多くみられた。総じていえば、大学における英語教育は、英語運用能力に対して底上げ効果をもっているといえる。とはいうものの、かならずしも学生全員が能力を高めているわけではなく、なかには能力を落としてしまった学生もいることが明らかになった。

全般的な傾向として、入学時に初級レベルだとその後も能力を伸ばしやすく、入学時にB1レベルまで到達していると能力が伸び悩む傾向にあった。初級レベル(A)から中級レベル(B1)へのハードル以上に、中級レベル内においてB1からB2へレベルアップするために乗り越えるハードルは高いことがよみとれた。》(同56～57ページ)

①入学時⇒②調査時の英語運用能力の伸びの大きい技能は、北大では(1)④聞く力、(2)⑤表現力、(3)⑨会話力、(4)⑧読む力、(5)⑨書く力、全体では(1)④聞く力、(2)⑤表現力、(3)⑨書く力、(4)⑨会話力、(5)⑧読む力の順である。これと各技能の熟達度の順序を比べると、④聞く力⑤表現力など熟達度の低

い技能ほど伸びが大きい傾向がある。

運用能力が1段階上昇した者が多い技能は(1)④聞く力、(2)⑨会話力(評価基準が異なる)、(3)⑧読む力の順である。④聞く力⑨会話力が伸びたのは、ネイティブスピーカーによる授業やCALL授業など、入学後の実践的な学習の成果といえるだろう。1段階低下した者がもっとも多い技能は⑧読む力である。前にも述べたが、⑧は大学受験で重視される技能で、北大、全体とも、一年生の約2割は入学時より上昇したと答え、約1割は受験時をピークに低下したと感じている。

〔3.3. 英語に対する意識〕

《学生たちが英語に対してもっている意識に関しては、半数の学生は英語が好きだと答えており、嫌悪感を抱いている学生は相対的に少なかった。だが、英語が得意な学生は少なく、苦手意識を抱えている学生が40%を占めていた。このことから、多くの学生は英語を感情的に拒否しているわけではないが、英語運用能力に対する自己評価はあまり高くないと考えられる。大学1年生の時点では、実践的に英語を使った機会が少なく、自分の英語運用能力が通用するのかを自信をもつことが難しく、自己評価しにくいのかかもしれない。》(同57ページ)

英語が①好き／②どちらかといえば好きな者は、北大でも、全体でも、②女性は6割に近い。

①とても得意／②どちらかといえば得意な者は2割超であるが、北大の一年生②女性および三年生・文系では3割を超える。

〔3.4. 英語と接する機会〕

《これまでに、多くの学生が英検やTOEIC、TOEFLといった英語の標準テストを受験したことがあった。しかし、英語圏に渡ったことのない学生が過半数を占め、留学経験や海外に住んでいた経験のある学生は10%程度にとどまっていた。留学経験がある場合でも、1ヵ月未満の短期間のケースがほとんどであった。学生たちにとって英語は、国内で勉強に取り組む対象として位置づけられていることがよみとれ、コミュニケーションの手段として英語に触れたことのある学生は多いとはいえないだろう。》(同56ページ)

①渡航経験のない者は北大で約 7 割、全体で約 6 割にのぼり、上級生ではやや減っている。②旅行経験者はともに約 3 割、北大三年生では 4 割、ホームステイ・留学経験者は③ 1 ヶ月未満が約 1 割、1 ヶ月以上は合わせて 2 ～ 3%、⑦居住経験者は 2% 程度で、北大と全体の差は小さい。

渡航経験と英語運用能力との関係を見ると、北大では 5 技能すべてで経験者のほうが自己評価が高い。渡航経験と英語の得意・苦手意識との関係では、経験者のほうがわずかにより肯定的といえる。

北大では、①英語の標準テストの受験経験がない者は約 2 割、②実用英語技能検定（英検）の受験経験者は 75%、うち 3 割超が 3 級を取得している。約 8 割が⑥ TOEFL-ITP を受験している。これに関しては、一年生と三年生の差はほとんどない。

北大で TOEFL-ITP の受験経験が、一年生で 100% に達しない、また一年生より三年生のほうが少ないのは、1 年次 1 学期に CALL 授業で受験したことを忘れたためだろう。

3. 6. CEFR を尺度とした英語運用能力の熟達度と TOEFL-ITP スコアの関係[問 11,15](図 3.6)

図 3.6 では、一年生について、CEFR を尺度とした英語運用能力の自己評価と英語の標準テスト (TOEFL-ITP) のスコアを確認する。

本調査では、全体で 602 人（うち北大 341 人）が TOEFL-ITP のスコアを記入している。このうち TOEFL-ITP の最高点 677 点を超える、あるいは最低点 200 点に満たないデータは除外し、各技能の調査時の CEFR 尺度による自己評価と対応のある 582 ～ 586 件（うち北大 336 ～ 338 件）について、CEFR 尺度の初級 (A) ～上級 (C) ごとに（上級は人数が少ないので 1 レベルにまとめて）TOEFL-ITP の平均点を算出し、それぞれ最高点、最低点、人数を加えてグラフを作成する。

◎会話力以外の 4 技能については、評価 (A) ⇒ (C) に沿って平均点がなだらかな右肩上がりになっているので、自己評価はおおむね適切とみられる。

◎会話力の平均点には細かな起伏があり、不適切な自己評価がやや多い可能性がある。もっとも、TOEFL-ITP は、Listening Comprehension の部が 3 分の 1 を占めるとはいえ、ペーパーテストである以上、会話力の測定には向かないともいえる。

また、最高点、最低点は、極端で孤立した個別の例であり、バラツキも大きく、記憶違い、あるいは不適切な自己評価が一定の割合で含まれていることを示唆する。

ごく少数だが、TOEFL-ITP のスコアが最高点を超える、あるいは最低点より低い回答がある。設問に最高点・最低点を注記するなどの工夫が必要だろう。

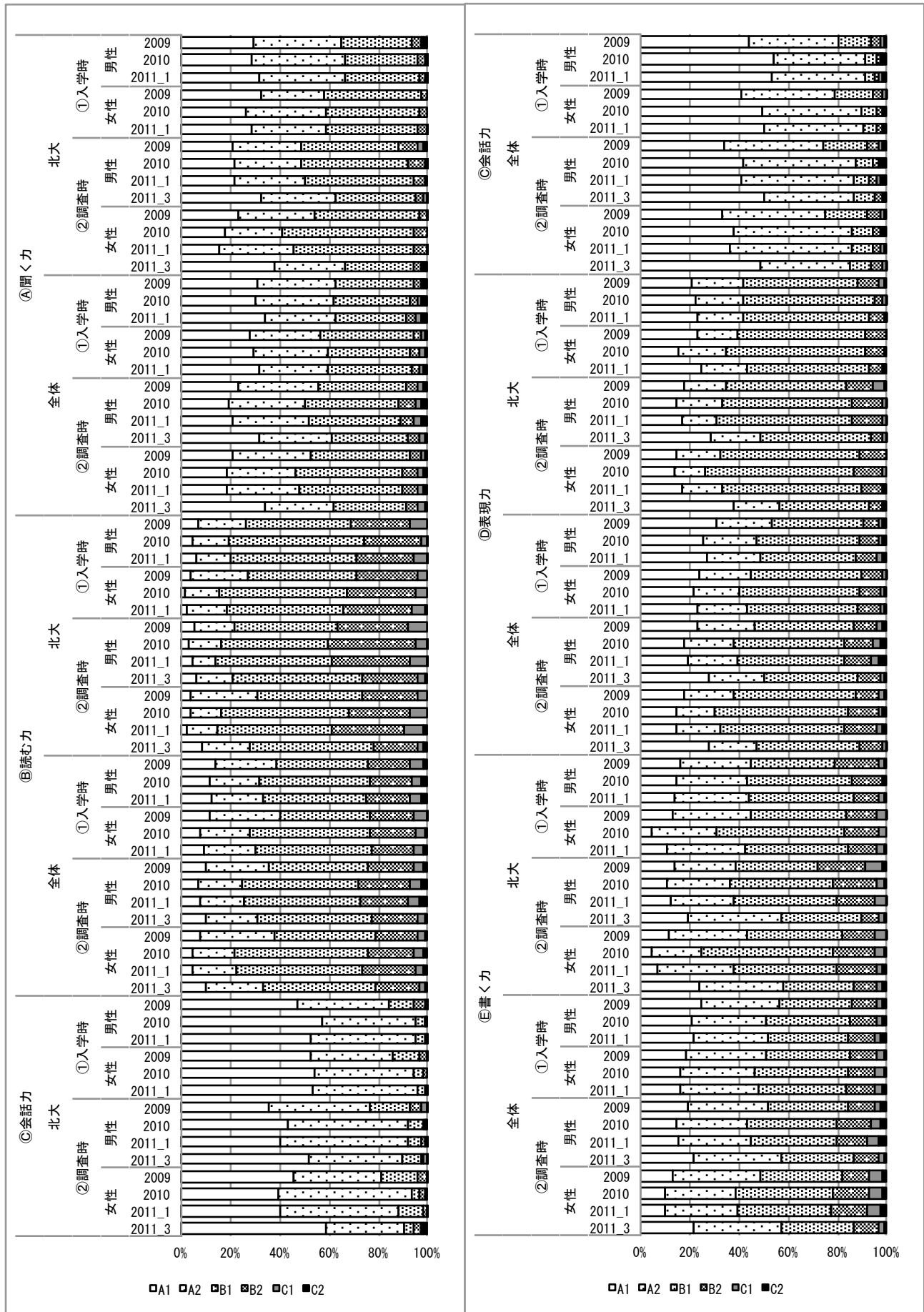


図 3.1.1. ①入学時と②調査時における英語運用能力の熟達度レベル（男女別）【問 11】

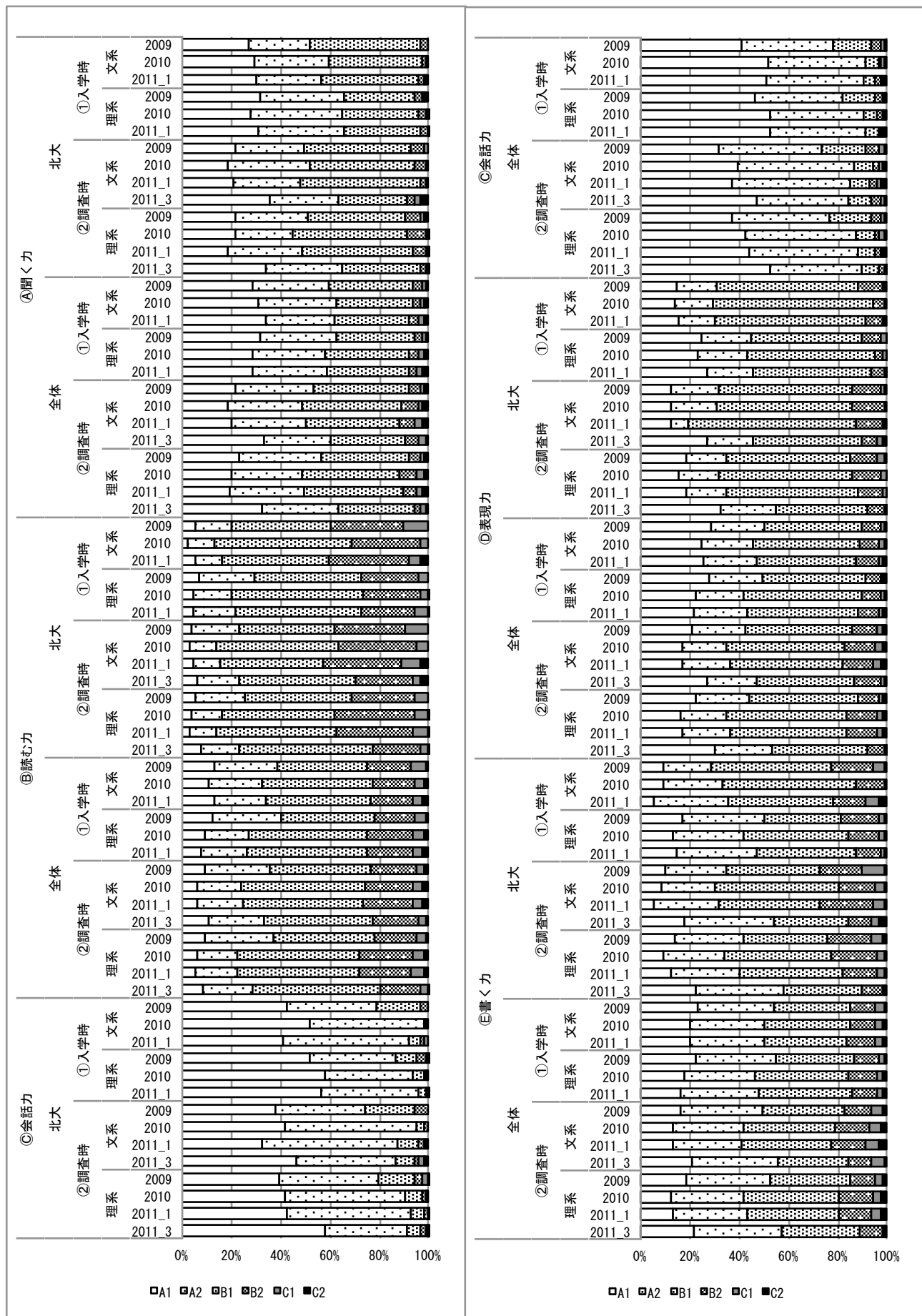


図 3.1.2. ①入学時と②調査時における英語運用能力の熟達度レベル (系列) [問 11]

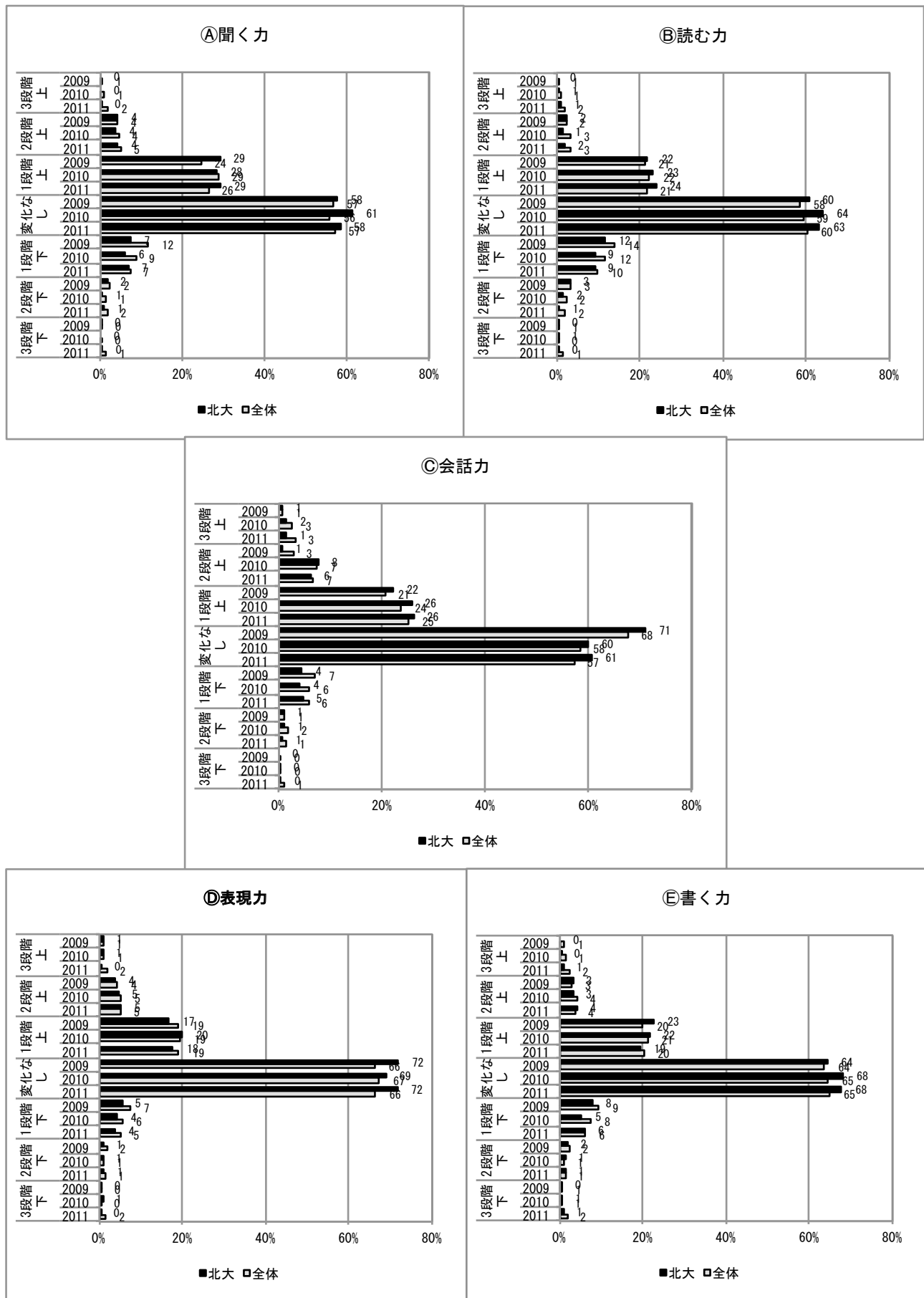


図 3.2. 入学後の英語運用能力の変化 [問 11]

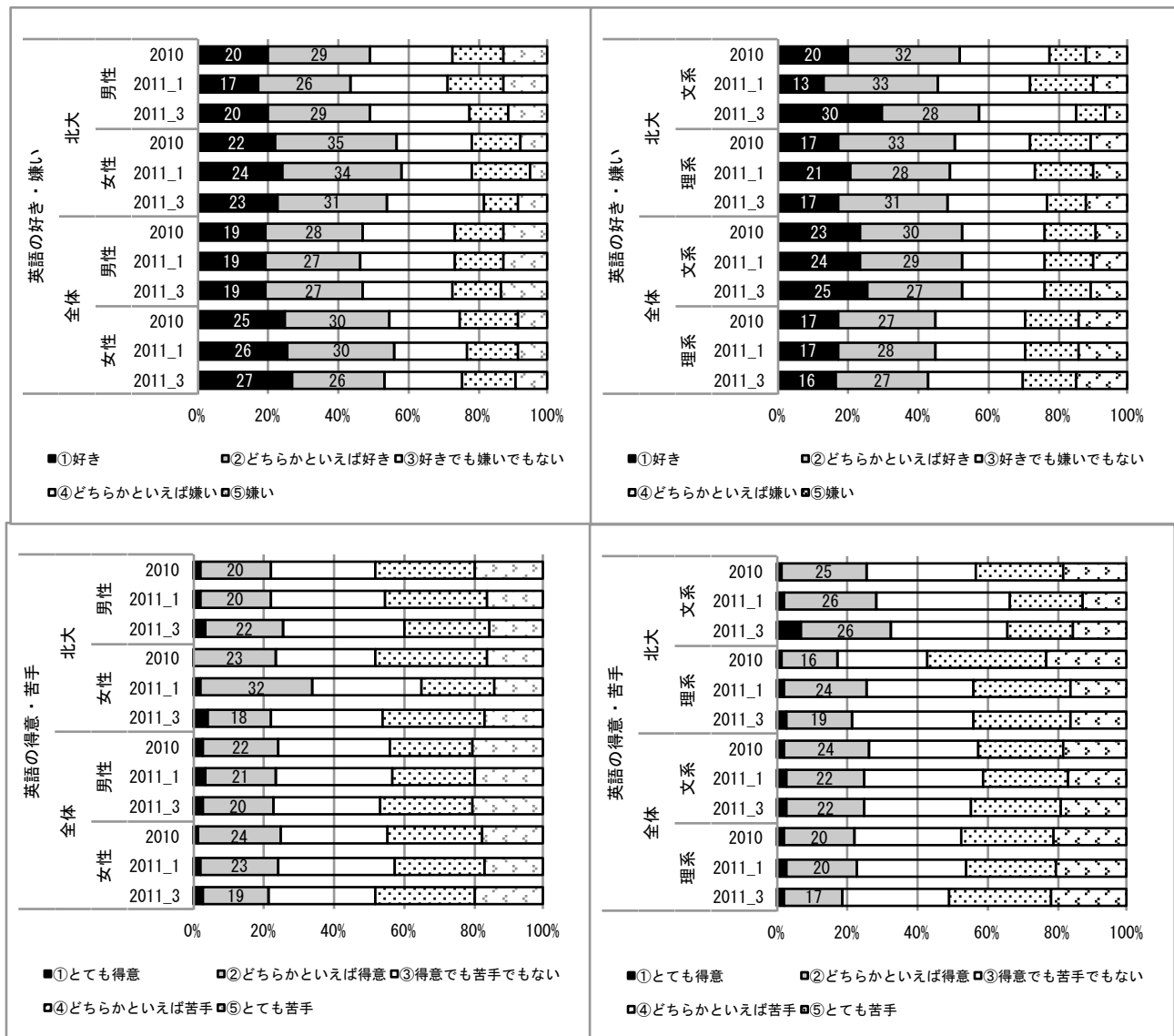


図 3. 英語に対する意識 (上: 好き・嫌い [問 12], 下: 得意・苦手 [問 13]) (左: 男女別, 右: 系別)

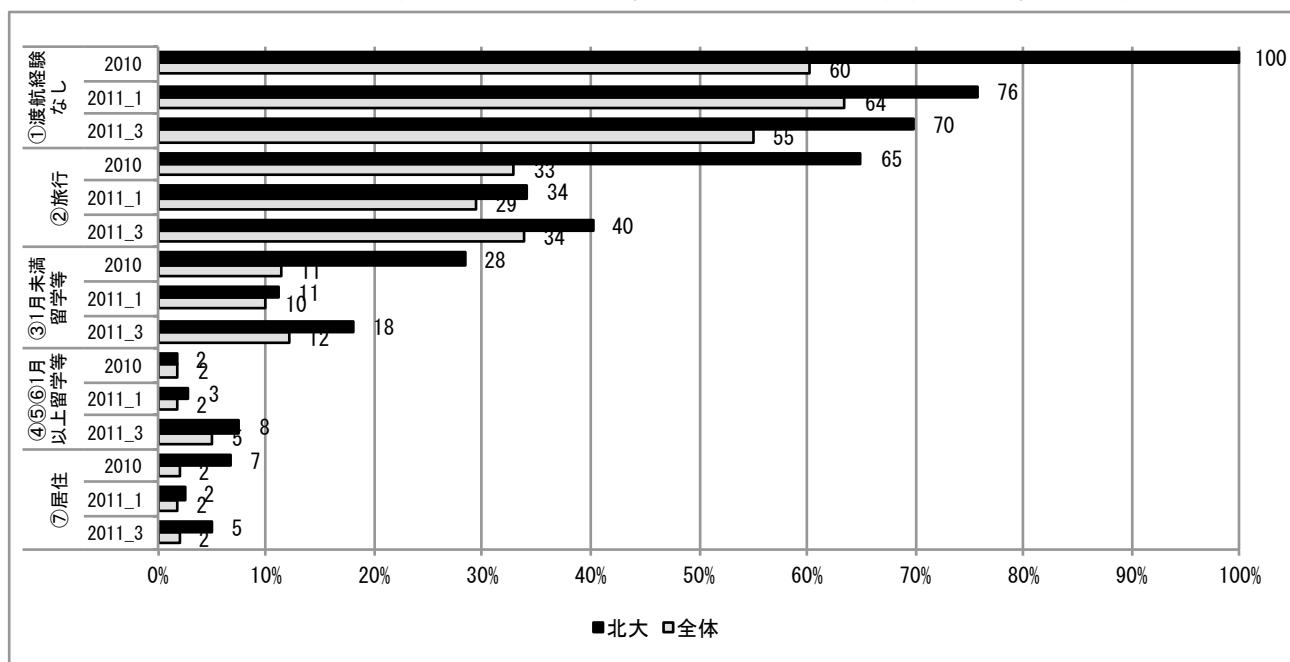


図 3.4.1. 英語圏への渡航経験 (複数回答) [問 14]

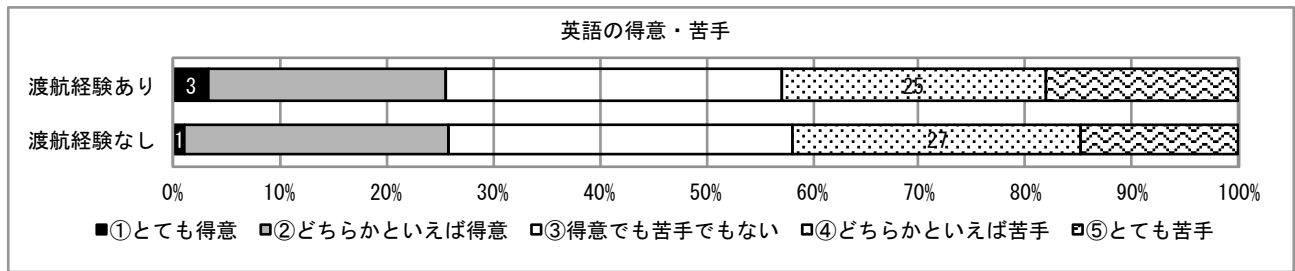


図 3.4.2. 英語圏への渡航経験 [問 14] と英語に対する意識 (得意・苦手 [問 12]) との関係 (北大)

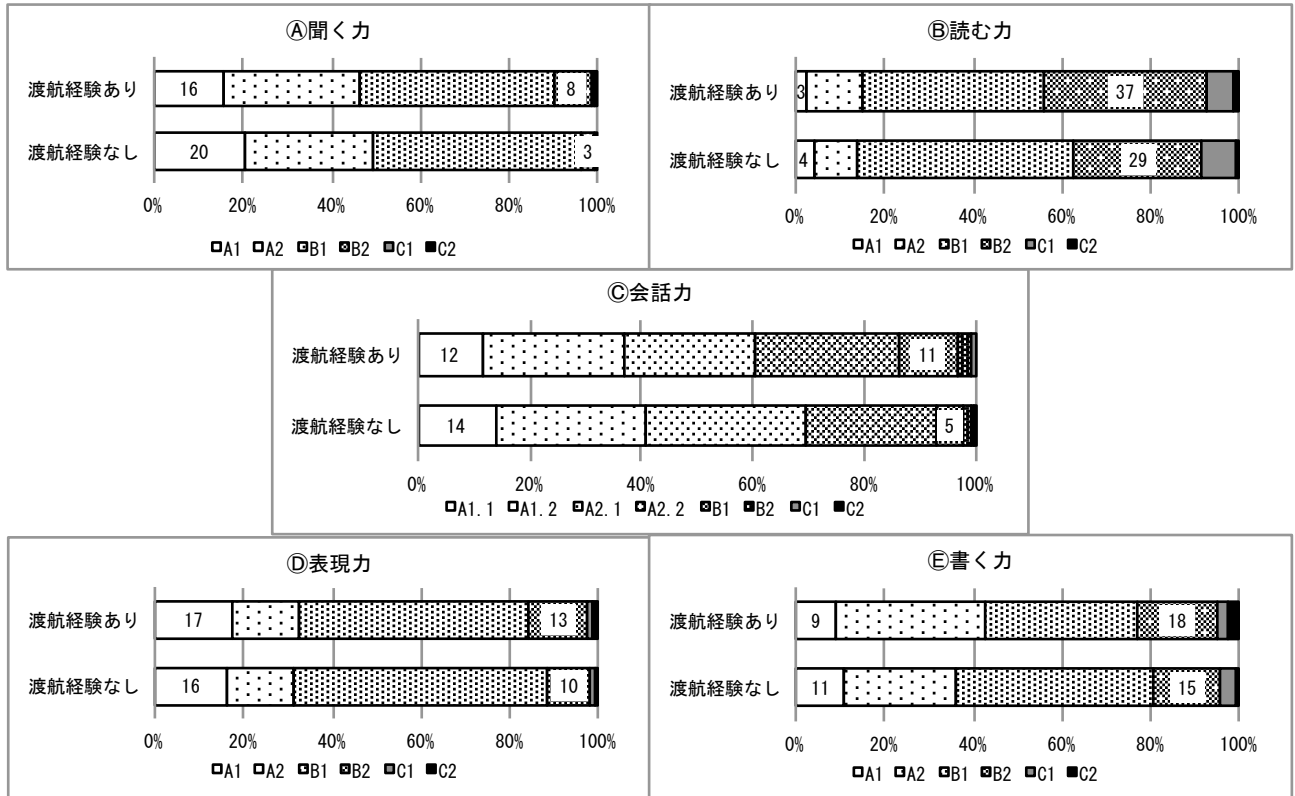


図 3.4.3. 英語圏への渡航経験 [問 14] と英語運用能力 (②調査時) [問 11] との関係 (北大)

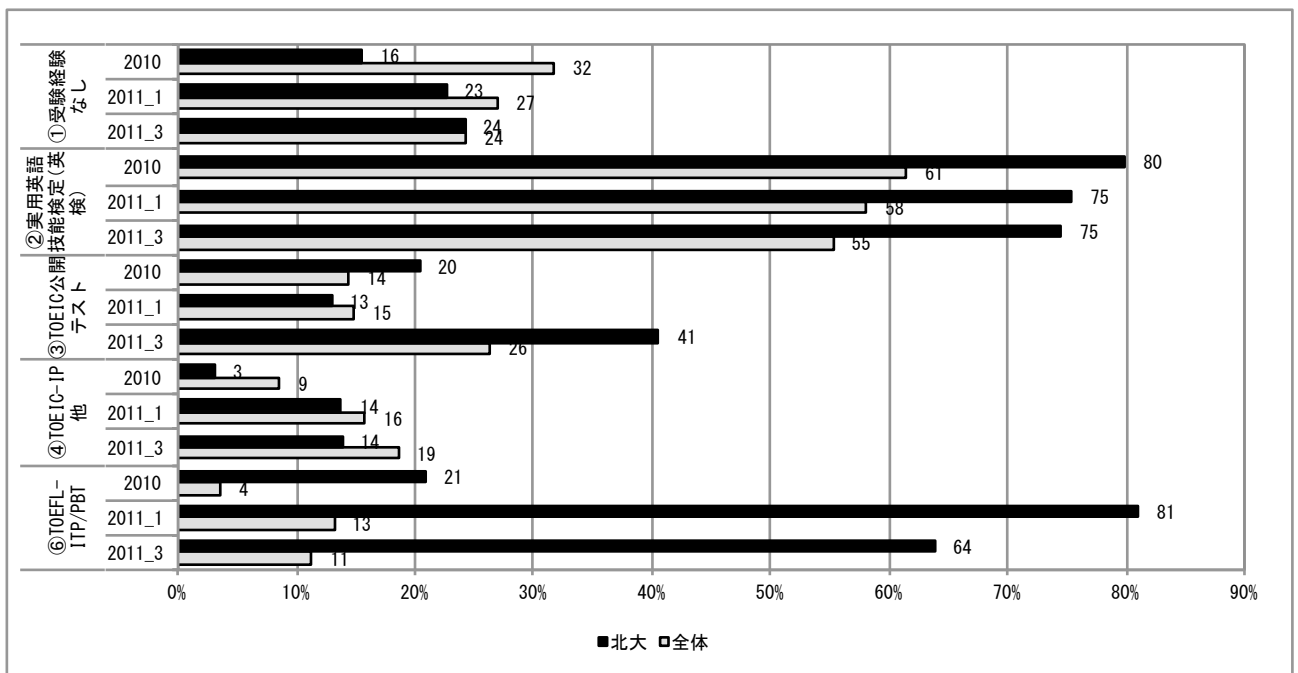


図 3.5. 英語標準テストの受験経験 (複数回答) [問 15]

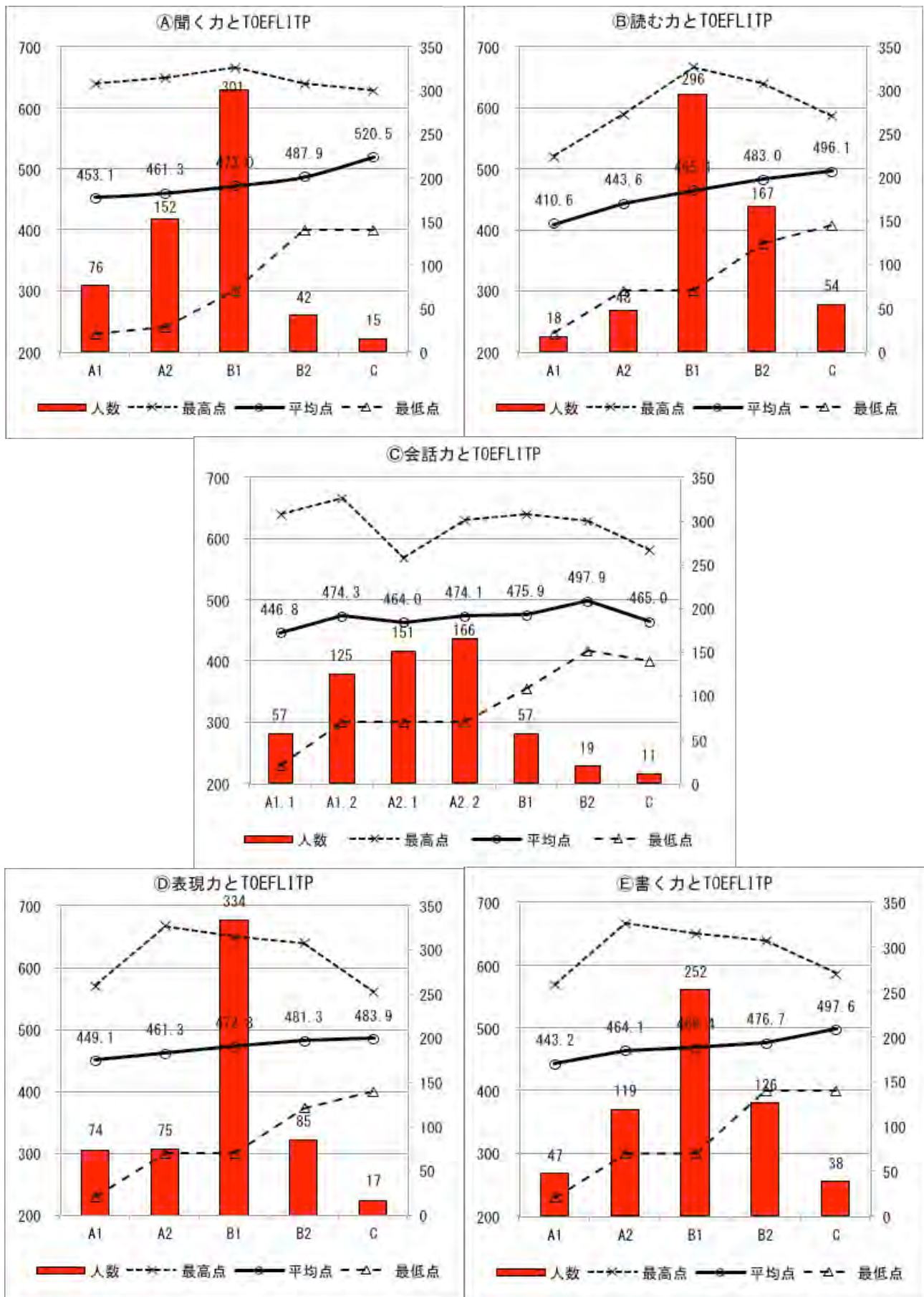


図 3.6. CEFR を尺度とした英語運用能力の熟達度 [問 11] と TOEFL-ITP スコア [問 15] の関係

4. 学びや大学生活に対する意識

本章では、学習環境・大学生活に対する学生の意識をみる。

4.1. 大学生活への適応感[問 16](図 4.1, 図 5.4)

大学生活への適応感について7つの質問をしている。

一年生で、適応感(④とてもうまくいった/③いくらかうまくいった)がもっとも高い項目は⑥他の学生との友情を深めるで、特に②女性(北大2011年81%, 2010年89%, 2009年88%; 全体88%, 90%, 89%)の適応感が高い。

北大が全体をやや大きく上回る項目は⑩大学が求める水準に応じて学習する(①男性56%-47%=9%), 北大がやや大きく下回る項目は⑨時間を効果的に使う(②女性43%-55%=▲12%)などである。

前年からの変化がやや大きい項目は④大学の学生向けサービスを利用する(北大②女性2011年62%-2010年54%=8%)や、⑥(北大②女性81%-89%=▲8%)などである。

全般的に、②女性のほうが大学生活への適応感が高いようである。

表4.1では、回答の④とてもうまくいったを「3」、③いくらかうまくいったを「2」、②あまりうまくいかなかったを「1」、①まったくうまくいかなかったを「0」と換算して平均値を算出する。

男女別では、⑩大学教員と顔見知りになるや⑥は北大でも、全体でも、3年とも、また④は北大では3年とも、②女性のほうが適応感が高い。①男性のほうが適応感が高いのは⑩大学が求める水準に応じて学習するである。

上級生と一年生で適応感の差が大きい項目は、⑩(北大②女性1.72-1.06=0.66; ①男性1.46-0.87=0.59), ④(北大②女性1.37-1.61=▲0.24)などである。

4.2. 学生生活の充実感[問 17](図 4.2)

学生生活の総合評価では、一年生では前年までと同様に8割以上(北大①男性81%, ②女性84%; 全体①男性80%, ②女性90%)が①充実している

表 4.1. 大学生活への適応感の平均値 (0～3) [問 16]

適応感	系	北大				全体				北大-全体			
		2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
⑥他の学生との友情を深める	男	2.00	1.87	1.82	1.99	2.04	1.98	2.00	2.05	▲0.04	▲0.11	▲0.18	▲0.05
	女	2.14	2.12	2.17	2.22	2.28	2.21	2.27	2.25	▲0.13	▲0.10	▲0.10	▲0.03
	女-男	0.14	0.25	0.35	0.23	0.24	0.23	0.27	0.21				
⑩大学が求める水準に応じて学習	男	1.47	1.52	1.45	1.47	1.47	1.42	1.43	1.45	0.00	0.09	0.02	0.01
	女	1.41	1.46	1.45	1.40	1.54	1.47	1.45	1.41	▲0.13	▲0.01	0.00	▲0.02
	女-男	▲0.06	▲0.06	▲0.00	▲0.07	0.07	0.04	0.02	▲0.04				
⑨時間を効果的に使う	男	1.45	1.37	1.37	1.39	1.60	1.51	1.51	1.54	▲0.15	▲0.14	▲0.13	▲0.15
	女	1.42	1.35	1.35	1.42	1.65	1.56	1.53	1.58	▲0.24	▲0.21	▲0.18	▲0.16
	女-男	▲0.04	▲0.02	▲0.02	0.03	0.05	0.05	0.02	0.04				
④大学の学生向けサービスを利用	男	1.39	1.45	1.46	1.44	1.54	1.50	1.45	1.57	▲0.15	▲0.06	0.01	▲0.13
	女	1.37	1.61	1.50	1.59	1.61	1.57	1.49	1.55	▲0.25	0.04	0.01	0.05
	女-男	▲0.02	0.16	0.05	0.15	0.07	0.07	0.04	▲0.03				
⑩大学教員と顔見知りになる	男	1.46	0.87	0.87	0.94	1.38	1.04	1.07	1.03	0.08	▲0.17	▲0.20	▲0.10
	女	1.72	1.06	1.22	1.12	1.62	1.23	1.31	1.22	0.10	▲0.16	▲0.09	▲0.10
	女-男	0.26	0.19	0.35	0.19	0.24	0.18	0.24	0.19				

／②まあまあ充実していると答えている。

経年変化はおおむね小さいが、北大②女性のみ低下がやや大きく、全体との差（北大-全体：84%-90%=▲6%）も拡大している。

北大でも、全体でも②女性のほうが学生生活に適応し、充実感を得ている傾向は変わらない。

上級生と一年生で充実感の差がやや大きいのは、北大①男性 94%-81%=13%、全体②女性 81%-90%=▲9% である。

4.3. 大学の教育内容に対する満足感 [問 18] (図 4.3, 図 5.5)

一年生で、北大、全体の満足感（⑤とても満足／④満足）の高い項目は、(1) ⑩他の学生と話をする機会（北大①男性 2011 年 54%, 2010 年 46%, 2009 年 49%; ②女性 62%, 65%, 65%; 全体①男性 50%, 49%, 53%; ②女性 64%, 66%, 67%), (2) ⑨大学での経験全般（北大①男性 49%, 44%, 50%; ②女性 65%, 72%, 73%), (3) は北大では⑧初年次生を対象とした教育プログラム内容（①男性 43%, 43%, 45%; ②女性 54%, 51%, 57%), 全体では①大学のなかでの学生同士の一体感（①男性 35%, 33%, 35%; ②女性 44%, 45%, 46%）の順で、変化はない。

大学の教育内容に対する満足感も全般的に②女性のほうが高く、総合的にみて、②女性は①男性より

もうまく大学生活に適応し、充実感を得、満足感も高いとみられる。

そのうちで、上級生と一年生で満足感の差がやや大きい項目は、⑨（北大①男性 60%-49%=12%, 全体①男性 53%-41%=12%）、⑧（全体①男性 48%-30%=18%, ②女性 59%-37%=23%）などである。

表 4.2 では、回答の⑤とても満足を「2」、④満足を「1」、③どちらでもないを「0」、②不満を「▲1」、①とても不満を「▲2」と換算して男女別に平均値を算出する。

4.4. 大学の教育環境に対する満足感 [問 19] (図 4.4, 図 5.6)

大学の施設や設備、支援制度について 9 つの質問をしている。

北大と全体で、満足感（⑤とても満足／④満足）の高い項目は、(1) ③コンピュータの施設や設備（北大・文系 2011 年 68%, 2010 年 73%, 2009 年 64%; 理系 81%, 81%, 71%; 全体・文系 63%, 66%, 69%; 理系 66%, 64%, 67%), (2) ④図書館の設備（北大・文系 77%, 76%, 78%; 理系 75%, 76%, 75%; 全体・文系 74%, 72%, 74%; 理系 67%, 63%, 66%), (3) ⑤インターネットの使いやすさ（北大・文系 59%, 63%, 62%; 理系 62%, 67%, 58%; 全体・文系 52%, 54%,

表 4.2. 大学の教育内容に対する満足感の平均値（▲2～2）[問 18]

		北大				全体				北大-全体			
育内容に対する満足	性	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
⑩他の学生と話を する機会	男	0.66	0.58	0.34	0.50	0.63	0.49	0.48	0.56	0.03	0.09	▲ 0.13	▲ 0.06
	女	0.79	0.69	0.72	0.73	0.83	0.74	0.78	0.80	▲ 0.04	▲ 0.05	▲ 0.05	▲ 0.06
	女-男	0.13	0.11	0.38	0.23	0.20	0.25	0.30	0.24				
⑨大学での経験全 般	男	0.61	0.45	0.39	0.44	0.52	0.34	0.35	0.37	0.09	0.11	0.04	0.07
	女	0.73	0.71	0.76	0.79	0.70	0.55	0.57	0.60	0.03	0.16	0.19	0.19
	女-男	0.12	0.26	0.37	0.35	0.18	0.22	0.22	0.23				
⑧初年次生向け教 育プログラム	男	0.37	0.27	0.34	0.34	0.47	0.17	0.16	0.16	▲ 0.10	0.11	0.18	0.18
	女	0.52	0.51	0.53	0.63	0.67	0.32	0.25	0.31	▲ 0.16	0.19	0.28	0.32
	女-男	0.15	0.24	0.19	0.29	0.21	0.16	0.08	0.15				
①大学での学生同 士の一体感	男	0.21	0.15	▲ 0.02	0.18	0.30	0.21	0.21	0.22	▲ 0.10	▲ 0.06	▲ 0.23	▲ 0.03
	女	0.31	0.26	0.39	0.36	0.49	0.42	0.44	0.43	▲ 0.18	▲ 0.16	▲ 0.05	▲ 0.07
	女-男	0.10	0.11	0.42	0.18	0.19	0.21	0.23	0.21				

56%;理系 50%, 52%, 56%) の順で、変化はない。

理系では⑥実験室の設備や器具に対する満足感も高い(北大 72%, 74%, 73%; 全体 56%, 52%, 56%)。

そのうち、上級生と一年生で満足感の差がやや大きい項目は、③(北大・文系 59%–68%= ▲ 10%, 理系 62%–81%= ▲ 19%), ⑧(北大・理系 61%–72%= ▲ 11%) などである。

表 4.3 では、問 18 と同じ基準で換算して系別に平均値を算出する。

4.5. 学部卒業後の予定進路 [問 20] (図 4.5)

大学の学部卒業後の予定進路について①就職②大学院進学③留学④他大学への(編)入学⑤専門学校への入学⑥未定⑦その他をあげて質問している。

今回北大で特徴的な変化は、①就職希望者が①男性で 2010 年 27% ⇒ 2011 年 21%, ②女性で 41% ⇒ 36%, 文系では 61% ⇒ 53% に減り、②大学院進学希望者が②女性で 36% ⇒ 47% に増えたことである。

前年までと同様に、⑥進路未定の者の割合は大学、性別、専門分野によらず 2 割以下である。

そのほか、文系の②大学院進学希望者が理系より少ないこと、全体では②女性の②大学院進学志望者の割合が①男性の半分以下であることも変わらない。

上級生と一年生の差は大きくないが、北大・文系では①就職希望者が一年生 53% ⇒ 三年生 72% に増えている。これは⑥未定の者が一年生 23% ⇒ 三年生 3% に減っていることに対応する。

4.6. 小括

〔4.1. 大学生活への適応感〕

《大学での学習スタイルにうまく適応できている学生は半数程度にとどまり、残り半分の学生はうまくなじめていないと感じていた。また、大学教員の期待を理解したり、大学教員と顔見知りになったりすることに成功している学生は、40% を下回る。一方で、友人関係をうまく構築できている学生は 80% を上回り 〈…〉》(参考文献 1, 72 ページ)

学生生活への適応感は②女性のほうが高い。適応感がもっとも高い項目は⑥他の学生との友情を深める(北大/全体②女性)、北大が全体を大きく上回る項目は①大学が求める水準に応じて学習する(①男性)、北大が大きく下回る項目は⑥時間を効果的に使う(②女性)、前年からの変化が大きい項目は④大学の学生向けサービスの利用(北大②女性:上昇), ⑥他の学生と友情を深める(北大②女性:低下) などである。⑥大学教員と顔見知りになるについては、北大、全体ともに、④学生向けサービスについては、北大で、②女性のほうが適応感が高い。⑥他の学生と友情を深めることへの適応感は、前年は北大②女性が①男性より目立って高かったが、今回は男女差が縮小している。

上級生と一年生の比較では、⑥教員と顔見知りになるは、北大②女性①男性ともに三年生のほうが高く、④学生向けサービスの利用は、北大②女性で一年生のほうが高い。

〔4.2. 学生生活の充実感〕

《同程度〈80%〉の学生が充実した学生生活を送っている。》(同 72 ページ)

表 4.3. 大学の教育環境に対する満足感の平均値 (▲ 2 ~ 2) [問 19]

満足感	系	北大				全体				北大-全体			
		2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
③コンピュータの施設や設備	文	0.55	0.76	0.80	0.58	0.60	0.68	0.71	0.76	▲ 0.05	0.08	0.09	▲ 0.18
	理	0.52	1.04	1.02	0.73	0.51	0.71	0.68	0.69	0.01	0.33	0.34	0.04
④図書館の設備	文	1.01	0.93	0.83	0.86	0.83	0.90	0.84	0.89	0.18	0.04	▲ 0.01	▲ 0.03
	理	0.69	0.95	0.92	0.90	0.67	0.74	0.68	0.73	0.02	0.21	0.25	0.17
⑥インターネットの使いやすさ	文	0.51	0.59	0.60	0.59	0.47	0.47	0.50	0.53	0.04	0.12	0.10	0.06
	理	0.45	0.67	0.72	0.54	0.37	0.45	0.43	0.52	0.08	0.22	0.29	0.02
⑧実験室の設備や器具	理	0.55	0.89	0.93	0.87	0.58	0.63	0.57	0.62	▲ 0.03	0.26	0.36	0.26

北大でも、全体でも②女性のほうが学生生活に適応し、充実感を得ている傾向は変わらない。

上級生と一年生の比較では、北大①男性では三年生の充実感が高いが、全体②女性では逆に上級生の充実感が低くなっている。

〔4.3. 大学の教育内容に対する満足感〕

《過半数の学生が学生同士で話す機会に満足しているものの、教育内容や大学の雰囲気に対する満足感全般にそれほど高くはない。大学生活のなかでの経験や大学の雰囲気、学生同士の一体感に満足している学生は約40%、提供される教育プログラムや、授業内容と実社会の結びつきに満足している学生は30%程度にとどまっていた。個別の学生指導や教員と話す機会については満足感が低いことに加え、不満をかかえている学生の割合が相対的に高くなっていた。》(同72～73ページ)

教育内容に対する満足感の高い項目は(1)㊸他の学生と話をする機会、(2)㊹大学での経験全般、(3)は北大では㊸初年次生を対象とした教育プログラム内容、全体では①大学のなかでの学生同士の一体感の順で、変化はない。

全般に、②女性は①男性よりもうまく大学生活に適応し、充実感を得、満足感も高い。

上級生では、㊹大学での経験全般(北大／全体①男性)、㊸初年次教育プログラム(全体①男性／②女性)に対する満足感が高くなっている。

〔4.4. 大学の教育環境に対する満足感〕

《大学の設備や学生支援制度については、その内容によって満足感に高低がみられた。多くの学生が日常的に利用すると考えられる図書館やコンピュータといった設備に対しては、約半数あるいはそれ以上の学生が満足している。それに対して、実験室や奨学金などの学費援助制度など、学生全員が利用するとは限らないものについては、満足している学生は30%程度だった。ただし、実験室の利用頻度が高い「理工農・医療系」では、半数以上が実験室の設備や器具に満足していた。逆に、「人文・社会系」は授業で実験室を使う機会が少ないため、満足とも不満とも判断できない学生が多かった。健康保健サービスやキャリアカウンセリングについては、

学生たちに利用機会が開かれていようとも、実際に1年生が日常的に利用する施設ではないためか、満足している学生も不満に思っている学生も少なかった。》(同73ページ)

教育環境に対する満足感の高い項目は、北大でも、全体でも、(1)㊺コンピュータの施設や設備、(2)㊻図書館の設備、(3)㊼インターネットの使いやすさの順で、変化はない。これらは各大学とも十分に整備され、よく利用されているとみられる。理系では、㊽実験室の設備や器具への満足感も高い。

北大三年生では、㊼インターネットの使いやすさ(文系／理系)、㊽実験室の設備や器具(理系)に対する満足感が低下している。これは、北大では最近10数年間、全学教育関連の施設・設備が重点的に整備・充実されたことと裏腹の関係にあるのかもしれない。

〔4.5. 学部卒業後の予定進路〕

《大学(学部)卒業後の進路として、過半数の学生が就職することを予定していた。その傾向は「人文・社会系」で強く、多くの学生が学士課程教育を学校教育の最終段階とみなしていることがよみとれた。他方で、1年生の段階で大学院に進学することを視野に入れている者もあり、その割合は全体の約20%にのぼる。なかでも「理工農・医療系男性」では大学院進学希望者が過半数を占めていた。1年生の段階で、卒業後に留学や他大学に編入学しようと思っている学生はほとんどいなかった。多くの学生が、卒業後の進路をある程度決めている一方で、進路を決めかねている者も一定割合存在する。性別や専門分野によって学士課程教育後の予定進路は異なることから、人生プランのなかでの学士課程教育の位置づけは学生間で違っているといえるだろう。》(同73ページ)

北大では、たぶん経済状況を反映して、①就職希望者が①男性、②女性、文系で前年より減少し、②女性で②大学院進学希望者が増加している。

前年までと同様に、⑥進路未定の者の割合は大学、性別、専門分野を問わず2割以下であり、入学後半年あまりでも大部分の学生は進路についてすでに目標をもっている。

②大学院進学希望者が、文系では理系と比べて少

ないこと、全体では②女性の割合が①男性の半分以下であることも変わらない。

三年生になると、北大・文系では進路未定の者が大きく減り、その分①就職希望者が増えている。

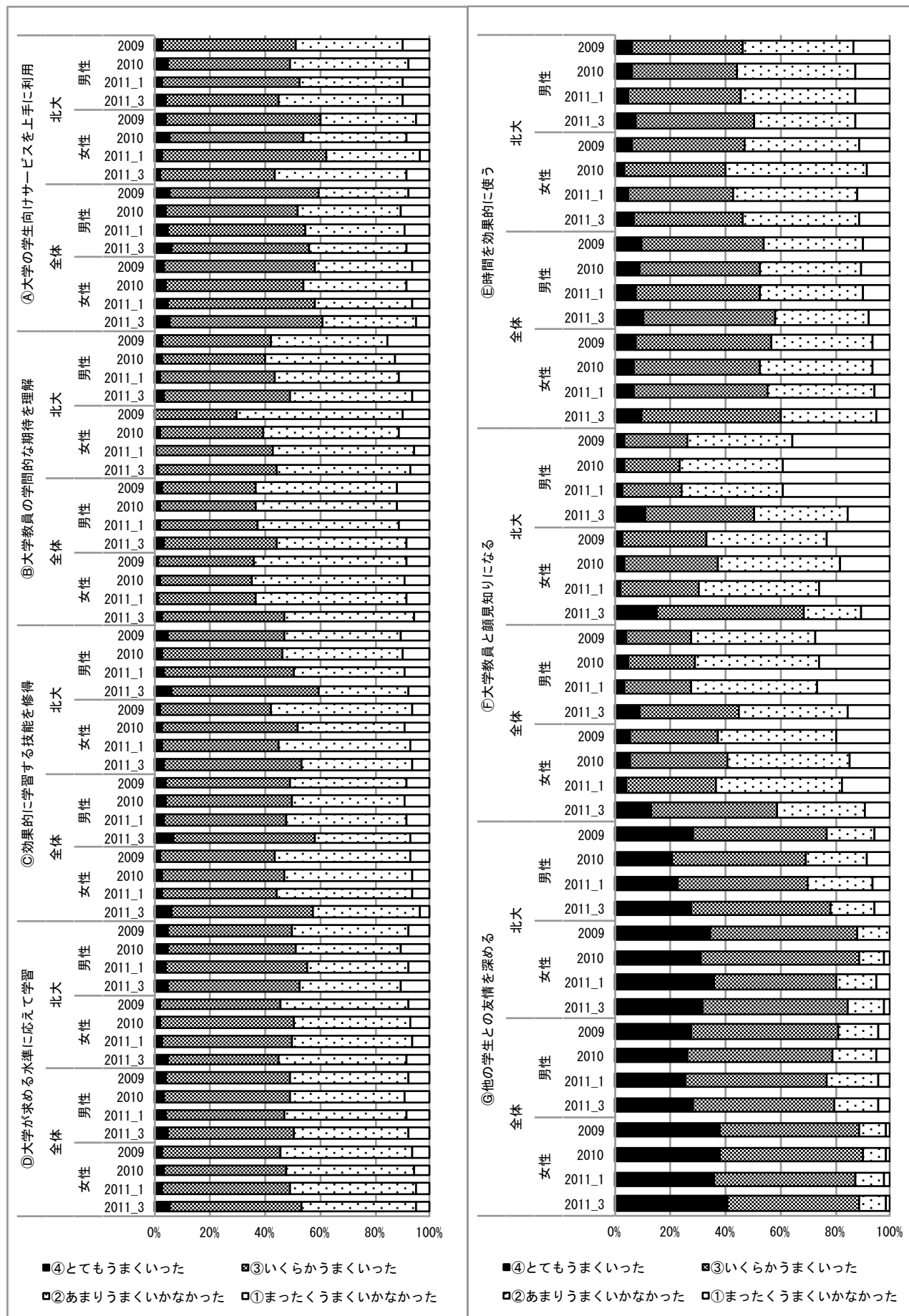


図 4.1.1. 大学生生活への適応感（男女別）[問 16]

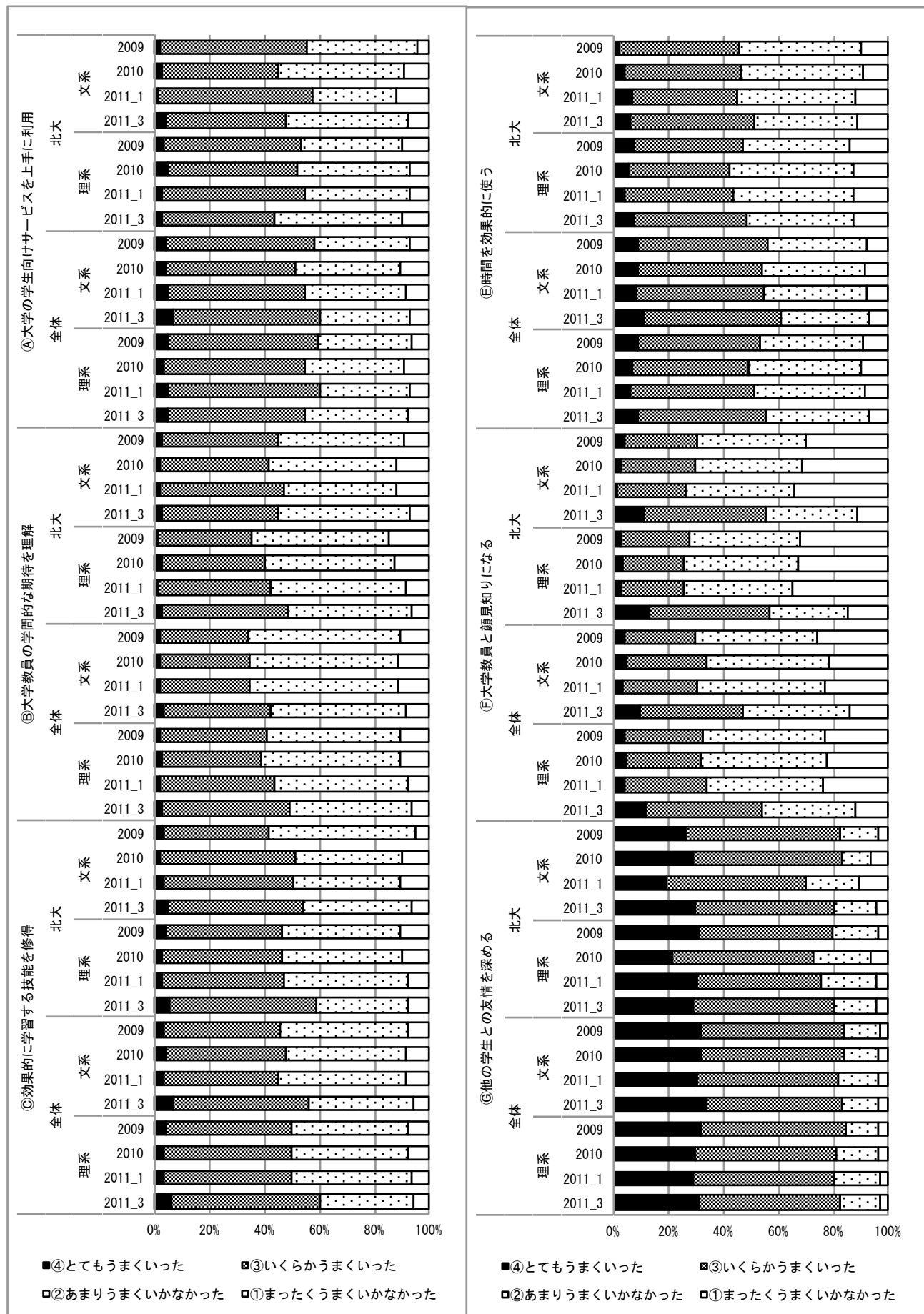


図 4.1.2. 大学生活への適応感 (系列) [問 16]

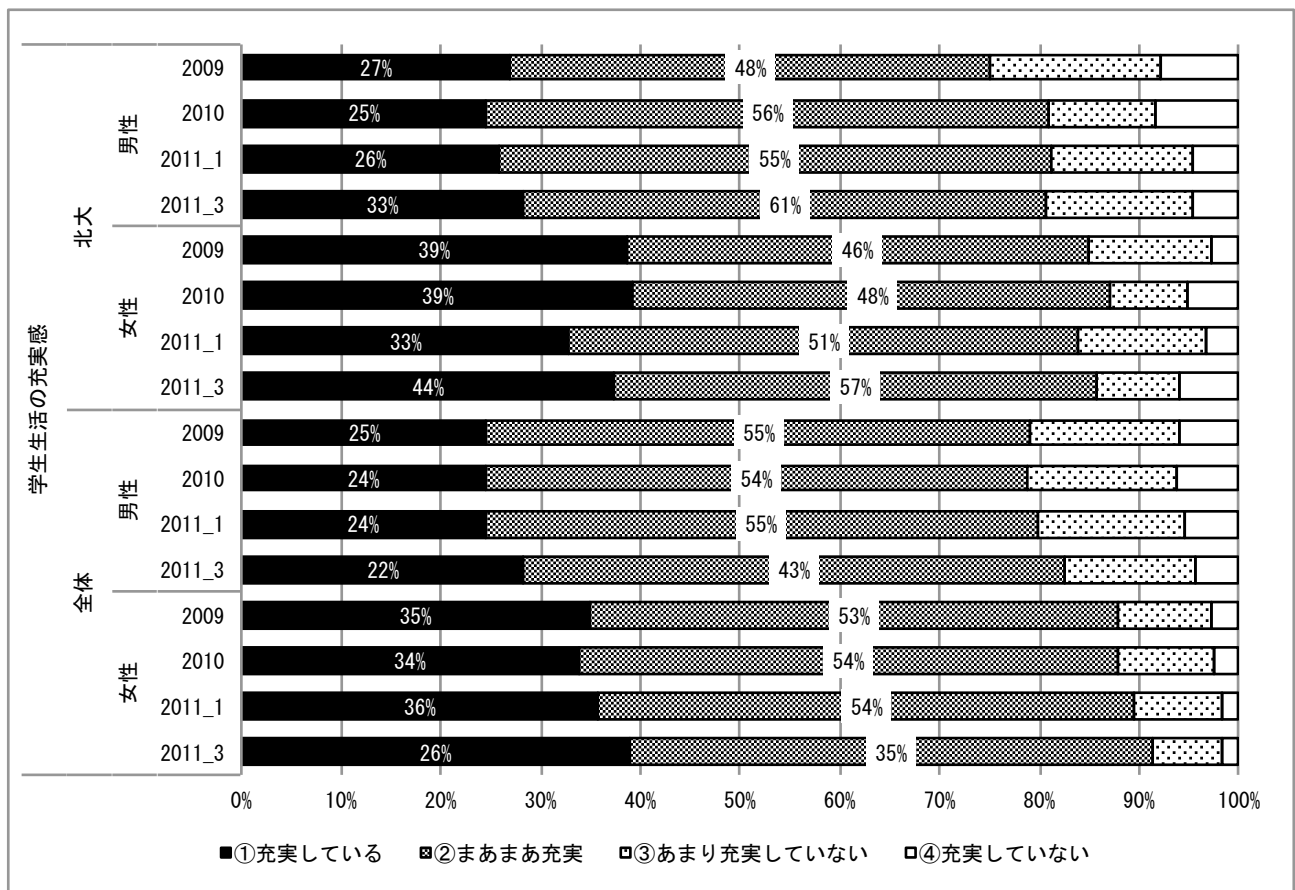


図 4.2.1. 学生生活の充実感 (男女別) [問 17]

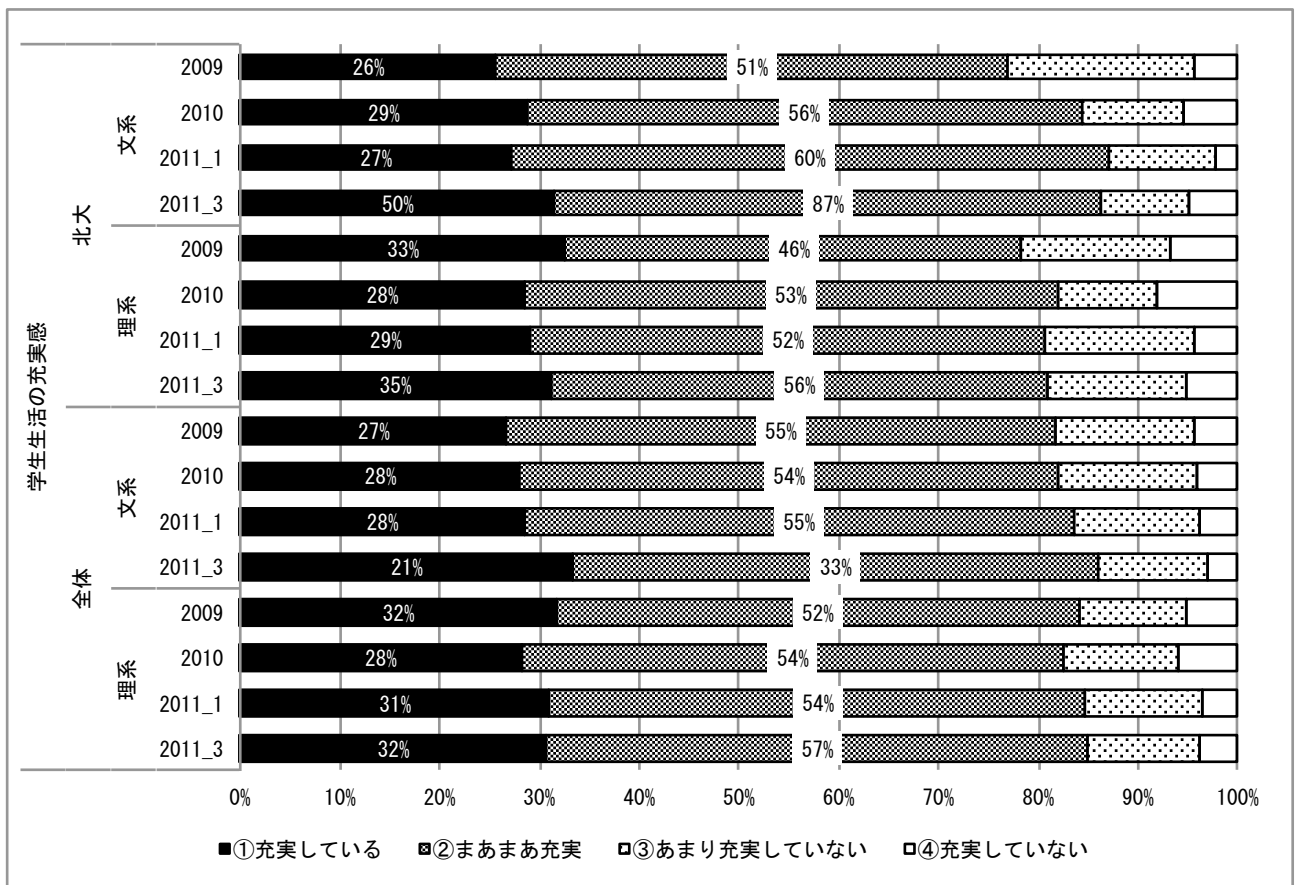


図 4.2.2. 学生生活の充実感 (系別) [問 17]

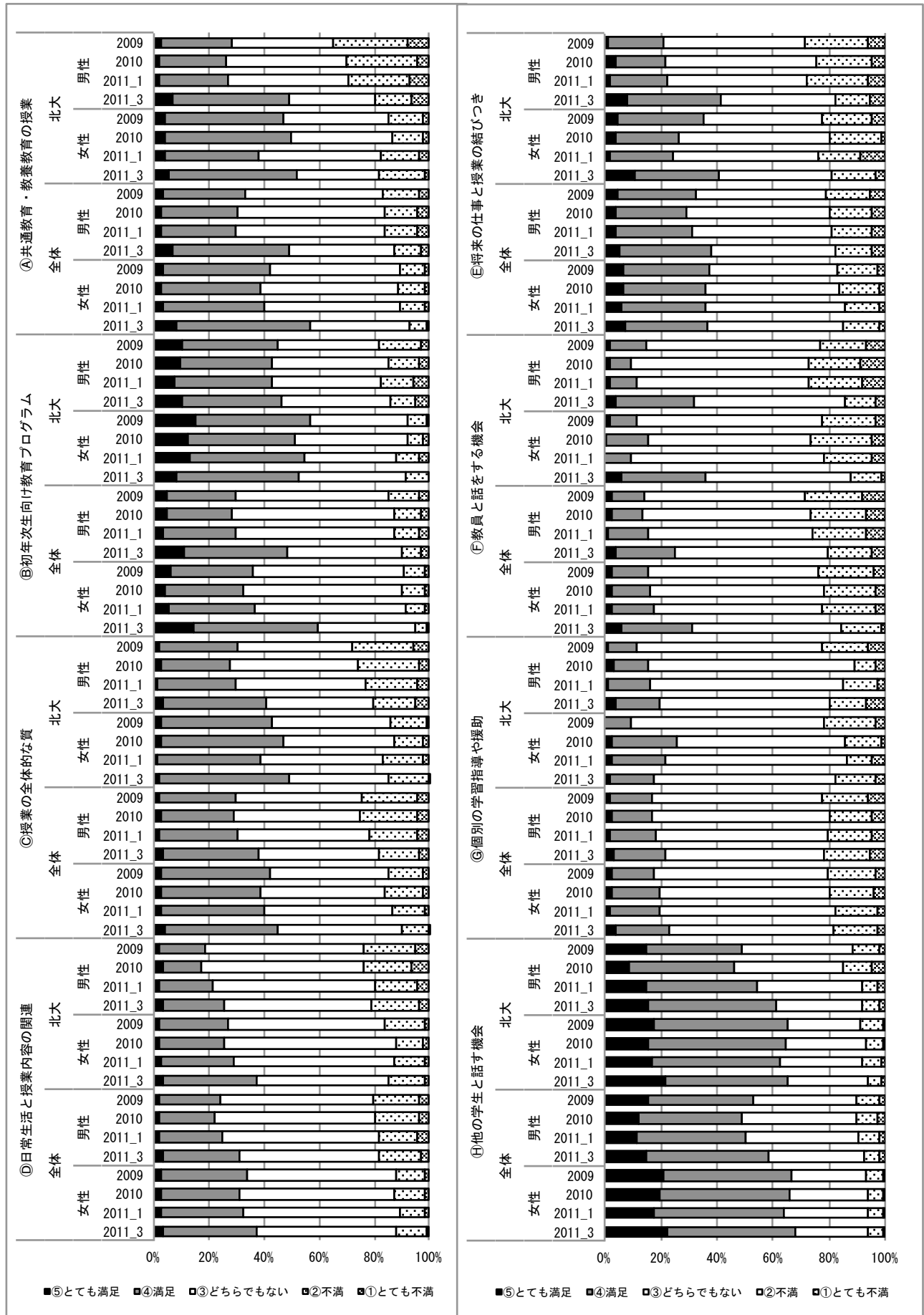


図 4.3.1. 大学の教育内容に対する満足感（男女別）〔問 18〕

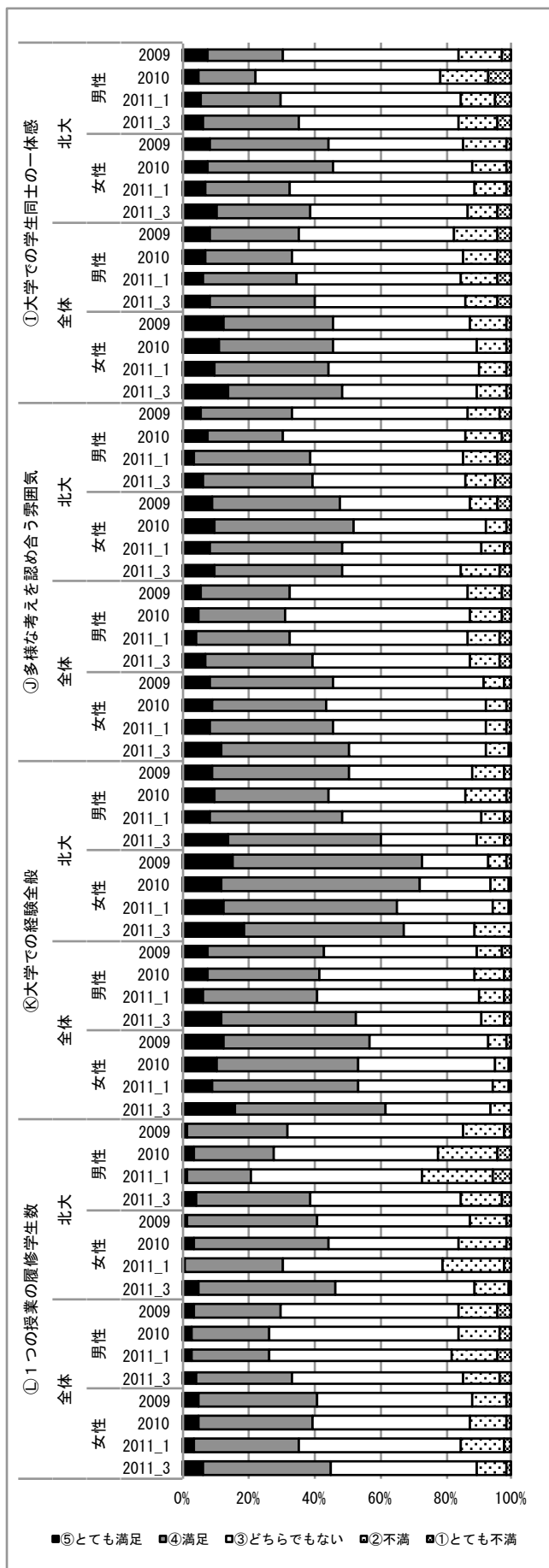


図 4.3.1. 大学の教育内容に対する満足感（男女別）[問 18]

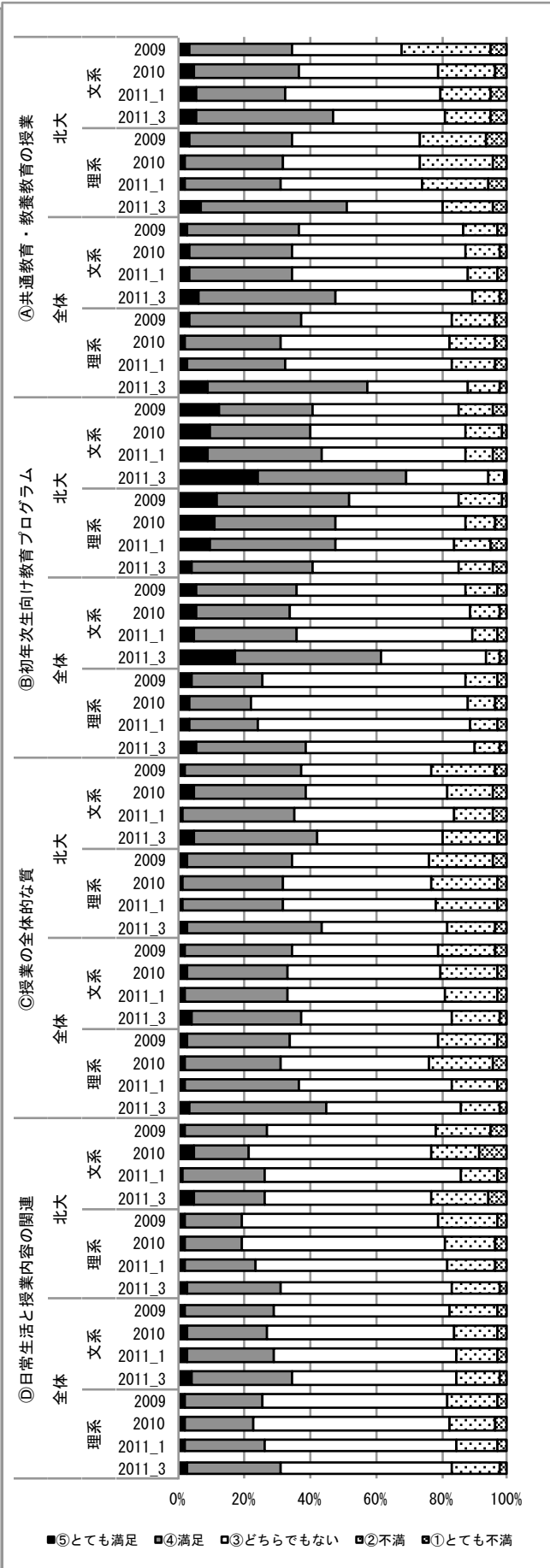


図 4.3.2. 大学の教育内容に対する満足感（系別）[問 18]

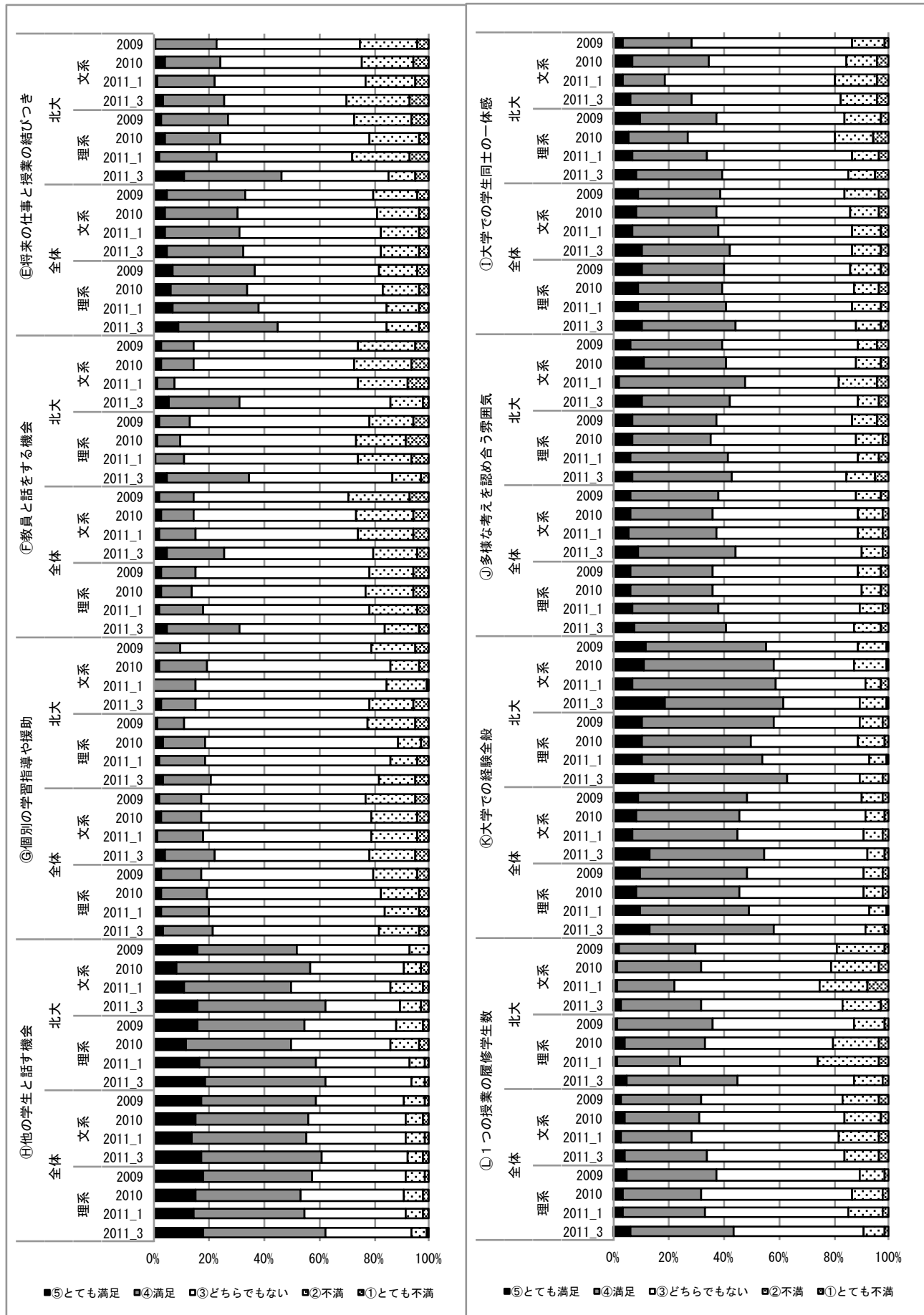


図 4.3.2. 大学の教育内容に対する満足感（系列）[問 18]

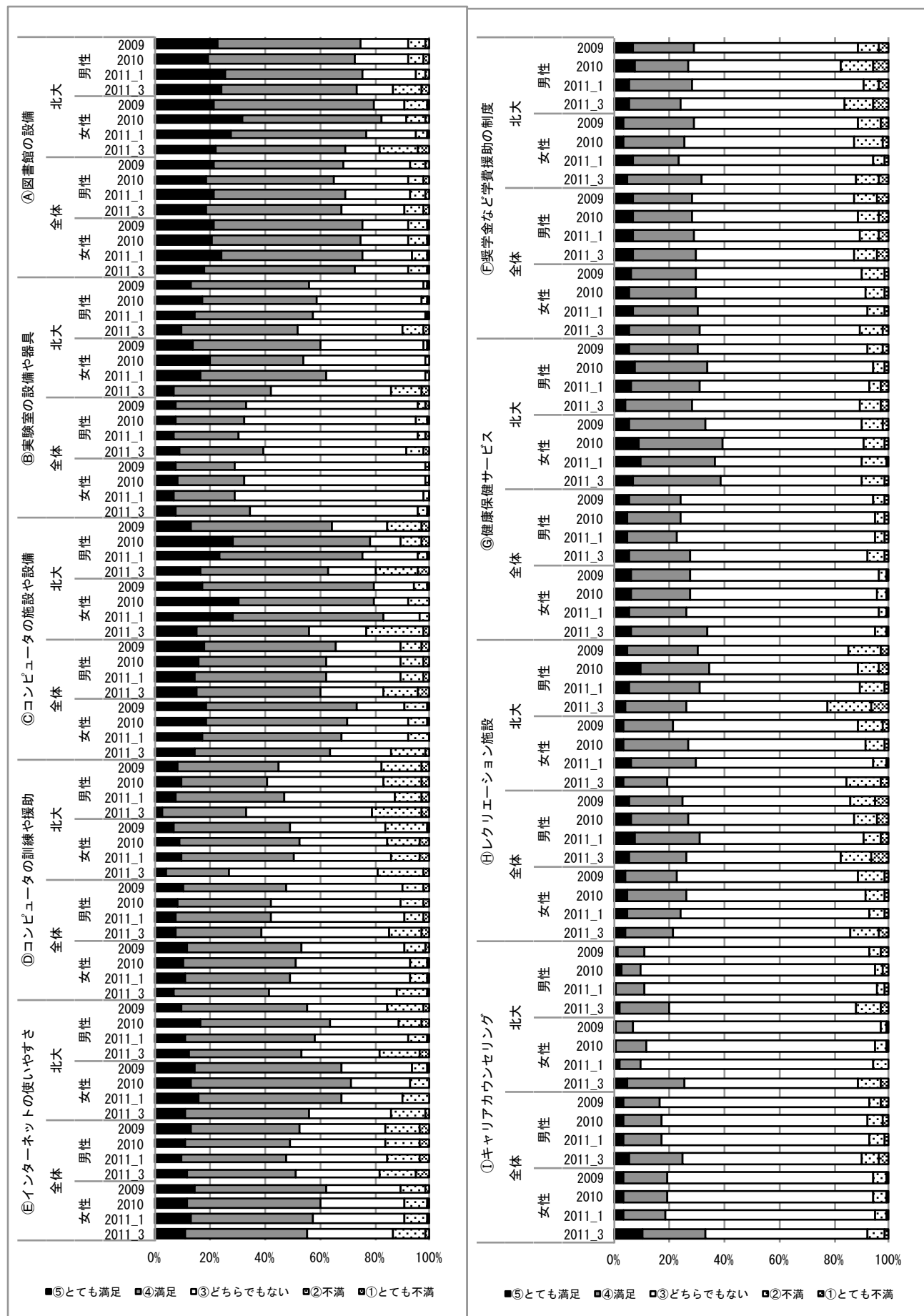


図 4.4.1. 大学の教育環境に対する満足感（男女別）〔問 19〕

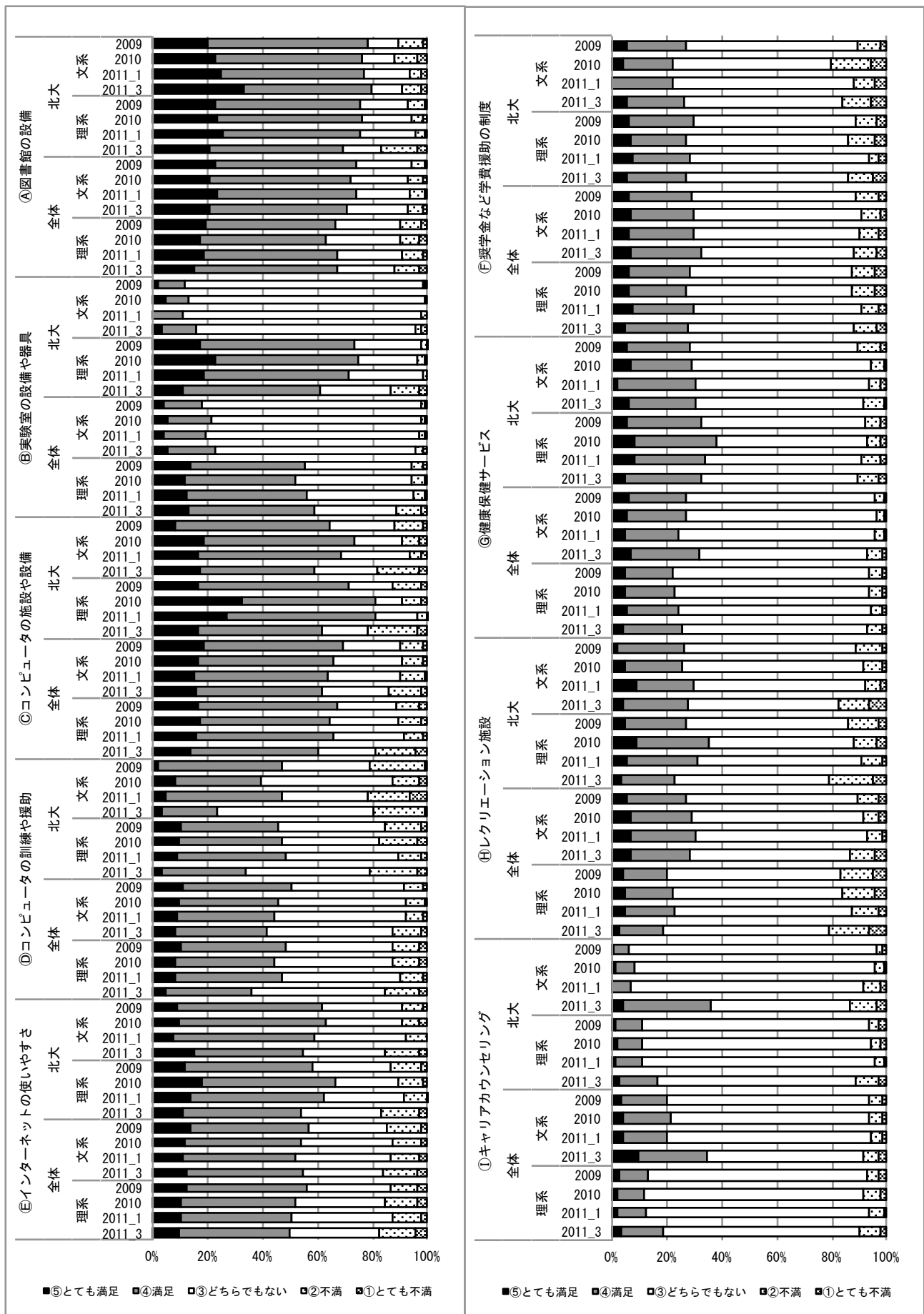


図 4.4.2. 大学の教育環境に対する満足感（系列） [問 19]

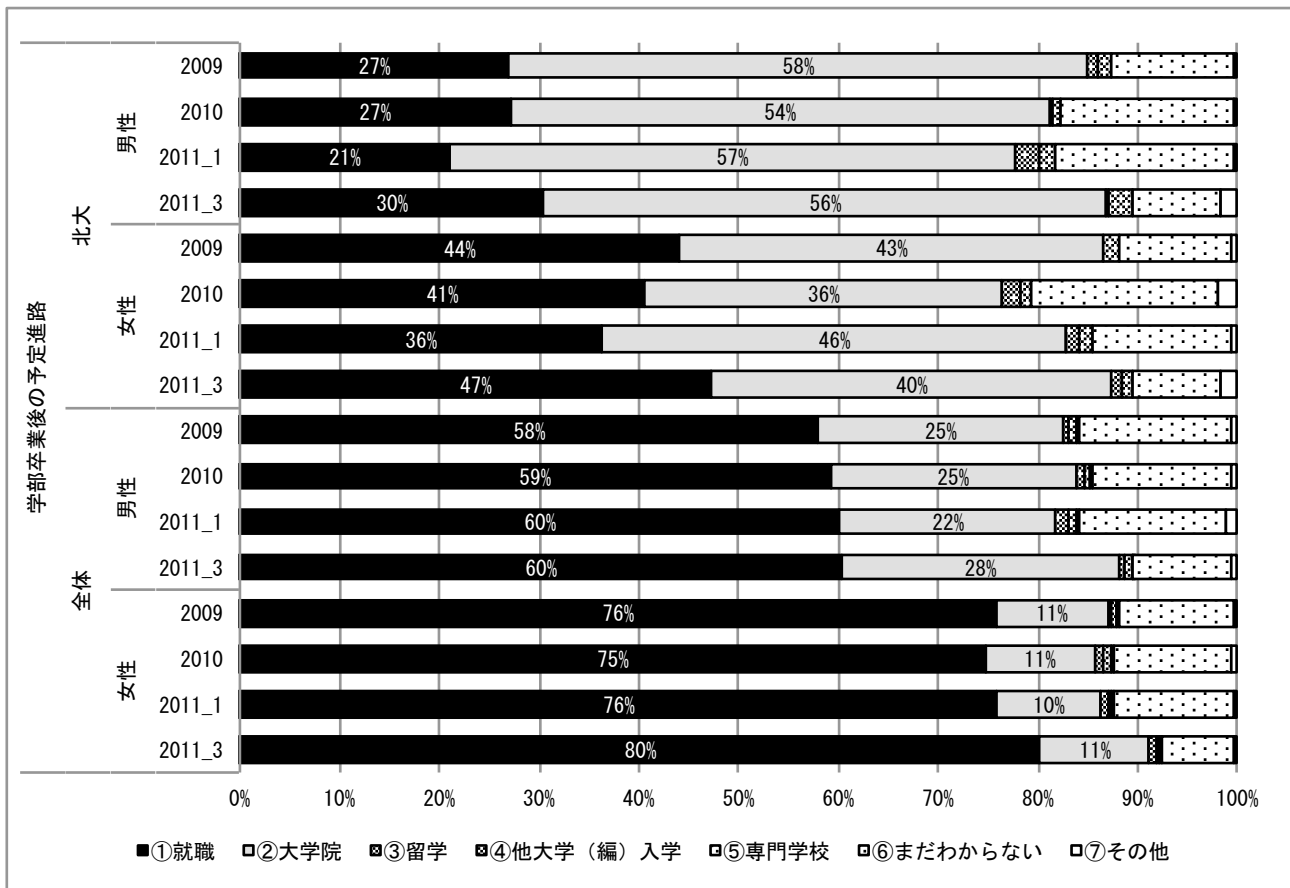


図 4.5.1. 学部卒業後の予定進路（男女別）[問 20]

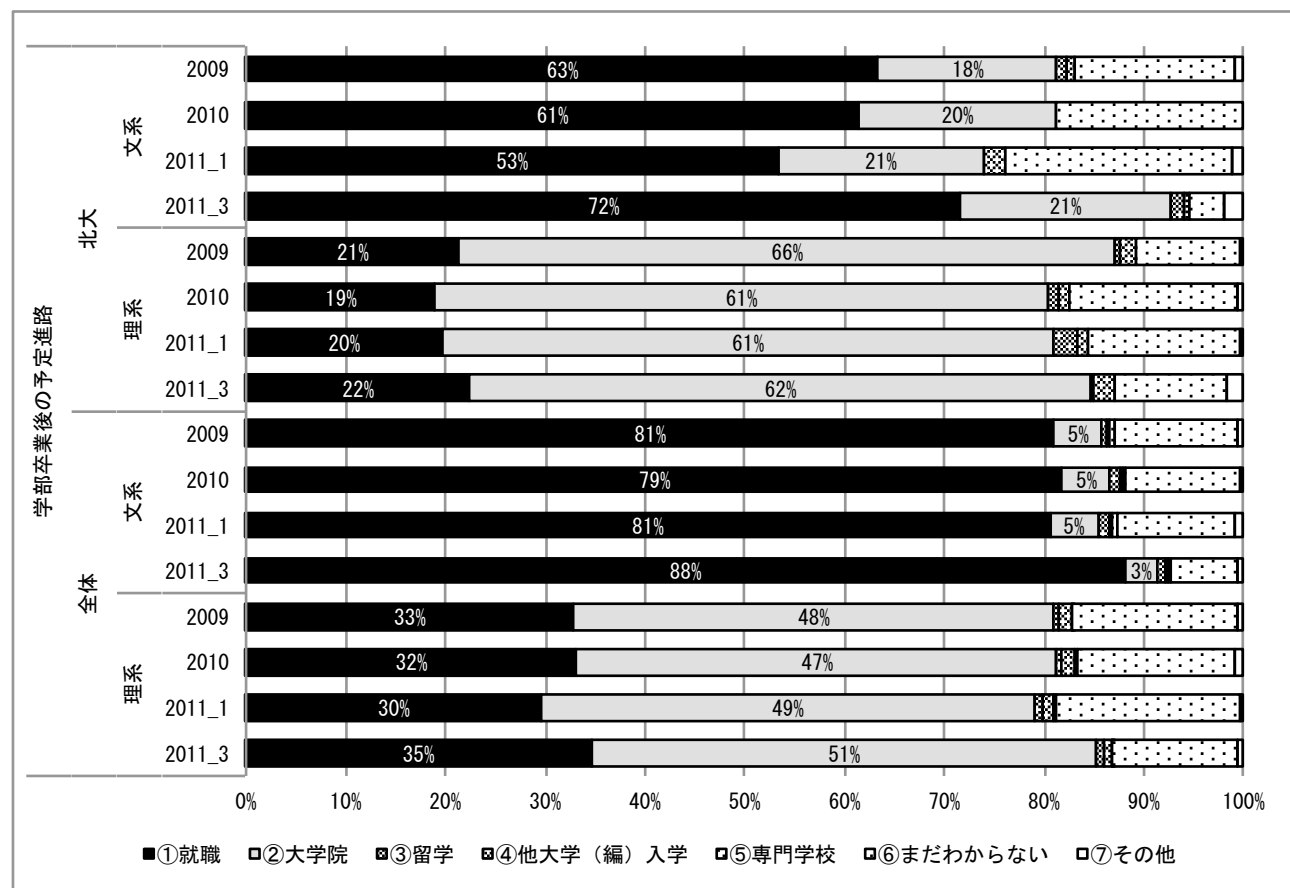


図 4.5.2. 学部卒業後の予定進路（系別）[問 20]

5. 北海道大学と全参加大学の回答傾向の違い

2009～2011年一年生・上級生調査のデータから、おもな質問項目ごとに回答の平均値（95ページ参照）をレーダーチャート形式の図にまとめて比較し、北大と全体の回答傾向の違いをみる。

表では「北大-全体」が、

◎：0.2ポイント以上大きい

○：0.1以上～0.2未満ポイント大きい

△：-0.1以上～-0.2未満ポイント小さい

▲：-0.2ポイント以上小さい

という基準で北大と全体の差の大きい項目をチェックする。

◎（北大が全体を大きく上回る）が4回の項目

〔問7〕④実験、実習、フィールドワークなどで学生が体験的に学ぶ、⑤学生自身が文献や資料を調べる、⑧TA・SAから補助を受ける

◎が3回の項目

〔問7〕①*取りたい授業を履修できなかった（上級生では北大0.50、全体0.87で問題ない）

〔問8〕④授業課題のために図書館の資料を利用した、⑤インターネット（LMS）を使って授業課題をやりとりした（上級生では、④は北大2.27が全体1.87を大きく上回り、⑤は北大では1.21に半減し、全体1.68を大きく下回る）

〔問19〕⑧実験室の設備や器具（上級生では北大0.43と全体0.37の差は小さい）

◎が2回の項目

〔問7〕⑥定期的に小テストやレポートが課される（上級生では北大2.45と全体2.35の差は小さい）

〔問8〕⑥授業課題のためWeb上の情報を利用した（上級生では北大2.42と全体2.33の差は小さい）

〔問18〕⑥初年次教育のプログラム内容

〔問19〕③コンピュータの施設や設備（上級生では北大0.53と全体0.57はほぼ同じ）

▲（北大が全体を大きく下回る）が4回の項目

〔問8〕⑥*授業を欠席、⑦*授業に遅刻した

▲が3回の項目

〔問10〕⑧時間を効果的に利用する能力

▲／△（北大が全体を下回る）が4回の項目

〔問7〕⑩授業の一環でボランティア活動をする

〔問10〕④一般的な教養、⑥リーダーシップの能力、⑦人間関係を構築する能力、⑧他の人と協力して物事を遂行する能力

〔問16〕⑥時間を効果的に使う

〔問18〕④共通教育あるいは教養教育の授業

▲／△が3回の項目

〔問7〕⑧仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ（上級生では北大1.59が全体1.54をわずかに上回る）

〔問8〕⑥授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた（上級生でも北大0.45と全体0.56の差は変わらない）

〔問10〕③専門分野や学科の知識（上級生では北大1.44が全体1.21を大きく上回る）

〔問16〕⑥大学教員と顔見知りになる（上級生では北大1.55が全体1.47をやや上回る）

〔問18〕⑥将来の仕事と授業内容の結びつき、①大学のなかでの学生同士の一体感（上級生では、⑥は北大0.26と全体0.23はほぼ同じ、①は北大0.24と全体0.37の差は変わらない）

前回はポジティブな2回答（④ひんぱんにあった／③ときどきあったなど）の合計割合で比べたのに対して、今回は4/5段階の回答の平均値で比べた。前回述べた「北大のコアカリキュラム（教養教育・初年次教育）、単位の実質化の取組が成果を上げている一方、キャリア関連の教育プログラムの充実が望まれる」（参考文献2、29ページ）という特徴は変わらないが、上級生調査が加わったことにより、すこし違った特徴もみられる。

1) 北大の教養教育・初年次教育は [問 7] ④実験、実習、フィールドワークなどの体験的学習、⑤定期的な小テストやレポート、[問 8] ④図書館資料、⑤ Web 上の情報の利用、⑥ LMS による授業課題のやりとり、[問 18] ⑥初年次教育のプログラム内容、[問 19] ⑥実験室の設備や器具、⑦コンピュータの施設や設備などで評価が高いが、[問 10] ④一般的な教養、[問 18] ④共通教育あるいは教養教育の授業の評価が低いことに留意する必要がある。

2) 一年生では [問 10] ⑦リーダーシップの能力、⑧人間関係を構築する能力、⑨他人と協力して物事を遂行する能力、⑩時間を効果的に利用する能力、[問 16] ⑥時間を効果的に使うなど、専門知識の習得とは別の、人間的な能力の評価は全体より低い。

しかし、上級生では上記の [問 10] ⑦⑧⑨⑩のほか、⑪批判的に考える能力など、専門分野を越えた「学士力」「人間力」に関わる能力も大きく伸びているので、学士課程教育全体としては、心配する必要はないのかもしれない。

3) 一年生では [問 10] ③専門分野の知識、④数理的な能力（文系）が全体を下回っていたが、上級

生では [問 10] ③専門分野の知識が大きく伸びて全体を上回り、④数理的な能力（文系）は減少傾向が小さくなり、全体との差も縮小している。

4) [問 7] ⑥仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ、[問 8] ⑩大学の教職員に将来のキャリアの相談をした、[問 10] ⑩卒業後に就職するための準備の程度、[問 18] ⑥将来の仕事と授業内容の結びつきなど、将来の仕事に関わる質問項目において、一年生では北大が全体を下回るが、上級生では北大と全体の平均値はほぼ同じである。

一方、[問 19] ①キャリアカウンセリングへの満足感は、上級生でも北大 0.09 が全体 0.23 を下回り、一年生より差が大きい。この点は拡充の余地があるとみられる。

5) 学生と教職員の関係が稀薄なことは何度も指摘したが、今回は、[問 8] ⑨教員に親近感を感じた者は一年生、上級生とも北大のほうが全体よりやや多い。また、[問 16] ⑥大学教員と顔見知りになるは、一年生では 3 年とも北大が全体を下回るが、上級生では、研究室などでの接触が増えるせい、北大が上回るなど、やや明るい傾向もみられる。

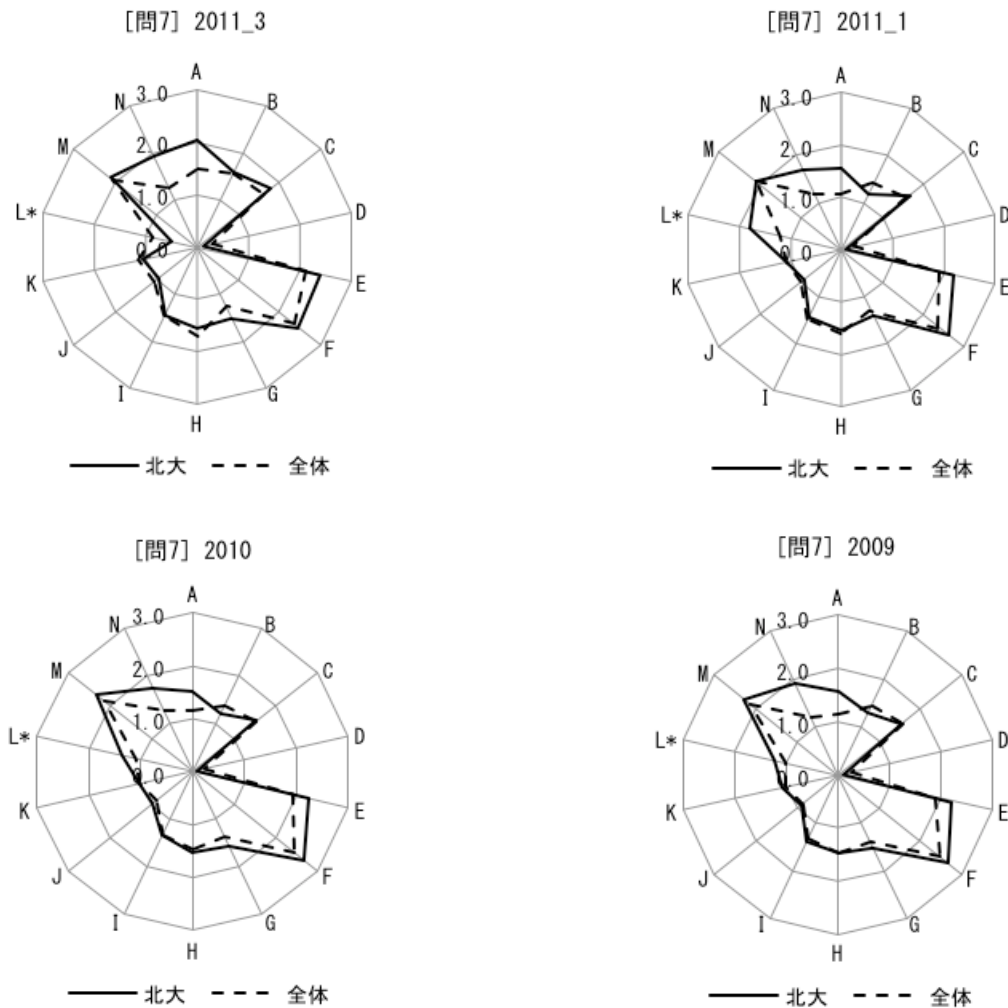


図 5.1. 授業をつうじた学習経験

注) 2011_3：上級生調査 2011 年；2011_1：一年生調査 2011 年；2010：一年生調査 2010 年；2009：一年生調査 2009 年

注) * は数値が小さいほどよい否定的項目である。

[問 7] あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

回答傾向の違い		2011_3	2011_1	2010	2009
A	実験、実習、フィールドワークなどで学生が体験的に学ぶ	◎	◎	◎	◎
B	仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ		▲	△	△
C	授業内容と社会や日常生活のかかわりについて教員が説明する	○			
D	授業の一環でボランティア活動をする	△	△	△	△
E	学生自身が文献や資料を調べる	◎	◎	◎	◎
F	定期的に小テストやレポートが課される		◎	◎	○
G	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	◎	○	○	○
H	学生が自分の考えや研究を発表する	△			
I	授業中に学生同士が議論をする				
J	授業で検討するテーマを学生が設定する	△			
K	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる				
L*	取りたい授業を履修登録できなかった	▲	◎	◎	◎
M	出席することが重視される			○	○
N	TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける	◎	◎	◎	◎

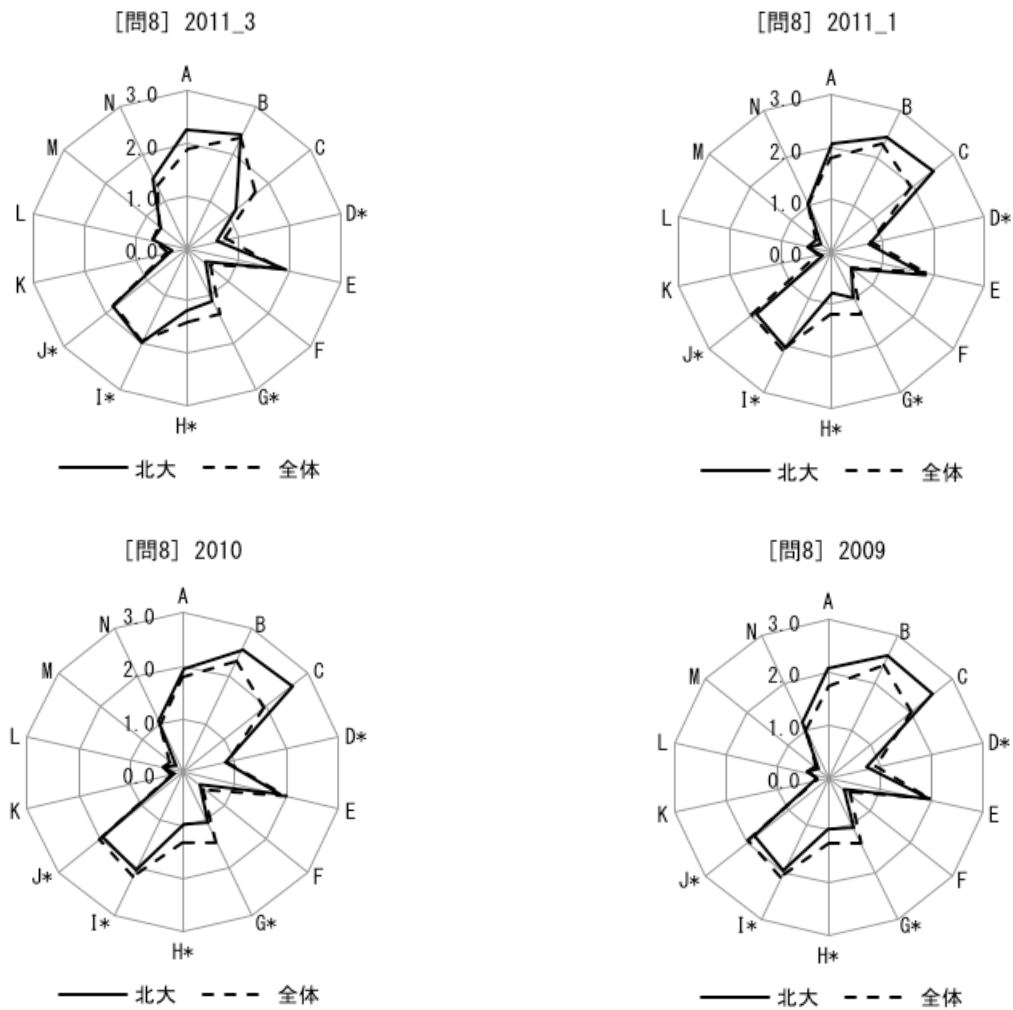


図 5.2. 授業内外における学習行動

[問 8] 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

回答傾向の違い		2011_3	2011_1	2010	2009
A	授業課題のために図書館の資料を利用した	◎	◎	○	◎
B	授業課題のためにWeb上の情報を利用した		○	◎	◎
C	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	▲	◎	◎	◎
D*	提出期限までに授業課題を完成できなかった	△			△
E	授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり授業内容について話した	○		△	
F	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	△		△	△
G*	授業を欠席した	▲	▲	▲	▲
H*	授業に遅刻した	▲	▲	▲	▲
I*	授業をつまらなく感じた			△	
J*	授業中に居眠りをした				
K	教員の研究プロジェクトに参加した	△	△		
L	単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した				
M	大学の教職員に将来のキャリアの相談をした			▲	
N	教員に親近感を感じた	○		○	○

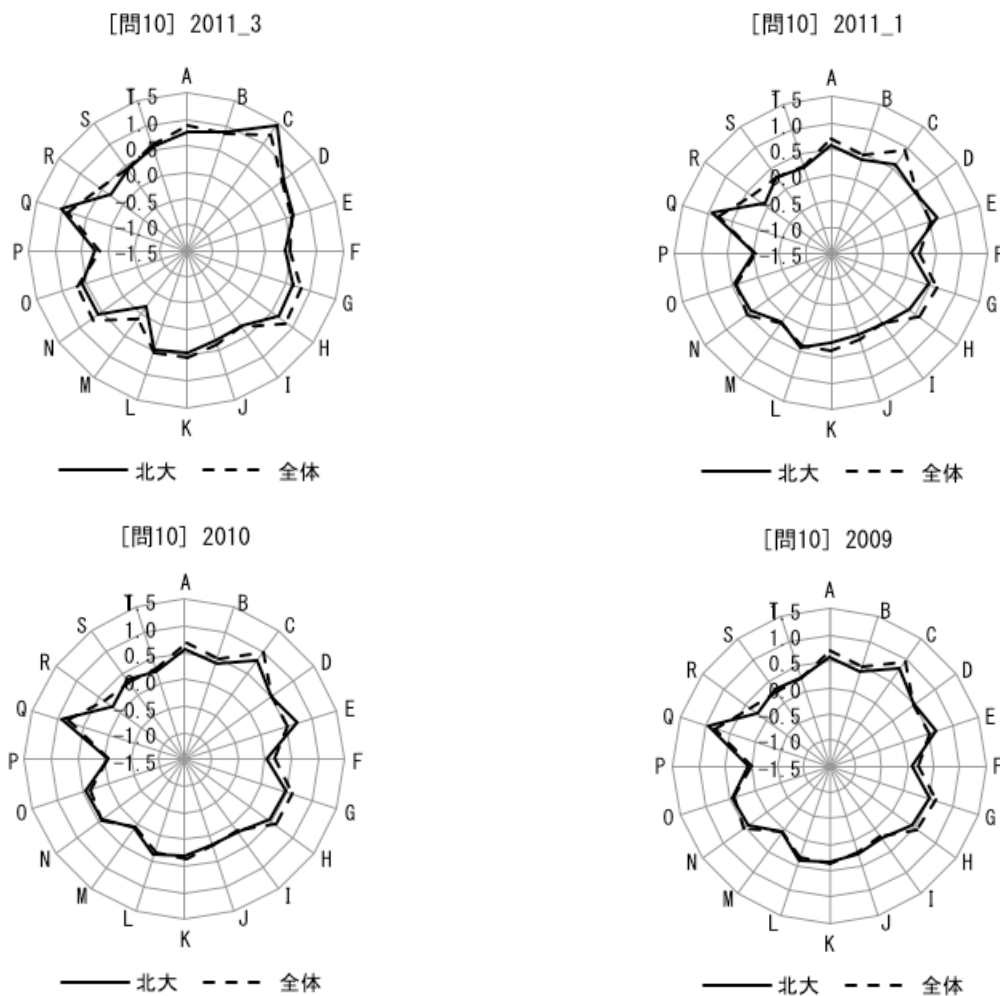


図 5.3. 入学後の知識・能力の変化

[問 10] 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

		回答傾向の違い			
		2011_3	2011_1	2010	2009
A	一般的な教養	△	△	△	△
B	分析力や問題解決能力				
C	専門分野や学科の知識	◎	▲	△	△
D	批判的に考える能力				
E	異文化の人々に関する知識		○	◎	○
F	リーダーシップの能力	△	△	△	△
G	人間関係を構築する能力	△	△	△	△
H	他の人と協力して物事を遂行する能力	△	▲	△	△
I	異文化の人々と協力する能力				
J	地域社会が直面する問題を理解する能力				
K	国民が直面する問題を理解する能力		△		
L	文章表現の能力				
M	外国語の運用能力	▲			
N	コミュニケーションの能力	△			△
O	プレゼンテーションの能力				
P	数理的な能力	○			○
Q	コンピュータの操作能力	○	○	○	○
R	時間を効果的に利用する能力	▲	▲	▲	△
S	グローバルな問題の理解				
T	卒業後に就職するための準備の程度				

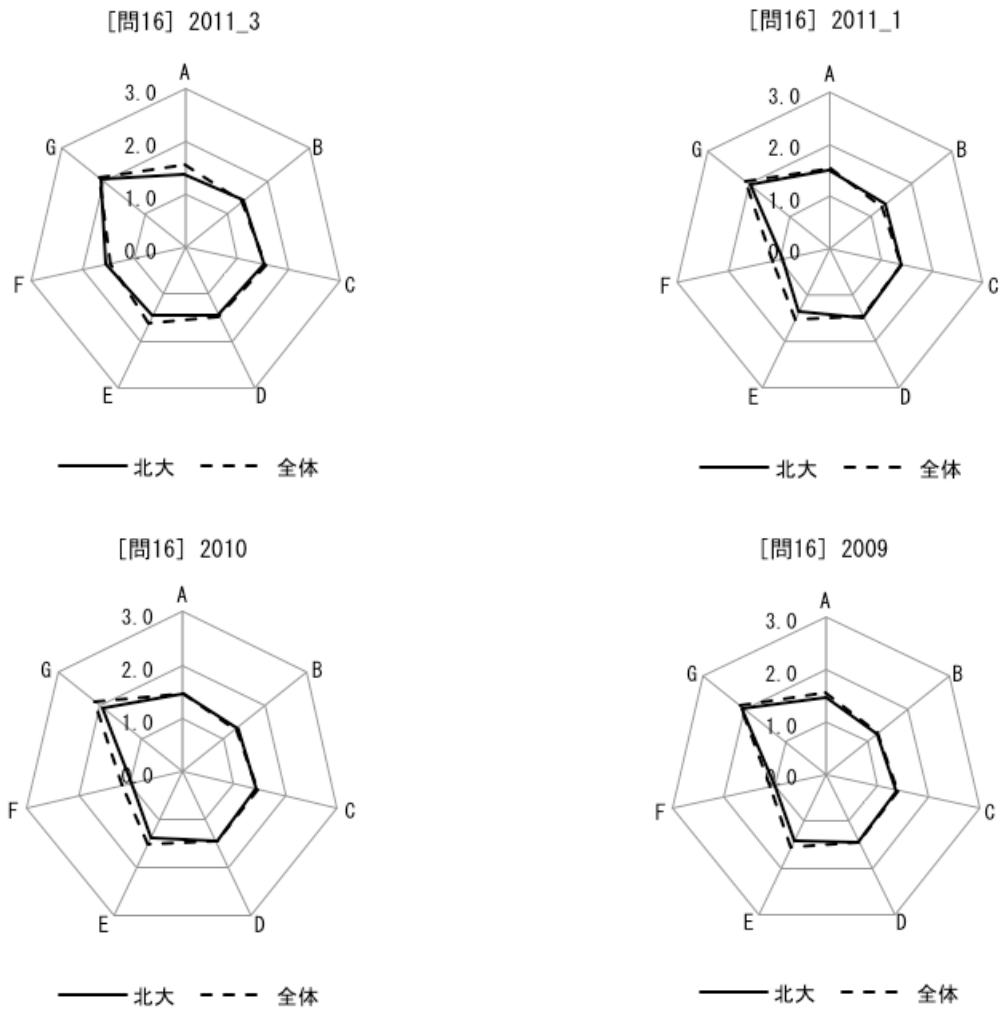


図 5.4. 大学生活への適応感

[問 16] 本学に入学してから、あなたは次のことがらについてどれくらいうまくいきましたか。

回答傾向の違い		2011_3	2011_1	2010	2009
A	大学の学生向けサービスを上手に利用する	△			
B	大学教員の学問的な期待を理解する				
C	効果的に学習する技能を修得する				
D	大学が求める水準に応じて学習する				
E	時間を効果的に使う	△	△	△	△
F	大学教員と顔見知りになる		△	△	△
G	他の学生との友情を深める		△	△	

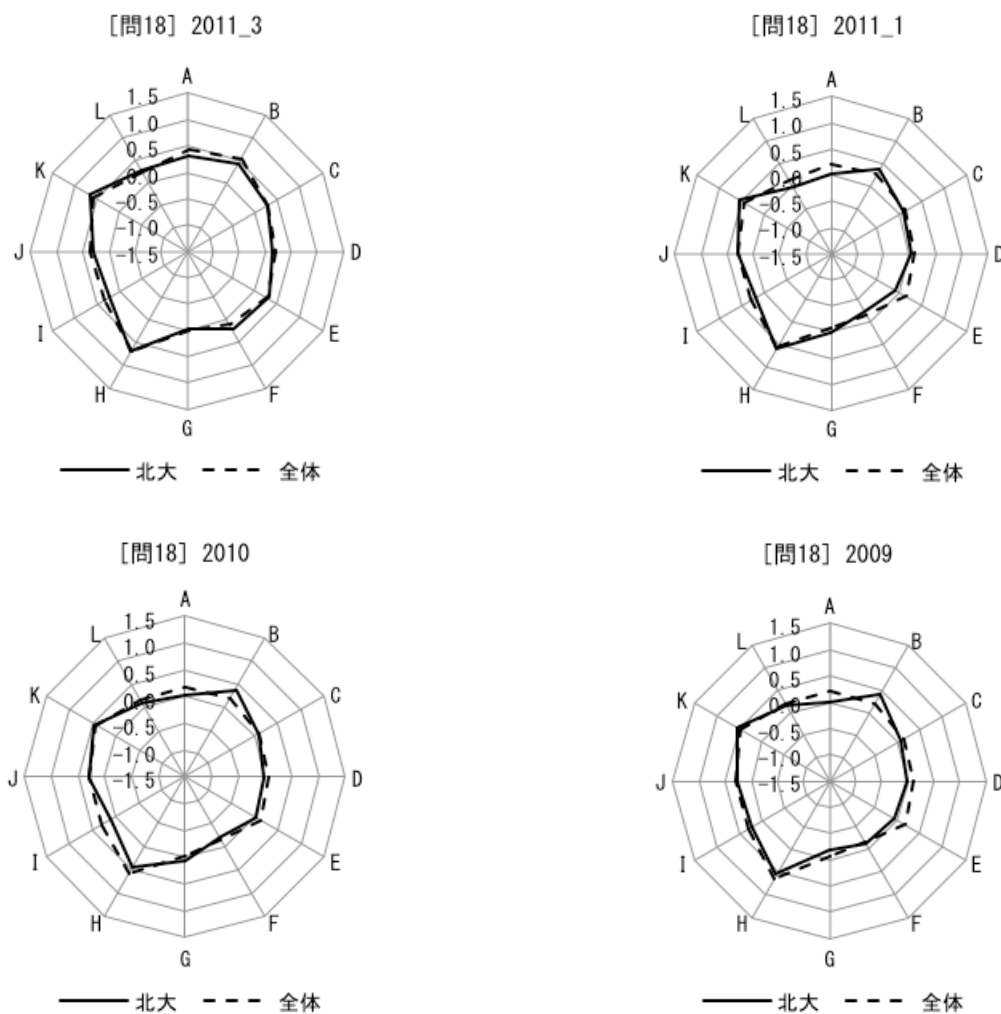


図 5.5. 大学の教育内容に対する満足感

[問 18] あなたは、本学の教育内容にどれくらい満足していますか。

回答傾向の違い		2011_3	2011_1	2010	2009
A	共通教育あるいは教養教育の授業	△	△	△	△
B	初年次生を対象とした教育プログラム内容	△	○	◎	◎
C	授業の全体的な質				
D	日常生活と授業内容との関連			△	△
E	将来の仕事と授業内容の結びつき		▲	△	▲
F	教員と話をする機会	○			
G	個別の学習指導や援助（履修相談など）			○	
H	他の学生と話をする機会			△	
I	大学のなかでの学生同士の一体感	△	△	△	
J	多様な考え方を認め合う雰囲気				
K	大学での経験全般について		○		○
L	1つの授業を履修する学生数		△		

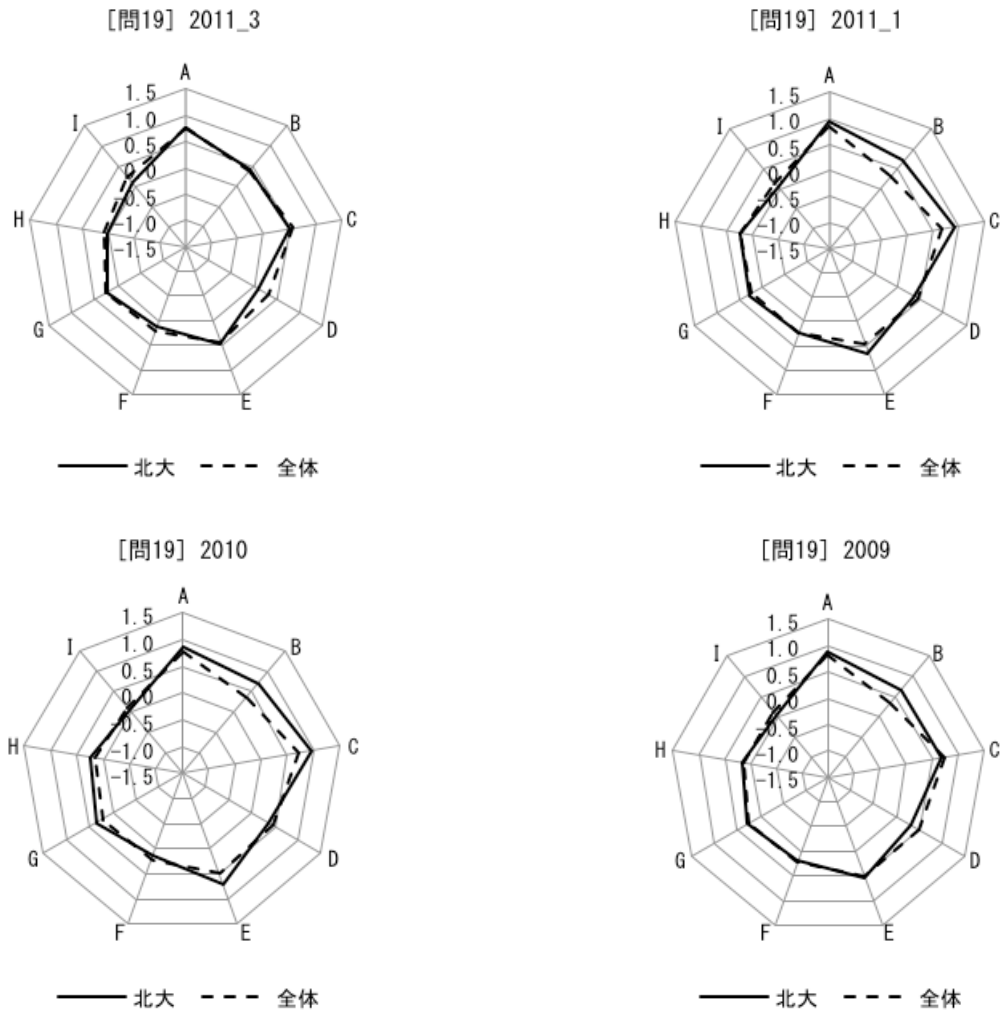


図 5.6. 大学の教育環境に対する満足感

[問 19] あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

回答傾向の違い		2011_3	2011_1	2010	2009
A	図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）		○	○	
B	実験室の設備や器具		◎	◎	◎
C	コンピュータの施設や設備		◎	◎	
D	コンピュータの訓練や援助	▲			△
E	インターネットの使いやすさ		○	◎	
F	奨学金など学費援助の制度			△	
G	健康保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）			○	
H	レクリエーション施設（ジムの設備など）				
I	キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	△			

6. 学生調査への回答と成績 (GPA) の関係—— IR システム (IRiS) のデータから——

大学 IR コンソーシアム (参考リンク 33) では、会員校からさまざまな教学関連データの提供を受け、学生調査の回答と関連づけて分析し、相互評価に活用している。間接評価としての学修行動調査と、直接評価としての成績 (GPA) を関連づけた分析により、大学における教育・学習プロセスの実状をよりの確にとらえられると期待される。

IR システム (IRiS) のなかには、2009～2011 年一年生・上級生調査の回答頻度別の GPA 分布と平均が公開されている。本章では、北大と全体の差の大きいものを中心に、いくつかを転載し分析する。

なお、この 3 年間に、全体では GPA に大きな変化はないが、北大の一年生では 2011 年の総合入試導入の結果 GPA が大きく上昇した (1 学期 2010 年 2.39 ⇒ 2011 年 2.45, 2 学期 2.36 ⇒ 2.44。付録 3 図 4: 2006 年度 CAP 制導入以降、1 年次の学期 GPA は順調に上昇した。2010 年度にやや下降したが、総合入試導入後に再び上昇に転じた)。

[問 7] ④実験, 実習, フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ (図 6.1)

④体験的学習の頻度と成績 (GPA) には、一年生・全体では、3 年ともゆるやかな正の相関関係がみられる。北大では、2009 年、2010 年は傾向が定まらなかったが、2011 年には正の相関関係が鮮明になった。

上級生では、④が③ときどき／④ひんぱんにあった者は、北大では 2011 年一年生 57% に対して三年生 74%, 全体では一年生 33% に対して上級生 52% と、一年生より 15～20 ポイント多い。④の頻度と GPA との間には、北大でも、全体でも一年生とほぼ同じ正の相関関係がみられる。

[問 7] ①* 取りたい授業を履修できなかった (図 6.2)

一年生・全体では①取りたい授業を履修できなかった頻度と成績の間にゆるやかな負の相関関係がみられる。北大では、2009 年、2010 年には傾向

が定まらなかったが、2011 年には両者の間に相関関係はまったくないといってよい。総合入試導入の結果、「取りたい授業」かどうかにかかわらず学習に真剣に向き合う姿勢が強まったとみられる。

上級生では、専門科目は必修が多いため、①が③ときどき／④ひんぱんにあった者は、北大では 2011 年一年生 69% に対して三年生 16%, 全体では一年生 42% に対して上級生 29% と、一年生より目立って少ない。①の頻度と GPA との間には弱い負の相関関係がみられる。

[問 8] ③インターネットを使って授業課題をやりとりした (図 6.3)

一年生では、③ LMS 利用の頻度と学習成果の間には、北大でも、全体でも、回答数の少ない①まったくしなかった以外では、ゆるやかな正の相関関係がみられる。

上級生では、③ときどき／④ひんぱんに③をした者は、北大では一年生 96% に対して三年生 41% と半減し、全体でも一年生 77% に対して上級生 62% と少ない。③の頻度と GPA の間の相関関係は弱い。

[問 8] ⑥* 授業を欠席した (図 6.4)

⑥欠席の頻度と成績の間には、北大と全体、一年生と上級生ともに、強い負の相関関係がみられる。

総合入試制度と単位の実質化の取組の下では、授業に出ずに自習だけで好成績を上げたり、授業に出ても集中せず成果が上がらなかったりする者はきわめて少ないとみられる。

[問 9] ⑧授業時間以外に勉強や宿題をする (図 6.5)

一年生では、⑧授業時間以外の学習と成績の間には、北大、全体とも、⑥ 15 時間未満では比較的強い正の相関関係がみられる。⑦ 16 時間以上で傾向が逆転するのは、回答数が少ないのと、長時間学習しても成果が上がらない者がいる半面、成績優秀者は短時間の学習で成果を上げるためだろう。

自習時間帯別 GPA のピークが、2011 年に北大

で⑥ 11～15 時間⇒⑦ 16～20 時間に上昇したのは、総合入試導入の結果、学生が学業成績への志向を強めたためとみられる。

上級生でも同様の傾向だが、時間帯別 GPA のピークは⑦ 16～20 時間で、長時間学習する者が多い。

[問9]⑤大学外でアルバイトや仕事をする(図6.6)

⑤アルバイトや仕事と成績の関係はやや複雑で、一年生・全体では、3 年とも、5～10 時間を超えるあたりから負の相関関係がみられる。北大では、①全然ない(284 人)以外は回答数が少なく、バラツキが大きい。

上級生でも同様の傾向で、北大でもバラツキは少ない。

[問 11] 英語運用能力の熟達度(図 6.7～6.10)

一年生について、②調査時の④聞く力⑤読む力⑥会話力⑦書く力の自己評価と、2009 年・2010 年

1 学期、2011 年 2 学期の各技能を対象とする英語授業の成績(GPA)の関係をみる。

全体では、回答数が少ない上級(C)以外は自己評価と成績の間に安定した正の相関関係がみられる。

北大では、⑤読む力については、回答数が少ない A1 以外では、正の相関関係がみられる。その他の技能は回答数が少なく、年によるバラツキが大きく、一定の傾向を見いだすのはむずかしい。

北大では、英語運用能力の自己評価は、英語授業の成績(GPA)とよりも、TOEFL-ITP のスコアとの相関(44 ページ図 3.6)のほうが強いようにみえる。

図 6 では 2011 年の GPA の分布(%) (棒グラフ)と 2009～2011 年の GPA 平均(折れ線グラフ)に 2011 年の数値を付記する。

GPA データと関連づけられる回答数は、2011 年一年生では、全体 4,500～5,000 件、北大 230～450 件前後である。

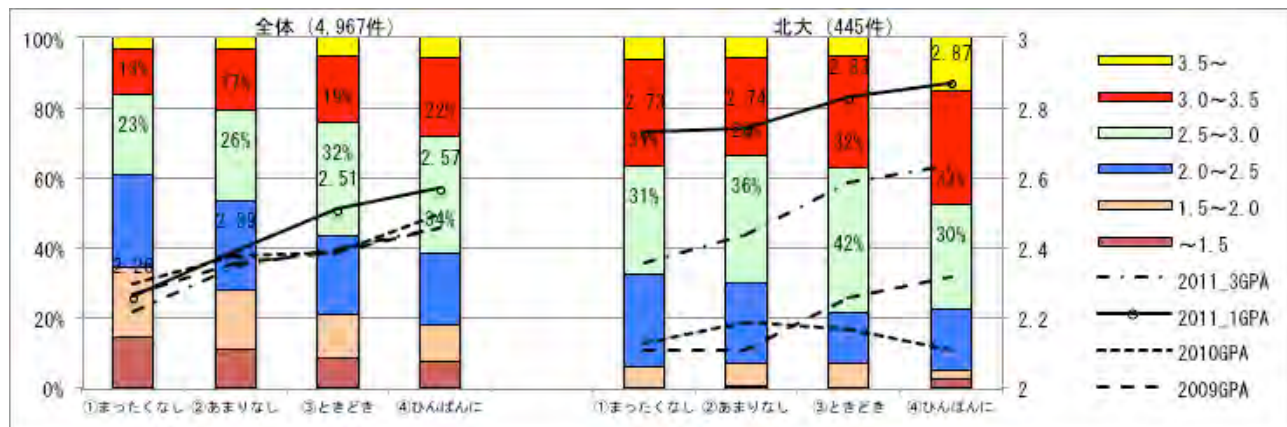


図 6.1. [問 7] ④体験学習の頻度別の GPA 分布と平均

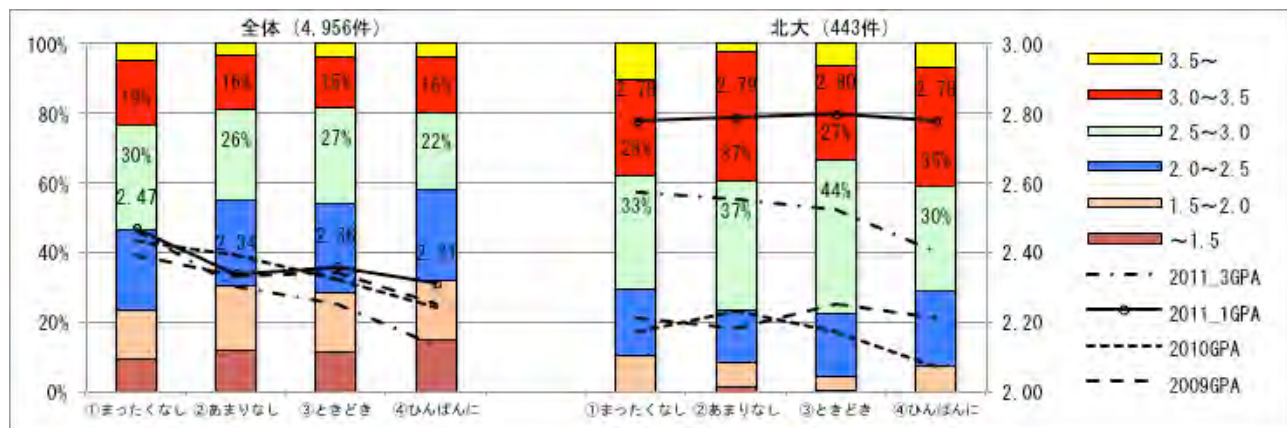


図 6.2. [問 7L] 取りたい授業を履修できなかった頻度別の GPA 分布と平均

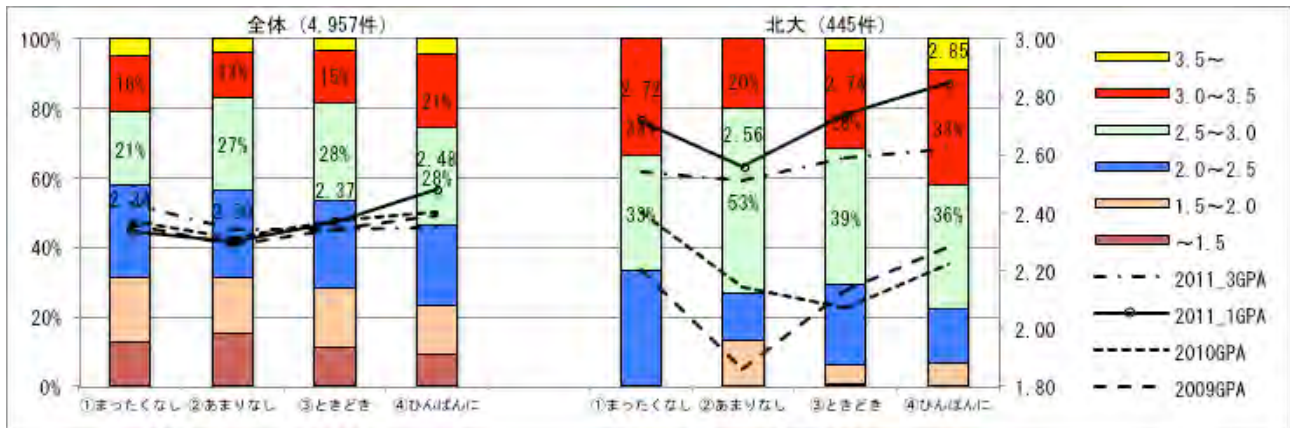


図 6.3. [問 8] ©インターネットを使った授業課題のやりとりの頻度別の GPA 分布と平均

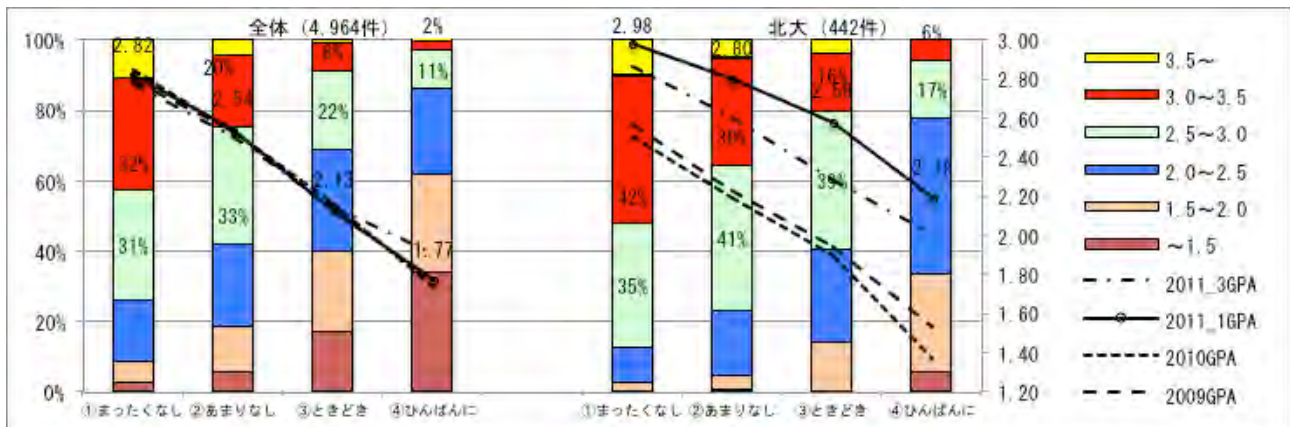


図 6.4. [問 8] ©授業を欠席した頻度別の GPA 分布と平均

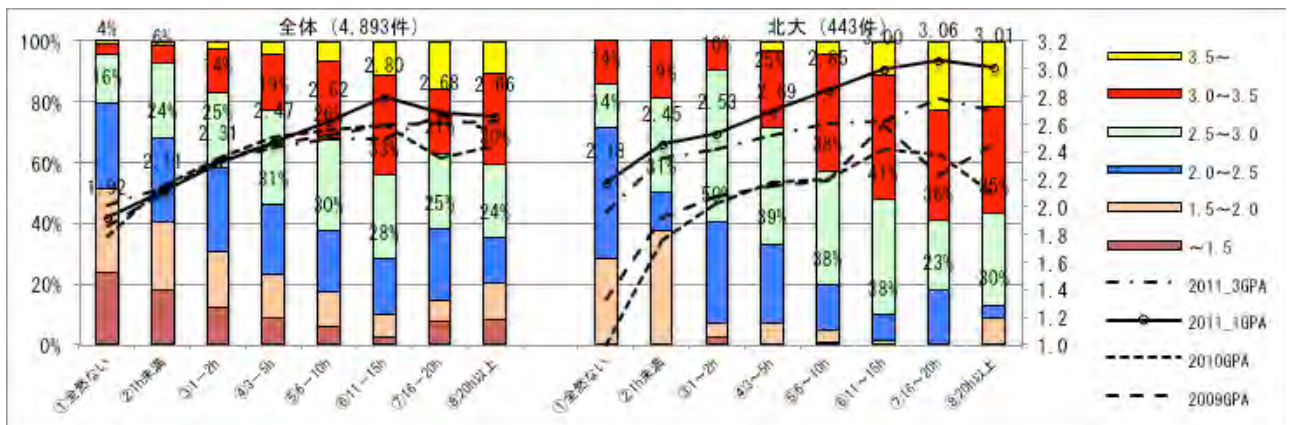


図 6.5. [問 9] ©授業時間以外に勉強や宿題をした時間別の GPA 分布と平均

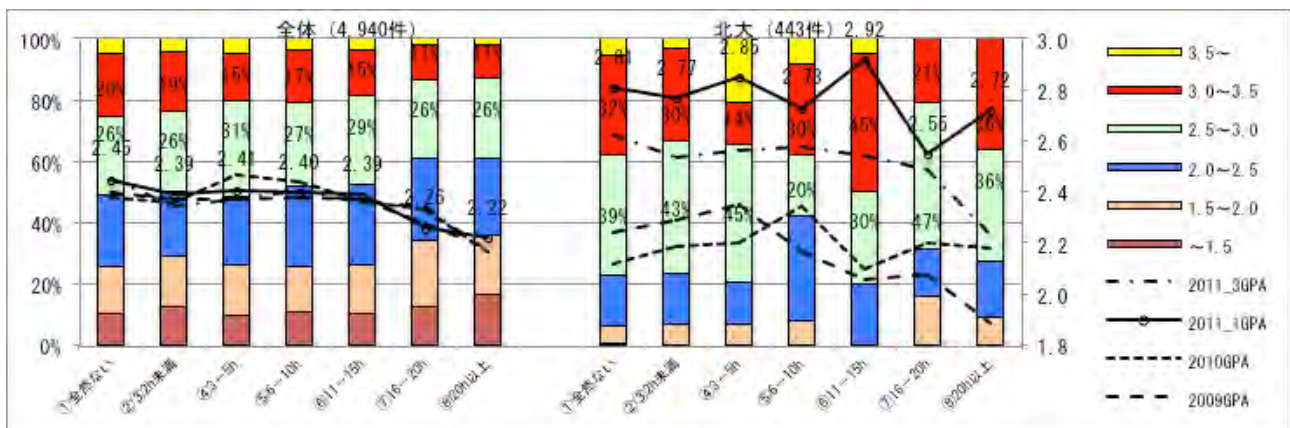


図 6.6. [問 9] ©大学外でアルバイトや仕事をした時間別の GPA 分布と平均

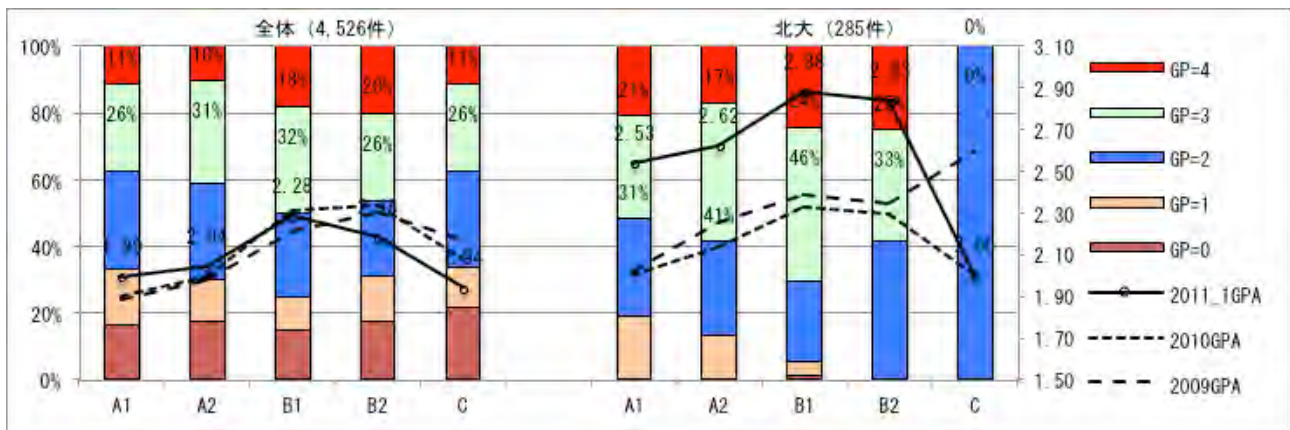


図 6.7. [問 11] ㉠聞く力②調査時の熟達度と英語の成績 (GPA 分布と平均)

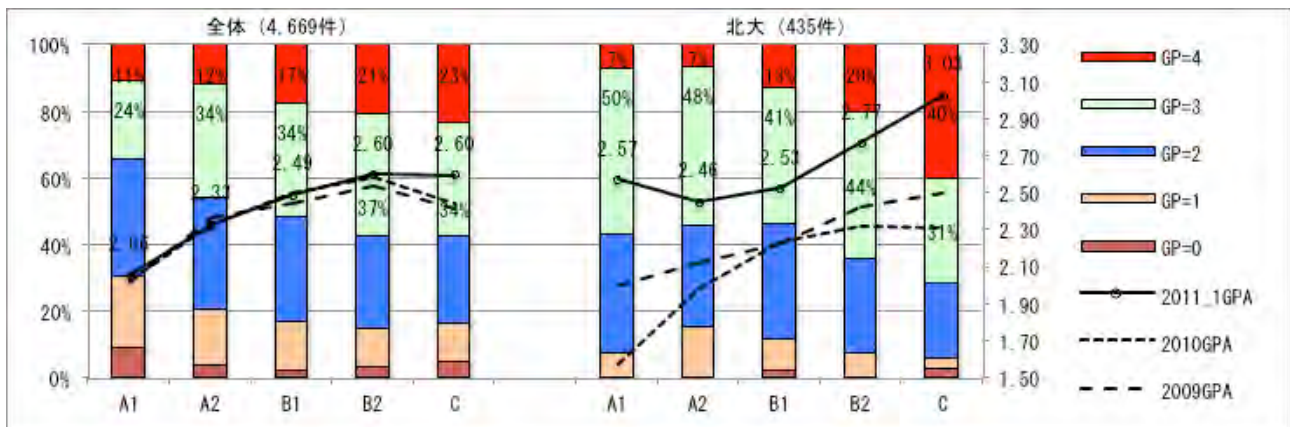


図 6.8. [問 11] ㉠読む力②調査時の熟達度と英語の成績 (GPA 分布と平均)

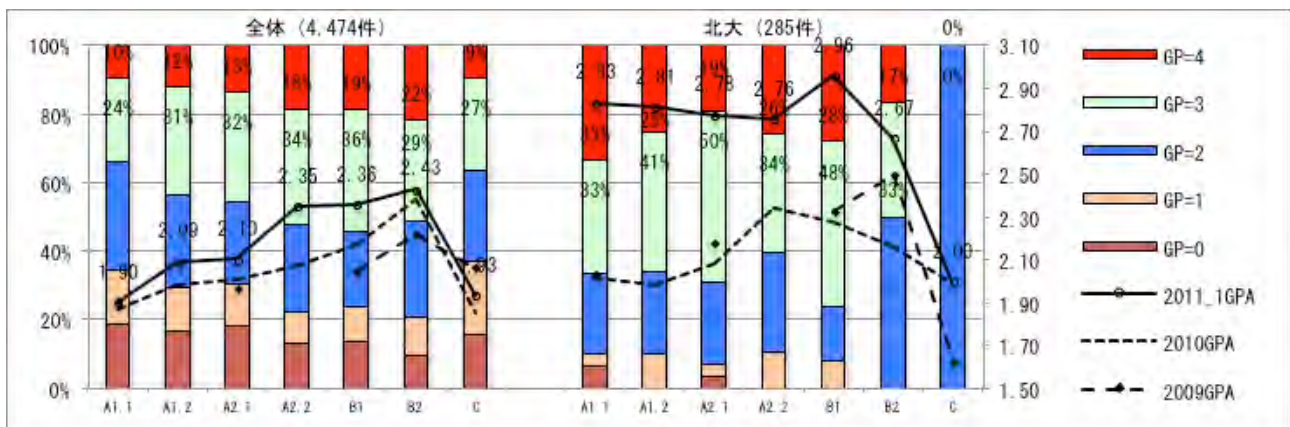


図 6.9. [問 11] ㉠会話力②調査時の熟達度と英語の成績 (GPA 分布と平均)

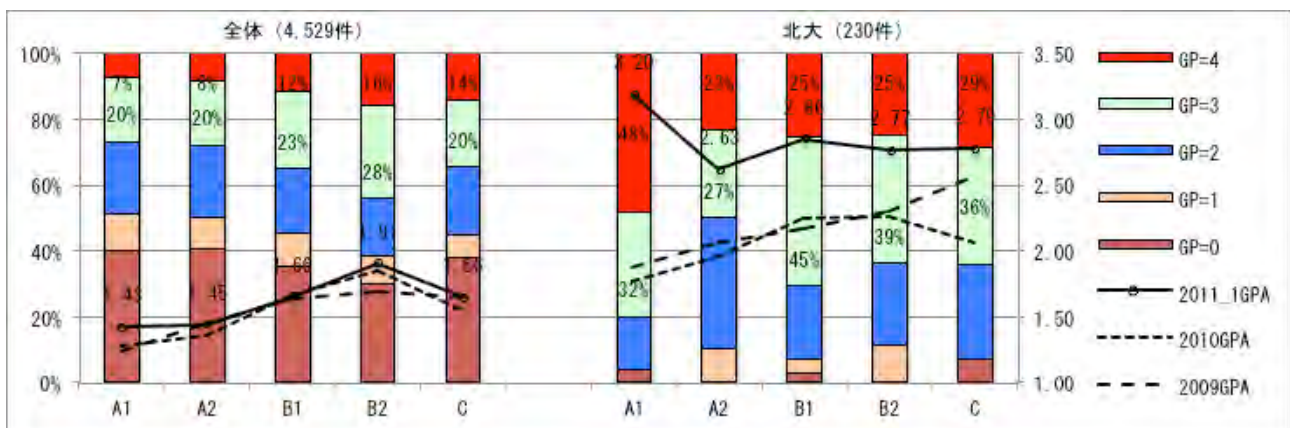


図 6.10. [問 11] ㉠書く力②調査時の熟達度と英語の成績 (GPA 分布と平均)

7. まとめ

本調査も3年をへて、大部分の項目では回答の比率、平均値は比較的安定している。

回答の平均値が3年で0.1ポイント以上変動した項目は、一年生、全体では[問7] ④実験、実習、フィールドワークなどで体験的に学ぶ(下降↓), ⑥教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する(↓), ⑨学生が自分の考えや研究を発表する(上昇↑), ①授業中に学生同士が議論をする(↑), ①* 取りたい授業を履修できなかった(↑), [問8] ⑩* 提出期限までに課題を完成できなかった(↓), ⑨* 授業に遅刻した(↓), [問10] ⑭外国語の運用能力(↑), [問11] 英語運用能力: ⑧読む力②調査時(↑), ⑩表現力①入学時②調査時(↑), ⑨書く力①入学時②調査時(↑), [問19] ⑪レクリエーション施設(↑)などである。

北大では、変動項目はさらに多いが、その多くは総合入試導入と関連づけて説明できる。

北大の特徴としては、前回もあげた(参考文献2) 1) コアカリキュラムの充実と2) 単位の実質化と自習促進の成果は変わらず、今回は3) 総合入試・総合教育導入の影響で学習環境や学生の意識が大きく変化したほか、4) 総合大学の共通教育のメリット、前回につづいて5) 女性の適応感・充実感・満足感が高いことも特徴といえる。

1) コアカリキュラムの充実

これまでの北大における全学教育・初年次教育改善の成果が学生の経験や意識に反映している。

1. [問7] (授業経験) では④実験、実習、フィールドワーク等で体験的に学ぶ、⑮TA・SAから補助を受けることが多い。④⑮とも、理系では北大と全体の差がなくなり、北大では文系でも広く経験していることが特徴である。
2. [問10] (能力変化) では⑩コンピュータの操作能力、⑨異文化の人々に関する知識、③専門分野の知識、④一般的な教養が増えた者が多い。⑩は理系では北大と全体の差は小さくな

り、文系では北大がやや上回る。⑨は前は北大②女性の高い関心が目立ったが、今回は後退した。③は北大が大きく下回り、④は北大と全体、文系と理系でほとんど差はない。

3. [問11] (英語運用能力) では、①入学時②調査時とも⑧読む力と⑨書く力の熟達度が高く、④聞く力と③会話力は低い。運用能力の伸びは④③が大きく、⑧⑨は小さい。一年生の約2割が⑧は①入学時より1段階上昇した、約1割は1段階低下したと感じている。

北大では英語運用能力が⑧読む力⑨書く力など入試で重視される技能に片寄る傾向が強まっているようにもみえる。2013年度から新渡戸カレッジがはじまり、大学らしい実践的な外国語学習が広まることを期待したい。

CEFR尺度による英語運用能力の自己評価とTOEFL-ITPのスコアの関係を見ると、③会話力以外の4技能については、TOEFL-ITPの平均点が自己評価レベルの初級(A)⇒上級(C)へなだらかな右肩上がりになっており、自己評価はおおむね適切とみられる。

4. [問18] (教育内容への満足感) では、⑧初年次教育プログラムの内容、[問19] (教育環境に対する満足感) では、③コンピュータの施設や設備、④図書館の設備、⑨インターネットの使いやすさ、理系では⑧実験室の設備や器具への満足感が高い。

北大では1995年の学部一貫教育・全学共通教育の開始から、①2001年の教養科目コアカリキュラム導入(参考文献9)、②2006年の基礎科目、外国語科目を中心とする新教育課程導入および厳格な成績評価・GPA制度・CAP制による単位の実質化と自習促進の取組(参考文献6)をへて、③2011年の総合入試・総合教育導入にいたる一連の教育改革を進め、「データに基づいた教育改革」を掲げて教学評価活動に力を入れてきた。

2) 単位の実質化と自習促進の成果

北大では単位の実質化と自習促進の取組が成果を上げていることがうかがえる。

1. [問 8] (学習行動・態度) では、④図書館の資料や⑤ Web 上の情報を利用した、⑥インターネット (LMS) で授業課題をやりとりした者が多い。授業を⑦ * 欠席⑧ * 遅刻した者は少ない。④図書館資料の利用は北大では文系と理系が同率で高く、全体の理系、文系がつづく。⑤ Web 資料と⑥ LMS の利用は北大が全体を上回るが、経年変化は漸減あるいは頭打ちの傾向にある。⑥ LMS の利用は北大では文系のほうが多い。⑦ * 欠席は全体では文系のほうが多いが、北大では文系が理系と同程度に減少した。
2. [問 9] (活動時間) では、(1) ④授業や実験、(2) ⑤授業時間以外の学習、(4) ⑥部活動や同好会、(6) ⑦読書の時間は北大のほうが長い。北大・理系で⑧が大きく増え、⑨アルバイトや仕事が減った。⑩は北大・文系が特に長い。

3) 総合入試・総合教育導入の影響

[問 9] ⑧授業時間以外の学習時間の増加や、GPA の上昇は、総合入試導入の成果といえる。

単位の実質化、総合入試制度など、適切な枠組みがあれば、学生はそれに沿って学業に励むことがデータからみてとれる。

1. [問 7] ① * 取りたい授業を履修できなかった者が急増し、2012 年度には必要な対策がとられた。① * の頻度と学習成果 (GPA) の間には、2011 年の北大では相関関係はない (図 6.2)。 「取りたい授業」かどうかに関わりなく学習に真剣に向き合う姿勢が強まったといえる。
2. [問 8] ⑤授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり授業内容に話したりしたことは、北大は全体を下回り、減少傾向にある。
3. [問 9] ⑧授業時間以外の学習時間別の GPA の分布と平均 (図 6.5) をみると、北大では 2011 年度にはどの時間帯でも GPA が大きく上昇し、ピークの時間帯は⑥ 11 ~ 15 時間⇒⑦ 16 ~ 20 時間に上昇した。これも学生が学

業成績への志向を強めた結果といえる。

4. [問 10] ⑨専門分野の知識が北大・理系で急減したのは、総合教育では初年次に学部専門科目は開講されなくなったため、文系で増加したのは新しい文系基礎科目が成果を上げたしといえる。

総合入試制度では、2 年次進級時の移行振分け基準に 1 年次の成績 (移行点) が用いられるため、学生の意識が単位取得と成績 (GPA) に集中しすぎる可能性もあるので、アカデミック・サポートセンター、クラス担任、授業担当教員などによる適切な学修・進路指導が重要である。

「ガリ勉」型の孤独な学習態度が増えているとまではいえないが、教室内外でグループ学習、協調学習を促すことや、図書館と連携したラーニングコモンズなど、自律・協調型の学習支援も有効だろう。

総合入試の導入とともに多くの項目で変動があり、数値の低下もみられた。本学の学生による授業アンケートでも、2001 年度、2006 年度のカリキュラム改革のとき一時的に満足感 (総合評価) の低下がみられた。本調査結果も 2 ~ 3 年のスパンでみるべきだろう。

4) 総合大学の共通教育のメリット

1. 前年まで北大・理系の平均値が高かった [問 7] ④体験的学習、⑨ TA・SA による補助、[問 8] ⑤ Web ⑥ LMS の利用、⑦ * 欠席⑧ * 遅刻、[問 10] ⑨ コンピュータの操作能力などで、今回は理系で北大と全体の差がほぼなくなり、文系の平均値が理系並みに上昇した。
2. [問 8] ④図書館の利用は、全体では文系が高いが、北大では理系が文系と同率に上昇した。

文系と理系が相互に影響し合って好結果が生まれており、これは文系・理系 12 学部を擁する総合大学である本学の共通教育のメリットといえる。

北大では 1995 年の全学共通教育の開始以来、函館の水産学部を除く 11 学部が札幌キャンパスに集中して立地する総合大学としてのメリットを強調し、「最良の専門家による最良の非専門教育」を掲

げて、文理共通の教養教育・全学教育の維持・発展につとめてきた。

5) 女性の適応感・充実感・満足感が高い

北大でも、全体でも、女性のほうが大学生活に適応し、学業でも、その他の活動でも充実し、満足している傾向に変化はない。

1. [問 9] ④授業や実験, ⑤授業時間以外の学習, ⑥アルバイトや仕事の時間は北大も、全体も、3 年とも②女性のほうが長い。①男性のほうが長いのは⑥個人的な趣味活動である。
2. [問 10] ⑤異文化に関する知識, ⑥人間関係を構築する能力, ⑦他の人と協力して物事を遂行する能力, ①異文化の人々と協力する能力, ⑧コミュニケーションの能力などは、北大でも、全体でも、3 年とも②女性のほうが増えている。①男性のほうが増えたのは④批判的に考える能力と⑦数理的な能力である。
3. [問 16] (大学生活への適応感) では、⑥大学教員と顔見知りになる, ⑦他の学生との友情など、人間関係に関する満足感に北大も、全体も、3 年とも、また④大学の学生向けサービスの利用は北大では 3 年とも、②女性のほうが高い。①男性のほうが高いのは④大学が求める水準に応えた学習である。
4. [問 17] (学生生活の充実感) や [問 18] のすべての項目でも、北大も、全体も、3 年とも②女性のほうが充実感、満足感が高い。

学生のなかの女性の比率が今後さらに上がるなら、学生全体の適応感・充実感・満足感もさらに上昇することが予想される。

北大では人材育成本部に女性研究者支援室を置き、女性研究者ならびに研究者をめざす女性たちが、女子学生・大学院生、学術研究員、教員などの立場にかかわらず、その能力を発揮する機会を得られるよう、さまざまな支援活動をすすめている (参考リンク 21)。

6) さらに改善が見込める事項

そのほか、[問 7] ⑥仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ, ④授業の一環でボランティア活動をする, [問 18] ⑥将来の仕事と授業内容の結びつき, [問 19] ①キャリアカウンセリング (就職や進学に関する相談) への満足感などの項目では、北大が全体を下回り、さらに改善が見込める。

特にキャリア関連のプログラムは、私立大学の取組と比べて、本学では拡充の余地があるとみられる。

北大の全学教育では、初年次向けのキャリア科目として「インターンシップ」(2011 年度履修者 100 人), 特別講義「大学と社会」(191 人), 同「キャリアデザイン」(1 学期 78 人, 2 学期 61 人) を開講している (参考リンク 22)。

北海道大学は、4 つの基本理念 (①フロンティア精神, ②国際性の涵養, ③全人教育, ④実学の重視) と 4 つの教育目標 (①高いコミュニケーション能力, ②社会や文化の多様性の理解, ③独創的な思考力と建設的な批判能力, ④社会的な責任と倫理の自覚) を掲げている (参考リンク 23)。

本調査結果から、これらの理念と目標は学生の意識のなかにある程度具現化されているといえる。

おわりに

平成 20 年の中教審・学士課程教育答申で最重要課題とされた 3 つの方針 (ポリシー) の明確化 (2 ページ参照) に関して、本学ではすでに各学部・研究科等の規程に、ディプロマ・ポリシー (DP) の基礎となる人材育成の目標を明示するとともに、より詳しい大学および各部署のアドミッション・ポリシー (AP) を公表し入試広報に活用している (参考リンク 35)。また、カリキュラム・ポリシー (CP) に関連して、2013 年度からシラバスにコースナビリング制度を導入し、今後はカリキュラムマップの作成が課題となっている (参考文献 36)。

また、本学では第 2 期 (平成 22 ～ 27 年度) 中期目標・中期計画に「教育効果を検証しつつ、単位制度の実質化を推進する」「GPA 等に基づく厳格な

卒業認定基準を導入する」と明記し、多様なデータに基づき教育改善をすすめている。

IR 活動は、これらの取組がどのような成果を上げたか、学生が大学での学習をとおしてどのような能力を獲得したかを検証するための有力なツールとして期待される。

これまでは学生による授業アンケートや GPA、自習時間などのデータを利用してきたが、本調査では、学生の学修行動調査および大学間の相互評価という新たな視点から、本学の教育の特徴をより客観的にみることができた。

2011 年には、総合入試制度導入の結果、学生の学習状況に大きな変化がみられた。これに合わせて、また中期目標の達成に向けて、GPA 制度、CAP 制をさらに進化させる必要があるだろう。

2012 年には「国公立 4 大学 IR ネットワーク」事業を継承して大学 IR コンソーシアム（参考リンク 33）が設立され、新たに 8 大学による「教学評価体制（IR ネットワーク）による学士課程教育の質保証」事業（参考リンク 34）がはじまり、学生調査をさらに 5 年間つづけることになった。参加校が増え、膨大なデータが継続的に集められる体制が整い、今後は調査結果の有効活用が重要になる。

2013 年度は今期中期目標期間の後半に入るので、本調査の結果が教学評価の根拠データとして役立つことも期待される。また、総合入試と学部別入試の一年生の学びの意識の違いもみてみたい。さらに、「新渡戸カレッジ」のような 200 人程度の少人数プログラムの成果の評価にも利用できるだろう。

今回の新しい試みの一つは、学生の回答（間接評

価）と成績 (GPA) (直接評価) の関連の分析である。欠席の多い学生層ほど GPA が低いのは当然といえるが、当面はこのような当然のことをデータで確認することが重要で、そのなかから特異点も浮かび上がるだろう。

本調査をとおして、北大と全体では [問 9] ⑧授業時間以外の学習と⑨アルバイトや仕事の時間が正反対で倍も違うなど、地域や専門分野により大学の学びの文化が大きく異なることが明らかになった。国公立大学と私立大学の間の財政基盤、人的・物的資源、文化、伝統の違いも大きい。

とはいえ、異質なものと比較をつうじて自校の教育活動の特徴を知ることができる意義は大きい。

北大の回答者数は全体の 1 割に満たず、全体では文系の学生が多いのに対して北大では理系の学生が多く、他の 4 大学が関西の大都市圏に立地するのに対して北大は生活文化が大きく異なる地方都市圏に立地するなど、本調査は北大の教育の特徴が目立ちやすい構造になっている。

8 大学の連携共同教育推進事業には関西のほか東京と沖縄の大学も参加するので、またすこし違った風景がみられることを期待したい。

インディアナ大学で運営する全米学生調査 NSSE では、全米約 700 大学での調査結果が、米国で標準的なカーネギー大学分類の 6 大基本類型に分けて集計して各校に提供され、自校と同じ種類の大学のデータと比較できる。これは大学教育の成果に関するある種のベンチマーキングといえる。日本でも IR コンソーシアムの参加校がさらに増え、そのような比較が可能になることを期待している。

8. 謝辞

学生調査 2011 年の実施については、参加 5 大学（同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学、関西学院大学）の関係各位にたいへんお世話になりました。

特に、戦略的大学連携事業 学生調査部会の山田礼子（同志社大学）、宮田尚子（同志社大学）、星野聡孝（大阪府立大学）、伊庭緑（甲南大学）、牛尾久美子（甲南大学）の各氏に深い感謝を申し上げます。

付録 1: 質問項目

一年生調査 2011 年

調査ご協力をお願い

学生の皆さん

この調査は、同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学、関西学院大学が連携して、学生の皆さんに大学生活を自己評価していただき、それぞれの大学における教育の成果を測定することを目的として実施します。調査結果から得られた各大学の教育内容の特徴を大学間で相互に評価し合い、教育の質を客観的に保証するとともに、更なる教育改善の方策を見出していくことを目的としておりますので、皆様にはご協力いただけますようよろしくお願いします。

なお、ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理しますので、皆さんの回答が他の人に知られることはありません。お答えは、特にことわりや指示のない限り、もっともよくあてはまるものを 1 つだけ選んでください。また、回答できない箇所は空白にさせていただいて結構です。その他、ご不明な点がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

高等教育推進機構長・副学長 山口 佳三

担当：北海道大学学務部教務課教育推進担当

TEL：011-706-5567

e-mail：suishin@academic.hokudai.ac.jp

●回答期間 2011/10/31 ～ 2011/11/21

「一年生調査 2011 年」は、平成 21 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」の事業の一環として、同志社大学、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学、関西学院大学で構成する「大学 IR 学生調査ネットワーク」のプロジェクト・チームが、日本版新入生調査 (JFS)、日本版大学生調査 (JCSS)、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) など国内外の調査研究をもとに作成したものです。調査票の無断複写は固く禁じます。

1. 最初にあなたのご自身のことについておうかがいします。

〔1〕あなたの学籍番号（学生 ID）を教えてください。左詰めでご記入ください。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 今回の調査では、学籍番号をもとに、みなさんの学習状況と GPA や取得単位数等の相関関係を分析します。また、みなさんが 3 年生、4 年生になられた時点でも同様の調査を実施し、大学 1 年生のときに感じられたことがどのように変化したのかを探り、大学における教育成果を測定することを計画しています。そのために、学籍番号のご記入を任意でお願いしています。学籍番号は暗号化して分析作業を進めますので、個人を特定できる情報が分析者も含めて他人に知られることはありませんが、記入したくない人は空白にしておいてください。

〔2〕あなたが本学で専攻する専門分野（所属する学科）はどれですか。^{注）}

1. 人文科学（文学、哲学、宗教学、歴史学、外国語学、心理学など）
2. 法学・政治学（法律学、政策科学、行政学、総合政策学など）
3. 経済学・経営学・商学・会計学（マネジメント創造学）
4. 上記以外の社会科学（人類学、民俗学、地理学、社会学、社会福祉学、人間福祉学など）

5. 理学（数学、物理学、天文学、地球科学、化学、生物学、フロンティアサイエンスなど）
6. 工学（土木工学、機械工学、化学工学、電気工学、航空宇宙学、情報学など）
7. 農学（農芸化学、農業経済、応用植物学、獣医学、畜産学、生命情報学、緑地学など）
8. 保健（医学、歯学、薬学、看護学、リハビリテーション学など）
9. 家政学（家政学、生活科学、栄養学など）
10. 教育学（教員養成課程、スポーツ健康科学、幼児保育学など）
11. 芸術（美術、造形、音楽、デザインなど）
12. 文理融合（文化情報学、社会情報学、環境デザイン学、社会生活環境学など）
13. その他（具体的に

^{注)} 北海道大学では①文学部, ②法学部, ③経済学部, ⑤理学部, ⑥工学部, ⑦農学部・獣医学部, ⑧医学部・歯学部・薬学部, ⑩教育学部,

⑬水産学部および⑬その他・文系総合, ⑬その他・理系総合を選択肢とし, 集計のときに上記の専門分野に関連づけた。

〔3〕あなたの性別をお答えください。

1. 男性
2. 女性

〔4〕2011年4月1日の時点で、あなたは何歳でしたか。数字でお答えください。

歳

〔5〕あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 30分未満
2. 30分以上－1時間未満
3. 1時間以上－1時間30分未満
4. 1時間30分以上－2時間未満
5. 2時間以上

〔6〕あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所

Ⅱ. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

〔7〕あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

- A. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ
 - B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
 - C. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
 - D. 授業の一環でボランティア活動をする
 - E. 学生自身が文献や資料を調べる
 - F. 定期的に小テストやレポートが課される
 - G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
 - H. 学生が自分の考えや研究を発表する
 - I. 授業中に学生同士が議論をする
 - J. 授業で検討するテーマを学生が設定する
 - K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
 - L. 取りたい授業を履修登録できなかった
 - M. 出席することが重視される
 - N. TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける
- 選択肢）4. ひんぱんにあった 3. ときどきあった 2. あまりなかった 1. まったくなかった

〔8〕大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

- A. 授業課題のために図書館の資料を利用した
- B. 授業課題のために Web 上の情報を利用した

- C. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした
- D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった
- E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした
- F. 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた
- G. 授業を欠席した
- H. 授業に遅刻した
- I. 授業をつまらなく感じた
- J. 授業中に居眠りをした
- K. 教員の研究プロジェクトに参加した
- L. 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
- M. 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）
- N. 教員に親近感を感じた

選択肢) 4. ひんぱんにした 3. ときどきした 2. あまりしなかった 1. まったくしなかった

〔9〕入学以来、あなたは次の活動に 1週間あたり どのくらいの時間を費やしましたか。

- A. 授業や実験に出る
- B. 授業時間以外に勉強や宿題する
- C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する
- D. 部活動や同好会に参加する
- E. 大学外でアルバイトや仕事をする
- F. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
- G. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

選択肢) 1. 全然ない 2. 1時間未満 3. 1—2時間 4. 3—5時間
5. 6—10時間 6. 11—15時間 7. 16—20時間 8. 20時間以上

〔10〕入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| A. 一般的な教養 | B. 分析力や問題解決能力 |
| C. 専門分野や学科の知識 | D. 批判的に考える能力 |
| E. 異文化の人々に関する知識 | F. リーダーシップの能力 |
| G. 人間関係を構築する能力 | H. 他の人と協力して物事を遂行する能力 |
| I. 異文化の人々と協力する能力 | J. 地域社会が直面する問題を理解する能力 |
| K. 国民が直面する問題を理解する能力 | L. 文章表現の能力 |
| M. 外国語の運用能力 | N. コミュニケーションの能力 |
| O. プレゼンテーションの能力 | P. 数理的な能力 |
| Q. コンピュータの操作能力 | R. 時間を効果的に利用する能力 |
| S. グローバルな問題の理解 | T. 卒業後に就職するための準備の程度 |

選択肢) 5. 大きく増えた 4. 増えた 3. 変化なし 2. 減った 1. 大きく減った

Ⅲ. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

〔11〕あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、到達していると思うレベルを、①入学時と②現在それぞれについて1つずつ答えてください。

^{注)} 上級生調査では〔問11〕の①入学時についての質問は割愛されている。

A. 聞く力		①入学時	②現在
A1	はっきりと、ゆっくり話してもらえれば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	1	1
A2	最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2	2
B1	身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3	3
B2	テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4	4
C1	特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5	5
C2	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6	6
B. 読む力		①入学時	②現在
A1	掲示やポスター、カタログなどの中をよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1	1
A2	ごく短い簡単な文章や、簡単に短い個人的な手紙は理解できる。	2	2
B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単に個人的な手紙を理解できる。	3	3
B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4	4
C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門の記事も理解できる。	5	5
C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6	6
C. 会話力		①入学時	②現在
A1.1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1	1
A1.2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2	2
A2.1	短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくい、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3	3
A2.2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4	4
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5	5
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6	6
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7	7
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8	8
D. 表現力		①入学時	②現在
A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1	1
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2	2
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	3	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4	4
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5	5
C2	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	6	6
E. 書く力		①入学時	②現在
A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1	1
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2	2
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4	4
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5	5
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6	6

〔12〕あなたは英語が好きですか。

1. 好き 2. どちらかといえば好き 3. 好きでも嫌いでもない
4. どちらかといえば嫌い 5. 嫌い

〔13〕あなたは英語が得意ですか。

1. とても得意 2. どちらかといえば得意 3. 得意でも苦手でもない
4. どちらかといえば苦手 5. とても苦手

〔14〕アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなど英語圏への渡航経験について
おうかがいします。あてはまるものをすべて選んでください。

1. 英語圏に行ったことはない
2. 英語圏に旅行したことがある
3. 英語圏で1ヶ月未満のホームステイ・留学をしたことがある
4. 英語圏で1ヶ月以上6ヶ月未満のホームステイ・留学をしたことがある
5. 英語圏で6ヶ月以上1年未満のホームステイ・留学をしたことがある
6. 英語圏で1年以上のホームステイ・留学をしたことがある
7. 英語圏に住んでいたことがある

〔15〕あなたが、今までに受験したことのある英語の検定試験についておうかがいします。あてはまるもののをすべて選び、それぞれの試験について取得したスコアまたは級のなかで最も高いものを教えてください。

あてはまるものすべてに○

↓

取得したスコア／級のなかで最も高いもの

1. 今までに英語の検定試験を受けたことはない

↓

2. 実用英語技能検定（英検）

級

3. TOEIC 公開テスト

点

4. TOEIC IP テスト (団体特別受験)

11

5. TOEIC Bridge テスト

点

6. TOEFL テスト ITP (団体受験)

点

7. インターネット版 TOEFL テスト (TOEFL iBT)

点

8. その他（具体的に

点 / 級

Ⅳ. 次に、大学生活に対するあなたの考えや満足度についておうかがいします。

「16」 本学に入学してから、あなたは次のことについてどれくらいうまくいきましたか。

- A. 大学の学生向けサービスを上手に利用する
B. 大学教員の学問的な期待を理解する
C. 効果的に学習する技能を修得する
D. 大学が求める水準に応じて学習する
E. 時間を効果的に使う
F. 大学教員と顔見知りになる
G. 他の学生との友情を深める

選択肢) 4. とてもうまくいった 3. いくらかうまくいった

2. あまりうまくいかなかった 1. まったくうまくいかなかった

「17」あなたの学生生活は充実していますか。

1. 充実している 2. まあまあ充実している
3. あまり充実していない 4. 充実していない

「18」あなたは、本学の教育内容にどれくらい満足していますか。

- A. 共通教育あるいは教養教育の授業
- B. 初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）
- C. 授業の全体的な質
- D. 日常生活と授業内容との関連
- E. 将来の仕事と授業内容の結びつき
- F. 教員と話をする機会
- G. 個別の学習指導や援助（履修相談など）
- H. 他の学生と話をする機会
- I. 大学のなかでの学生同士の一体感
- J. 多様な考え方を認め合う雰囲気
- K. 大学での経験全般について
- L. 1つの授業を履修する学生数

選択肢) 5. とても満足 4. 満足 3. どちらでもない 2. 不満 1. とても不満

「19」あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

- A. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス） B. 実験室の設備や器具
C. コンピュータの施設や設備 D. コンピュータの訓練や援助

- E. インターネットの使いやすさ F. 奨学金など学費援助の制度
G. 健康保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）
H. レクリエーション施設（ジムの設備など）
I. キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

選択肢）5. とても満足 4. 満足 3. どちらでもない 2. 不満 1. とても不満

〔20〕あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。

1. 就職する 2. 大学院に進学する 3. 留学する 4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する 6. まだわからない 7. その他（具体的に ）

V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

^{注)} 上級生調査では〔問 21 ～ 25〕は割愛されている。

〔21〕あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。

1. 現役 2. 浪人 3. その他（留学生、社会人など）

〔22〕どのような入学試験を受けて、あなたは本学に入学しましたか。

1. 一般入試（国公立大学の前・中・後期日程、及び、私立大学の一般入試を含む）
2. 一般入試と大学入試センター試験の併用型入試（ただし、私立大学のみを含む）
3. 大学入試センター試験（単独）利用型入試（ただし、私立大学のみを含む）
4. 内部進学（学内付属校からの進学）
5. 指定校推薦 6. スポーツや課外活動の推薦
7. 公募推薦 8. AO 選考
9. 留学生入試 10. 社会人入試
11. 編入学 12. その他の試験（帰国子女入試など）

〔23〕あなたの志望大学の中で、本学は第 1 志望でしたか。

1. 第 1 志望だった 2. 第 1 志望ではなかった

〔24〕あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

1. 上位の方 2. 中の上くらい 3. 中くらい
4. 中の下くらい 5. 下位の方 6. その他（わからない、覚えていない、など）

〔25〕あなたが高校 3 年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

- A. 授業中、質問した
B. 自分の意見を論理的に主張した
C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明した
D. 自発的に作文の練習をした
E. インターネット上の情報が事実かどうか確認した
F. 困難なことにあえて挑戦した
G. 問題に対処するために新しい解決策を求めた
H. 科学的研究の記事や論文を読んだ
I. 授業以外に興味のあることを自分で勉強した
J. 自分の失敗から学んだ
K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた
選択肢）4. ひんぱんにした 3. ときどきした 2. あまりしなかった 1. まったくしなかった

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

付録2：基礎集計（北海道大学と全参加大学：2011年上級生／一年生，2010年一年生，2009年一年生）

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
[問1] 大学	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
北海道大学	564	100	475	100.0	403	100.0	454	100.0								
全参加大学									4737	100.0	6109	100.0	4690	100.0	4723	100.0
[問2] 所属学科																
①人文科学	44	7.8	32	7.0	33	8.3	27	6.0	520	11.0	757	12.5	647	13.9	492	10.6
②法学・政治学	48	8.5	23	5.0	28	7.1	46	10.2	421	8.9	850	14.0	508	10.9	519	11.1
③経済学・経営学	44	7.8	15	3.3	36	9.1	35	7.7	1712	36.3	2321	38.2	1501	32.3	1608	34.5
④上記以外の社会科学									122	2.6	203	3.3	200	4.3	263	5.6
⑩教育学	16	2.8	7	1.5	14	3.5	9	2.0	72	1.5	116	1.9	124	2.7	132	2.8
⑬文系総合			17	3.7							17	0.3				
文系小計	152	27.0	94	20.5	111	28.0	117	25.8	2847	60.4	4264	70.3	2980	64.2	3014	64.7
⑤理学	59	10.5	12	2.6	41	10.3	77	17.0	394	8.4	329	5.4	383	8.3	432	9.3
⑥工学	149	26.5	32	7.0	113	28.5	91	20.1	966	20.5	671	11.1	755	16.3	664	14.2
⑦農学	112	19.9	19	4.1	50	12.6	59	13.0	203	4.3	189	3.1	211	4.5	213	4.6
⑧水産学			31	6.8	33	8.3	43	9.5	48	1.0	31	0.5	33	0.7	43	0.9
⑨保健	90	16.0	52	11.4	49	12.3	66	14.6	182	3.9	239	3.9	182	3.9	230	4.9
⑬理系総合			218	47.6							218	3.6				
理系小計	410	73.0	364	79.5	286	72.0	336	74.2	1793	38.0	1677	27.6	1564	33.7	1582	33.9
⑨家政学									12	0.3			16	0.3	14	0.3
⑫文理融合									64	1.4	115	1.9	73	1.6		
⑬その他											13	0.2	7	0.2	52	1.1
その他小計									76	1.6	128	2.1	96	2.1	66	1.4
合計	562	100.0	458	100.0	397	100.0	453	100.0	4716	100.0	6069	100.0	4640	100.0	4662	100.0
[問3] 性別																
①男性	369	66.2	311	66.0	279	70.1	302	67.1	2970	64.0	3675	60.6	2861	61.6	2950	62.9
②女性	188	25.2	160	34.0	119	29.9	148	32.9	1668	26.5	2391	39.4	1780	38.4	1740	37.1
合計	557	100.0	471	100.0	398	100.0	450	100.0	4638	100.0	6066	100.0	4641	100.0	4690	100.0
[問4] 年齢																
18歳以下	9	1.7	326	72.6	258	67.5	297	66.0	8	0.2	4266	70.7	3248	70.4	3384	72.3
19歳			110	24.5	106	27.7	129	28.7	1052	22.9	1463	24.2	1154	25.0	1069	22.8
20歳	313	58.6	9	2.0	9	2.4	14	3.1	2236	48.6	211	3.5	152	3.3	157	3.4
21歳	167	31.3							1043	22.7						
22歳以上	45	8.4	4	0.9	9	2.4	10	2.2	264	5.7	97	1.6	59	1.3	73	1.6
合計	534	100.0	449	100.0	382	100.0	450	100.0	4603	100.0	6037	100.0	4613	100.0	4683	100.0
[問5] 片道の通学時間																
①～30min.	390	69.6	314	66.1	260	65.3	288	63.9	1715	37.1	1993	32.9	1503	32.2	1497	31.9
②0.5～1h	129	23.0	107	22.5	95	23.9	120	26.6	858	18.6	1204	19.9	952	20.4	984	21.0
③1～1.5h	36	6.4	39	8.2	39	9.8	38	8.4	1151	24.9	1603	26.4	1263	27.1	1247	26.6
④1.5～2h	4	0.7	12	2.5	2	0.5	4	0.9	713	15.4	999	16.5	741	15.9	744	15.8
⑤2h～	1	0.2	3	0.6	2	0.5	1	0.2	183	4.0	264	4.4	206	4.4	223	4.7
合計	560	100.0	475	100.0	398	100.0	451	100.0	4620	100.0	6063	100.0	4665	100.0	4695	100.0
平均（分）	26.6		29.6		29.0		29.1		53.6		56.2		56.3		56.5	
[問6] 居住形態																
①家族・親戚と同居	197	35.3	186	39.3	154	38.5	191	42.6	3005	66.2	4189	69.4	3288	70.7	3331	71.0
②アパート等でひ	325	58.2	238	50.3	193	48.3	212	47.3	1464	32.3	1725	28.6	1280	27.5	1281	27.3
③大学寮や宿所	36	6.5	49	10.4	53	13.3	45	10.0	67	1.5	120	2.0	81	1.7	78	1.7
合計	558	100.0	473	100.0	400	100.0	448	100.0	4536	100.0	6034	100.0	4649	100.0	4690	100.0
[問7A] 授業経験：実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ																
①まったくなかった	93	16.6	52	11.0	59	15.0	65	14.8	1249	26.5	2202	36.2	1467	31.4	1451	31.0
②あまりなかった	55	9.8	151	31.9	104	26.4	102	23.2	1023	21.7	1850	30.4	1458	31.2	1477	31.6
③ときどきあった	151	27.0	228	48.1	203	51.5	232	52.8	1309	27.7	1597	26.2	1319	28.2	1309	28.0
④ひんぱんにあった	261	46.6	43	9.1	28	7.1	40	9.1	1139	24.1	440	7.2	431	9.2	441	9.4
合計	560	100.0	474	100.0	398	100.0	439	100.0	4720	100.0	6089	100.0	4675	100.0	4678	100.0
平均値	2.04		1.55		1.51		1.56		1.50		1.05		1.15		1.16	
[問7B] 授業経験：仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ																
①まったくなかった	83	14.8	100	21.1	71	17.8	68	15.3	523	11.1	837	13.8	660	14.2	545	11.6
②あまりなかった	178	31.8	201	42.3	184	46.0	207	46.5	1668	35.4	2365	38.9	1873	40.2	1843	39.3
③ときどきあった	184	32.9	165	34.7	129	32.3	142	31.9	1956	41.5	2426	40.0	1778	38.1	1861	39.7
④ひんぱんにあった	114	20.4	9	1.9	16	4.0	28	6.3	566	12.0	444	7.3	352	7.5	436	9.3
合計	559	100.0	475	100.0	400	100.0	445	100.0	4713	100.0	6072	100.0	4663	100.0	4685	100.0
平均値	1.59		1.17		1.23		1.29		1.54		1.41		1.39		1.47	
[問7C] 授業経験：授業内容と社会や日常生活のかかりについて、教員が説明する																
①まったくなかった	31	5.6	22	4.7	35	8.8	33	7.4	388	8.3	475	7.8	442	9.5	403	8.6
②あまりなかった	152	27.3	165	35.0	151	37.9	177	39.5	1583	33.7	2084	34.3	1651	35.4	1713	36.6
③ときどきあった	266	47.8	233	49.4	177	44.5	204	45.5	2144	45.7	2875	47.4	2135	45.8	2060	44.0
④ひんぱんにあった	108	19.4	52	11.0	35	8.8	34	7.6	579	12.3	637	10.5	438	9.4	502	10.7
合計	557	100.0	472	100.0	398	100.0	448	100.0	4694	100.0	6071	100.0	4666	100.0	4678	100.0
平均値	1.81		1.67		1.53		1.53		1.62		1.61		1.55		1.57	

注) 2011_3：上級生調査 2011 年；2011_1：一年生調査 2011 年；2010：一年生調査 2010 年；2009：一年生調査 2009 年

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
[問7D]授業経験：授業の一環でボランティア活動をする																
①まったくなかった	499	89.6	435	91.8	365	91.7	407	90.4	3771	80.4	4947	81.5	3844	82.5	3782	81.1
②あまりなかった	47	8.4	37	7.8	32	8.0	38	8.4	588	12.5	790	13.0	618	13.3	649	13.9
③ときどきあった	9	1.6	1	0.2			5	1.1	258	5.5	278	4.6	160	3.4	201	4.3
④ひんばんにあった	2	0.4	1	0.2	1	0.3			71	1.5	54	0.9	40	0.9	31	0.7
合計	557	100.0	474	100.0	398	100.0	450	100.0	4688	100.0	6069	100.0	4662	100.0	4663	100.0
平均値	0.13		0.09		0.09		0.11		0.28		0.25		0.23		0.25	
[問7E]授業経験：学生自身が文献や資料を調べる																
①まったくなかった	10	1.8	14	2.9	5	1.3	13	2.9	172	3.7	302	5.0	240	5.1	297	6.4
②あまりなかった	43	7.7	44	9.3	55	13.9	58	13.0	711	15.2	1136	18.7	923	19.8	1014	21.8
③ときどきあった	215	38.6	248	52.2	172	43.5	202	45.4	2166	46.2	3108	51.2	2340	50.2	2318	49.7
④ひんばんにあった	289	51.9	169	35.6	163	41.3	172	38.7	1640	35.0	1526	25.1	1160	24.9	1032	22.1
合計	557	100.0	475	100.0	395	100.0	445	100.0	4689	100.0	6072	100.0	4663	100.0	4661	100.0
平均値	2.41		2.20		2.25		2.20		2.12		1.96		1.95		1.88	
[問7F]授業経験：定期的に小テストやレポートが課される																
①まったくなかった	8	1.4	2	0.4			3	0.7	60	1.3	37	0.6	17	0.4	20	0.4
②あまりなかった	40	7.2	13	2.7	10	2.5	8	1.8	380	8.1	376	6.2	241	5.2	219	4.7
③ときどきあった	202	36.3	149	31.4	113	28.1	131	29.1	2098	44.6	2708	44.5	2039	43.6	2032	43.4
④ひんばんにあった	306	55.0	311	65.5	279	69.4	308	68.4	2170	46.1	2961	48.7	2380	50.9	2411	51.5
合計	556	100.0	475	100.0	402	100.0	450	100.0	4708	100.0	6082	100.0	4677	100.0	4682	100.0
平均値	2.45		2.62		2.67		2.65		2.35		2.41		2.45		2.46	
[問7G]授業経験：教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する																
①まったくなかった	93	16.8	61	12.9	32	8.2	43	9.7	1124	23.9	1357	22.3	881	18.9	834	17.8
②あまりなかった	180	32.5	186	39.3	144	36.9	161	36.3	1710	36.3	2158	35.5	1594	34.2	1658	35.5
③ときどきあった	196	35.4	200	42.3	181	46.4	205	46.2	1476	31.4	2022	33.2	1718	36.8	1711	36.6
④ひんばんにあった	84	15.2	26	5.5	33	8.5	35	7.9	396	8.4	546	9.0	474	10.2	474	10.1
合計	553	100.0	473	100.0	390	100.0	444	100.0	4706	100.0	6083	100.0	4667	100.0	4677	100.0
平均値	1.49		1.40		1.55		1.52		1.24		1.29		1.38		1.39	
[問7H]授業経験：学生が自分の考えや研究を発表する																
①まったくなかった	66	11.9	47	9.9	36	9.0	51	11.5	403	8.6	541	8.9	581	12.4	581	12.4
②あまりなかった	179	32.3	155	32.7	136	34.0	173	39.0	1317	28.0	1993	32.8	1683	36.0	1755	37.5
③ときどきあった	241	43.5	241	50.8	212	53.0	192	43.2	2220	47.2	2849	46.8	1981	42.4	1969	42.1
④ひんばんにあった	68	12.3	31	6.5	16	4.0	28	6.3	766	16.3	699	11.5	429	9.2	376	8.0
合計	554	100.0	474	100.0	400	100.0	444	100.0	4706	100.0	6082	100.0	4674	100.0	4681	100.0
平均値	1.56		1.54		1.52		1.44		1.71		1.61		1.48		1.46	
[問7I]授業経験：授業中に学生同士が議論をする																
①まったくなかった	91	16.3	54	11.4	69	17.3	68	15.2	738	15.7	918	15.1	938	20.1	934	19.9
②あまりなかった	200	35.9	193	40.8	156	39.2	170	37.9	1661	35.3	2147	35.3	1607	34.4	1682	35.9
③ときどきあった	206	37.0	200	42.3	154	38.7	188	42.0	1735	36.9	2297	37.8	1693	36.2	1661	35.5
④ひんばんにあった	60	10.8	26	5.5	19	4.8	22	4.9	569	12.1	721	11.9	436	9.3	405	8.7
合計	557	100.0	473	100.0	398	100.0	448	100.0	4703	100.0	6083	100.0	4674	100.0	4682	100.0
平均値	1.42		1.42		1.31		1.37		1.45		1.46		1.35		1.33	
[問7J]授業経験：授業で検討するテーマを学生が設定する																
①まったくなかった	204	36.6	175	37.0	129	32.5	162	36.2	1493	31.7	2129	35.1	1858	39.8	1880	40.2
②あまりなかった	206	37.0	177	37.4	162	40.8	171	38.2	1748	37.2	2179	35.9	1674	35.9	1679	35.9
③ときどきあった	119	21.4	111	23.5	98	24.7	107	23.9	1154	24.5	1439	23.7	954	20.4	930	19.9
④ひんばんにあった	28	5.0	10	2.1	8	2.0	8	1.8	309	6.6	321	5.3	180	3.9	189	4.0
合計	557	100.0	473	100.0	397	100.0	448	100.0	4704	100.0	6068	100.0	4666	100.0	4678	100.0
平均値	0.95		0.91		0.96		0.91		1.06		0.99		0.88		0.88	
[問7K]授業経験：授業の進め方に学生の意見が取り入れられる																
①まったくなかった	142	25.5	119	25.3	105	26.5	115	25.6	1094	23.3	1645	27.1	1322	28.3	1382	29.5
②あまりなかった	247	44.4	211	44.8	185	46.7	195	43.3	2040	43.5	2553	42.0	1997	42.7	1953	41.7
③ときどきあった	154	27.7	130	27.6	95	24.0	129	28.7	1333	28.4	1653	27.2	1204	25.8	1183	25.3
④ひんばんにあった	13	2.3	11	2.3	11	2.8	11	2.4	227	4.8	226	3.7	149	3.2	165	3.5
合計	556	100.0	471	100.0	396	100.0	450	100.0	4694	100.0	6077	100.0	4672	100.0	4683	100.0
平均値	1.07		1.07		1.03		1.08		1.15		1.08		1.04		1.03	
[問7L]授業経験：取りたい授業を履修登録できなかった*																
①まったくなかった	386	69.3	63	13.3	105	26.2	125	28.2	2253	47.9	2015	33.2	1701	36.4	1795	38.5
②あまりなかった	82	14.7	81	17.2	87	21.7	122	27.5	1093	23.3	1533	25.3	1198	25.7	1190	25.5
③ときどきあった	72	12.9	210	44.5	162	40.4	154	34.7	1058	22.5	1881	31.0	1378	29.5	1307	28.0
④ひんばんにあった	17	3.1	118	25.0	47	11.7	43	9.7	295	6.3	638	10.5	392	8.4	369	7.9
合計	557	100.0	472	100.0	401	100.0	444	100.0	4699	100.0	6067	100.0	4669	100.0	4661	100.0
平均値	0.50		1.81		1.38		1.26		0.87		1.19		1.10		1.05	
[問7M]授業経験：出席することが重視される																
①まったくなかった	17	3.0	10	2.1	2	0.5	3	0.7	114	2.4	141	2.3	90	1.9	86	1.8
②あまりなかった	98	17.5	68	14.4	35	8.8	45	10.1	890	18.9	1050	17.3	694	14.9	678	14.5
③ときどきあった	246	44.0	258	54.7	196	49.2	211	47.5	2254	47.9	3011	49.6	2294	49.1	2337	50.0
④ひんばんにあった	198	35.4	136	28.8	165	41.5	185	41.7	1451	30.8	1874	30.8	1594	34.1	1573	33.7
合計	559	100.0	472	100.0	398	100.0	444	100.0	4709	100.0	6076	100.0	4672	100.0	4674	100.0
平均値	2.12		2.10		2.32		2.30		2.07		2.09		2.15		2.15	

注) * は数値が小さいほどよい否定的項目である。

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
[問7N]授業経験：TA・SA（上級生や大学院生の授業補助者）から補助を受ける																
①まったくなかった	66	11.8	34	7.2	33	8.3	22	4.9	1487	31.6	1880	30.9	1263	27.1	1355	29.1
②あまりなかった	107	19.1	136	28.7	89	22.4	76	17.0	1202	25.5	1703	28.0	1288	27.6	1270	27.2
③ときどきあった	193	34.5	241	50.8	222	55.9	266	59.5	1377	29.3	1960	32.3	1652	35.4	1625	34.8
④ひんばんにあった	193	34.5	63	13.3	53	13.4	83	18.6	639	13.6	534	8.8	460	9.9	414	8.9
合計	559	100.0	474	100.0	397	100.0	447	100.0	4705	100.0	6077	100.0	4663	100.0	4664	100.0
平均値	1.92		1.70		1.74		1.92		1.25		1.19		1.28		1.24	
[問8A]学習態度：授業課題のために図書館の資料を利用した																
①まったくしなかった	26	4.7	36	7.6	33	8.3	31	7.0	442	9.4	677	11.1	559	11.9	537	11.5
②あまりしなかった	52	9.3	57	12.1	67	16.9	61	13.7	937	19.9	1307	21.5	952	20.4	1097	23.4
③ときどきした	226	40.5	218	46.1	179	45.1	202	45.3	2115	44.8	2805	46.1	2181	46.6	2155	46.0
④ひんばんにした	254	45.5	162	34.2	118	29.7	152	34.1	1224	25.9	1296	21.3	986	21.1	893	19.1
合計	558	100.0	473	100.0	397	100.0	446	100.0	4718	100.0	6085	100.0	4678	100.0	4682	100.0
平均値	2.27		2.07		1.96		2.07		1.87		1.78		1.77		1.73	
[問8B]学習態度：授業課題のためにWeb上の情報を利用した																
①まったくしなかった	11	2.0	3	0.6	1	0.3	4	0.9	75	1.6	92	1.5	82	1.8	89	1.9
②あまりしなかった	40	7.2	26	5.5	12	3.0	16	3.6	443	9.4	522	8.6	362	7.7	362	7.7
③ときどきした	210	37.6	202	42.8	146	36.6	147	32.7	2050	43.4	2989	49.2	2254	48.2	2050	43.8
④ひんばんにした	297	53.2	241	51.1	240	60.2	282	62.8	2152	45.6	2471	40.7	1978	42.3	2181	46.6
合計	558	100.0	472	100.0	399	100.0	449	100.0	4720	100.0	6074	100.0	4676	100.0	4682	100.0
平均値	2.42		2.44		2.57		2.57		2.33		2.29		2.31		2.35	
[問8C]学習態度：インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした																
①まったくしなかった	173	30.9	4	0.8	5	1.3	6	1.3	734	15.6	468	7.7	441	9.5	440	9.4
②あまりしなかった	156	27.9	15	3.2	8	2.0	7	1.6	1056	22.4	910	15.0	688	14.8	654	14.0
③ときどきした	170	30.4	188	39.7	125	31.6	178	39.6	1902	40.4	2929	48.2	2146	46.0	2084	44.5
④ひんばんにした	60	10.7	267	56.3	257	65.1	259	57.6	1014	21.5	1765	29.1	1389	29.8	1504	32.1
合計	559	100.0	474	100.0	395	100.0	450	100.0	4706	100.0	6072	100.0	4664	100.0	4682	100.0
平均値	1.21		2.51		2.61		2.53		1.68		1.99		1.96		1.99	
[問8D]学習態度：提出期限までに授業課題を完成できなかった*																
①まったくしなかった	331	59.5	219	46.5	180	44.9	193	43.0	2335	49.7	2822	46.5	2002	42.9	1866	39.9
②あまりしなかった	138	24.8	171	36.3	138	34.4	181	40.3	1374	29.2	1944	32.1	1502	32.2	1546	33.1
③ときどきした	75	13.5	66	14.0	70	17.5	65	14.5	834	17.7	1114	18.4	977	20.9	1075	23.0
④ひんばんにした	12	2.2	15	3.2	13	3.2	10	2.2	156	3.3	183	3.0	183	3.9	186	4.0
合計	556	100.0	471	100.0	401	100.0	449	100.0	4699	100.0	6063	100.0	4664	100.0	4673	100.0
平均値	0.58		0.74		0.79		0.76		0.75		0.78		0.86		0.91	
[問8E]学習態度：授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした																
①まったくしなかった	34	6.1	43	9.1	35	8.8	32	7.2	389	8.3	392	6.4	216	4.6	277	5.9
②あまりしなかった	120	21.5	110	23.2	88	22.0	86	19.4	1136	24.1	1311	21.6	843	18.0	879	18.8
③ときどきした	247	44.2	197	41.6	181	45.3	191	43.1	2139	45.5	3058	50.3	2391	51.1	2359	50.5
④ひんばんにした	158	28.3	124	26.2	96	24.0	134	30.2	1041	22.1	1319	21.7	1225	26.2	1152	24.7
合計	559	100.0	474	100.0	400	100.0	443	100.0	4705	100.0	6080	100.0	4675	100.0	4667	100.0
平均値	1.95		1.85		1.85		1.96		1.81		1.87		1.99		1.94	
[問8F]学習態度：授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた																
①まったくしなかった	338	60.5	280	59.2	270	67.7	297	66.4	2696	57.3	3607	59.5	2831	60.7	2886	61.8
②あまりしなかった	190	34.0	165	34.9	104	26.1	133	29.8	1488	31.6	1845	30.4	1390	29.8	1396	29.9
③ときどきした	29	5.2	25	5.3	20	5.0	16	3.6	427	9.1	518	8.5	372	8.0	323	6.9
④ひんばんにした	2	0.4	3	0.6	5	1.3	1	0.2	96	2.0	94	1.6	68	1.5	66	1.4
合計	559	100.0	473	100.0	399	100.0	447	100.0	4707	100.0	6064	100.0	4661	100.0	4671	100.0
平均値	0.45		0.47		0.40		0.38		0.56		0.52		0.50		0.48	
[問8G]学習態度：授業を欠席した*																
①まったくしなかった	145	26.2	157	33.3	99	25.0	106	23.6	706	15.0	1051	17.3	688	14.7	679	14.5
②あまりしなかった	229	41.3	207	43.9	189	47.7	216	48.1	1724	36.6	2383	39.2	1697	36.3	1825	39.0
③ときどきした	143	25.8	87	18.5	89	22.5	112	24.9	1738	36.9	2143	35.2	1833	39.2	1735	37.1
④ひんばんにした	37	6.7	20	4.2	19	4.8	15	3.3	546	11.6	507	8.3	453	9.7	442	9.4
合計	554	100.0	471	100.0	396	100.0	449	100.0	4714	100.0	6084	100.0	4671	100.0	4681	100.0
平均値	1.13		0.94		1.07		1.08		1.45		1.35		1.44		1.41	
[問8H]学習態度：授業に遅刻した*																
①まったくしなかった	144	25.9	220	46.6	138	34.6	139	31.0	825	17.5	1622	26.7	1063	22.7	1126	24.1
②あまりしなかった	202	36.3	161	34.1	153	38.3	191	42.5	1588	33.7	2128	35.0	1642	35.1	1647	35.2
③ときどきした	152	27.3	74	15.7	84	21.1	92	20.5	1696	36.0	1823	30.0	1489	31.9	1436	30.7
④ひんばんにした	59	10.6	17	3.6	24	6.0	27	6.0	606	12.9	510	8.4	479	10.3	470	10.0
合計	557	100.0	472	100.0	399	100.0	449	100.0	4715	100.0	6083	100.0	4673	100.0	4679	100.0
平均値	1.23		0.76		0.98		1.02		1.44		1.20		1.30		1.27	
[問8I]学習態度：授業をつまらなく感じた*																
①まったくしなかった	13	2.3	8	1.7	6	1.5	10	2.2	100	2.1	91	1.5	51	1.1	81	1.7
②あまりしなかった	95	17.0	73	15.5	59	14.9	83	18.5	855	18.1	896	14.7	558	11.9	610	13.0
③ときどきした	321	57.5	285	60.6	238	59.9	247	55.0	2598	55.1	3370	55.4	2614	55.9	2636	56.4
④ひんばんにした	129	23.1	104	22.1	94	23.7	109	24.3	1160	24.6	1722	28.3	1450	31.0	1349	28.8
合計	558	100.0	470	100.0	397	100.0	449	100.0	4713	100.0	6079	100.0	4673	100.0	4676	100.0
平均値	2.01		2.03		2.06		2.01		2.02		2.11		2.17		2.12	

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
[問8J]学習態度：授業中に居眠りをした*																
①まったくしなかった	62	11.2	36	7.6	29	7.3	42	9.4	402	8.5	382	6.3	235	5.0	283	6.1
②あまりしなかった	114	20.5	106	22.5	65	16.4	97	21.7	1143	24.2	1142	18.8	791	16.9	778	16.6
③ときどきした	252	45.3	227	48.2	198	49.9	213	47.7	2260	47.9	3066	50.4	2335	50.0	2439	52.2
④ひんぱんにした	128	23.0	102	21.7	105	26.4	95	21.3	909	19.3	1489	24.5	1312	28.1	1176	25.1
合計	556	100.0	471	100.0	397	100.0	447	100.0	4714	100.0	6079	100.0	4673	100.0	4676	100.0
平均値	1.80		1.84		1.95		1.81		1.78		1.93		2.01		1.96	
[問8K]学習態度：教員の研究プロジェクトに参加した																
①まったくしなかった	438	78.5	404	86.0	344	86.9	363	80.7	3388	71.9	4795	79.0	3801	81.4	3787	81.1
②あまりしなかった	85	15.2	52	11.1	41	10.4	78	17.3	877	18.6	967	15.9	665	14.2	688	14.7
③ときどきした	24	4.3	13	2.8	7	1.8	7	1.6	312	6.6	265	4.4	163	3.5	158	3.4
④ひんぱんにした	11	2.0	1	0.2	4	1.0	2	0.4	134	2.8	42	0.7	42	0.9	39	0.8
合計	558	100.0	470	100.0	396	100.0	450	100.0	4711	100.0	6069	100.0	4671	100.0	4672	100.0
平均値	0.30		0.17		0.17		0.22		0.40		0.27		0.24		0.24	
[問8L]学習態度：単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した																
①まったくしなかった	339	61.0	327	69.3	289	72.6	317	70.8	2654	56.3	4241	69.8	3425	73.3	3389	72.4
②あまりしなかった	104	18.7	92	19.5	63	15.8	81	18.1	1125	23.9	1081	17.8	764	16.3	774	16.5
③ときどきした	79	14.2	38	8.1	37	9.3	40	8.9	741	15.7	572	9.4	365	7.8	393	8.4
④ひんぱんにした	34	6.1	15	3.2	9	2.3	10	2.2	190	4.0	183	3.0	119	2.5	124	2.6
合計	556	100.0	472	100.0	398	100.0	448	100.0	4710	100.0	6077	100.0	4673	100.0	4680	100.0
平均値	0.65		0.45		0.41		0.43		0.67		0.46		0.40		0.41	
[問8M]学習態度：大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）																
①まったくしなかった	327	59.0	375	80.0	342	85.9	363	81.0	2654	56.3	4591	75.6	3612	77.3	3607	77.1
②あまりしなかった	124	22.4	65	13.9	39	9.8	59	13.2	1125	23.9	999	16.4	708	15.2	696	14.9
③ときどきした	91	16.4	25	5.3	15	3.8	24	5.4	741	15.7	428	7.0	286	6.1	313	6.7
④ひんぱんにした	12	2.2	4	0.9	2	0.5	2	0.4	190	4.0	58	1.0	64	1.4	63	1.3
合計	554	100.0	469	100.0	398	100.0	448	100.0	4710	100.0	6076	100.0	4670	100.0	4679	100.0
平均値	0.62		0.27		0.19		0.25		0.67		0.33		0.32		0.32	
[問8N]学習態度：教員に親近感を感じた																
①まったくしなかった	77	13.8	128	27.1	101	25.3	101	22.4	1003	21.3	2023	33.3	1597	34.2	1520	32.5
②あまりしなかった	193	34.7	206	43.6	182	45.6	191	42.4	1677	35.6	2371	39.0	1815	38.8	1886	40.3
③ときどきした	232	41.7	123	26.1	104	26.1	147	32.7	1617	34.4	1467	24.1	1104	23.6	1102	23.5
④ひんぱんにした	54	9.7	15	3.2	12	3.0	11	2.4	409	8.7	216	3.6	158	3.4	173	3.7
合計	556	100.0	472	100.0	399	100.0	450	100.0	4706	100.0	6077	100.0	4674	100.0	4681	100.0
平均値	1.47		1.05		1.07		1.15		1.30		0.98		0.96		0.98	
[問9A]週あたりの活動時間：授業や実験に出る																
①全然ない	5	0.9					1	0.2	74	1.6	76	1.3	75	1.6	73	1.6
②1h未満	2	0.4	2	0.4	1	0.3	1	0.2	49	1.0	50	0.8	40	0.9	29	0.6
③1-2h	6	1.1	3	0.6	3	0.8	8	1.8	102	2.2	73	1.2	42	0.9	78	1.7
④3-5h	27	4.8	9	1.9	11	2.8	9	2.1	317	6.8	219	3.6	165	3.6	170	3.7
⑤6-10h	41	7.4	16	3.4	7	1.8	8	1.8	718	15.3	392	6.5	326	7.2	340	7.3
⑥11-15h	99	17.8	30	6.4	31	7.9	30	6.9	1107	23.6	1083	18.0	872	19.1	845	18.2
⑦16-20h	112	20.1	122	26.0	125	31.7	121	27.8	980	20.9	1700	28.3	1298	28.5	1297	27.9
⑧20h以上	265	47.6	288	61.3	216	54.8	258	59.2	1342	28.6	2422	40.3	1741	38.2	1822	39.1
合計	557	100.0	470	100.0	394	100.0	436	100.0	4689	100.0	6015	100.0	4559	100.0	4654	100.0
平均（時間）	16.2		18.1		18.0		18.0		14.1		16.2		16.0		16.0	
[問9B]週あたりの活動時間：授業時間以外に勉強や宿題する																
①全然ない	9	1.6	7	1.5	4	1.0	6	1.4	186	4.0	276	4.6	219	4.8	250	5.4
②1h未満	29	5.2	17	3.6	14	3.5	17	3.9	797	17.0	1022	17.1	781	17.1	828	17.8
③1-2h	77	13.8	45	9.5	51	12.9	44	10.2	1188	25.4	1681	28.0	1298	28.5	1293	27.7
④3-5h	145	26.0	129	27.3	125	31.6	150	34.6	1216	26.0	1708	28.5	1262	27.7	1372	29.4
⑤6-10h	112	20.1	154	32.6	124	31.3	116	26.8	666	14.2	835	13.9	642	14.1	578	12.4
⑥11-15h	78	14.0	71	15.0	43	10.9	55	12.7	267	5.7	254	4.2	184	4.0	193	4.1
⑦16-20h	41	7.4	23	4.9	21	5.3	15	3.5	136	2.9	95	1.6	70	1.5	58	1.2
⑧20h以上	66	11.8	26	5.5	14	3.5	30	6.9	221	4.7	123	2.1	101	2.2	89	1.9
合計	557	100.0	472	100.0	396	100.0	433	100.0	4677	100.0	5994	100.0	4557	100.0	4661	100.0
平均（時間）	8.4		7.8		7.1		7.4		4.9		4.0		4.0		3.8	
[問9C]週あたりの活動時間：オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する																
①全然ない	364	64.5	384	81.5	327	82.2	357	79.9	3140	67.1	4907	81.3	3679	79.3	3734	79.9
②1h未満	134	23.8	70	14.9	61	15.3	77	17.2	1043	22.3	790	13.1	733	15.8	700	15.0
③1-2h	39	6.9	15	3.2	5	1.3	8	1.8	284	6.1	199	3.3	104	2.2	132	2.8
④3-5h	16	2.8			2	0.5	2	0.4	127	2.7	77	1.3	65	1.4	64	1.4
⑤6-10h	3	0.5			2	0.5	1	0.2	44	0.9	29	0.5	29	0.6	23	0.5
⑥11-15h	8	1.4	1	0.2			1	0.2	22	0.5	12	0.2	9	0.2	9	0.2
⑦16-20h									6	0.1	5	0.1	7	0.2	2	0.0
⑧20h以上			1	0.2	1	0.3	1	0.2	11	0.2	19	0.3	14	0.3	12	0.3
合計	564	100.0	471	100.0	398	100.0	447	100.0	4677	100.0	6038	100.0	4640	100.0	4676	100.0
平均（時間）	0.6		0.2		0.2		0.2		0.5		0.3		0.3		0.3	

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
【問9D】週あたりの活動時間：部活動や同好会に参加する																
①全然ない	177	31.8	97	20.6	80	20.4	109	24.4	1398	29.9	1476	24.4	1100	23.7	1172	25.1
②1h未満	35	6.3	24	5.1	14	3.6	15	3.4	554	11.8	395	6.5	299	6.4	257	5.5
③1-2h	50	9.0	46	9.8	39	9.9	43	9.6	455	9.7	758	12.5	566	12.2	556	11.9
④3-5h	76	13.6	82	17.4	81	20.6	82	18.4	669	14.3	1142	18.9	962	20.7	912	19.5
⑤6-10h	76	13.6	99	21.1	70	17.8	82	18.4	553	11.8	940	15.5	723	15.6	714	15.3
⑥11-15h	44	7.9	58	12.3	39	9.9	45	10.1	310	6.6	475	7.8	324	7.0	383	8.2
⑦16-20h	27	4.8	22	4.7	24	6.1	22	4.9	198	4.2	238	3.9	219	4.7	204	4.4
⑧20h以上	72	12.9	42	8.9	46	11.7	48	10.8	540	11.5	632	10.4	454	9.8	474	10.1
合計	557	100.0	470	100.0	393	100.0	446	100.0	4677	100.0	6056	100.0	4647	100.0	4672	100.0
平均（時間）	6.3		6.8		7.1		6.7		5.7		6.0		6.0		6.1	
【問9E】週あたりの活動時間：大学外でアルバイトや仕事をする																
①全然ない	209	37.5	302	64.0	213	53.8	211	47.3	664	14.2	1829	30.2	1299	27.9	1273	27.3
②1h未満	19	3.4	11	2.3	16	4.0	22	4.9	313	6.7	167	2.8	126	2.7	125	2.7
③1-2h	26	4.7	24	5.1	22	5.6	23	5.2	184	3.9	218	3.6	172	3.7	178	3.8
④3-5h	77	13.8	32	6.8	35	8.8	55	12.3	484	10.3	580	9.6	453	9.7	474	10.2
⑤6-10h	79	14.2	51	10.8	52	13.1	65	14.6	832	17.8	1006	16.6	851	18.3	836	17.9
⑥11-15h	71	12.7	20	4.2	31	7.8	40	9.0	901	19.2	1054	17.4	832	17.9	799	17.1
⑦16-20h	28	5.0	19	4.0	15	3.8	12	2.7	625	13.3	620	10.2	490	10.5	464	9.9
⑧20h以上	48	8.6	13	2.8	12	3.0	18	4.0	683	14.6	576	9.5	427	9.2	519	11.1
合計	557	100.0	472	100.0	396	100.0	446	100.0	4686	100.0	6050	100.0	4650	100.0	4668	100.0
平均（時間）	6.1		3.0		3.8		4.2		9.7		7.8		8.0		8.1	
【問9F】週あたりの活動時間：読書をする（マンガ・雑誌を除く）																
①全然ない	111	20.0	91	19.3	85	21.6	98	21.8	899	19.2	1703	28.1	1229	26.5	1303	27.8
②1h未満	124	22.3	115	24.4	92	23.4	95	21.1	1412	30.1	1611	26.6	1209	26.0	1184	25.3
③1-2h	138	24.8	123	26.1	98	24.9	117	26.0	1049	22.4	1204	19.9	996	21.5	991	21.2
④3-5h	99	17.8	97	20.6	77	19.6	83	18.4	735	15.7	904	14.9	735	15.8	710	15.2
⑤6-10h	49	8.8	26	5.5	19	4.8	34	7.6	338	7.2	362	6.0	272	5.9	273	5.8
⑥11-15h	18	3.2	10	2.1	13	3.3	12	2.7	106	2.3	117	1.9	93	2.0	96	2.1
⑦16-20h	3	0.5	2	0.4	1	0.3	4	0.9	43	0.9	50	0.8	32	0.7	30	0.6
⑧20h以上	14	2.5	7	1.5	8	2.0	7	1.6	110	2.3	112	1.8	77	1.7	93	2.0
合計	556	100.0	471	100.0	393	100.0	450	100.0	4692	100.0	6063	100.0	4643	100.0	4680	100.0
平均（時間）	2.9		2.4		2.5		2.7		2.6		2.3		2.3		2.3	
【問9G】週あたりの活動時間：個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）																
①全然ない	19	3.4	19	4.1	17	4.4	19	4.3	148	3.2	251	4.2	194	4.2	160	3.4
②1h未満	34	6.1	37	7.9	27	7.0	31	7.0	410	8.7	475	7.9	354	7.6	330	7.1
③1-2h	100	18.0	65	13.9	51	13.1	55	12.4	736	15.7	956	15.8	726	15.7	690	14.7
④3-5h	127	22.8	118	25.2	92	23.7	107	24.0	1091	23.3	1508	25.0	1199	25.9	1138	24.3
⑤6-10h	132	23.7	108	23.0	92	23.7	113	25.4	936	20.0	1242	20.6	948	20.5	948	20.3
⑥11-15h	50	9.0	49	10.4	41	10.6	45	10.1	468	10.0	547	9.1	436	9.4	445	9.5
⑦16-20h	22	3.9	20	4.3	19	4.9	21	4.7	228	4.9	263	4.4	199	4.3	260	5.6
⑧20h以上	73	13.1	53	11.3	49	12.6	54	12.1	673	14.3	796	13.2	573	12.4	707	15.1
合計	557	100.0	469	100.0	388	100.0	445	100.0	4690	100.0	6038	100.0	4629	100.0	4678	100.0
平均（時間）	7.6		7.5		7.9		7.8		7.8		7.5		7.4		8.1	
【問10A】入学後の能力変化：一般的な教養																
①大きく減った	16	2.9	17	3.6	9	2.3	6	1.4	53	1.1	72	1.2	46	1.0	34	0.7
②減った	53	9.5	48	10.2	48	12.1	55	12.4	150	3.2	222	3.6	182	3.9	185	3.9
③変化なし	69	12.4	97	20.6	81	20.4	94	21.2	688	14.6	1630	26.8	1309	28.0	1220	26.0
④増えた	324	58.2	274	58.2	227	57.2	257	58.0	3190	67.8	3826	62.9	2852	61.1	2983	63.7
⑤大きく増えた	95	17.1	35	7.4	32	8.1	31	7.0	627	13.3	333	5.5	282	6.0	264	5.6
合計	557	100.0	471	100.0	397	100.0	443	100.0	4708	100.0	6083	100.0	4671	100.0	4686	100.0
平均値	0.77		0.56		0.57		0.57		0.89		0.68		0.67		0.70	
【問10B】入学後の能力変化：分析力や問題解決能力																
①大きく減った	8	1.4	13	2.8	10	2.5	6	1.3	25	0.5	67	1.1	58	1.2	44	0.9
②減った	28	5.0	51	10.9	40	10.1	48	10.7	134	2.8	325	5.4	252	5.4	261	5.6
③変化なし	87	15.6	177	37.7	152	38.2	174	38.9	916	19.5	2604	42.9	2042	43.7	2003	42.7
④増えた	334	59.9	201	42.8	172	43.2	201	45.0	3005	63.9	2830	46.6	2114	45.3	2204	47.0
⑤大きく増えた	101	18.1	28	6.0	24	6.0	18	4.0	624	13.3	247	4.1	202	4.3	176	3.8
合計	558	100.0	470	100.0	398	100.0	447	100.0	4704	100.0	6073	100.0	4668	100.0	4688	100.0
平均値	0.88		0.38		0.40		0.40		0.87		0.47		0.46		0.47	
【問10C】入学後の能力変化：専門分野や学科の知識																
①大きく減った	4	0.7	12	2.5	9	2.3	5	1.1	15	0.3	46	0.8	26	0.6	22	0.5
②減った	2	0.4	28	5.9	11	2.8	15	3.3	42	0.9	122	2.0	63	1.4	73	1.6
③変化なし	14	2.5	149	31.6	99	25.1	117	26.1	364	7.7	965	15.9	781	16.7	747	15.9
④増えた	262	47.1	239	50.6	215	54.4	248	55.4	2788	59.3	4047	66.6	3023	64.8	3056	65.2
⑤大きく増えた	274	49.3	44	9.3	61	15.4	63	14.1	1489	31.7	900	14.8	771	16.5	790	16.9
合計	556	100.0	472	100.0	395	100.0	448	100.0	4698	100.0	6080	100.0	4664	100.0	4688	100.0
平均値	1.44		0.58		0.78		0.78		1.21		0.93		0.95		0.96	

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
[問10D]入学後の能力変化：批判的に考える能力																
①大きく減った	4	0.7	7	1.5	4	1.0	3	0.7	22	0.5	42	0.7	22	0.5	18	0.4
②減った	16	2.9	18	3.8	21	5.3	14	3.1	118	2.5	138	2.3	114	2.4	121	2.6
③変化なし	160	28.8	222	47.1	176	44.3	221	49.3	1555	33.1	2994	49.3	2374	51.0	2422	51.7
④増えた	287	51.7	189	40.1	161	40.6	180	40.2	2401	51.2	2504	41.3	1820	39.1	1789	38.2
⑤大きく増えた	88	15.9	35	7.4	35	8.8	30	6.7	596	12.7	391	6.4	326	7.0	333	7.1
合計	555	100.0	471	100.0	397	100.0	448	100.0	4692	100.0	6069	100.0	4656	100.0	4683	100.0
平均値	0.79		0.48		0.51		0.49		0.73		0.50		0.50		0.49	
[問10E]入学後の能力変化：異文化の人々に関する知識																
①大きく減った	7	1.3	6	1.3	3	0.8	1	0.2	43	0.9	49	0.8	36	0.8	26	0.6
②減った	16	2.9	10	2.1	4	1.0	12	2.7	117	2.5	147	2.4	103	2.2	109	2.3
③変化なし	229	41.2	169	36.1	138	34.7	175	38.7	2074	44.1	3048	50.2	2374	50.9	2420	51.6
④増えた	234	42.1	245	52.4	212	53.3	218	48.2	1928	41.0	2403	39.6	1833	39.3	1815	38.7
⑤大きく増えた	70	12.6	38	8.1	41	10.3	46	10.2	537	11.4	425	7.0	318	6.8	322	6.9
合計	556	100.0	468	100.0	398	100.0	452	100.0	4699	100.0	6072	100.0	4664	100.0	4692	100.0
平均値	0.62		0.64		0.71		0.65		0.60		0.50		0.49		0.49	
[問10F]入学後の能力変化：リーダーシップの能力																
①大きく減った	16	2.9	17	3.6	9	2.3	14	3.1	64	1.4	94	1.5	60	1.3	65	1.4
②減った	46	8.3	50	10.7	39	9.8	33	7.3	226	4.8	363	6.0	269	5.8	258	5.5
③変化なし	269	48.3	313	67.2	290	73.2	310	69.0	2304	49.0	4192	69.0	3318	71.1	3279	69.9
④増えた	169	30.3	72	15.5	42	10.6	84	18.7	1627	34.6	1236	20.4	855	18.3	936	19.9
⑤大きく増えた	57	10.2	14	3.0	16	4.0	8	1.8	478	10.2	186	3.1	164	3.5	156	3.3
合計	557	100.0	466	100.0	396	100.0	449	100.0	4699	100.0	6071	100.0	4666	100.0	4694	100.0
平均値	0.37		0.03		0.04		0.09		0.47		0.17		0.17		0.18	
[問10G]入学後の能力変化：人間関係を構築する能力																
①大きく減った	16	2.9	21	4.5	12	3.0	20	4.4	61	1.3	109	1.8	71	1.5	79	1.7
②減った	40	7.2	35	7.5	26	6.5	18	4.0	224	4.8	284	4.7	224	4.8	213	4.5
③変化なし	172	30.9	178	38.0	157	39.4	172	38.2	1253	26.6	2146	35.3	1748	37.4	1695	36.1
④増えた	226	40.6	182	38.8	157	39.4	192	42.7	2225	47.3	2801	46.1	2053	44.0	2122	45.2
⑤大きく増えた	102	18.3	53	11.3	46	11.6	48	10.7	939	20.0	734	12.1	574	12.3	582	12.4
合計	556	100.0	469	100.0	398	100.0	450	100.0	4702	100.0	6074	100.0	4670	100.0	4691	100.0
平均値	0.64		0.45		0.50		0.51		0.80		0.62		0.61		0.62	
[問10H]入学後の能力変化：他の人と協力して物事を遂行する能力																
①大きく減った	6	1.1	17	3.6	7	1.8	11	2.4	40	0.9	71	1.2	50	1.1	47	1.0
②減った	38	6.9	36	7.7	22	5.6	20	4.5	158	3.4	239	3.9	169	3.6	190	4.1
③変化なし	167	30.2	207	44.3	183	46.2	213	47.4	1192	25.4	2391	39.4	1921	41.2	1947	41.5
④増えた	266	48.1	175	37.5	150	37.9	168	37.4	2444	52.0	2791	46.0	2074	44.5	2031	43.3
⑤大きく増えた	76	13.7	32	6.9	34	8.6	37	8.2	864	18.4	575	9.5	445	9.6	473	10.1
合計	553	100.0	467	100.0	396	100.0	449	100.0	4698	100.0	6067	100.0	4659	100.0	4688	100.0
平均値	0.67		0.36		0.46		0.45		0.84		0.59		0.58		0.57	
[問10I]入学後の能力変化：異文化の人々と協力する能力																
①大きく減った	9	1.6	6	1.3	6	1.5	3	0.7	84	1.8	90	1.5	56	1.2	60	1.3
②減った	25	4.5	7	1.5	11	2.8	18	4.0	221	4.7	207	3.4	180	3.9	160	3.4
③変化なし	359	64.7	360	76.8	299	75.5	325	72.5	3047	64.9	4626	76.2	3576	76.7	3597	76.7
④増えた	129	23.2	77	16.4	59	14.9	89	19.9	1047	22.3	961	15.8	709	15.2	738	15.7
⑤大きく増えた	33	5.9	19	4.1	21	5.3	13	2.9	298	6.3	189	3.1	144	3.1	133	2.8
合計	555	100.0	469	100.0	396	100.0	448	100.0	4697	100.0	6073	100.0	4665	100.0	4688	100.0
平均値	0.27		0.20		0.20		0.20		0.27		0.16		0.15		0.15	
[問10J]入学後の能力変化：地域社会が直面する問題を理解する能力																
①大きく減った	14	2.5	13	2.8	5	1.3	3	0.7	67	1.4	67	1.1	42	0.9	42	0.9
②減った	31	5.6	20	4.3	14	3.5	12	2.7	166	3.5	188	3.1	143	3.1	144	3.1
③変化なし	305	55.3	326	70.6	284	71.9	303	67.9	2650	56.4	4251	70.2	3400	73.1	3227	68.9
④増えた	168	30.4	91	19.7	79	20.0	119	26.7	1577	33.6	1396	23.1	960	20.6	1152	24.6
⑤大きく増えた	34	6.2	12	2.6	13	3.3	9	2.0	236	5.0	154	2.5	109	2.3	118	2.5
合計	552	100.0	462	100.0	395	100.0	446	100.0	4696	100.0	6056	100.0	4654	100.0	4683	100.0
平均値	0.32		0.15		0.21		0.27		0.37		0.23		0.20		0.25	
[問10K]入学後の能力変化：国民が直面する問題を理解する能力																
①大きく減った	12	2.2	12	2.6	6	1.5	5	1.1	49	1.0	58	1.0	32	0.7	38	0.8
②減った	26	4.7	20	4.3	17	4.3	12	2.7	133	2.8	162	2.7	134	2.9	128	2.7
③変化なし	260	46.7	289	62.2	236	59.9	273	61.2	2153	45.8	3522	58.0	2729	58.6	2801	59.7
④増えた	216	38.8	128	27.5	114	28.9	138	30.9	2026	43.1	2093	34.5	1555	33.4	1538	32.8
⑤大きく増えた	43	7.7	16	3.4	21	5.3	18	4.0	338	7.2	233	3.8	209	4.5	183	3.9
合計	557	100.0	465	100.0	394	100.0	446	100.0	4699	100.0	6068	100.0	4659	100.0	4688	100.0
平均値	0.45		0.25		0.32		0.34		0.53		0.38		0.38		0.36	
[問10L]入学後の能力変化：文章表現の能力																
①大きく減った	7	1.3	14	3.0	9	2.3	9	2.0	56	1.2	83	1.4	65	1.4	63	1.3
②減った	58	10.5	39	8.3	34	8.5	39	8.7	333	7.1	436	7.2	368	7.9	407	8.7
③変化なし	199	35.9	194	41.4	169	42.5	192	43.0	1782	37.9	3002	49.5	2378	51.0	2318	49.5
④増えた	225	40.6	183	39.0	160	40.2	173	38.8	2098	44.7	2253	37.1	1580	33.9	1647	35.1
⑤大きく増えた	65	11.7	39	8.3	26	6.5	33	7.4	428	9.1	296	4.9	269	5.8	251	5.4
合計	554	100.0	469	100.0	398	100.0	446	100.0	4697	100.0	6070	100.0	4660	100.0	4686	100.0
平均値	0.51		0.41		0.40		0.41		0.53		0.37		0.35		0.34	

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
【問10M】入学後の能力変化：外国語の運用能力																
①大きく減った	55	9.9	30	6.4	27	6.8	32	7.2	294	6.3	271	4.5	228	4.9	280	6.0
②減った	168	30.2	94	20.1	79	20.0	92	20.6	993	21.1	1025	16.9	873	18.7	929	19.8
③変化なし	185	33.2	144	30.8	131	33.2	155	34.8	1800	38.3	2549	42.0	1995	42.8	1904	40.6
④増えた	110	19.7	177	37.8	141	35.7	146	32.7	1316	28.0	1938	31.9	1371	29.4	1369	29.2
⑤大きく増えた	39	7.0	23	4.9	17	4.3	21	4.7	296	6.3	288	4.7	198	4.2	205	4.4
合計	557	100.0	468	100.0	395	100.0	446	100.0	4699	100.0	6071	100.0	4665	100.0	4687	100.0
平均値	▲ 0.16		0.15		0.11		0.07		0.07		0.16		0.09		0.06	
【問10N】入学後の能力変化：コミュニケーションの能力																
①大きく減った	10	1.8	14	3.0	10	2.5	13	2.9	47	1.0	91	1.5	65	1.4	51	1.1
②減った	44	8.0	30	6.4	21	5.3	17	3.8	208	4.4	301	5.0	267	5.7	183	3.9
③変化なし	181	32.8	200	42.9	180	45.6	215	48.2	1466	31.3	2607	42.9	2182	46.8	2045	43.6
④増えた	241	43.7	186	39.9	153	38.7	168	37.7	2304	49.1	2634	43.4	1797	38.6	2033	43.4
⑤大きく増えた	76	13.8	36	7.7	31	7.8	33	7.4	666	14.2	438	7.2	349	7.5	374	8.0
合計	552	100.0	466	100.0	395	100.0	446	100.0	4691	100.0	6071	100.0	4660	100.0	4686	100.0
平均値	0.60		0.43		0.44		0.43		0.71		0.50		0.45		0.53	
【問100】入学後の能力変化：プレゼンテーションの能力																
①大きく減った	5	0.9	9	1.9	4	1.0	6	1.3	34	0.7	58	1.0	33	0.7	42	0.9
②減った	24	4.3	15	3.2	10	2.5	8	1.8	111	2.4	164	2.7	145	3.1	108	2.3
③変化なし	217	39.1	230	49.3	208	52.5	225	50.6	1680	35.8	3276	54.0	2699	57.9	2620	55.9
④増えた	252	45.4	183	39.2	152	38.4	185	41.6	2322	49.4	2259	37.2	1556	33.4	1654	35.3
⑤大きく増えた	57	10.3	30	6.4	22	5.6	21	4.7	552	11.7	312	5.1	230	4.9	259	5.5
合計	555	100.0	467	100.0	396	100.0	445	100.0	4699	100.0	6069	100.0	4663	100.0	4683	100.0
平均値	0.60		0.45		0.45		0.47		0.69		0.43		0.39		0.42	
【問10P】入学後の能力変化：数理的な能力																
①大きく減った	29	5.2	35	7.5	42	10.6	24	5.4	266	5.7	337	5.6	303	6.5	298	6.4
②減った	100	18.0	101	21.7	73	18.4	98	21.9	792	16.9	1072	17.7	768	16.5	839	17.9
③変化なし	178	32.1	186	40.0	156	39.3	166	37.1	1898	40.4	3307	54.5	2498	53.6	2377	50.8
④増えた	185	33.3	123	26.5	114	28.7	141	31.5	1397	29.8	1210	20.0	955	20.5	1032	22.0
⑤大きく増えた	63	11.4	20	4.3	12	3.0	19	4.2	341	7.3	138	2.3	136	2.9	136	2.9
合計	555	100.0	465	100.0	397	100.0	448	100.0	4694	100.0	6064	100.0	4660	100.0	4682	100.0
平均値	0.28		▲ 0.02		▲ 0.05		0.07		0.16		▲ 0.04		▲ 0.03		▲ 0.03	
【問10Q】入学後の能力変化：コンピュータの操作能力																
①大きく減った	3	0.5	1	0.2	2	0.5			30	0.6	35	0.6	22	0.5	22	0.5
②減った	2	0.4	9	1.9	1	0.3	5	1.1	74	1.6	121	2.0	72	1.5	77	1.6
③変化なし	114	20.6	92	19.6	88	22.3	100	22.2	1153	24.6	1785	29.4	1299	27.9	1349	28.7
④増えた	292	52.7	294	62.7	235	59.6	260	57.6	2540	54.1	3352	55.2	2588	55.5	2611	55.6
⑤大きく増えた	143	25.8	73	15.6	68	17.3	86	19.1	898	19.1	782	12.9	682	14.6	635	13.5
合計	554	100.0	469	100.0	394	100.0	451	100.0	4695	100.0	6075	100.0	4663	100.0	4694	100.0
平均値	1.03		0.91		0.93		0.95		0.89		0.78		0.82		0.80	
【問10R】入学後の能力変化：時間を効果的に利用する能力																
①大きく減った	24	4.3	33	7.1	16	4.1	26	5.8	94	2.0	169	2.8	106	2.3	113	2.4
②減った	80	14.4	85	18.2	81	20.6	81	18.1	385	8.2	593	9.8	475	10.2	494	10.5
③変化なし	205	36.9	190	40.6	143	36.4	159	35.5	1628	34.7	2622	43.2	1999	42.9	1987	42.4
④増えた	190	34.2	127	27.1	126	32.1	147	32.8	2025	43.1	2213	36.4	1705	36.6	1692	36.1
⑤大きく増えた	57	10.3	33	7.1	27	6.9	35	7.8	565	12.0	475	7.8	376	8.1	401	8.6
合計	556	100.0	468	100.0	393	100.0	448	100.0	4697	100.0	6072	100.0	4661	100.0	4687	100.0
平均値	0.32		0.09		0.17		0.19		0.55		0.37		0.38		0.38	
【問10S】入学後の能力変化：グローバルな問題の理解																
①大きく減った	9	1.6	7	1.5	6	1.5	6	1.3	52	1.1	63	1.0	41	0.9	42	0.9
②減った	30	5.4	22	4.7	18	4.5	12	2.7	155	3.3	178	2.9	123	2.6	142	3.0
③変化なし	275	49.7	279	59.7	230	57.9	283	63.2	2498	53.2	4002	65.9	3141	67.3	3266	69.7
④増えた	196	35.4	144	30.8	124	31.2	139	31.0	1672	35.6	1655	27.3	1189	25.5	1087	23.2
⑤大きく増えた	43	7.8	15	3.2	19	4.8	8	1.8	319	6.8	172	2.8	172	3.7	152	3.2
合計	553	100.0	467	100.0	397	100.0	448	100.0	4696	100.0	6070	100.0	4666	100.0	4689	100.0
平均値	0.42		0.30		0.33		0.29		0.44		0.28		0.28		0.25	
【問10T】入学後の能力変化：卒業後に就職するための準備の程度																
①大きく減った	12	2.2	12	2.6	5	1.3	7	1.6	57	1.2	103	1.7	61	1.3	59	1.3
②減った	19	3.4	11	2.4	11	2.8	9	2.0	107	2.3	184	3.0	128	2.7	114	2.4
③変化なし	226	40.9	330	71.1	282	70.9	305	68.1	1869	39.8	4077	67.2	3154	67.6	3216	68.6
④増えた	232	42.0	97	20.9	86	21.6	114	25.4	2155	45.9	1517	25.0	1154	24.7	1153	24.6
⑤大きく増えた	63	11.4	14	3.0	14	3.5	13	2.9	508	10.8	182	3.0	171	3.7	147	3.1
合計	552	100.0	464	100.0	398	100.0	448	100.0	4696	100.0	6063	100.0	4668	100.0	4689	100.0
平均値	0.57		0.19		0.23		0.26		0.63		0.25		0.27		0.26	
【問11A1】英語運用能力：聞く力（入学時）																
A1			142	30.5	112	28.1	138	30.5			1925	32.8	1358	29.9	1381	29.9
A2			156	33.5	142	35.6	144	31.9			1671	28.5	1404	30.9	1411	30.5
B1			152	32.6	130	32.6	146	32.3			1795	30.6	1447	31.9	1556	33.7
B2			12	2.6	12	3.0	16	3.5			213	3.6	149	3.3	153	3.3
C1			2	0.4	2	0.5	3	0.7			141	2.4	95	2.1	57	1.2
C2			2	0.4	1	0.3	5	1.1			122	2.1	88	1.9	65	1.4
合計			466	100.0	399	100.0	452	100.0			5867	100.0	4541	100.0	4623	100.0
平均値			2.10		2.13		2.15				2.21		2.23		2.20	

注）上級生調査では【問11】①入学時に関する質問は割愛されている。

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
[問11A2] 英語運用能力：聞く力（調査時）																
A1	189	34.6	89	19.1	82	20.6	97	21.6	1517	32.6	1173	20.0	859	19.0	1018	22.1
A2	162	29.6	137	29.5	103	25.9	130	29.0	1339	28.8	1776	30.3	1346	29.7	1490	32.3
B1	169	30.9	213	45.8	182	45.7	182	40.5	1407	30.3	2264	38.6	1809	39.9	1725	37.4
B2	14	2.6	22	4.7	27	6.8	26	5.8	208	4.5	330	5.6	293	6.5	213	4.6
C1	6	1.1	3	0.6	3	0.8	9	2.0	129	2.8	173	2.9	117	2.6	84	1.8
C2	7	1.3	1	0.2	1	0.3	5	1.1	49	1.1	149	2.5	105	2.3	83	1.8
合計	547	100.0	465	100.0	398	100.0	449	100.0	4649	100.0	5865	100.0	4529	100.0	4613	100.0
平均値	2.10		2.39		2.42		2.41		2.19		2.49		2.51		2.37	
[問11B1] 英語運用能力：読む力（入学時）																
A1			22	4.7	16	4.0	28	6.2			669	11.4	455	10.0	608	13.2
A2			70	15.1	56	14.1	92	20.4			1210	20.6	917	20.2	1206	26.1
B1			231	49.7	215	54.0	194	43.1			2574	43.9	2094	46.1	1699	36.8
B2			114	24.5	97	24.4	109	24.2			1024	17.5	801	17.6	800	17.3
C1			24	5.2	13	3.3	27	6.0			249	4.2	188	4.1	241	5.2
C2			4	0.9	1	0.3					135	2.3	84	1.9	64	1.4
合計			465	100.0	398	100.0	450	100.0			5861	100.0	4539	100.0	4618	100.0
平均値			3.13		3.10		3.03				2.89		2.91		2.79	
[問11B2] 英語運用能力：読む力（調査時）																
A1	40	7.3	17	3.7	14	3.5	22	4.9	466	10.0	365	6.2	285	6.3	417	9.0
A2	87	15.9	48	10.4	50	12.6	89	19.7	999	21.5	1058	18.1	783	17.3	1254	27.2
B1	283	51.8	217	46.9	185	46.5	191	42.4	2168	46.6	2857	48.7	2251	49.7	1882	40.8
B2	113	20.7	143	30.9	127	31.9	118	26.2	836	18.0	1176	20.1	914	20.2	820	17.8
C1	16	2.9	33	7.1	21	5.3	31	6.9	143	3.1	253	4.3	188	4.2	164	3.6
C2	7	1.3	5	1.1	1	0.3			38	0.8	152	2.6	105	2.3	72	1.6
合計	546	100.0	463	100.0	398	100.0	451	100.0	4650	100.0	5861	100.0	4526	100.0	4609	100.0
平均値	3.00		3.31		3.24		3.10		2.85		3.06		3.06		2.84	
[問11C1] 英語運用能力：会話力（入学時）																
A1.1			88	19.0	91	22.9	219	48.9			1323	22.6	998	22.0	1977	43.0
A1.2			158	34.1	134	33.7					1701	29.1	1360	30.0		
A2.1			122	26.3	92	23.1	160	35.7			1307	22.4	1017	22.5	1681	36.6
A2.2			75	16.2	60	15.1					962	16.5	726	16.0		
B1			15	3.2	15	3.8	48	10.7			292	5.0	253	5.6	656	14.3
B2			3	0.6	3	0.8	17	3.8			106	1.8	77	1.7	181	3.9
C1			3	0.6	1	0.3	3	0.7			61	1.0	46	1.0	57	1.2
C2			0	0.0	2	0.5	1	0.2			94	1.6	53	1.2	43	0.9
合計			464	100.0	398	100.0	448	100.0			5846	100.0	4530	100.0	4595	100.0
平均値			1.79		1.76		1.72				1.89		1.88		1.87	
[問11C2] 英語運用能力：会話力（調査時）																
A1.1	152	27.8	62	13.3	58	14.7	174	38.8	1114	24.0	780	13.3	604	13.4	1549	33.8
A1.2	146	26.7	124	26.6	109	27.6			1184	25.5	1526	26.1	1214	26.8		
A2.1	125	22.9	126	27.0	99	25.1	176	39.2	982	21.2	1454	24.8	1136	25.1	1882	41.0
A2.2	69	12.6	112	24.0	98	24.8			721	15.5	1284	21.9	971	21.5		
B1	34	6.2	30	6.4	21	5.3	72	16.0	379	8.2	424	7.2	333	7.4	783	17.1
B2	9	1.6	8	1.7	6	1.5	19	4.2	169	3.6	169	2.9	120	2.7	215	4.7
C1	6	1.1	3	0.6	2	0.5	6	1.3	60	1.3	84	1.4	56	1.2	92	2.0
C2	5	0.9	1	0.2	2	0.5	2	0.4	32	0.7	136	2.3	90	2.0	64	1.4
合計	546	100.0	466	100.0	395	100.0	449	100.0	4641	100.0	5857	100.0	4524	100.0	4585	100.0
平均値	1.82		1.98		1.96		1.92		1.93		2.11		2.08		2.04	
[問11D1] 英語運用能力：表現力（入学時）																
A1			110	23.7	82	20.7	98	21.9			1458	25.1	1078	23.9	1283	28.2
A2			85	18.3	75	18.9	85	19.0			1235	21.2	904	20.1	991	21.8
B1			236	50.9	216	54.5	217	48.4			2402	41.3	2023	44.9	1822	40.0
B2			26	5.6	17	4.3	37	8.3			519	8.9	362	8.0	334	7.3
C1			4	0.9	5	1.3	8	1.8			102	1.8	77	1.7	67	1.5
C2			3	0.6	1	0.3	3	0.7			101	1.7	61	1.4	54	1.2
合計			464	100.0	396	100.0	448	100.0			5817	100.0	4505	100.0	4551	100.0
平均値			2.44		2.47		2.51				2.46		2.48		2.36	
[問11D2] 英語運用能力：表現力（調査時）																
A1	172	31.7	77	16.6	57	14.5	75	16.6	1295	28.0	996	17.1	737	16.4	968	21.3
A2	106	19.5	69	14.8	67	17.0	77	17.1	985	21.3	1152	19.7	820	18.2	1000	22.0
B1	228	42.0	260	55.9	215	54.6	232	51.4	1801	39.0	2672	45.8	2175	48.4	1981	43.5
B2	26	4.8	50	10.8	47	11.9	50	11.1	434	9.4	699	12.0	549	12.2	426	9.4
C1	6	1.1	5	1.1	7	1.8	13	2.9	75	1.6	173	3.0	120	2.7	102	2.2
C2	5	0.9	4	0.9	1	0.3	4	0.9	31	0.7	144	2.5	95	2.1	77	1.7
合計	543	100.0	465	100.0	394	100.0	451	100.0	4621	100.0	5836	100.0	4496	100.0	4554	100.0
平均値	2.27		2.68		2.70		2.69		2.37		2.71		2.73		2.54	

		北大				全体			
		2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
		度数 %	度数 %	度数 %	度数 %	度数 %	度数 %	度数 %	度数 %
【問11E1】英語運用能力：書く力（入学時）									
A1			58 12.5	48 12.1	68 15.1		1130 19.5	855 18.9	1028 22.6
A2			146 31.5	108 27.2	132 29.4		1772 30.6	1349 29.9	1444 31.8
B1			195 42.0	181 45.6	161 35.9		1970 34.0	1614 35.8	1430 31.4
B2			48 10.3	50 12.6	71 15.8		638 11.0	491 10.9	457 10.0
C1			11 2.4	7 1.8	12 2.7		172 3.0	133 2.9	128 2.8
C2			6 1.3	3 0.8	5 1.1		115 2.0	70 1.6	61 1.3
合計			464 100.0	397 100.0	449 100.0		5797 100.0	4512 100.0	4548 100.0
平均値			2.63	2.67	2.65		2.53	2.54	2.43
【問11E2】英語運用能力：書く力（調査時）									
A1		114 21.0	49 10.6	36 9.1	58 12.9	976 21.2	764 13.1	571 12.7	766 16.8
A2		197 36.2	127 27.4	95 24.0	123 27.3	1624 35.2	1696 29.2	1307 29.1	1542 33.9
B1		170 31.3	194 41.8	179 45.2	157 34.9	1355 29.4	2110 36.3	1679 37.3	1496 32.9
B2		45 8.3	73 15.7	69 17.4	79 17.6	446 9.7	784 13.5	634 14.1	475 10.4
C1		10 1.8	16 3.4	12 3.0	26 5.8	157 3.4	286 4.9	197 4.4	176 3.9
C2		8 1.5	5 1.1	5 1.3	7 1.6	54 1.2	177 3.0	111 2.5	94 2.1
合計		544 100.0	464 100.0	396 100.0	450 100.0	4612 100.0	5817 100.0	4499 100.0	4549 100.0
平均値		2.38	2.77	2.85	2.81	2.42	2.77	2.76	2.57
【問12】英語の好き・嫌い									
①好き		112 20.6	90 19.5	82 20.5		1014 21.9	1300 21.7	998 21.6	
②どちらかといえば好き		165 30.3	135 29.2	125 31.3		1252 27.0	1706 28.4	1331 28.8	
③好きでも嫌いでもない		152 27.9	115 24.9	92 23.0		1151 24.8	1460 24.3	1103 23.9	
④どちらかといえば嫌い		57 10.5	76 16.5	57 14.3		652 14.1	860 14.3	677 14.7	
⑤嫌い		58 10.7	46 10.0	44 11.0		566 12.2	678 11.3	512 11.1	
合計		544 100.0	462 100.0	400 100.0		4635 100.0	6004 100.0	4621 100.0	
平均値		0.40	0.32	0.36		0.32	0.35	0.35	
【問13】英語の得意・苦手									
①とても得意		20 3.6	8 1.7	5 1.3		113 2.4	151 2.5	89 1.9	
②どちらかといえば得意		113 20.6	112 24.1	83 21.0		928 20.0	1282 21.4	1054 22.8	
③得意でも苦手でもない		189 34.4	149 32.0	118 29.9		1405 30.3	1981 33.0	1448 31.4	
④どちらかといえば苦手		140 25.5	123 26.5	115 29.1		1264 27.3	1478 24.6	1135 24.6	
⑤とても苦手		87 15.8	73 15.7	74 18.7		927 20.0	1107 18.5	891 19.3	
合計		549 100.0	465 100.0	395 100.0		4637 100.0	5999 100.0	4617 100.0	
平均値		▲ 0.29	▲ 0.30	▲ 0.43		▲ 0.42	▲ 0.35	▲ 0.36	
【問14】英語圏への渡航経験（複数回答）									
①渡航経験ない		379 69.8	346 75.7	120 100.0		2485 55.0	3709 63.5	2556 60.2	
②旅行経験あり		218 40.1	156 34.1	78 65.0		1527 33.8	1715 29.4	1397 32.9	
③1月未満留学等		98 18.0	51 11.2	34 28.3		543 12.0	581 9.9	481 11.3	
④1—6月未満留学		19 3.5	4 0.9	1 0.8		142 3.1	51 0.9	48 1.1	
⑤6月—1年未満留学		12 2.2	6 1.3	1 0.8		50 1.1	26 0.4	18 0.4	
⑥1年以上留学等		10 1.8	3 0.7	0 0.0		34 0.8	23 0.4	13 0.3	
⑦居住経験あり		27 5.0	11 2.4	8 6.7		88 1.9	101 1.7	82 1.9	
複数回答合計		763 140.5	577 126.3	242 201.7		4869 107.8	6206 106.3	4595 108.2	
ケース合計		543 100.0	457 100.0	120 100.0		4516 100.0	5840 100.0	4245 100.0	
【問15】英語の検定試験（複数回答）									
①受験経験ない		131 24.2	105 22.6	61 15.5		1025 24.3	1457 27.0	1352 31.8	
②実用英語技能検		404 74.5	350 75.4	314 79.9		2332 55.3	3140 58.1	2618 61.5	
③TOEIC公開テスト		220 40.6	60 12.9	80 20.4		1110 26.3	803 14.9	613 14.4	
④TOEIC-IP他		75 13.8	64 13.8	12 3.1		784 18.6	853 15.8	55 1.3	
⑤TOEIC-Bridge		8 1.5	12 2.6	9 2.3		68 1.6	176 3.3	213 5.0	
⑥TOEFL-ITP/PBT		346 63.8	376 81.0	82 20.9		476 11.3	709 13.1	152 3.6	
⑦TOEFL-iBT		25 4.6	11 2.4	39 9.9		75 1.8	94 1.7	122 2.9	
⑧その他		9 1.7	13 2.8	54 13.7		41 1.0	90 1.7	148 3.5	
複数回答合計		1218 224.7	991 213.6	651 165.6		5911 140.2	7322 135.6	5273 123.8	
ケース合計		542 100.0	464 100.0	393 100.0		4217 100.0	5401 100.0	4258 100.0	
【問15-2】実用英語技能検定（英検）の取得級									
1級		1 0.2		1 0.3		5 0.2	4 0.1	4 0.2	
準1級		13 3.2	3 0.9	1 0.3		30 1.4	26 0.9	18 0.7	
2級		109 26.7	94 27.2	72 23.8		678 30.7	883 29.4	628 25.2	
準2級		113 27.7	93 27.0	82 27.1		628 28.5	917 30.6	749 30.0	
3級		137 33.6	114 33.0	111 36.6		698 31.7	953 31.8	859 34.5	
4級		20 4.9	29 8.4	23 7.6		131 5.9	156 5.2	175 7.0	
5級		15 3.7	12 3.5	13 4.3		35 1.6	60 2.0	60 2.4	
合計		408 100.0	345 100.0	303 100.0		2205 100.0	2999 100.0	2493 100.0	
【問15-3～7】TOEIC/TOEFLのスコア									
③TOEIC公開テスト		155 604.6	20 594.6	25 584.6		903 540.5	587 474.4	415 505.1	
④TOEIC-IP他		18 563.2	9 509.2	1 62.0		594 499.1	640 480.3	27 397.5	
⑤TOEIC-Bridge		3 496.7	4 1.0	1 500.0		24 374.3	65 236.2	87 197.9	
⑥TOEFL-ITP/PBT		233 483.5	341 481.6	53 465.9		330 473.1	602 469.5	102 450.9	
⑦TOEFL-iBT		14 285.6	5 268.0	19 436.1		59 134.7	72 88.7	81 195.4	

注) 【問12～15】は2010年に新設された。

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
[問16A] 大学生活への適応：大学の学生向けサービスを上手に利用する																
①まったくうまくいかなかった	52	9.5	37	8.0	32	8.1	38	8.4	348	7.5	479	8.0	456	10.0	328	7.1
②あまりうまくいかなかった	250	45.9	170	36.6	165	41.8	169	37.6	1604	34.7	2148	35.9	1709	37.3	1583	34.1
③いくらかうまくいった	226	41.5	246	53.0	180	45.6	229	50.9	2390	51.7	3081	51.4	2230	48.7	2514	54.2
④とてもうまくいった	17	3.1	11	2.4	18	4.6	14	3.1	285	6.2	282	4.7	182	4.0	213	4.6
合計	545	100.0	464	100.0	395	100.0	450	100.0	4627	100.0	5990	100.0	4577	100.0	4638	100.0
平均値	1.38		1.50		1.47		1.49		1.56		1.53		1.47		1.56	
[問16B] 大学生活への適応：大学教員の学問的な期待を理解する																
①まったくうまくいかなかった	36	6.6	43	9.2	49	12.4	60	13.4	362	7.8	613	10.2	515	11.3	496	10.7
②あまりうまくいかなかった	250	46.0	222	47.7	188	47.5	218	48.6	2171	47.0	3156	52.7	2411	52.7	2451	52.9
③いくらかうまくいった	243	44.7	193	41.5	149	37.6	164	36.5	1939	42.0	2104	35.2	1563	34.2	1590	34.3
④とてもうまくいった	15	2.8	7	1.5	10	2.5	7	1.6	148	3.2	110	1.8	87	1.9	93	2.0
合計	544	100.0	465	100.0	396	100.0	449	100.0	4620	100.0	5983	100.0	4576	100.0	4630	100.0
平均値	1.44		1.35		1.30		1.26		1.41		1.29		1.27		1.28	
[問16C] 大学生活への適応：効果的に学習する技能を修得する																
①まったくうまくいかなかった	41	7.6	40	8.7	39	9.9	42	9.4	275	6.0	467	7.8	377	8.2	371	8.0
②あまりうまくいかなかった	191	35.2	200	43.3	168	42.5	203	45.3	1676	36.4	2751	46.0	1983	43.3	2082	45.0
③いくらかうまくいった	282	51.9	209	45.2	177	44.8	186	41.5	2356	51.2	2564	42.9	2043	44.7	2016	43.6
④とてもうまくいった	29	5.3	13	2.8	11	2.8	17	3.8	297	6.5	192	3.2	172	3.8	160	3.5
合計	543	100.0	462	100.0	395	100.0	448	100.0	4604	100.0	5974	100.0	4575	100.0	4629	100.0
平均値	1.55		1.42		1.41		1.40		1.58		1.42		1.44		1.42	
[問16D] 大学生活への適応：大学が求める水準に応じて学習する																
①まったくうまくいかなかった	52	9.6	35	7.6	38	9.6	36	8.0	330	7.2	427	7.1	358	7.8	347	7.5
②あまりうまくいかなかった	217	40.2	181	39.2	157	39.7	197	43.8	1902	41.3	2694	45.1	2013	44.0	2069	44.7
③いくらかうまくいった	245	45.4	229	49.6	185	46.8	200	44.4	2149	46.6	2648	44.3	2043	44.7	2045	44.2
④とてもうまくいった	26	4.8	17	3.7	15	3.8	17	3.8	229	5.0	206	3.4	157	3.4	165	3.6
合計	540	100.0	462	100.0	395	100.0	450	100.0	4610	100.0	5975	100.0	4571	100.0	4626	100.0
平均値	1.45		1.49		1.45		1.44		1.49		1.44		1.44		1.44	
[問16E] 大学生活への適応：時間を効果的に使う																
①まったくうまくいかなかった	67	12.4	59	12.8	46	11.8	58	13.0	328	7.1	500	8.4	409	8.9	392	8.5
②あまりうまくいかなかった	208	38.6	198	43.0	177	45.3	182	40.7	1572	34.1	2273	38.0	1772	38.7	1696	36.7
③いくらかうまくいった	226	41.9	182	39.6	148	37.9	180	40.3	2233	48.5	2766	46.2	2029	44.3	2127	46.0
④とてもうまくいった	38	7.1	21	4.6	20	5.1	27	6.0	471	10.2	444	7.4	368	8.0	412	8.9
合計	539	100.0	460	100.0	391	100.0	447	100.0	4604	100.0	5983	100.0	4578	100.0	4627	100.0
平均値	1.44		1.36		1.36		1.39		1.62		1.53		1.51		1.55	
[問16F] 大学生活への適応：大学教員と顔見知りになる																
①まったくうまくいかなかった	76	13.9	161	35.0	128	32.5	141	31.6	616	13.3	1387	23.2	1003	21.9	1145	24.7
②あまりうまくいかなかった	161	29.5	180	39.1	159	40.4	180	40.4	1703	36.9	2726	45.6	2051	44.8	2051	44.3
③いくらかうまくいった	240	44.0	108	23.5	94	23.9	112	25.1	1818	39.4	1650	27.6	1319	28.8	1236	26.7
④とてもうまくいった	68	12.5	11	2.4	13	3.3	13	2.9	481	10.4	218	3.6	210	4.6	195	4.2
合計	545	100.0	460	100.0	394	100.0	446	100.0	4618	100.0	5981	100.0	4583	100.0	4627	100.0
平均値	1.55		0.93		0.98		0.99		1.47		1.12		1.16		1.10	
[問16G] 大学生活への適応：他の学生との友情を深める																
①まったくうまくいかなかった	24	4.4	28	6.0	26	6.5	17	3.8	156	3.4	220	3.7	166	3.6	150	3.2
②あまりうまくいかなかった	84	15.4	95	20.5	72	18.1	71	15.9	651	14.1	905	15.1	605	13.2	596	12.9
③いくらかうまくいった	280	51.3	215	46.3	205	51.6	226	50.6	2286	49.5	3086	51.5	2399	52.3	2424	52.4
④とてもうまくいった	158	28.9	126	27.2	94	23.7	133	29.8	1526	33.0	1777	29.7	1413	30.8	1459	31.5
合計	546	100.0	464	100.0	397	100.0	447	100.0	4619	100.0	5988	100.0	4583	100.0	4629	100.0
平均値	2.05		1.95		1.92		2.06		2.12		2.07		2.10		2.12	
[問17] 学生生活の充実度																
①充実している	170	31.2	130	28.0	114	28.9	137	30.7	1376	32.2	1650	28.9	1263	27.9	1296	28.5
②まあまあ充実している	279	51.2	252	54.2	212	53.7	211	47.3	2282	53.4	3122	54.8	2452	54.2	2450	53.9
③あまり充実していない	68	12.5	64	13.8	40	10.1	71	15.9	469	11.0	706	12.4	585	12.9	584	12.8
④充実していない	28	5.1	19	4.1	29	7.3	27	6.1	145	3.4	222	3.9	220	4.9	216	4.8
合計	545	100.0	465	100.0	395	100.0	446	100.0	4272	100.0	5700	100.0	4520	100.0	4546	100.0
平均値	2.08		2.06		2.04		2.03		2.14		2.09		2.05		2.06	
[問18A] 大学教育への満足度：共通教育あるいは教養教育の授業																
①とても不満	26	4.8	29	6.2	16	4.0	27	6.0	115	2.5	199	3.3	144	3.2	138	3.0
②不満	79	14.5	87	18.7	83	21.0	99	22.1	394	8.6	617	10.4	511	11.3	530	11.5
③どちらでもない	168	30.9	206	44.3	166	41.9	167	37.4	1710	37.2	3110	52.2	2372	52.3	2244	48.8
④満足	236	43.4	131	28.2	120	30.3	140	31.3	2042	44.5	1862	31.3	1380	30.4	1547	33.6
⑤とても満足	35	6.4	12	2.6	11	2.8	14	3.1	332	7.2	166	2.8	129	2.8	144	3.1
合計	544	100.0	465	100.0	396	100.0	447	100.0	4593	100.0	5954	100.0	4536	100.0	4603	100.0
平均値	0.32		0.02		0.07		0.03		0.45		0.20		0.18		0.22	
[問18B] 大学教育への満足度：初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）																
①とても不満	19	3.5	23	4.9	13	3.3	11	2.5	102	2.2	168	2.8	128	2.8	140	3.0
②不満	47	8.7	49	10.5	36	9.1	56	12.5	275	6.0	481	8.1	406	9.0	443	9.6
③どちらでもない	213	39.4	175	37.6	167	42.4	163	36.4	1819	39.8	3359	56.6	2651	58.6	2535	55.1
④満足	209	38.6	176	37.8	137	34.8	165	36.8	1813	39.6	1681	28.3	1139	25.2	1240	27.0
⑤とても満足	53	9.8	42	9.0	41	10.4	53	11.8	565	12.4	249	4.2	199	4.4	239	5.2
合計	541	100.0	465	100.0	394	100.0	448	100.0	4574	100.0	5938	100.0	4523	100.0	4597	100.0
平均値	0.43		0.35		0.40		0.43		0.54		0.23		0.19		0.22	

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
[問18C] 大学教育への満足度：授業の全体的な質																
①とても不満	19	3.5	17	3.7	14	3.6	18	4.0	111	2.4	196	3.3	165	3.6	168	3.6
②不満	82	15.1	80	17.2	72	18.4	87	19.5	610	13.3	916	15.4	812	17.9	785	17.1
③どちらでもない	207	38.1	217	46.8	175	44.6	185	41.5	2035	44.2	2813	47.2	2072	45.7	2070	45.0
④満足	219	40.3	145	31.3	121	30.9	146	32.7	1673	36.4	1905	32.0	1370	30.2	1470	31.9
⑤とても満足	16	2.9	5	1.1	10	2.6	10	2.2	172	3.7	131	2.2	113	2.5	111	2.4
合計	543	100.0	464	100.0	392	100.0	446	100.0	4601	100.0	5961	100.0	4532	100.0	4604	100.0
平均値	0.24		0.09		0.10		0.10		0.26		0.14		0.10		0.12	
[問18D] 大学教育への満足度：日常生活と授業内容との関連																
①とても不満	16	2.9	17	3.7	20	5.0	17	3.8	115	2.5	184	3.1	142	3.1	136	3.0
②不満	86	15.8	64	13.9	60	15.1	78	17.5	625	13.6	745	12.5	624	13.8	669	14.5
③どちらでもない	280	51.6	272	58.9	239	60.2	256	57.4	2340	50.9	3364	56.5	2606	57.5	2515	54.6
④満足	143	26.3	100	21.6	67	16.9	87	19.5	1364	29.6	1531	25.7	1057	23.3	1177	25.6
⑤とても満足	18	3.3	9	1.9	11	2.8	8	1.8	157	3.4	134	2.2	102	2.3	106	2.3
合計	543	100.0	462	100.0	397	100.0	446	100.0	4601	100.0	5958	100.0	4531	100.0	4603	100.0
平均値	0.11		0.04		▲ 0.03		▲ 0.02		0.18		0.12		0.08		0.10	
[問18E] 大学教育への満足度：将来の仕事と授業内容の結びつき																
①とても不満	30	5.5	33	7.1	16	4.0	26	5.8	176	3.8	231	3.9	171	3.8	207	4.5
②不満	73	13.4	93	20.0	75	18.9	94	21.0	611	13.3	795	13.4	666	14.7	702	15.2
③どちらでもない	219	40.2	232	50.0	211	53.3	213	47.5	2090	45.4	2963	49.8	2261	49.9	2117	46.0
④満足	174	31.9	97	20.9	78	19.7	105	23.4	1440	31.3	1687	28.3	1215	26.8	1330	28.9
⑤とても満足	49	9.0	9	1.9	16	4.0	10	2.2	291	6.3	279	4.7	219	4.8	251	5.4
合計	545	100.0	464	100.0	396	100.0	448	100.0	4608	100.0	5955	100.0	4532	100.0	4607	100.0
平均値	0.26		▲ 0.09		0.01		▲ 0.05		0.23		0.17		0.14		0.16	
[問18F] 大学教育への満足度：教員と話をする機会																
①とても不満	15	2.7	33	7.1	31	7.8	25	5.6	187	4.1	344	5.8	269	5.9	311	6.8
②不満	60	11.0	87	18.7	75	18.8	77	17.3	681	14.8	1143	19.2	861	19.0	922	20.0
③どちらでもない	288	52.7	296	63.5	247	62.1	284	63.7	2479	53.7	3524	59.0	2753	60.8	2683	58.3
④満足	157	28.8	45	9.7	38	9.5	51	11.4	1037	22.5	846	14.2	532	11.7	567	12.3
⑤とても満足	26	4.8	5	1.1	7	1.8	9	2.0	229	5.0	111	1.9	114	2.5	117	2.5
合計	546	100.0	466	100.0	398	100.0	446	100.0	4613	100.0	5968	100.0	4529	100.0	4600	100.0
平均値	0.22		▲ 0.21		▲ 0.21		▲ 0.13		0.10		▲ 0.13		▲ 0.14		▲ 0.16	
[問18G] 大学教育への満足度：個別の学習指導や援助（履修相談など）																
①とても不満	30	5.5	17	3.7	12	3.0	23	5.1	214	4.6	257	4.3	202	4.5	236	5.1
②不満	74	13.6	51	11.0	35	8.9	77	17.2	742	16.1	918	15.4	690	15.3	776	16.8
③どちらでもない	339	62.1	314	67.5	273	69.1	301	67.2	2636	57.2	3678	61.7	2798	62.0	2801	60.8
④満足	85	15.6	75	16.1	63	15.9	44	9.8	848	18.4	1002	16.8	711	15.7	689	15.0
⑤とても満足	18	3.3	8	1.7	12	3.0	3	0.7	167	3.6	105	1.8	114	2.5	104	2.3
合計	546	100.0	465	100.0	395	100.0	448	100.0	4607	100.0	5960	100.0	4515	100.0	4606	100.0
平均値	▲ 0.02		0.01		0.07		▲ 0.16		0.00		▲ 0.04		▲ 0.03		▲ 0.08	
[問18H] 大学教育への満足度：他の学生と話をする機会																
①とても不満	11	2.0	10	2.2	14	3.6	7	1.6	83	1.8	109	1.8	99	2.2	79	1.7
②不満	32	5.9	30	6.5	36	9.1	40	8.9	255	5.5	397	6.7	299	6.6	348	7.6
③どちらでもない	162	29.7	163	35.1	140	35.5	160	35.6	1438	31.2	2156	36.2	1619	35.8	1496	32.5
④満足	245	44.9	190	40.9	161	40.9	172	38.3	2027	44.0	2463	41.3	1839	40.6	1878	40.8
⑤とても満足	96	17.6	71	15.3	43	10.9	70	15.6	805	17.5	833	14.0	671	14.8	800	17.4
合計	546	100.0	464	100.0	394	100.0	449	100.0	4608	100.0	5958	100.0	4527	100.0	4601	100.0
平均値	0.70		0.61		0.46		0.57		0.70		0.59		0.59		0.65	
[問18I] 大学教育への満足度：大学のなかでの学生同士の一体感																
①とても不満	26	4.8	18	3.9	21	5.3	12	2.7	153	3.3	195	3.3	155	3.4	157	3.4
②不満	58	10.6	49	10.6	53	13.5	58	12.9	441	9.6	610	10.2	455	10.1	566	12.3
③どちらでもない	263	48.3	255	55.0	206	52.3	223	49.7	2033	44.1	2861	48.0	2194	48.5	2080	45.1
④満足	156	28.6	114	24.6	91	23.1	120	26.7	1514	32.9	1845	31.0	1336	29.5	1368	29.7
⑤とても満足	42	7.7	28	6.0	23	5.8	36	8.0	465	10.1	445	7.5	385	8.5	436	9.5
合計	545	100.0	464	100.0	394	100.0	449	100.0	4606	100.0	5956	100.0	4525	100.0	4607	100.0
平均値	0.24		0.18		0.11		0.24		0.37		0.29		0.30		0.30	
[問18J] 大学教育への満足度：多様な考え方を認め合う雰囲気																
①とても不満	27	4.9	18	3.9	10	2.5	19	4.3	123	2.7	163	2.7	117	2.6	132	2.9
②不満	53	9.7	44	9.5	37	9.3	39	8.7	385	8.4	516	8.7	373	8.2	403	8.8
③どちらでもない	234	42.9	207	44.5	203	51.3	219	49.0	2106	45.7	3040	51.1	2402	53.1	2346	50.9
④満足	191	35.0	172	37.0	114	28.8	140	31.3	1606	34.8	1905	32.0	1353	29.9	1434	31.1
⑤とても満足	41	7.5	24	5.2	32	8.1	30	6.7	389	8.4	329	5.5	280	6.2	290	6.3
合計	546	100.0	465	100.0	396	100.0	447	100.0	4609	100.0	5953	100.0	4525	100.0	4605	100.0
平均値	0.30		0.30		0.31		0.28		0.38		0.29		0.29		0.29	
[問18K] 大学教育への満足度：大学での経験全般について																
①とても不満	11	2.0	8	1.7	5	1.3	9	2.0	83	1.8	115	1.9	81	1.8	107	2.3
②不満	48	8.8	28	6.1	42	10.6	39	8.6	299	6.5	396	6.7	328	7.2	324	7.0
③どちらでもない	146	26.8	176	38.3	142	35.9	144	31.9	1652	35.9	2722	45.8	2047	45.2	1959	42.5
④満足	255	46.9	205	44.6	166	41.9	210	46.6	1976	42.9	2283	38.4	1698	37.5	1790	38.8
⑤とても満足	84	15.4	43	9.3	41	10.4	49	10.9	594	12.9	430	7.2	372	8.2	428	9.3
合計	544	100.0	460	100.0	396	100.0	451	100.0	4604	100.0	5946	100.0	4526	100.0	4608	100.0
平均値	0.65		0.54		0.49		0.56		0.59		0.42		0.43		0.46	

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
[問18L] 大学教育への満足度：1つの授業を履修する学生数																
①とても不満	14	2.6	22	4.8	15	3.8	8	1.8	133	2.9	200	3.4	129	2.9	152	3.3
②不満	62	11.4	95	20.6	65	16.5	57	12.7	487	10.6	834	14.0	551	12.2	531	11.5
③どちらでもない	243	44.8	235	51.0	185	47.0	231	51.3	2257	49.0	3151	53.0	2409	53.4	2369	51.4
④満足	200	36.9	104	22.6	116	29.4	148	32.9	1500	32.6	1592	26.8	1266	28.1	1386	30.1
⑤とても満足	23	4.2	5	1.1	13	3.3	6	1.3	229	5.0	172	2.9	158	3.5	168	3.6
合計	542	100.0	461	100.0	394	100.0	450	100.0	4606	100.0	5949	100.0	4513	100.0	4606	100.0
平均値	0.29		▲ 0.05		0.12		0.19		0.26		0.12		0.17		0.19	
[問19A] 大学の設備・支援制度への満足度：図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）																
①とても不満	19	3.5	5	1.1	9	2.3	6	1.3	95	2.1	85	1.4	81	1.8	77	1.7
②不満	63	11.6	19	4.1	23	5.8	31	6.9	319	6.9	340	5.7	280	6.2	265	5.7
③どちらでもない	70	12.9	89	19.2	64	16.2	70	15.5	998	21.7	1254	21.1	1040	23.1	992	21.5
④満足	262	48.2	230	49.7	207	52.5	244	54.1	2341	50.9	2940	49.5	2226	49.5	2299	49.8
⑤とても満足	130	23.9	120	25.9	91	23.1	100	22.2	847	18.4	1317	22.2	867	19.3	981	21.3
合計	544	100.0	463	100.0	394	100.0	451	100.0	4600	100.0	5936	100.0	4494	100.0	4614	100.0
平均値	0.77		0.95		0.88		0.89		0.77		0.85		0.78		0.83	
[問19B] 大学の設備・支援制度への満足度：実験室の設備や器具																
①とても不満	14	2.6	2	0.4	3	0.8	3	0.7	85	1.9	70	1.2	43	1.0	54	1.2
②不満	47	8.7	6	1.3	8	2.0	8	1.8	240	5.3	149	2.5	118	2.6	109	2.4
③どちらでもない	218	40.3	181	39.0	156	39.6	181	40.2	2529	55.5	3944	66.7	2867	63.8	2984	65.1
④満足	214	39.6	204	44.0	156	39.6	199	44.2	1315	28.9	1364	23.1	1122	25.0	1095	23.9
⑤とても満足	48	8.9	71	15.3	71	18.0	59	13.1	389	8.5	390	6.6	341	7.6	345	7.5
合計	541	100.0	464	100.0	394	100.0	450	100.0	4558	100.0	5917	100.0	4491	100.0	4587	100.0
平均値	0.43		0.72		0.72		0.67		0.37		0.31		0.36		0.34	
[問19C] 大学の設備・支援制度への満足度：コンピュータの施設や設備																
①とても不満	20	3.7	3	0.6	9	2.3	10	2.2	150	3.3	85	1.4	84	1.9	98	2.1
②不満	92	17.0	17	3.7	29	7.3	45	10.1	574	12.5	477	8.0	361	8.0	384	8.3
③どちらでもない	99	18.3	81	17.5	47	11.9	81	18.2	1053	22.9	1558	26.2	1118	24.8	964	20.9
④満足	240	44.4	245	53.0	199	50.3	245	55.1	2126	46.3	2889	48.6	2198	48.8	2324	50.4
⑤とても満足	89	16.5	116	25.1	112	28.3	64	14.4	689	15.0	938	15.8	745	16.5	837	18.2
合計	540	100.0	462	100.0	396	100.0	445	100.0	4592	100.0	5947	100.0	4506	100.0	4607	100.0
平均値	0.53		0.98		0.95		0.69		0.57		0.69		0.70		0.74	
[問19D] 大学の設備・支援制度への満足度：コンピュータの訓練や援助																
①とても不満	15	2.8	16	3.4	13	3.3	10	2.2	112	2.4	99	1.7	77	1.7	83	1.8
②不満	97	17.9	45	9.7	51	12.8	66	14.7	518	11.3	411	6.9	336	7.5	358	7.8
③どちらでもない	263	48.5	181	38.8	155	39.0	166	37.0	2142	46.6	2761	46.4	2033	45.1	1868	40.6
④満足	150	27.7	186	39.9	141	35.5	172	38.3	1492	32.5	2161	36.3	1656	36.7	1791	38.9
⑤とても満足	17	3.1	38	8.2	37	9.3	35	7.8	328	7.1	519	8.7	406	9.0	506	11.0
合計	542	100.0	466	100.0	397	100.0	449	100.0	4592	100.0	5951	100.0	4508	100.0	4606	100.0
平均値	0.11		0.40		0.35		0.35		0.31		0.44		0.44		0.49	
[問19E] 大学の設備・支援制度への満足度：インターネットの使いやすさ																
①とても不満	16	3.0	2	0.4	8	2.0	9	2.0	178	3.9	159	2.7	133	3.0	136	3.0
②不満	74	13.8	38	8.2	32	8.1	46	10.3	590	12.9	625	10.5	487	10.8	521	11.3
③どちらでもない	157	29.2	139	30.1	95	24.2	129	28.8	1399	30.5	2100	35.3	1479	32.8	1356	29.5
④満足	225	41.8	225	48.7	198	50.4	215	48.0	1895	41.3	2419	40.7	1903	42.3	1965	42.7
⑤とても満足	66	12.3	58	12.6	60	15.3	49	10.9	523	11.4	643	10.8	501	11.1	626	13.6
合計	538	100.0	462	100.0	393	100.0	448	100.0	4585	100.0	5946	100.0	4503	100.0	4604	100.0
平均値	0.47		0.65		0.69		0.56		0.44		0.46		0.48		0.53	
[問19F] 大学の設備・支援制度への満足度：奨学金など学費援助の制度																
①とても不満	28	5.2	15	3.3	19	4.8	15	3.4	169	3.7	174	2.9	139	3.1	158	3.4
②不満	53	9.8	22	4.8	44	11.1	35	7.8	375	8.2	399	6.7	338	7.5	370	8.1
③どちらでもない	315	58.2	300	65.1	230	57.9	268	60.0	2640	57.7	3602	60.7	2723	60.5	2737	59.6
④満足	116	21.4	97	21.0	80	20.2	103	23.0	1112	24.3	1366	23.0	1018	22.6	1031	22.5
⑤とても満足	29	5.4	27	5.9	24	6.0	26	5.8	277	6.1	389	6.6	285	6.3	295	6.4
合計	541	100.0	461	100.0	397	100.0	447	100.0	4573	100.0	5930	100.0	4503	100.0	4591	100.0
平均値	0.12		0.21		0.12		0.20		0.21		0.24		0.22		0.20	
[問19G] 大学の設備・支援制度への満足度：健康保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）																
①とても不満	14	2.6	11	2.4	7	1.8	11	2.4	72	1.6	74	1.2	56	1.2	65	1.4
②不満	42	7.7	28	6.0	20	5.1	27	6.0	253	5.5	214	3.6	158	3.5	167	3.6
③どちらでもない	314	57.7	273	59.0	228	57.7	272	60.4	2899	63.3	4217	71.1	3136	69.7	3199	69.5
④満足	146	26.8	118	25.5	109	27.6	116	25.8	1107	24.2	1148	19.4	905	20.1	910	19.8
⑤とても満足	28	5.1	33	7.1	31	7.8	24	5.3	250	5.5	278	4.7	245	5.4	260	5.7
合計	544	100.0	463	100.0	395	100.0	450	100.0	4581	100.0	5931	100.0	4500	100.0	4601	100.0
平均値	0.24		0.29		0.35		0.26		0.26		0.23		0.25		0.25	
[問19H] 大学の設備・支援制度への満足度：レクリエーション施設（ジムの設備など）																
①とても不満	30	5.6	7	1.5	13	3.3	13	2.9	242	5.3	134	2.3	151	3.4	182	4.0
②不満	79	14.7	36	7.8	30	7.6	47	10.5	505	11.1	379	6.4	353	7.9	418	9.1
③どちらでもない	300	55.7	279	60.1	223	56.6	265	59.4	2698	59.2	3721	62.9	2779	61.9	2881	62.7
④満足	111	20.6	116	25.0	98	24.9	103	23.1	877	19.3	1304	22.1	945	21.0	880	19.1
⑤とても満足	19	3.5	26	5.6	30	7.6	18	4.0	232	5.1	374	6.3	262	5.8	236	5.1
合計	539	100.0	464	100.0	394	100.0	446	100.0	4554	100.0	5912	100.0	4490	100.0	4597	100.0
平均値	0.02		0.25		0.26		0.15		0.08		0.24		0.18		0.12	

	北大								全体							
	2011_3		2011_1		2010		2009		2011_3		2011_1		2010		2009	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
[問19]大学の設備・支援制度への満足度：キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）																
①とても不満	18	3.3	5	1.1	7	1.8	11	2.5	134	2.9	77	1.3	88	2.0	97	2.1
②不満	47	8.7	19	4.1	14	3.5	14	3.1	290	6.4	292	5.0	222	5.0	206	4.5
③どちらでもない	360	66.3	390	84.6	334	84.6	379	85.0	2851	62.6	4482	76.0	3372	75.2	3496	76.1
④満足	103	19.0	43	9.3	32	8.1	37	8.3	948	20.8	838	14.2	650	14.5	647	14.1
⑤とても満足	15	2.8	4	0.9	8	2.0	5	1.1	328	7.2	207	3.5	151	3.4	149	3.2
合計	543	100.0	461	100.0	395	100.0	446	100.0	4551	100.0	5896	100.0	4483	100.0	4595	100.0
平均値	0.09		0.05		0.05		0.02		0.23		0.14		0.12		0.12	
[問20]学部卒業後の予定進路																
①就職	195	35.8	123	26.4	113	30.9	137	32.5	3081	67.6	3925	66.4	2896	65.2	2939	64.6
②大学院	278	51.0	247	53.0	179	48.9	224	53.1	979	21.5	1012	17.1	857	19.3	890	19.6
③留学	3	0.6	9	1.9	3	0.8	3	0.7	34	0.7	63	1.1	35	0.8	24	0.5
④他大学に(編)入	10	1.8	7	1.5	3	0.8	6	1.4	23	0.5	37	0.6	33	0.7	29	0.6
⑤専門学校									11		17	0.3	9	0.2	10	0.2
⑥まだわからない	49	9.0	78	16.7	65	17.8	50	11.8	401	8.8	810	13.7	585	13.2	632	13.9
⑦その他	10	1.8	2	0.4	3	0.8	2	0.5	30	0.7	47	0.8	30	0.7	25	0.5
合計	545	100.0	466	100.0	366	100.0	422	100.0	4559	100.0	5911	100.0	4445	100.0	4549	100.0
[問21]現役・浪人経験																
①現役			341	73.2	278	70.0	306	68.2			4771	80.1	3509	77.4	3544	76.4
②浪人			117	25.1	113	28.2	138	30.7			1082	18.2	969	21.4	1032	22.2
③その他（社会人）			8	1.7	7	1.8	5	1.1			100	1.7	54	1.2	64	1.4
合計			466	100.0	398	100.0	449	100.0			5953	100.0	4532	100.0	4640	100.0
[問22]入試形態																
①一般入試			248	53.1	375	94.7	426	94.7			3053	51.8	2742	61.5	2853	61.8
②センター試験併											446	7.6	359	8.0	387	8.4
③センター試験単											235	4.0	124	2.8	135	2.9
④内部進学											446	7.6	282	6.3	282	6.1
⑤指定校推薦											1029	17.4	593	13.3	574	12.4
⑥スポーツ等推薦											118	2.0	71	1.6	84	1.8
⑦公募推薦											161	2.7	172	3.9	157	3.4
⑧AO選考			12	2.6	17	4.3	20	4.4			123	2.1	77	1.7	91	2.0
⑨留学生入試					2	0.5	3	0.7			42	0.7	22	0.5	28	0.6
⑩社会人入試											7	0.1	6	0.1	5	0.1
⑪編入学											12	0.2	1	0.0		
⑫その他(総合入試)			207	44.3	2	0.5	1	0.2			227	3.8	12	0.3	17	0.4
合計			467	100.0	396	100.0	450	100.0			5899	100.0	4461	100.0	4613	100.0
[問23]第1志望																
①第1志望だった			343	73.6	282	72.1	318	70.8			2802	47.1	1919	42.4	2026	43.5
②第1志望ではない			123	26.4	109	27.9	131	29.2			3145	52.9	2608	57.6	2634	56.5
合計			466	100.0	391	100.0	449	100.0			5947	100.0	4527	100.0	4660	100.0
[問24]高校での成績																
①上位の方			207	44.3	186	47.2	184	41.1			1620	27.2	1177	26.0	1204	25.9
②中の上くらい			144	30.8	107	27.2	145	32.4			2004	33.6	1550	34.3	1530	32.9
③中くらい			46	9.9	53	13.5	63	14.1			879	14.7	702	15.5	777	16.7
④中の下くらい			34	7.3	29	7.4	26	5.8			624	10.5	491	10.9	504	10.8
⑤下位の方			27	5.8	14	3.6	24	5.4			725	12.2	520	11.5	534	11.5
⑥その他			9	1.9	5	1.3	6	1.3			113	1.9	81	1.8	102	2.2
合計			467	100.0	394	100.0	448	100.0			5965	100.0	4521	100.0	4651	100.0
[問25A]高校3年時の学習経験：授業中、質問した																
①まったくしなかった			147	31.7	116	29.4	151	33.7			1184	19.9	897	20.0	948	20.5
②あまりしなかった			154	33.2	143	36.2	131	29.2			2129	35.8	1629	36.2	1626	35.1
③ときどきした			126	27.2	101	25.6	132	29.5			1987	33.5	1535	34.1	1575	34.0
④ひんばんにした			37	8.0	35	8.9	34	7.6			640	10.8	434	9.7	486	10.5
合計			464	100.0	395	100.0	448	100.0			5940	100.0	4495	100.0	4635	100.0
平均値			1.11		1.14		1.11				1.35		1.34		1.34	
[問25B]高校3年時の学習経験：自分の意見を論理的に主張した																
①まったくしなかった			111	23.9	86	22.0	105	23.5			1011	17.0	744	16.5	805	17.4
②あまりしなかった			195	41.9	165	42.2	187	41.8			2730	46.0	2188	48.6	2090	45.1
③ときどきした			131	28.2	118	30.2	127	28.4			1722	29.0	1244	27.7	1341	28.9
④ひんばんにした			28	6.0	22	5.6	28	6.3			470	7.9	322	7.2	397	8.6
合計			465	100.0	391	100.0	447	100.0			5933	100.0	4498	100.0	4633	100.0
平均値			1.16		1.19		1.17				1.28		1.25		1.29	
[問25C]高校3年時の学習経験：問題の解決方法を模索し、それを他者に説明した																
①まったくしなかった			77	16.6	48	12.2	51	11.3			767	12.9	558	12.4	533	11.5
②あまりしなかった			129	27.7	133	33.9	147	32.7			2242	37.9	1730	38.6	1732	37.4
③ときどきした			187	40.2	156	39.8	203	45.1			2288	38.6	1756	39.2	1828	39.5
④ひんばんにした			72	15.5	55	14.0	49	10.9			626	10.6	441	9.8	537	11.6
合計			465	100.0	392	100.0	450	100.0			5923	100.0	4485	100.0	4630	100.0
平均値			1.55		1.56		1.56				1.47		1.46		1.51	

注) 上級生調査では [問 21 ~ 25] は割愛されている。

	北大				全体			
	2011_3	2011_1	2010	2009	2011_3	2011_1	2010	2009
	度数 %	度数 %	度数 %	度数 %	度数 %	度数 %	度数 %	度数 %
【問25D】高校3年時の学習経験：自発的に作文の練習をした								
①まったくしなかった		190 41.1	169 43.3	178 39.7		1691 28.6	1359 30.2	1422 30.7
②あまりしなかった		153 33.1	135 34.6	141 31.5		2466 41.6	1864 41.4	1879 40.6
③ときどきした		86 18.6	61 15.6	97 21.7		1230 20.8	938 20.9	921 19.9
④ひんぱんにした		33 7.1	25 6.4	32 7.1		535 9.0	336 7.5	405 8.8
合計		462 100.0	390 100.0	448 100.0		5922 100.0	4497 100.0	4627 100.0
平均値		0.92	0.85	0.96		1.10	1.06	1.07
【問25E】高校3年時の学習経験：インターネット上の情報が事実かどうか確認した								
①まったくしなかった		105 22.7	88 22.3	102 22.7		1236 20.9	1017 22.6	1040 22.5
②あまりしなかった		155 33.5	158 40.1	176 39.1		2503 42.3	1958 43.6	2044 44.2
③ときどきした		141 30.5	104 26.4	133 29.6		1716 29.0	1194 26.6	1196 25.8
④ひんぱんにした		61 13.2	44 11.2	39 8.7		467 7.9	326 7.3	348 7.5
合計		462 100.0	394 100.0	450 100.0		5922 100.0	4495 100.0	4628 100.0
平均値		1.34	1.26	1.24		1.24	1.18	1.18
【問25F】高校3年時の学習経験：困難なことにあえて挑戦した								
①まったくしなかった		49 10.5	45 11.5	51 11.3		677 11.4	545 12.1	573 12.4
②あまりしなかった		159 34.2	144 36.6	145 32.2		2155 36.3	1777 39.5	1753 37.9
③ときどきした		186 40.0	145 36.9	188 41.7		2274 38.3	1620 36.0	1631 35.2
④ひんぱんにした		71 15.3	59 15.0	67 14.9		825 13.9	557 12.4	673 14.5
合計		465 100.0	393 100.0	451 100.0		5931 100.0	4499 100.0	4630 100.0
平均値		1.60	1.55	1.60		1.55	1.49	1.52
【問25G】高校3年時の学習経験：問題に対処するために新しい解決策を求めた								
①まったくしなかった		37 8.0	33 8.4	32 7.2		602 10.2	457 10.2	469 10.1
②あまりしなかった		143 30.8	118 30.2	139 31.1		2101 35.5	1662 37.0	1659 35.8
③ときどきした		232 50.0	187 47.8	222 49.7		2574 43.4	1889 42.1	1940 41.9
④ひんぱんにした		52 11.2	53 13.6	54 12.1		649 11.0	483 10.8	561 12.1
合計		464 100.0	391 100.0	447 100.0		5926 100.0	4491 100.0	4629 100.0
平均値		1.64	1.66	1.67		1.55	1.53	1.56
【問25H】高校3年時の学習経験：科学的研究の記事や論文を読んだ								
①まったくしなかった		172 37.1	148 37.6	169 37.6		2055 34.7	1562 34.8	1646 35.5
②あまりしなかった		162 35.0	146 37.1	159 35.3		2615 44.1	1990 44.3	2015 43.5
③ときどきした		106 22.9	78 19.8	103 22.9		1017 17.2	767 17.1	767 16.6
④ひんぱんにした		23 5.0	22 5.6	19 4.2		242 4.1	175 3.9	204 4.4
合計		463 100.0	394 100.0	450 100.0		5929 100.0	4494 100.0	4632 100.0
平均値		0.96	0.93	0.94		0.91	0.90	0.90
【問25I】高校3年時の学習経験：授業以外に興味のあることを自分で勉強した								
①まったくしなかった		79 17.1	74 18.8	71 15.8		1032 17.4	832 18.5	730 15.8
②あまりしなかった		141 30.6	125 31.7	152 33.8		2030 34.3	1528 34.0	1580 34.1
③ときどきした		174 37.7	137 34.8	165 36.7		2056 34.7	1541 34.3	1617 34.9
④ひんぱんにした		67 14.5	58 14.7	62 13.8		804 13.6	594 13.2	705 15.2
合計		461 100.0	394 100.0	450 100.0		5922 100.0	4495 100.0	4632 100.0
平均値		1.50	1.45	1.48		1.44	1.42	1.50
【問25J】高校3年時の学習経験：自分の失敗から学んだ								
①まったくしなかった		27 5.8	18 4.6	14 3.1		311 5.2	247 5.5	197 4.3
②あまりしなかった		51 11.0	44 11.3	60 13.3		1035 17.4	800 17.8	700 15.1
③ときどきした		249 53.8	209 53.5	224 49.7		3049 51.4	2331 51.9	2364 51.0
④ひんぱんにした		136 29.4	120 30.7	153 33.9		1539 25.9	1116 24.8	1374 29.6
合計		463 100.0	391 100.0	451 100.0		5934 100.0	4494 100.0	4635 100.0
平均値		2.07	2.10	2.14		1.98	1.96	2.06
【問25K】高校3年時の学習経験：自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた								
①まったくしなかった		84 18.1	76 19.1	98 21.8		1019 17.2	790 17.6	825 17.8
②あまりしなかった		144 31.0	133 33.5	143 31.8		2081 35.1	1655 36.8	1595 34.4
③ときどきした		172 37.0	132 33.2	143 31.8		2017 34.0	1490 33.1	1532 33.1
④ひんぱんにした		65 14.0	56 14.1	65 14.5		813 13.7	564 12.5	680 14.7
合計		465 100.0	397 100.0	449 100.0		5930 100.0	4499 100.0	4632 100.0
平均値		1.47	1.42	1.39		1.44	1.41	1.45

(平均値算出の基準)

本稿では、大量のデータを効率的に、かつ遺漏なく分析し、大まかな傾向をわかりやすく示すため、回答選択肢の（合計）比率（%）の比較のほかに、便宜的に一定の基準を設けて各項目の回答を数値に換算し平均値を算出して比較する。

*** 平均（分）[問 5] 片道の通学時間**

回答の① 30 分未満を 15 分、② 30 分～1 時間を 45 分、③ 1 時間～1 時間 30 分を 75 分、④ 1 時間 30 分～2 時間を 105 分、⑤ 2 時間以上を 120 分と換算する。

*** 平均（時間）[問 9] 週あたりの活動時間**

回答の① 全然ないを 0 時間、② 1 時間未満を 0.5 時間、③ 1～2 時間を 1.5 時間、④ 3～5 時間を 4 時間、⑤ 6～10 時間を 8 時間、⑥ 11～15 時間を 13 時間、⑦ 16～20 時間を 18 時間、⑧ 20 時間以上を 20 時間と換算する。

*** 4 段階評価 [問 7, 8, 16, 17, 25]**

回答の④を「3」、③を「2」、②を「1」、①を「0」と換算する。

回答選択肢の例：④ひんぱんにあった、③ときどきあった、②あまりなかった、①まったくなかった
なお、[問 17]については、①充実しているを「3」、②まあまあ充実しているを「2」、③あまり充実していないを「1」、④充実していないを「0」と換算する。

*** 5 段階評価 [問 10, 12, 13, 18, 19]**

回答の⑤を「2」、④を「1」、③を「0」、②を「▲1」、①を「▲2」と換算する。

回答選択肢の例：⑤大きく増えた、④増えた、③変化なし、②減った、①大きく減った

なお、[問 12, 13] については、①好き / とても得意を「2」、②どちらかといえば好き / 得意を「1」、③好きでも嫌いでもない / 得意でも苦手でもないを「0」、④どちらかといえば嫌い / 苦手を「▲1」、⑤嫌い / とても苦手を「▲2」と換算する。

*** 8 段階（6 段階）評価 [問 11] 英語運用能力**

回答の① A1 および A1.1 を「1」、② A1.2 を「1.5」、③ A2 および A2.1 を「2」、④ A2.2 を「2.5」、⑤ B1 を「3」、⑥ B2 を「4」、⑦ C1 を「5」、⑧ C2 を「6」と換算する。

(数値の大小の評価の目安)

本稿で 2 つの数値の比較には、以下の目安に沿って「やや」「大きく」上回る／下回るなどと記す。

「ほぼ同じ」

5% 未満

平均値：0.1 未満

「やや」上回る／下回る

5%～10% 未満

上回る／下回る

10%～20% 未満

平均値：0.1～0.2 未満

「大きく」上回る／下回る

20%～30% 未満

平均値：0.2～0.3 未満

「圧倒的に」上回る／下回る

30% 以上

平均値：0.3 以上

付録 3：北海道大学の教育改善関連資料

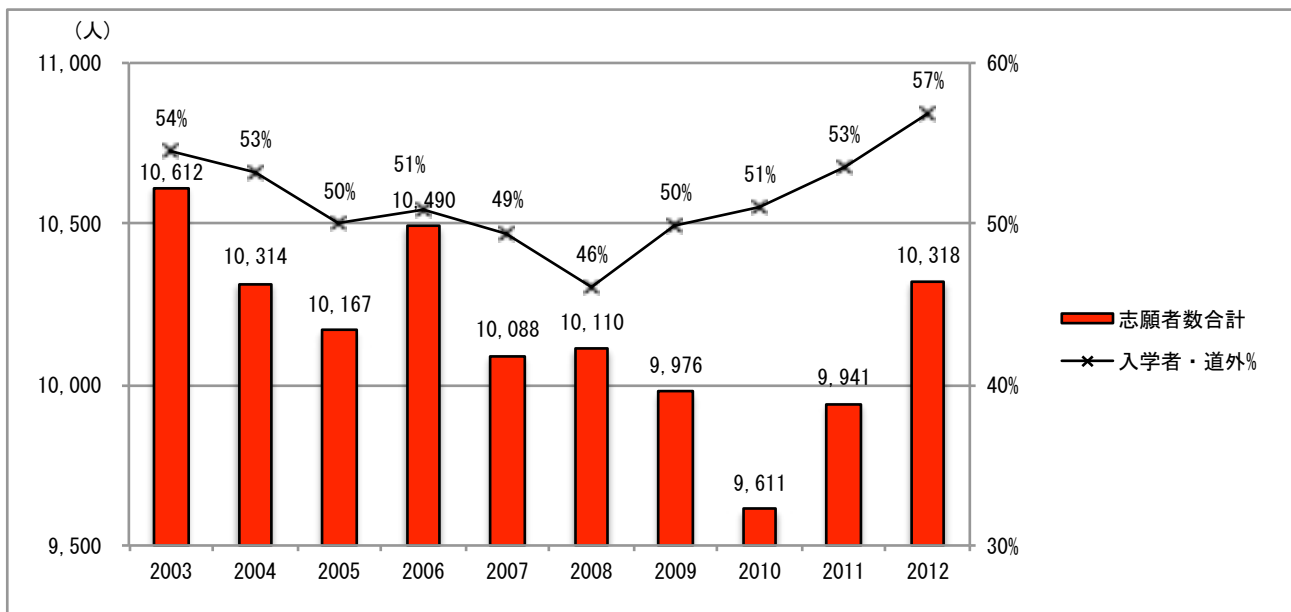


図 1. 一般入試における志願者数合計と入学者のうちの道外出身者の比率の推移

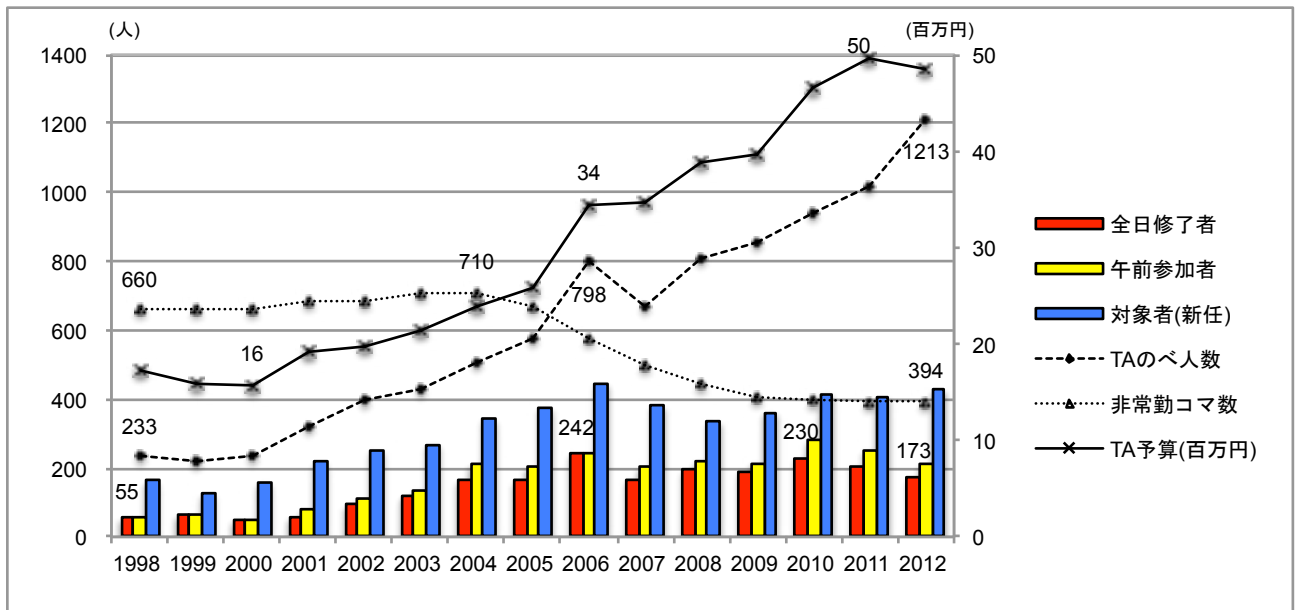
(出典) 北海道大学高等教育推進機構「ニュースレター」No.90 (2012.3) (参考リンク 24) 8 ページ

表 1. 2011/2010 年度 (第 1・2 学期) 全学教育科目履修者数対比

授業科目	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比
2011年度1学期				2010年度1学期			2011/2010年度比較	
一般教育演習	97	2,199	22.7	84	1,625	19.3	574	135.3%
総合科目	39	4,360	111.8	34	3,471	102.1	889	125.6%
主題別科目	91	8,901	97.8	98	8,319	84.9	582	107.0%
外国語科目	221	8,265	37.4	222	8,052	36.3	213	102.6%
外国語演習	154	2,956	19.2	161	2,621	16.3	335	112.8%
共通科目	81	5,411	66.8	86	5,633	65.5	▲ 222	96.1%
文系基礎科目	11	1,413	128.5	10	1,403	140.3	10	100.7%
数学	70	3,966	56.7	65	3,809	58.6	157	104.1%
理科	90	6,089	67.7	90	5,691	63.2	398	107.0%
実験	18	1,018	56.6	22	927	42.1	91	109.8%
日本語・日本事情	4	25	6.3	4	36	9.0	▲ 11	69.4%
1学期合計	876	44,603	50.9	876	41,587	47.5	3,016	107.3%
2011年度2学期				2010年度2学期			2011/2010年度比較	
一般教育演習	51	1,155	22.6	44	929	21.1	226	124.3%
総合科目	30	3,164	105.5	25	2,490	99.6	674	127.1%
主題別科目	74	6,964	94.1	66	6,749	102.3	215	103.2%
外国語科目	233	7,643	32.8	231	7,677	33.2	▲ 34	99.6%
外国語演習	124	2,824	22.8	125	2,243	17.9	581	125.9%
共通科目	69	3,124	45.3	72	3,059	42.5	65	102.1%
文系基礎科目	4	898	224.5	—	—	—	898	—
数学	55	2,917	53.0	55	2,992	54.4	▲ 75	97.5%
理科	78	6,070	77.8	80	5,291	66.1	779	114.7%
実験	21	1,112	53.0	24	1,135	47.3	▲ 23	98.0%
日本語・日本事情	1	14	14.0	1	17	17.0	▲ 3	82.4%
2学期合計	740	35,885	48.5	723	32,582	45.1	3,303	110.1%

* 「一般教育演習」は「一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)」の略記

(出典) 北海道大学高等教育推進機構「ニュースレター」No.90 (2012.3) (参考リンク 24) 15～16 ページ



* 図 2. 全学教育 TA 研修会参加者・修了者数と TA のべ人数・TA 予算総額・非常勤講師担当コマ数の推移

* 対象者：その年度の全学教育 TA 担当予定者のうち、研修会を修了していない者

* 参加者：研修会の一部（午前：全体会）に参加した者

* 修了者：研修会の全部（午前：全体会＋午後：科目ごとの分科会）を修了した者

（出典）平成 24 年 7 月 13 日全学教育専門委員会資料 12

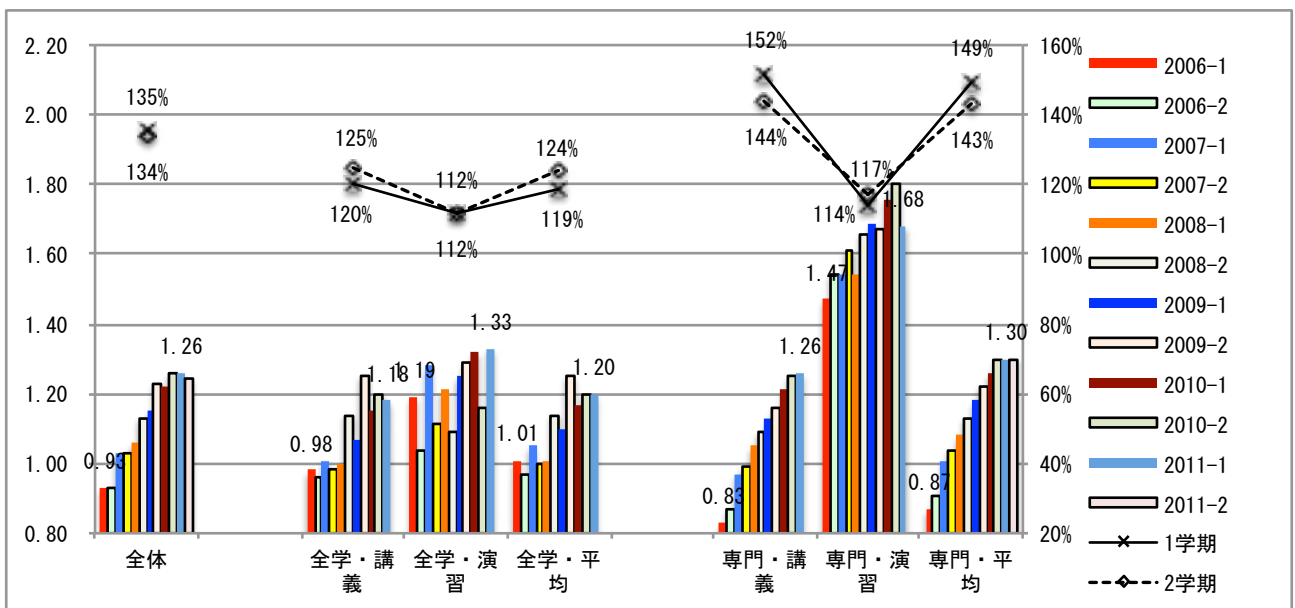


図 3. 90 分の授業 1 回あたりの自習時間の変化（全体・全学教育 / 専門・講義 / 演習別）

* 折れ線グラフは 1 学期 / 2 学期の自習時間の伸び率 (%) (2011/2006 比)

2011 年度 2 学期については、全体と専門科目の平均のみデータがある。

（出典）平成 24 年 6 月 19 日全学教育専門委員会資料（授業アンケート結果）＋

学生による授業アンケートの集計結果について（平成 23 年度第 2 学期実施分）（参考リンク 25）

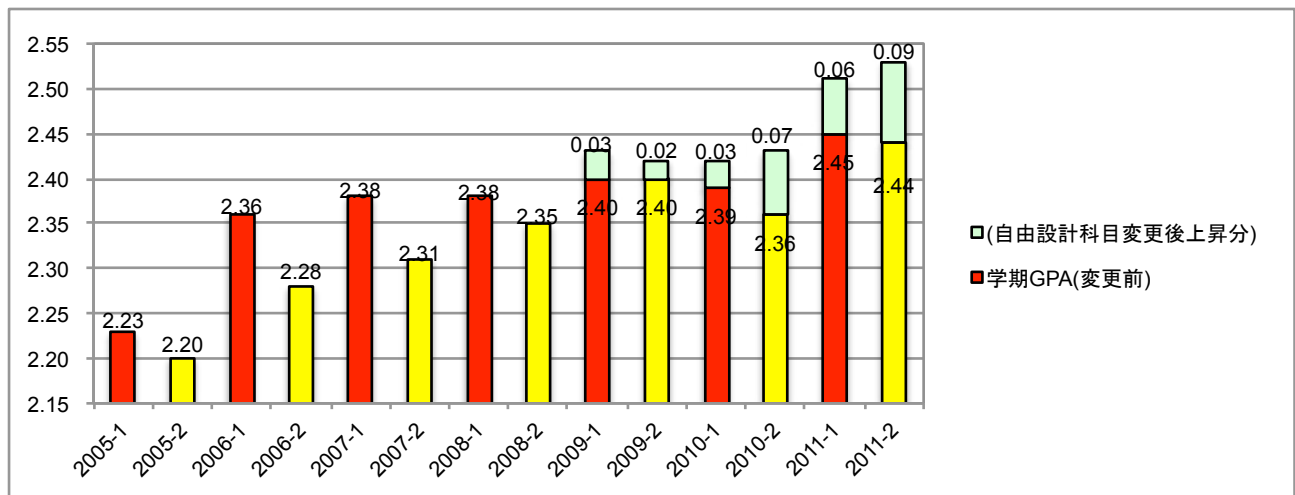


図4. 1年次の学期 GPA（全学平均）の変化

（出典）高等教育推進機構「ニュースレター」No.88（2011.9）（参考リンク 24）8 ページ
 + 平成 24 年 7 月 13 日全学教育専門委員会資料 6

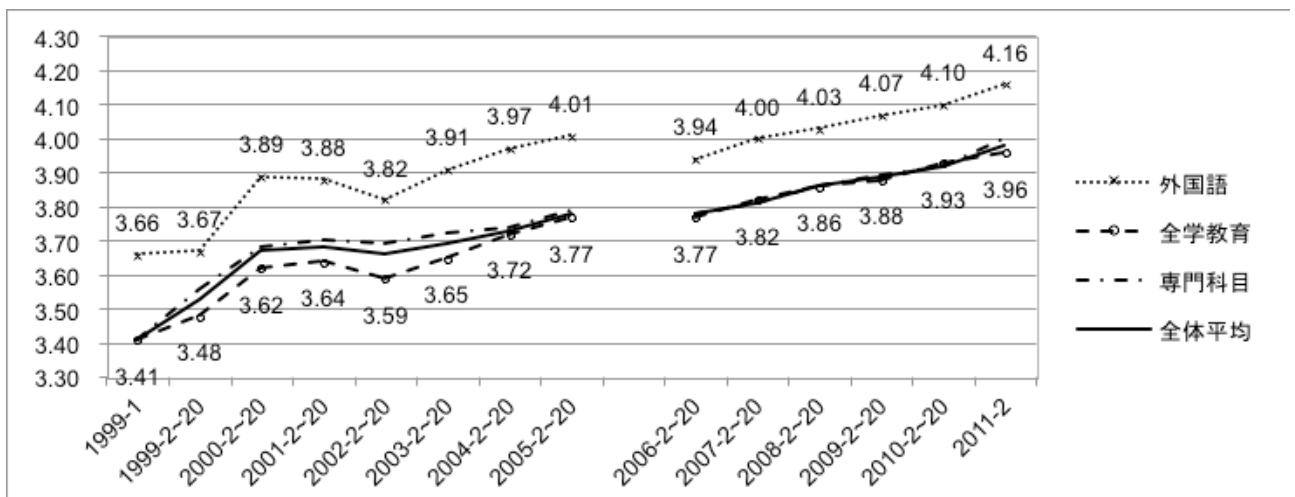


図5. 授業評価アンケート総合点平均（1.00～5.00）（科目区分別）の変化

2006 年度後期から、それまで 18 あった設問を 16 に整理した新しいアンケートが用いられている。
 （出典）学生による授業アンケート結果（参考リンク 25）

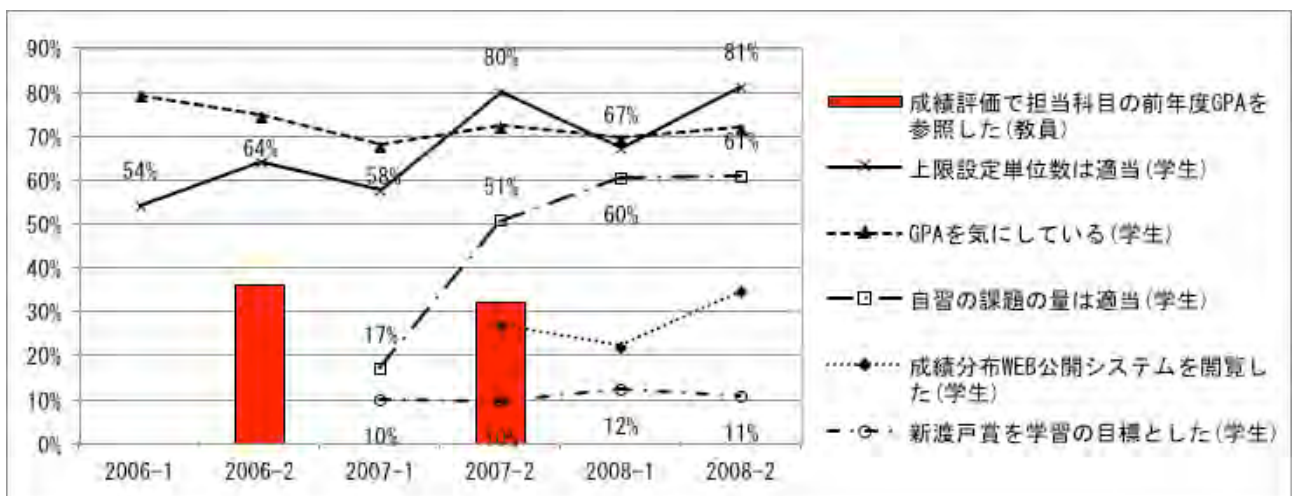


図6. 全学教育改革（新教育課程と「単位の実質化」）に関する学生・教員アンケート調査結果

* 新渡戸賞：第 1 年次における学業成績が秀で、人格に優れ、他の学生の模範になる第 2 年次学生に賞状と奨励金が贈呈される。
 （出典）平成 19～20 年度全学教育改革に関する第 3～6 回アンケート調査報告書（参考文献 12）

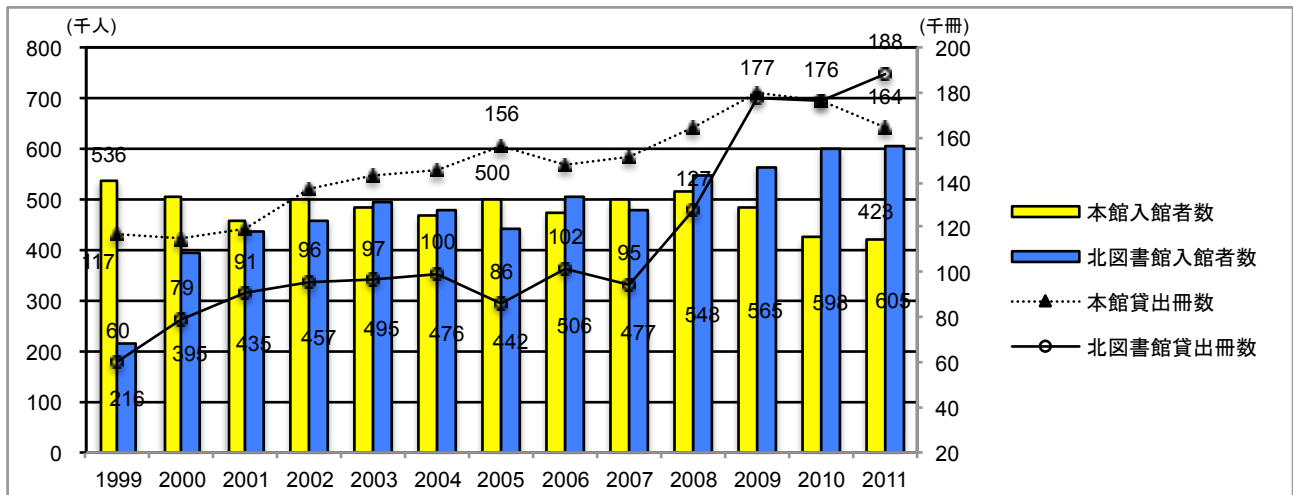


図 7. 附属図書館（本館・北図書館）入館者数・図書貸出冊数の推移

2000 年度に北図書館の入館者数が急増したのは、同年 4 月に情報教育館が竣工し、高等教育推進機構 E 棟と情報教育館、北図書館が 2 階渡り廊下でつながったことと、2008～2009 年度に北図書館の図書貸出冊数が急増したのは、開架図書の貸出冊数の上限を 5 冊⇒8 冊に増やしたことに関係する。2011 年度にさらに増加したのは、総合教育の開始と関係があるとみられる。

(出典) 北海道大学附属図書館概要 2012 (参考文献 13) 10 ページ

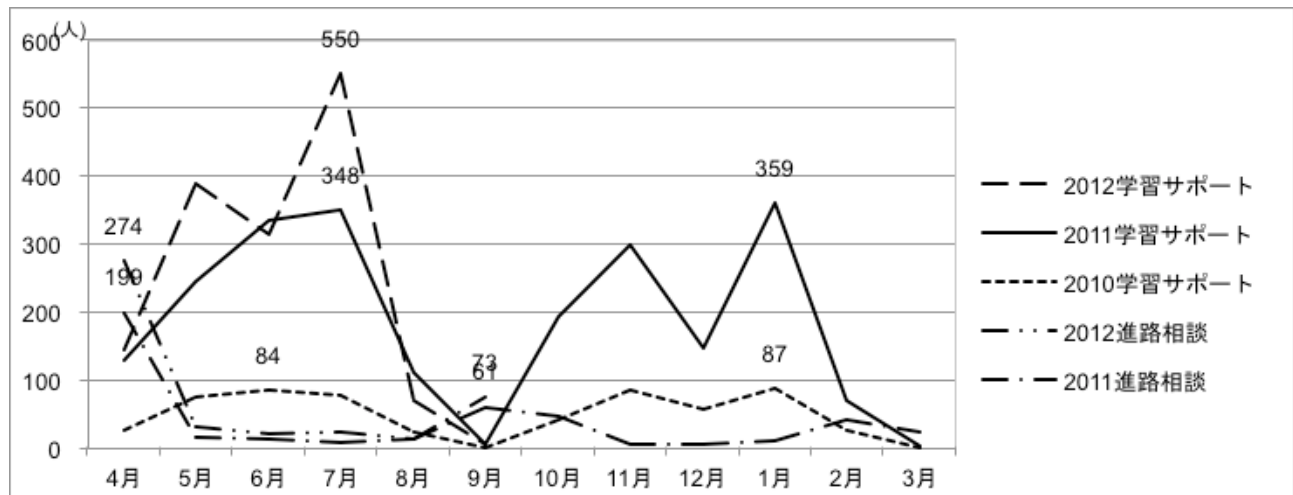


図 8. アカデミック・サポートセンターの学習サポートと進路相談利用者数

(出典) アカデミック・サポートセンター活動報告書 (2009～2011 年度) (参考文献 15) 265 ページ

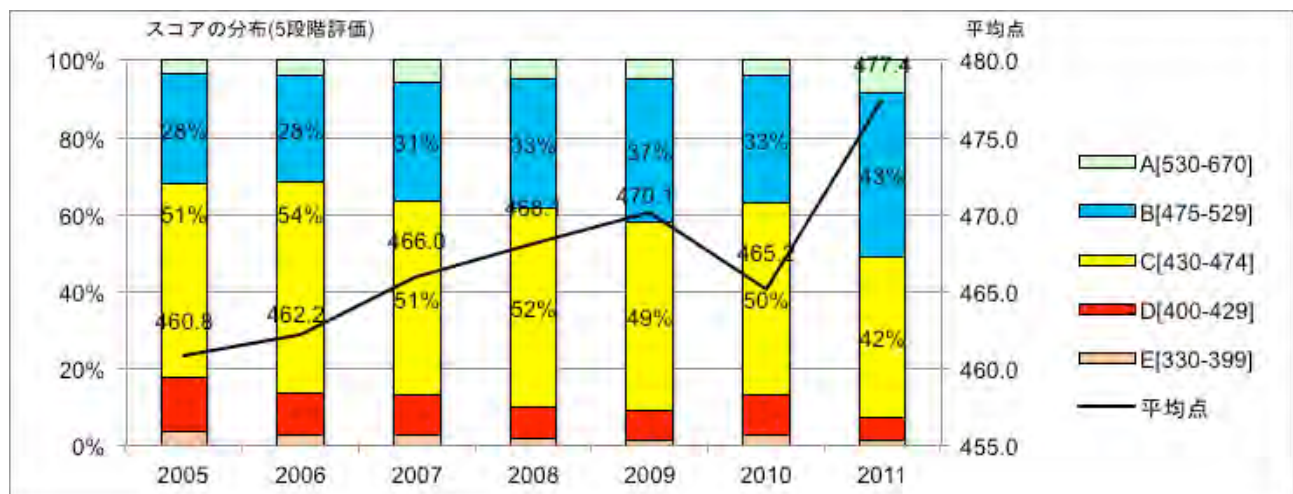


図 9. 英語 II 受講者の TOEFL-ITP スコア分布と平均点の推移

棒グラフは A(秀相当), B(優相当), C(良相当), D(可相当), E(不可相当) の %。折れ線グラフは平均点。

2010 年の平均点の低下は、会場の気温調節の不備などの技術的理由による。

(出典) 北海道大学高等教育推進機構「ニュースレター」No.89 (2012.1) (参考リンク 24) 7 ページ

参考文献・リンク

- 1) 『「一年生調査 2011 年」調査報告書——平成 21 年度採択文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」』(2012), 同志社大学高等教育・学生研究センター
<http://www.irnw.jp/precede/report2011.html>
- 2) 『「一年生調査 2010 年」北海道大学を中心とした相互評価のための比較分析報告書——平成 21 ～ 23 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」』(2012), 北海道大学高等教育推進機構,
<http://socyو.high.hokudai.ac.jp/freshmansurvey10.pdf>
- 3) 『「一年生調査 2010 年」調査報告書——平成 21 年度採択文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」』(2011), 同志社大学高等教育・学生研究センター
<http://www.irnw.jp/precede/report2010.html>
- 4) 『「一年生調査 2009 年」北海道大学を中心とした比較分析報告書——平成 21 ～ 23 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」』(2011), 北海道大学高等教育推進機構
<http://socyو.high.hokudai.ac.jp/freshmansurvey09.pdf>
- 5) 『「一年生調査 2009 年」調査報告書——平成 21 年度文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立 4 大学 IR ネットワーク」』(2010), 同志社大学高等教育・学生研究センター
<http://www.irnw.jp/precede/report2009.html>
- 6) 『平成 18 年度新教育課程の実施状況中間報告書 (2006 ～ 2009 年度) (平成 18 ～ 21 年度)』(2010), 北海道大学高等教育機能開発総合センター
<http://socyو.high.hokudai.ac.jp/chukan.pdf>
- 7) 『平成 20 年度北海道大学全学教育 自然科学実験報告書』(2009), 北海道大学 自然科学実験連絡会議／高等教育機能開発総合センター全学教育部
『北海道大学全学教育 自然科学実験アンケート調査』(2009), 北海道大学 自然科学実験連絡会議／高等教育機能開発総合センター全学教育部
「北海道大学の全学教育科目・自然科学実験」 <http://gelens.high.hokudai.ac.jp/>
- 8) 小笠原正明, 細川敏幸, 西森敏之 (2007), 「北海道大学のコアカリキュラムに関するアンケート調査」, 『高等教育ジャーナル——高等教育と生涯学習』15, 133-145
<http://socyو.high.hokudai.ac.jp/Journal/J15PDF/No1511.pdf>
『コアカリキュラムに関するアンケート調査 (報告書)』(2006), 北海道大学高等教育機能開発総合センター <http://socyو.high.hokudai.ac.jp/core/core.html>
- 9) 『進化するコアカリキュラム——北海道大学の教養教育とそのシステム——平成 15 ～ 18 年度特色ある大学教育支援プログラム』(2007), 北海道大学高等教育機能開発総合センター
<http://socyو.high.hokudai.ac.jp/GP/GP.html>
「北海道大学の教養教育——進化するコアカリキュラム」 | 北海道大学高等教育推進機構
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/neouniv2/index.htm>
- 10) 山田邦雅, 細川敏幸, 西森敏之, 安藤厚 (2010), 「北海道大学における TA を評価したアンケート調査

- の分析」,『高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習』17, 37-44
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/Journal/J17PDF/No1704.pdf>
- 山田邦雅, 細川敏幸, 西森敏之, 安藤厚 (2010), 「北海道大学専門科目担当 TA に関するアンケート調査の分析」,『高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習』17, 45-62
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/Journal/J17PDF/No1705.pdf>
- 宇田川拓雄 (2007), 「TA よ, 大志を抱け——北大 TA アンケート調査結果の分析と考察」,『高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習』15, 107-121
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/Journal/J15PDF/No1510.pdf>
- 『北海道大学全学教育 TA アンケート調査報告書』(2007), 北海道大学高等教育機能開発総合センター
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/TACQ/TAQuestionnaire.pdf>
- 11) 『「秀」評価, G P A 制度, 自由設計科目制度及び履修登録単位数の上限設定の実施について (Q & A : 平成 23 年度教職員用)』(2011), 北海道大学高等教育推進機構 学務委員会
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/qanda23.pdf>
- 12) 『平成 19 ～ 20 年度全学教育改革に関する第 3 ～ 6 回アンケート調査 (2007 年度 9, 2 月, 2008 年度 9, 2 月実施) 報告書』(2010), 北海道大学高等教育機能開発総合センター
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/zenngaku.pdf>
- 『平成 18 年度からの新教育課程・「単位の実質化」に関する学生・教員アンケート調査 (2007 年 2 月実施) 報告書』(2007), 北海道大学高等教育機能開発総合センター
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/TACQ/2COREQ.pdf>
- 『平成 18 年度からの新教育課程・「単位の実質化」に関する学生・教員アンケート調査 (報告書)』(2007), 北海道大学高等教育機能開発総合センター
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/TACQ/COREQ.pdf>
- 13) 『北海道大学附属図書館概要 2012』(2012), 北海道大学附属図書館
http://www.lib.hokudai.ac.jp/uploads/xoops_uploads/outline2012.pdf
- 14) 『平成 24 年度クラス担任マニュアル』(2012), 北海道大学高等教育推進機構
http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/class_manual24.pdf
- 15) 『アカデミック・サポートセンター活動報告書 (2009 ～ 2011 年度)』(2012), 北海道大学高等教育推進機構アカデミック・サポートセンター
- 16) 大内東, 中戸川孝治, 木村俊一 [他 12 名] (2005), 「情報教養教育の新展開——情報教養教育研究会報告書」,『高等教育ジャーナル—高等教育と生涯学習』13, 95-104
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/28750/1/13_P95-104.pdf
- 17) 『平成 23 年度北海道大学全学教育科目実施の手引き (教職員用)』(2011), 北海道大学学務部
- 18) 「総合教育部について」 | 北海道大学高等教育推進機構 総合教育部
<http://sougou.academic.hokudai.ac.jp/summary/>
- 19) 「ピア・サポート室」 | キャンパスライフサポート | 学生生活 | 北海道大学
<http://www.hokudai.ac.jp/gakusei/campus-life/support/peer-support.html#item1>
- 20) 「新渡戸カレッジ創設」 | 国際交流・留学 | 北海道大学
<http://www.hokudai.ac.jp/international3/ryugaku/nitobe/sousetsu/>
- 21) 「北海道大学 女性研究者支援室」 | FResHU
<http://freshu.ist.hokudai.ac.jp/>
- 22) 「北海道大学におけるインターンシップ」 | キャリアセンタートップ | 北海道大学
<http://cc.academic.hokudai.ac.jp/intern.html>

- 23) 「北海道大学の基本理念と長期目標」 | 北海道大学 概要
<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gaiyou/2011/philosophy/index.html>
「北海道大学の基本理念と教養教育の目標」 | 北海道大学
http://educate.academic.hokudai.ac.jp/neo_univ/03.html
- 24) 「ニュースレター」 | 北海道大学高等教育推進機構
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/cnews/cnews.html>
- 25) 「学生による授業アンケート結果」 | 広報・公開 | 北海道大学
<http://www.hokudai.ac.jp/pr/tenken/tenken/self/jugyo/>,
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/suisin24.htm>
学生による授業アンケートの集計結果について（平成 23 年度第 2 学期実施分） | 北海道大学高等教育推進機構 <http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/suisin24.htm>
- 26) 「学士課程教育の構築に向けて（答申）」(2008), 中央教育審議会 | 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
- 27) 「大学機関別認証評価 大学評価基準(平成 25 年度実施分)」平成 16 年 10 月(平成 24 年 3 月改訂)(2012)
| 独立行政法人 大学評価・学位授与機構
http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/_icsFiles/afieldfile/2012/06/22/no6_1_1daigaku2kijun25.pdf
- 28) 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」(2012), 中央教育審議会 | 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm
- 29) NSSE (National Survey of Student Engagement)
<http://www.nsse.iub.edu>
- 30) CIRP (Cooperative Institutional Research Program)
<http://www.icpsr.umich.edu/icpsrweb/ICPSR/series/21>
- 31) 安藤厚, 細川敏幸, 山岸みどり, 小笠原正明編著(2012), 『プロフェッショナル・ディベロップメント——大学教員・TA 研修の国際比較』, 北海道大学出版会
- 32) 『最終年度事業成果報告書（相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公私立 4 大学 IR ネットワーク——平成 21 年度採択文部科学省大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム）』(2012), 同志社大学高等教育・学生研究センター
- 33) 「大学 IR コンソーシアム」 <http://www.irnw.jp/>
- 34) 「教学評価体制（I R ネットワーク）による学士課程教育の質保証」（平成 24 年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業） <http://8gp.high.hokudai.ac.jp/>
- 35) 「北海道大学のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」 | こんな人、求めています | 北大で学ぶ | 入学案内 | 北海道大学
<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/nyu/pdf/admission-p.pdf>
- 36) 細川敏幸, 山田邦雅, 竹山幸作, 小笠原正明(2013), 「カリキュラム・ポリシーの概要——カリキュラム・ポリシー研究会報告」, 『高等教育ジャーナル——高等教育と生涯学習』 20, 55-59
<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/Journal/J20PDF/No2007.pdf>

連携 5 大学「一年生・上級生調査 2011 年」の北海道大学を中心とした比較分析（報告）

目 次

はじめに	2
1. 調査内容と対象	4
1.1. 調査の概要	4
1.2. 回答者の属性	5
1.3. 大学入学前・高校時代の状況	6
図 1	7
2. 大学における学びの状況	13
2.1. 授業をつうじた学習経験	13
2.2. 授業内外における学習行動	14
2.3. 正課内外の活動に費やす時間	16
2.4. 入学後の知識・能力の変化	17
2.5. 小括	18
図 2	21
3. 英語の学習状況	33
3.1. CEFR を尺度とした英語運用能力の熟達度レベル	33
3.2. 入学後の英語運用能力の変化	35
3.3. 英語に対する意識	35
3.4. 英語と接する機会	35
3.5. 小括	36
3.6. CEFR を尺度とした英語運用能力の熟達度と TOEFL-ITP スコアの関係	38
図 3	39
4. 学びや大学生活に対する意識	45
4.1. 大学生活への適応感	45
4.2. 学生生活の充実感	45
4.3. 大学の教育内容に対する満足感	46
4.4. 大学の教育環境に対する満足感	46
4.5. 学部卒業後の予定進路	47
4.6. 小括	47
図 4	50
5. 北海道大学と全参加大学の回答傾向の違い	59
図 5	61
6. 学生調査への回答と成績 (GPA) の関係—— IR システム (IRiS) のデータから——	67
図 6	68
7. まとめ	71
8. 謝辞	74
付録 1：質問項目	75
付録 2：基礎集計（北海道大学と全参加大学）	81
付録 3：北海道大学の教育改善関連資料	96
参考文献・リンク	100

Journal of Higher Education and Lifelong Learning
ISSN 1341-9374
No. 20-1 (Online Special Issue)
June, 2013

Research Division for Higher Education
Institute for the Advancement of Higher Education
Hokkaido University
Sapporo 060-0817, Japan

高等教育ジャーナル
－高等教育と生涯学習－
ISSN 1341-9374
第 20-1 号（オンライン特別号）
2013 年 6 月

発行 北海道大学高等教育推進機構
〒060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目
電話 (011) 716-2111 (代表)
